２０１７年度

事 業 報 告 書

社 会 福 祉 法 人

聖 隷 福 祉 事 業 団

2017年度　事業報告書　目次

2017年度事業報告にあたり	…	1
2017年度事業成績報告	…	4
聖隷三方原病院	…	7
三方原ベテルホーム	…	15
聖隷浜松病院	…	17
聖隷淡路病院	…	19
聖隷横浜病院	…	21
聖隷佐倉市民病院	…	23
保健事業部	…	25
聖隷健康診断センター	…	26
聖隷予防検診センター	…	28
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	…	30
地域・企業健診センター	…	32
浜松市リハビリテーション病院	…	34
聖隷袋井市民病院	…	36
在宅･福祉サービス事業部	…	38
＜和合せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園デイサービスセンター 障害者支援施設みるとす 障害者相談支援事業所くすのき 生活支援ハウスやまぶき 和合愛光園和合サテライト 訪問看護ステーション住吉 聖隷ヘルパーセンター 聖隷巡回ヘルパーぐるり和合 聖隷ケアプランセンター浜松 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 聖隷厚生園チャレンジ工房 聖隷放課後クラブはなえみ和合	…	40
聖隷めぐみ保育園	…	45
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生 聖隷ヘルパーセンター初生	…	47
いなさ愛光園	…	49
聖隷厚生園讃栄	…	51
聖隷厚生園信生	…	53
聖隷厚生園ナルド工房	…	55
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	57

2017年度　事業報告書　目次

＜聖隷ぴゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田	…	58
磐田市発達支援センターはあと・ 聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	…	60
浜北愛光園	…	61
森町愛光園	…	64
もくせいの里	…	67
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ 訪問看護ステーション細江サテライト	…	69
＜細江地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江	…	71
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	…	72
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷放課後クラブはなえみ高丘	…	73
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	…	75
訪問看護ステーション住吉第二	…	76
聖隷デイサービスセンター住吉	…	77
聖隷コミュニティケアセンター	…	78
松戸愛光園	…	79
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	…	81

2017年度　事業報告書　目次

浦安愛光園	…	83
浦安ベテルホーム	…	85
聖隷ケアプランセンター浦安	…	87
浦安せいれいクリニック		88
聖隷訪問看護ステーション浦安	…	89
横須賀愛光園	…	90
聖隷訪問看護ステーション油壺	…	93
宝塚すみれ栄光園	…	94
ケアハウス宝塚	…	96
結いホーム宝塚	…	98
宝塚栄光園	…	100
花屋敷栄光園	…	102
ケアハウス花屋敷	…	105
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹 聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター 聖隷ケアプランセンター宝塚	…	107
＜北神戸地区在宅複合事業＞ 聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	…	110
＜宝塚第五地区在宅複合事業＞ 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	…	111
聖隷逆瀬台デイサービスセンター	…	113
聖隷デイサービスセンター結い	…	114
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	…	116
聖隷カーネーションホーム	…	117
淡路栄光園	…	119
＜淡路地区在宅複合事業＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二	…	121
聖隷ヘルパーステーション淡路	…	122
岩屋認定こども園	…	123
奄美佳南園	…	125
のぞみ園	…	127
春日保育園	…	129
聖隷かがやき	…	131

2017年度　事業報告書　目次

＜聖隷ケアセンター沖縄＞ 聖隷訪問看護ステーションゆい 聖隷居宅介護支援センターゆい 聖隷デイサービスセンターゆい	…	133
聖隷こども園わかば	…	134
聖隷こども園桜ヶ丘	…	136
聖隷こども園ひかりの子	…	138
聖隷こども園めぐみ	…	140
聖隷浜松病院ひばり保育園	…	142
こうのとり保育園	…	144
磐田市子育て支援総合センター「のびのび」	…	146
こうのとり東保育園	…	148
聖隷こども園こうのとり豊田	…	150
野上あゆみ保育園	…	152
野上児童館	…	154
逆瀬川あゆみ保育園	…	156
御殿山あゆみ保育園	…	158
御殿山児童館	…	160
高齢者公益事業部	…	162
浜名湖エデンの園	…	164
宝塚エデンの園	…	166
松山エデンの園	…	168
油壺エデンの園	…	170
浦安エデンの園	…	172
横浜エデンの園	…	174
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞ 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢	…	176
奈良ニッセイエデンの園	…	180
松戸ニッセイエデンの園	…	184
明日見らいふ南大沢	…	186
法人本部	…	188
2017年度施設整備事業報告	…	192
法人の概要	…	195
実施する事業の概要	…	196
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	…	207
附属明細書	…	208

2017年度事業報告にあたり

理事長　山本敏博

2017 年度は社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人に経営組織のガバナンスの確保、運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組が求められました。聖隷福祉事業団（以下聖隷）は、これらへの対応を適切に行うことができました。

法改正への対応はスタートであり、今まで以上に社会福祉法人としての使命を追求することが必要です。例えば地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制を構築するため、社会福祉法人の貢献が期待されています。聖隷こども園めぐみの開設をはじめ、こども園、保育園の定員増や淡路市立岩屋認定こども園の運営受託などにより地域の子育て支援に大きく貢献できました。未就学児からの発達支援と障害者就労支援を一体的に行う聖隷ぴゅあセンター磐田の開設は多くの注目を集めました。利用者サービスだけではなく、聖隷職員として障がい者の雇用が進んだことも大きな成果です。また、地域包括ケアシステムを推進していく上で、医療連携や在宅療養支援など地域における役割分担とネットワーク化も進展しました。各病院や施設、在宅拠点が本来の機能の向上と共に、連携システムの導入や関係者の顔の見える連携体制づくりなどに積極的に取り組み、地域共生社会の実現に向けた体制作りが進んだと考えています。九州北部豪雨災害に対して聖隷三方原病院、聖隷浜松病院が共同して看護師を派遣したことも大きな評価をいただきました。また、聖隷グループ法人が共同してエネルギー使用効率を引き上げる取り組みができるなど、グループとしてメリットを出す連携体制の取り組みができました。

働く職員の満足度が高くなければ、利用者が満足するサービス提供はできないとの考えから労働環境整備は経営戦略上の重点と捉えています。健康経営を推進する観点から、健康経営優良法人認定（ホワイト 500）の認定を取得しました。社会福祉法人としては初の認定であり、聖隷が有名大企業と並ぶ働きやすい職場環境であることが可視化されました。人材確保が医療福祉業界での大きな課題となる中、新人事制度の取りまとめができたことも、大きな成果です。

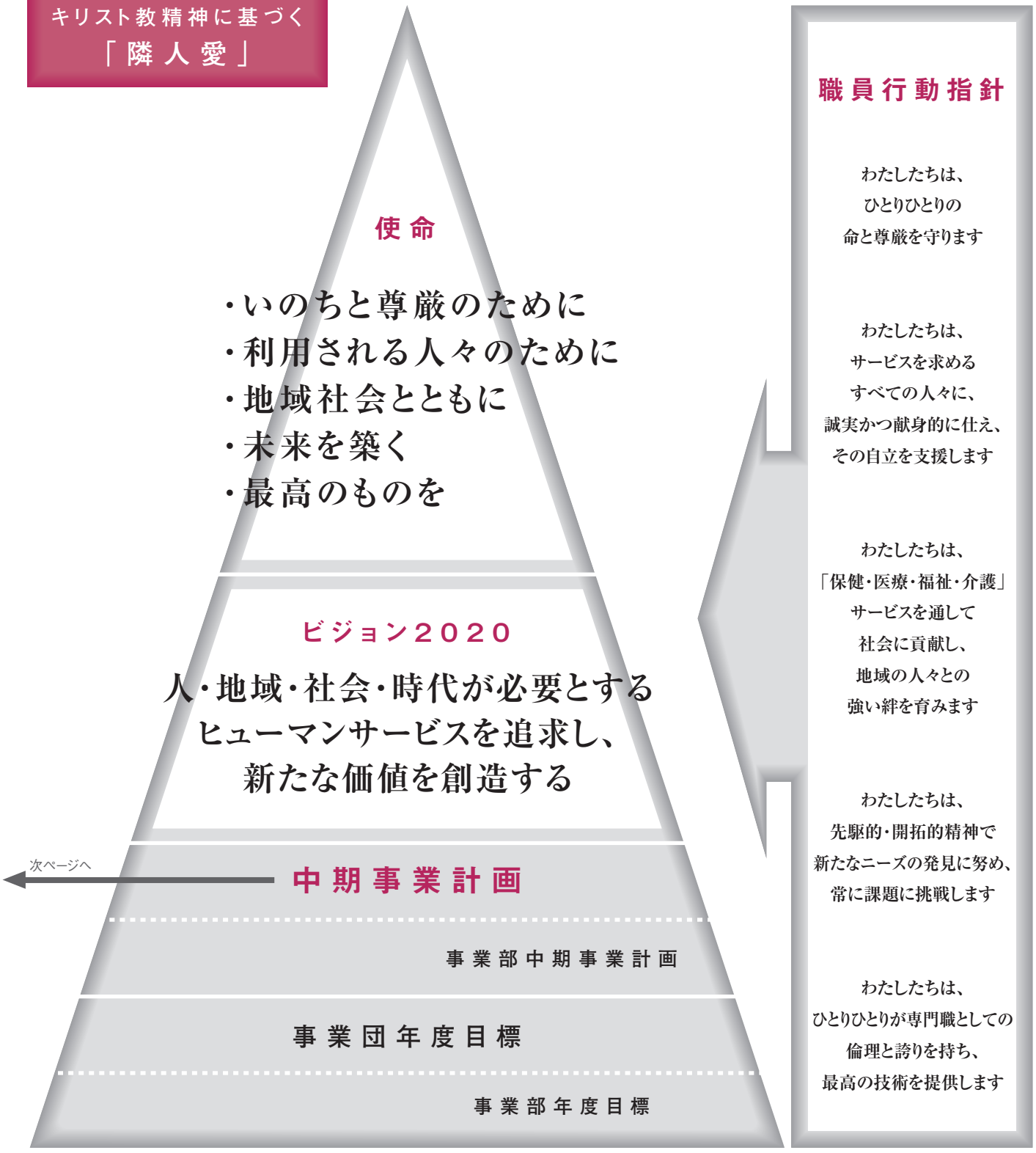
このように 2017 年度は社会的な課題に対して多くの新たなチャレンジをし、聖隷らしい取組ができました。同時に経営的にも良好な成績を残すことができました。地域の皆様、日本財団様をはじめとするご支援をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

聖隷福祉事業団　理念～目標体系

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」



【用語の定義】
○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか　○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

聖隷福祉事業団　中期事業計画　2016-2020

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する

2016年度　2017年度　2018年度　2019年度　2020年度

1. 最高の質を追求し提供する
①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践
②人口動態の変化に伴うサービスの変革
③最新医療・介護技術、システムの導入・構築

2. 社会福祉法人としての使命を追求する
①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信
②新たな組織体制の追求

3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求
②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成
③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成

4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
①多様な働き方の創出
②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援

5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
①効果的な投資による経営資源の最大活用
②社会環境の変化を先取りした事業の展開
③地域に求められるサービスの提供

6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する
①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り

7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する	
<2020年度到達目標>	
①サービス活動収益 対2015年度比	112.5%以上
②経常増減差額率 5か年累計平均	3.0%以上
③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比	107.0%以上
④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比	112.5%以上
⑤実質資金増加額 5か年累計	60億円以上
⑥純資産比率（自己資本比率）	40.0%以上
⑦人件費率	58.0%以内
⑧有利子負債比率（対サービス活動収益）	30.0%以内
⑨公益活動比率（対サービス活動収益）	後日検討

※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。

※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上

（2015.11.27 理事会承認）

2017 年度　事業成績報告

常務執行役員　青木　善治

(1) 事業の経過及びその成果

当期は、診療報酬、介護報酬の同時改定の前年という中、投資環境においても狭間の年であり、今後の新規事業に向けて財務状況の改善が実行された年であった。収入面においては医療・介護事業ともに稼働率が高く順調な増益となったが、一方費用面においては、人事院勧告は 4 年連続でプラス改定となり、月例給改定率としてはプラス 0.2%という改定となる等、人件費のアップが引き続く年度であった。しかしながら働き方改革を推し進め、生産性の向上と仕事の効率化への対応を行い、最終的にサービス活動収益は 1,136 億円、前年より 37.5 億円（対前年 3.4%増）の増収を達成することができ、経常増減差額においては、経営効率向上を図る中で予算を大幅に上回る、プラス 48.2 億円（経常増減差額率 4.2%）の実績を計上することができた。

(2) 医療・保健事業

医療事業において、聖隷三方原病院は高度救命救急センターや認知症疾患医療センターを始め、精神科救急基幹病院等、地域において多くの基幹となる機能を有しているが、更にハイブリッド手術室が完成し、今後手術症例を重ね、安全で質の高い医療の提供を行う。経営的には、着実な経営実績（税引前当期活動増減差額 8.89 億円）を上げることができた。

聖隷浜松病院においては、透析棟の移転が完了し大規模災害に備える災害拠点病院としての認定を受けることとなった。また、働き方改革を推し進め、労働環境の改善と効率の向上とともに超勤時間の削減を図る一方、経営的には、税引前当期活動増減差額において予算を達成し、2016 年を上回ることができた（税引前当期活動増減差額 4.89 億円）。

聖隷淡路病院においては、9 月に出産数累計 300 件の達成し、また一般病床や地域包括ケア病床の高い稼働率が続き、地域のニーズを反映した病院運営ができた。経営改善に対する強力な取り組みは、税引前当期活動増減差額において予算には未達ではあるが、2016 年度を上回ることができた（税引前当期活動増減差額　前年▲1.19 億円→▲1.00 億円）。

聖隷横浜病院は、新外来棟建築工事において想定外の費用・工事期間の延長が発生した。一方電子カルテも稼働し、救急や診療体制の強化と再編、地域連携にも精力的に取り組んだが、引き続き更なる抜本的な改善への取り組みが必要である。

聖隷佐倉市民病院においては、専門性を持った医師の採用により、より充実した診療体制を構築する中、手術室や検診センターの充実を目指す第４期工事の準備がなされた。経営的には予算を上回る結果（予算＋0.03 億円→＋0.14 億円）を出すことができた。

保健事業部では、新規のオプション検査や午後ドックなどの取り組みを開始し、経営課題であった静岡地区においては 2016 年度比 110.6%の受診者増となり、また保健事業部全体でも同比 104.4%の受診者増が達成できた。更に、産業保健・健康経営への継続した質の高い取り組みが結果となって表れ、税引前当期活動増減差額において対前年、対予算ともに達成することができた（前年 1.8 億円、予算＋1.5 億円 → ＋2.8 億円）。

指定管理を受け 10 年が経過した浜松市リハビリテーション病院は、新たに訪問リハビリテーション、介護予防指導教室を開始し、より地域ニーズへの対応を継続している。経営的にも順調な運営が行われた。また 5 年が経過した聖隷袋井市民病院は、当初予定通り回復期リハビリテーション病棟 50 床をフル稼働することができた。引き続き中東遠医療圏の地域包括ケアシステムの一

員として地域と連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の後方支援としての役割を充分発揮することができた。経営的にも各種加算の取得や業務改善により順調な運営が行われた。

(3) 在宅･福祉サービス事業

当期は障害者福祉においては、就学前から就労まで途切れのない総合的な支援を行う「聖隷ぴゅあセンター磐田」、また保育事業については、待機児童の解消の為の対策として「聖隷こども園めぐみ」等の新規開設がなされ、「聖隷こども園わかば」「聖隷こども園ひかりの子」などの増築工事が完成し障害福祉・保育事業の拡充がなされた。淡路市の保育事業においては、岩屋認定こども園の運営を受託し、新園舎移転建築が進められた。

一方、大変厳しい経営状況が続く浦安地区施設においては、地域の医療機関や福祉施設等との連携により在宅復帰を促進し、経営改善に向け継続的な取組みを行なわれた。

介護福祉施設全体では各地で特別養護老人ホーム増設が進み入所対象者が激減する中、利用者情報を集約し、待機者確保を行い経営的に大きな影響を受けることなく運営ができた。事業部全体でサービス活動収益において、190.9 億円（対前年 107.1%、対予算 102.1%）を達成し、税引前当期活動増減差額 7.1 億円となり着実な実績を残すことができた。

(4) 高齢者公益事業

長年のテーマであった浜名湖エデンの園の耐震対策建替え工事が着工された。2019 年度以降、宝塚エデンの園、松山エデンの園が開園 40 周年を迎えるなか、これらの施設では次代の運営のための建物整備が必要な時期となっている。このような状況の中、テレビ番組で油壷エデンの園が取り上げられ、社会的に大きな反響を得ることができ、これが追い風となり契約数につながった。新規契約数（目標 96 件→実績 108 件）は予算を達成したが、一年プラン入居者が想定以上であり、結果、入園契約金額（目標 34.6 億円→実績 26.6 億円）においては目標達成できなかった。会計上の特殊性から、税引前当期活動増減差額が＋6.7 億円であったにもかかわらず、キャッシュフローは▲2.4 億円（2016 年度▲7.2 億円）となっている。2016 年度より改善されたが、キャッシュフローの管理は引き続き重要となっている。

(5) 財務の状況

今年度は事業団全体で 57.6 億円の固定資産整備を行った。内訳は、新築工事・高額備品等の特別整備が 31.5 億円、備品更新等の通常整備が 22.4 億円、リース債務の支払いが 3.7 億となっている。中でも、聖隷三方原病院ハイブリッド手術室 6.3 億円、聖隷ぴゅあセンター磐田建築工事 6.3 億円、聖隷横浜病院外来棟工事 4.6 億円等、病院、福祉施設への投資を積極的に行った。

これらの固定資産整備に伴う新規借入額は 34.3 億円であり、一方、長期借入金並びにファイナンスリース債務等の返済額は 53.1 億円である。この結果、長期借入金残高は 316 億円となり、サービス活動収益に対する有利子負債比率を 28.6%（2016 年度 30.6%）に下げることができた。また、2017 年度は短期借入金の借入実績はなく、賞与資金についても、全額を自己資金でまかなう等、事業が拡大する中で更に財務体質の健全化を進めた。

≪直近５年間のサービス活動収益及び経常増減差額≫　　（単位：百万円）

サービス活動収益	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
医療･保健事業 計	72,458	75,207	79,831	83,437	85,908
高齢者公益事業	9,010	9,034	9,333	9,405	9,353
在宅･福祉サービス事業	15,831	17,747	17,269	17,820	19,093
本部会計	2,585	2,705	307	508	655
内部取引	－	－	▲1,237	▲1,331	▲1,422
合　　計	99,884	104,693	105,503	109,839	113,587
経常増減差額					
医療･保健事業 計	1,224	1,231	1,780	2,685	2,870
高齢者公益事業	49	245	1,160	1,277	996
在宅･福祉サービス事業	273	502	788	871	1,041
本部会計	1,336	1,288	▲795	▲156	▲80
合　　計	2,882	3,266	2,933	4,675	4,827

※医療・保健事業には浜松市リハビリテーション病院及び聖隷袋井市民病院含む

※2015 年度より新会計基準に変更

➢ 中期事業目標（2016～2020年度）進捗状況

中期事業計画目標		2016年度	2017年度
サービス活動収益 （対2015年度比）	2020年度 112.5%以上	104.1%	107.7%
経常増減差額率	3.0%以上	4.3%	4.2%
一人あたりサービス活動収益 （対2015年度比）	2020年度 107.0%以上	101.0%	100.3%
一人あたり経常増減差額 （対2015年度比）	2020年度 112.0%以上	154.6%	154.8%
実質資金増加額 5年累計	2020年度 60億円以上	15.4億円	31.5億円 （累計47.0億円）
純資産比率	2020年度 40.0%以上	38.4%	40.6%
人件費率	58.0%未満	57.3%	57.4%
有利子負債比率	2020年度 30.0%未満	30.6%	28.6%

医療保護施設　総合病院　聖隷三方原病院

2017 年 12 月にハイブリッド手術室が完成した。2018 年度は TAVI の施設認定を取得し、手術の症例を重ねていきたい。今後も地域に求められる安全で質の高い医療の提供をしていきたい。

また 2016 年度に取得した土地（旧引佐高校跡地）を利用した地域障害者総合リハビリテーションセンターの建築計画も順調に進めることができた。引き続き、2018 年秋頃の着工から 2019 年秋頃の完成に向けて滞りなく進めていきたい。

1 年遅れで 2018 年度スタートする新専門医制度は、6 診療科が基幹病院として申請を行った。またまだ予測できない部分もあり、今後も引続き行政の動向に注視していきたい。初期研修医については、14 名のフルマッチが決定し、2018 年度へとつなげることができた。2018 年度も継続したきめ細かなフォローアップに努めていきたい。

認知症疾患医療センターとして、浜松市と共催で老人看護専門看護師と医療相談員による「若年性認知症の当事者のための相談会」を開催し、「認知症相談会（認知症看護認定看護師、医療相談員）」の定期開催と合わせて相談機能の強化を図った。また、院内職員･地域包括支援センター向け研修会や一般市民向け講演会の開催、はままつオレンジ体操の作成を通して、地域全体の認知症啓発に取り組んだ。

精神科救急基幹病院としては、静岡県精神科救急医療対策事業実施要綱が改正され、精神科救急医療施設の類型が「基幹病院」から「常時対応型」となった。当院は、精神科救急医療圏域の「西部」を担当し、夜間及び土日を中心に緊急措置診察をはじめとする精神科救急対応に努めた。今後も地域における輪番病院と協力体制を組み、迅速かつ適正な医療の提供をしていきたい。

昨年度に引続き災害拠点病院として、静岡県防災計画の中で重要な役割を担い県庁などの関係機関と連携しながら活動することができた。

2017 年 7 月九州北部豪雨災害に対して、当院から計 8 名の看護師ボランティアを被災地支援に派遣した。これらの活動で得た経験を活かし、今後起こり得る大規模災害に向けた取り組みを積極的に行っていきたい。

2016 年度に続き聖隷おおぞら療育センターでは、防犯対策の強化に努めた。2 月に不審者進入を想定した警察との合同の防犯訓練を行い、また非常通報装置（警察通報装置）の設置や防犯カメラを 5 台設置し、防犯システムの体制面での強化も図った。

最後に、2017 年度、入院患者は微増、外来患者は減少傾向にあった。これは、地域連携が機能している結果であると考えられる。特に血液内科や産婦人科の患者数は、2016 年度に比べ約 10 名の増加となった。例年通り 11 月以降入院患者は予算を上回り病棟では大変忙しい状況が続いた。また外来については、単価が 2016 年度に比べ約 1,500 円の増加となっており、結果 2017 年度も予算を達成することができた。職員が頑張ってくれた結果であると心より感謝したい。

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	630 名	635 名	100.8%	100.6%	外来患者数	1,035 名	998 名	96.4%	98.7%
入院単価	62,700 円	63,695 円	101.6%	102.1%	外来単価	16,000 円	17,902 円	111.9%	107.9%
職　員　数	1,422 名	1,437 名	101.1%	101.2%	病床利用率	82.5%	83.1%	100.7%	100.6%
サービス活動収益	20,346 百万円	21,183 百万円	104.1%	103.7%	サービス活動費用	19,712 百万円	20,342 百万円	103.2%	103.7%

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

１．安全で質の高い医療の提供

（ア）安全な医療の提供

医療安全管理室会議、医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに、IA レポート・オカレンス報告より、医療安全管理室会議・医療安全管理委員会内で検討を行い、必要時にはメディカル・リスクマネジメントマニュアルの改訂・追加・削除を実施した。 医療事故報告制度への対応 は、2016 年度に 2 件の医療事故報告制度への報告を実施し、1 例目は 2017 年度、調査報告書を医療事故調査・支援センターへ提出し完了した。2 例目も 2018 年度内に調査報告書を提出する見込みである。

（イ）質の高い医療の提供

退院支援プログラムの改訂をはじめ退院支援看護師の役割・業務、退院前後訪問指導など院内の退院支援を整えることができた。困難な事例や倫理的事例など看護部のみならず多職種協働で意思決定支援・退院支援を行うことができた。

（ウ）新たな病院機能の見直し

2017 年 12 月にハイブリッド手術室が完成し、2018 年に TAVI 施設認定を取得し、手術の症例を重ねていきたい。また 2017 年度から準備を進めている放射線治療装置の更新工事も 2018 年の後半には完了し、稼動予定である。さらに、2018 年 4 月より IC カードを使用した院内のセキュリティ体制の強化に努める。

２．人づくり文化の継承と働く支援

（ア）医師・看護師･介護職の人材確保と定着

2018 年度スタートする新専門医制度の準備を進め、6 診療科を基幹病院として申請を行った。初期研修医の採用については 14 名のフルマッチが決定し、2018 年度へとつなげることができた。また看護師・介護職員の採用強化を継続し、2017 年度看護師 58 名、介護職 7 名を採用できた。

（ウ）ワークライフバランス

働き方改革が求められる中、当院としても医療スタッフの意識改革・長時間労働の是正に向けた取り組みを進めている。特に医師は、救急業務など緊急手術等の対応で勤務を余儀なくされるため難しい問題ではあるが、取り組みを進めていく必要があると考える。

３．地域における多施設連携の取り組み

（ア）地域包括ケアシステムの推進

日本看護協会 2017 年度都道府県看護協会地区支部等における高齢者および認知症支援のための看護職連携構築モデル事業の委託を受け「北区、天竜区 看護･介護職地域連携会議連携モデル」に取り組み、恒常的なネットワークの構築と課題の共有化、地域包括ケアセンターと共同したロコモティブシンドローム・認知症予防事業を行うことができた。

（イ）救命救急センターの体制充実

ドクターヘリの運航をはじめとして、救急医療の実践を円滑に行うために、地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携を通じて、顔の見える関係作りを継続している。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と連携し対応している。

（ウ）認知症疾患医療センターの体制充実

浜松市と共催で、老人看護専門看護師と医療相談員による「若年性認知症の当事者のための相談会」を開催、「認知症相談会（認知症看護認定看護師、医療相談員）」の定期開催と合わせて相談機能の強化を図った。認知症にかかわる医療・介護・福祉の連携体制の構築・強化を目的に協議会を開催し、認知症サポート医や地域包括支援センター、行政等との連携体制の構築･強化に取り組んだ。また、医療従事者向け研修会や市民向け講演会の開催、はままつオレンジ体操の作成を通して、地域全体の認知症啓発に取り組んだ。

（エ）地域がん診療連携拠点病院の体制充実

がん患者就労支援の新たな取り組みとして、浜松公共職業安定所と長期療養者就職支援事業実施協定書を交わし、病院内で就職支援ナビゲーターによる就職相談会を開催した。2016 年度から取り組んでいるがん患者・一般市民・企業関係者を対象にした『がんの治療と仕事の両立支援』講演会を、市内 4 拠点病院と浜松市立図書館、静岡労働局、静岡産業保健総合支援センターの共催で実施した。100 名ほどの参加者のうち約 70 名が企業からの参加であり、社会的な関心の高さが伺われた。

（オ）地域医療支援病院の体制充実

病診・病病連携を強化すべく、静岡県西部地域の連携パス運用検討会など積極的に参加した。院内においては、心臓血管外科からの協力要請により佐久間病院からの紹介患者を対象とした「下肢ストリッピング術・血管内高周波静脈焼灼術（佐久間病院連携パス)」を確立した。

（カ）災害拠点病院としての体制充実

例年行われている静岡県防災訓練に参加し災害拠点病院として、静岡県防災計画の中で重要な役割を担い県庁などの関係機関と連携しながら活動することができた。また、院内では、例年の地震防災訓練に加えて各職場防災係や職場長を対象に机上訓練を実施した。2017 年 8 月九州北部豪雨災害ボランティア派遣として、当院から計 8 名の看護師が被災地支援をした。

4．地域に望まれる病院環境の整備と社会貢献

（ア）利用者サービスの向上

外来では、入院前オリエンテーションの充実を図ることで入院前～退院前～退院後の支援、救急外来では、在宅療養支援・退院支援に介入することで、患者・家族が生活に困らないよう地域包括ケアセンター、ケアマネジャーに繋げることができた。

（ウ）聖隷おおぞら療育センター体制充実

2016 年度に続き、防犯対策の強化に努めた。2 月に不審者進入を想定した警察との合同の防犯訓練を行い、また非常通報装置（警察通報装置）の設置や防犯カメラを 5 台設置し、防犯システムの体制面での強化も図った。

（エ）精神科救急医療基幹病院としての体制充実

静岡県精神科救急医療対策事業実施要綱が改正され、当院の類型（精神科救急医療施設の分類）が「基幹病院」から「常時対応型」に名称変更された。当院は、精神科救急医療圏域の「西部」を担当し、休日及び夜間を中心に緊急措置診察をはじめとする精神科救急対応において基幹的な役割を担った。

（オ）病院ボランティアの充実

2017 年度は新たにホスピスで音楽セラピストのボランティアが加入し、音楽を通して、心と体の癒しを提供し、患者がリラックスでき、とても喜んで頂いている。また病院ボランティア説明会を 3 回開催し、感染・車椅子介助・認知症と高次脳機能障害など病院ボランティアに必要な知識に関する講義を実施し、新たに 11 名のボランティア登録者を得た。

（カ）障がい者の多様性・個別性の尊重

利用者に対しては、2016 年度に取得した土地（旧引佐高校跡地）に地域障害者総合リハビリテーションセンターの建築を予定しており、準備～2018 年秋頃の着工～2019 年秋頃の完成に向けて滞りなく進めていく。障がい者雇用については、事務系 1 名、栄養科 1 名を新規に採用し、法定雇用率 2.82％と安定した受け入れ体制が構築されている。2018 年 4 月からは、精神障がい者を含めて法定雇用率が 2.2％に引き上げられるため、今後も採用を継続していく。

（ク）省エネルギー活動の継続

C 号館熱源機器の更新や検査室照明 LED 化などエネルギーの削減を図る改修工事を行なった。新しくなった設備の運転管理を確立し更なる省エネルギーに努めていく。

５．安定した経営基盤の確保

（ア）コンプライアンスに基づく業務改善の推進

病院機能評価 3rdG Ver.1.1 の受審・救急医療機能評価の受審、卒後臨床研修評価の受審、適時調査等様々な第三者評価を受審した年度となり、院内の質向上に繋がった。また毎月末に管理会議議事録を各職場長宛に配布し、各職場長から職員への周知を行い情報共有、および経営への意識の向上に努めた。

６．地域における公益的な取組

院内ボランティアの受け入れや高校生の看護体験 85 名、高校生・中学生の職業体験 44 名を受け入れた。また静岡県看護協会から受託して開催した「看護師の再就職準備講習会」は 2 年目となり、2017 年度は 14 名が参加した。開催日は院内保育園を開放し、参加しやすい環境を整えた。

市民公開講座は計 7 回実施し 246 名が参加。内、患者・一般利用者対象の栄養講座は 49 名が参加した。

＜医療保護施設・無料低額事業＞

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

＜第一種助産施設＞

2017 年度に助産施設を利用された方は、2 名であった。診療体制も徐々に整いつつあり今後も生活困窮者への支援の一助となるよう、利用に向けて情報を多くの方に周知するよう努めていく。

聖隷おおぞら療育センター
「医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所　ショートステイ）」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012 年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設（18 歳未満）と療養介護（18 歳以上）の並立施設運用になっている。2017 年度の利用実績は、4 月時点の入所者は 132 名であったが 2018 年 3 月末では 133 名（期間限定の入所者 3 名を含む）となった。

また、保護者など家族の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは 2017 年度は 9 名となり、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設としての役割を果たすことができた。

ショートステイの 2017 年度利用実績は、1 日平均利用者数が 14.0 名（定員 20 名）、新規契約者は 6 名で契約者総数は 267 名となり、在宅の重症心身障害児者及びその家族を支援する為の重要なサービスとして地域の期待に応えることができた。

利用者の安全を確保するための防犯対策として、2018 年 2 月に細江警察署の指導の下、不審者侵入に対する防犯訓練及び護身術訓練を実施した。

2018 年 3 月には、公益財団法人オリックス宮内財団様より、リフト付き福祉車両の寄贈があった。施設利用者の外出や特別支援学校通学などの送迎支援に有効活用したい。

あさひ「生活介護」

2017 年度は利用者数 53 名からスタートし、年度途中の利用開始者が 1 名、利用終了者が 2 名あり、52 名で年度を終了した。利用実績は、1 日平均利用者数 34.1 名（定員 35 名）となった。職員配置では、常勤専従の看護師を 2 名以上配置する体制を継続し、医療的ケアの必要な利用者に安全なサービスを提供できた。また、常勤専従の生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

児童発達支援センターひかりの子
「児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援」

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

2017 年 4 月に静岡県西部特別支援学校が近隣地に移転開校したことにより、ひかりの子利用児童の情報交換など、地域障害児支援の連携協力がより充実する環境となった。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2017 年度は利用者数 27 名からスタートし、年度内の利用開始者が 6 名、利用終了者が 2 名あり、最終的には 31 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 15.6 名（定員 15 名）となった。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。障害児入所施設で特別支援学校の夏期休暇中に実施していた夏期デイケア（浜松市日中一時支援事業）を廃止したことで影響を受けた児童の支援については、休日の利用枠を調整して対応した。

利用者数は32名からスタートし、年度内の利用開始者が9名、利用終了者が1名あり、最終的には40名となった。利用実績は、1日平均利用者数5.2名（定員5名）となった。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2017年度は新規契約者8名、契約終了者4名で、最終的な登録者数は194名となった。

	入　　所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績
入院患者・利用者数	140名	137名	17名	14名	－	－	－	－
入院単価（医療）	28,200円	28,761円	－	－	－	－	－	－
入院単価（福祉）	8,610円	8,679円	23,750円	25,675円	－	－	－	－
外来患者・利用者数	53名	54名	－	－	36名	36名	19名	23名
外来単価（医療）	5,100円	5,154円	－	－	13,440円	13,459円	15,370円	13,962円
サービス活動収益	2,109,000千円	2,092,896千円	左記含む	左記含む	122,000千円	120,579千円	79,000千円	84,308千円
サービス活動費用	1,885,000千円	1,789,493千円	左記含む	左記含む	142,500千円	134,748千円	69,500千円	66,339千円

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

その他の公益的事業

・ボランティアの受け入れ（延人数135人）

1. 科別入退院状況

項目	総診	腎内	ホスピス	消化	循環	呼内	結核	内分	脳卒	呼外	外科	整形	形成	産科	婦人	小児	泌尿
入院	168	158	129	1,154	1,367	1,367	33	114	335	889	1,124	1,431	205	449	248	1,061	958
退院	176	173	277	1,192	1,344	1,430	29	123	322	895	1,150	1,473	211	443	246	1,077	963
延入院	5,248	3,623	9,161	17,086	16,345	25,195	1,723	2,074	8,487	11,227	12,745	32,820	2,943	3,202	1,530	6,420	6,442
1日平均	14.4	9.9	25.1	46.8	44.8	69.0	4.7	5.7	23.3	30.8	34.9	89.9	8.1	8.8	4.2	17.6	17.6
平均在院日数	29.5	20.8	43.8	13.5	11.1	17.0	54.6	16.5	24.9	11.6	10.2	21.6	13.1	6.2	5.2	5.0	5.7

項目	眼科	耳鼻	皮膚	脳外	精神	麻酔	救急	神内	リハ	心外	肝臓	放治	化療	感リ	血内	お小	合計
入院	1,798	333	59	477	427	6	1,039	1	18	265	84	3	－	19	208	519	16,446
退院	1,801	338	63	471	491	6	570	1	70	292	86	2	－	27	225	505	16,472
延入院	4,679	2,295	1,315	10,834	21,640	34	6,837	15	3,214	4,396	1,115	15	－	787	8,365	49,860	281,672
1日平均	12.8	6.3	3.6	29.7	59.3	0.1	18.7	－	8.8	12.0	3.1	－	－	2.2	22.9	136.6	771.7
平均在院日数	1.6	5.8	20.5	21.9	46.1	4.7	7.8	14.0	71.5	14.7	12.1	5.2	－	33.0	37.6	96.4	16.1

2. 月別一日平均入院・外来患者数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	638.9	627.9	630.3	613.6	621.6	615.8	607.1	623.6	645.3	660.9	701.8	639.7	635.1
入院【おおぞら合算】	773.3	762.5	767.5	752.8	759.7	751.6	745.1	760.9	780.0	796.8	839.1	776.5	771.7
外来(医科)	941.2	990.7	957.9	973.0	1,001.7	1,010.1	987.5	1,006.3	1,078.1	1,046.2	1,008.5	988.1	998.2
外来(医科)【おおぞら合算】	994.5	1,046.0	1,011.4	1,027.7	1,049.5	1,065.3	1,042.5	1,062.6	1,134.0	1,099.4	1,061.6	1,041.8	1,052.1
外来(医・歯科)	969.3	1,016.2	979.5	995.1	1,022.2	1,029.3	1,007.8	1,027.2	1,104.9	1,071.7	1,032.5	1,009.7	1,021.1
外来(医・歯科)【おおぞら合算】	1,024.9	1,072.9	1,035.5	1,052.1	1,072.2	1,086.5	1,064.8	1,085.9	1,162.4	1,126.9	1,088.0	1,066.2	1,077.1

3. 月別入退院状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	1,323	1,334	1,461	1,418	1,417	1,382	1,309	1,313	1,309	1,498	1,316	1,366	16,446
退院	1,332	1,337	1,458	1,433	1,452	1,353	1,300	1,271	1,457	1,314	1,320	1,445	16,472

4. 科別外来患者数

項目	総診	ホスピス	心内	外科	呼内	精神	婦人	産科	小児	耳鼻	眼科	整形	形成	泌尿
新来	253	270	－	500	962	543	473	335	3,570	1,008	1,171	1,159	452	663
再来	3,069	148	67	11,645	18,076	16,994	5,088	4,750	8,844	10,844	15,497	31,016	5,835	10,952
延患者数	3,322	418	67	12,145	19,038	17,537	5,561	5,085	12,414	11,852	16,668	32,175	6,287	11,615
1日平均	11.3	1.4	0.2	41.5	65.0	59.9	19.0	17.4	42.4	40.5	56.9	109.8	21.5	39.6

項目	循環	脳外	皮膚	呼外	麻酔	消化	腎内	腎透	心外	肝臓	脳卒	神内	内分	救急
新来	686	634	862	299	26	1,703	131	－	117	61	122	30	170	8,951
再来	6,881	5,984	14,607	6,721	6,308	12,092	3,127	12,002	3,483	2,161	2,672	172	9,159	5,999
延患者数	7,567	6,618	15,469	7,020	6,334	13,795	3,258	12,002	3,600	2,222	2,794	202	9,329	14,950
1日平均	25.8	22.6	52.8	24.0	21.6	47.1	11.1	41.0	12.3	7.6	9.5	0.7	31.8	51.0

項目	放治	放射	リハ	化療	感リ	血内	緩ケ	歯科	お内	お小	お歯科	合計	
新来	16	2,043	77	－	82	57	－	1,139	－	－		28,565	※おおぞら歯科含まず
再来	5,573	888	15,166	2,112	2,998	4,109	1	5,578	2	15,785		286,405	※おおぞら歯科含まず
延患者数	5,589	2,931	15,243	2,112	3,080	4,166	1	6,717	2	15,785	635	315,605	
1日平均	19.1	10.0	52.0	7.2	10.5	14.2	－	22.9	0.0	53.9	2.2	1,077.2	

5. 科別手術件数(入・外合計 ※手術室使用)

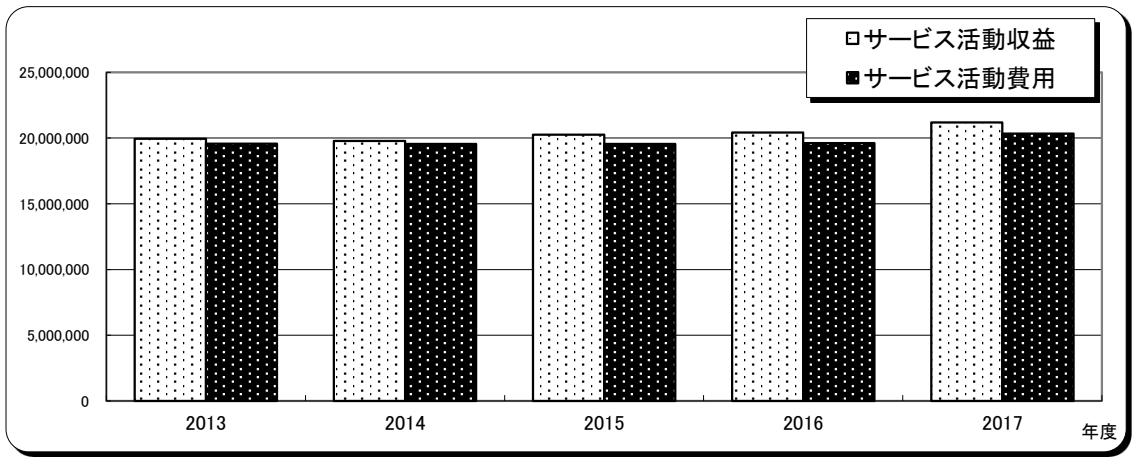
項目	外科	呼外	産婦	整形	形成	脳外	眼科	耳鼻	泌尿	心外	循環	腎内	精神	麻酔	皮膚	合計
件数	913	424	221	1,705	546	170	1,869	174	460	251	75	55	146	7	－	7,016
比率%	13.0	6.0	3.1	24.3	7.8	2.4	26.6	2.5	6.6	3.6	1.1	0.8	2.1	0.1	0.1未満	100.0

6. 最近5ヶ年の医業収益・費用動態

【単位:千円】

項目	2013	2014	2015	2016	2017
サービス活動収益	19,938,038	19,774,062	20,254,175	20,424,547	21,182,566
サービス活動費用	19,572,500	19,546,370	19,548,033	19,610,158	20,341,864

◆サービス活動収益・費用動態

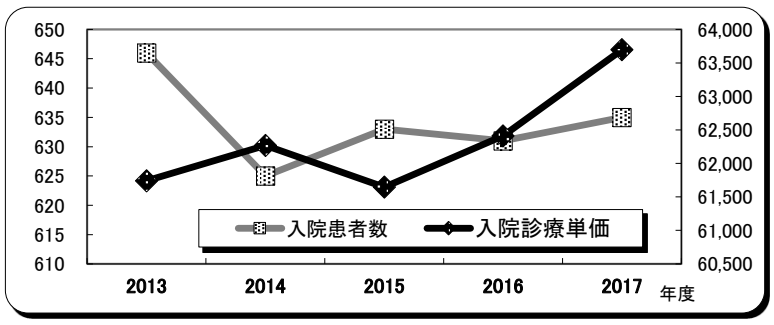


7. 最近5ヵ年の一日当り入院・外来患者数・単価の動態

項目	2013	2014	2015	2016	2017
入院患者数	646	625	633	631	635
入院患者数【おおぞら合算】	771	753	768	768	772
入院診療単価	61,741	62,267	61,646	62,410	63,696
入院診療単価【おおぞら合算】	56,793	56,928	56,431	56,307	57,514

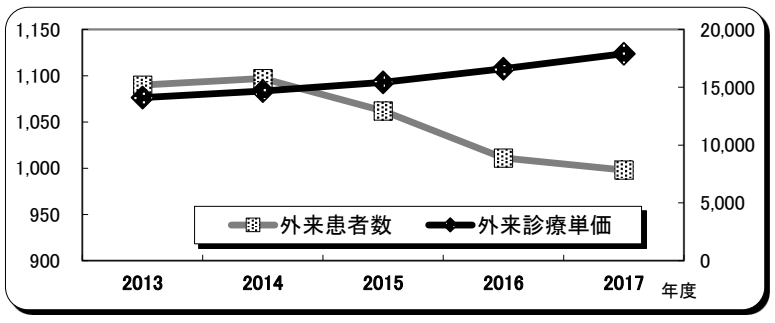
項目	2013	2014	2015	2016	2017
外来患者数	1,090	1,097	1,062	1,011	998
外来患者数【おおぞら合算】	1,140	1,152	1,118	1,064	1,052
外来診療単価	14,102	14,675	15,418	16,591	17,902
外来診療単価【おおぞら合算】	13,724	14,239	14,931	16,016	17,249

◆入院　患者数・単価の動態



※おおぞら含まず

◆外来　患者数・単価の動態



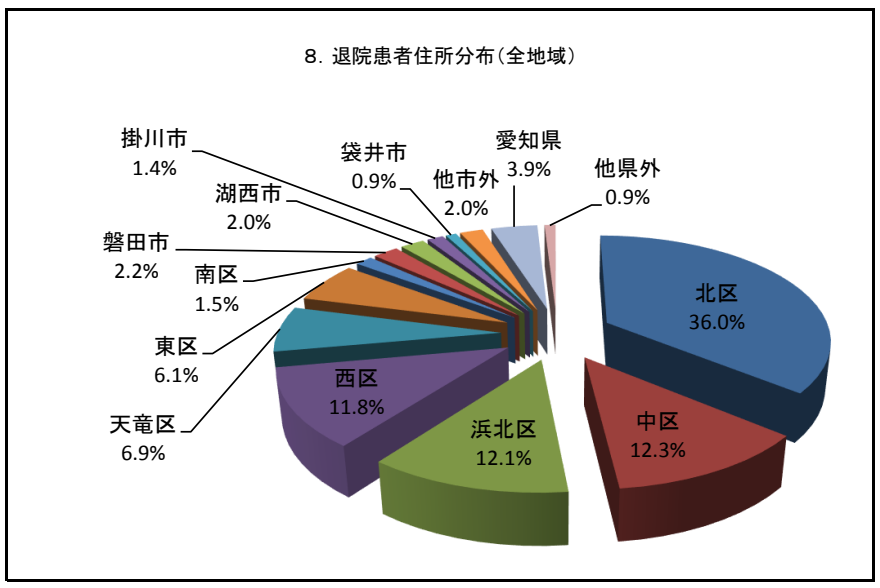
※おおぞら含まず

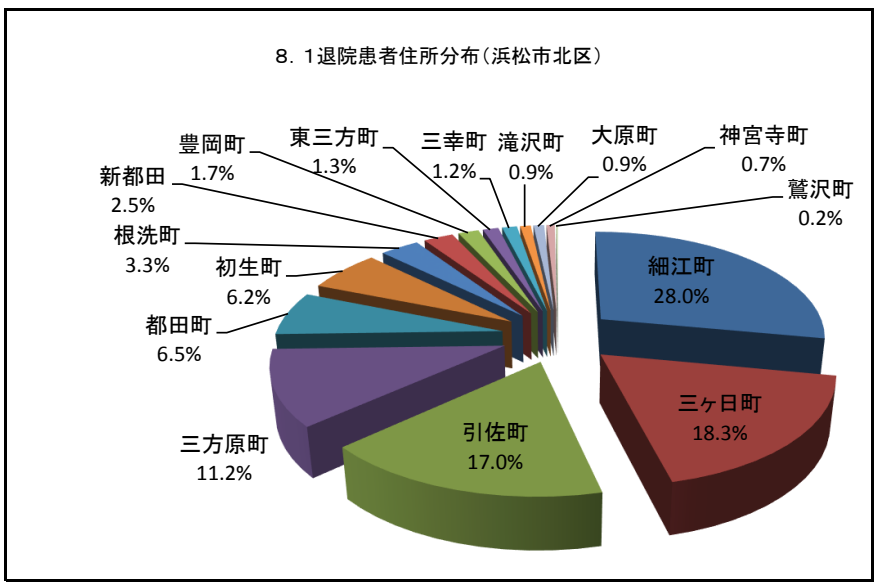
8. 退院患者住所分布（全地域）

項目	北区	中区	浜北区	西区	天竜区	東区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	5,925	2,025	1,986	1,949	1,135	1,003	246	355	337	228	150	328	649	156	16,472
比率%	36.0	12.3	12.1	11.8	6.9	6.1	1.5	2.2	2.0	1.4	0.9	2.0	3.9	0.9	100.0

8. 1退院患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	都田町	初生町	根洗町	新都田	豊岡町	東三方町	三幸町	滝沢町	大原町	神宮寺町	鷲沢町	合計
件数	1,657	1,084	1,010	665	388	368	194	148	103	78	74	53	53	41	9	5,925
比率%	28.0	18.3	17.0	11.2	6.5	6.2	3.3	2.5	1.7	1.3	1.2	0.9	0.9	0.7	0.2	100.0



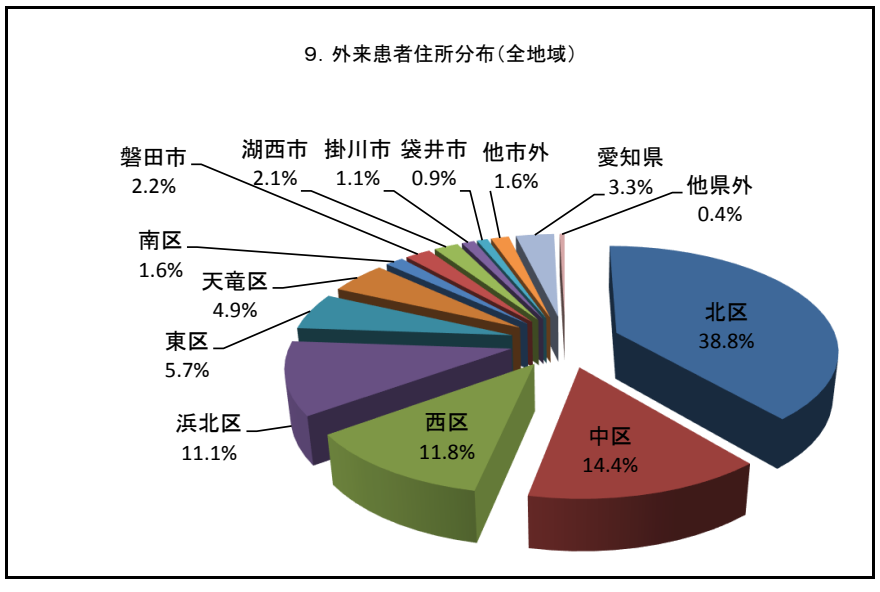


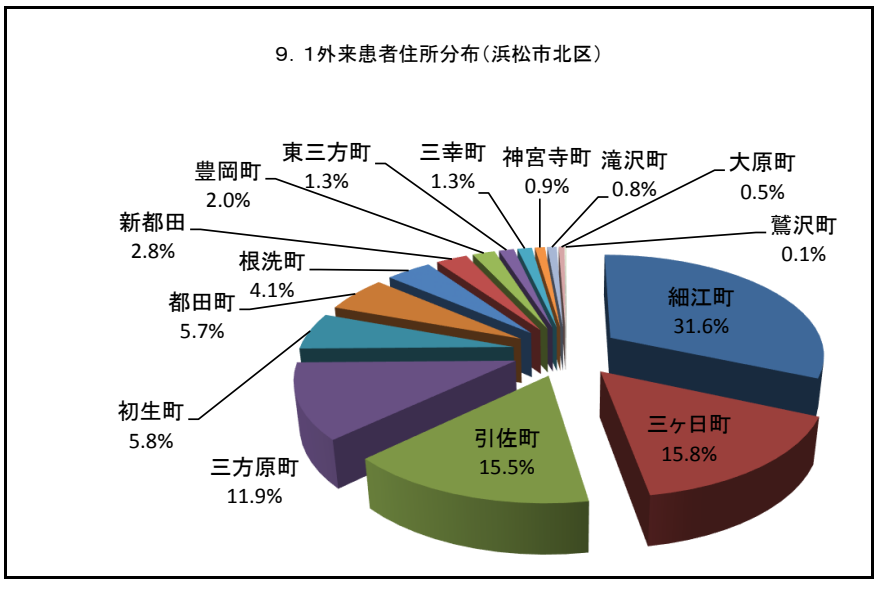
9. 外来患者住所分布（全地域）

項目	北区	中区	西区	浜北区	東区	天竜区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	119,708	44,293	36,474	34,221	17,527	15,208	4,834	6,794	6,525	3,400	2,887	4,820	10,224	1,338	308,253
比率%	38.8	14.4	11.8	11.1	5.7	4.9	1.6	2.2	2.1	1.1	0.9	1.6	3.3	0.4	100.0

9. 1外来患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	東三方町	三幸町	神宮寺町	滝沢町	大原町	鷲沢町	合計
件数	37,796	18,898	18,571	14,209	6,995	6,781	4,853	3,330	2,383	1,590	1,536	1,058	1,000	622	86	119,708
比率%	31.6	15.8	15.5	11.9	5.8	5.7	4.1	2.8	2.0	1.3	1.3	0.9	0.8	0.5	0.1	100.0





聖隷三方原病院併設　介護老人保健施設　三方原ベテルホーム

2017 年度は、利用者、家族のニーズに応えるため、緊急入所、緊急ショートステイの受け入れを積極的に行った。また、看護体制を強化し、看取りの対応、医療依存度の高い方の受け入れと医療提供を行った。その結果、一年を通して在宅強化型の算定をすることができ、施設収益に大きく寄与した。地域における介護老人保健施設の役割を果たしたと考える。また、設備の更新や修繕など利用者環境ならびに職員の労働環境のさらなる改善を図ることができた。

年度初めの職員向け事業計画説明会の実施が定着し、職員へ事業方針が浸透した。これにより、職員の意識改革は年々進んでおり、緊急受け入れ、重介護度の利用者対応などケアサービスのレベルアップが図られたと考える。

１．在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化

在宅復帰率が通年で 55%となった。リハビリマネジメント加算Ⅱの算定件数も 2016 年度より 25%増となった。相談を受けてから入所までの受入れ日数が、柔軟な対応により格段に短縮され、自宅からの受け入れは 5 日程度となった。

２．安定した経営基盤構築への取り組み

一年を通して在宅強化型の算定を継続することができ、予算を上回る施設収益となった。介護報酬改定を控え、よりきめ細やかなサービス提供体制に見直した。事業計画説明会により、事業方針、目標値が見える化され、職員の経営参画意識が向上した。

３．安全で質の高いケアの提供

DCM を用いたパーソンセンタードケアの評価を実施し、入所フロアがすべて終了した。今後も継続し、通所リハビリテーションへ展開していく。看取り対応は、2016 年度が 21 件であったところ、30 件を超えた。終末期ケアについての説明及び意向書の完成や経管栄養のマニュアル作成、人工呼吸器使用中の利用者受け入れなど看護体制がより一層強化された。そのほか、電動ベッド、エアマットレスの更新が進み、利用者環境、職員の労働環境が改善された。

４．次世代を担う人材育成と働く支援

EPA 候補生を新たに 1 名迎え入れ、介護福祉士資格取得に向けて教育している。

複数名の職員が学会などで研究成果を発表する場を経験し、日々のケアに自信を深めることができた。全国老人保健施設協会へ 3 名を講師として派遣した。職員勉強会については、感染対策、せん妄ケア、終末期ケア、エンゼルメイクなどを実施し、専門知識の向上に努めた。

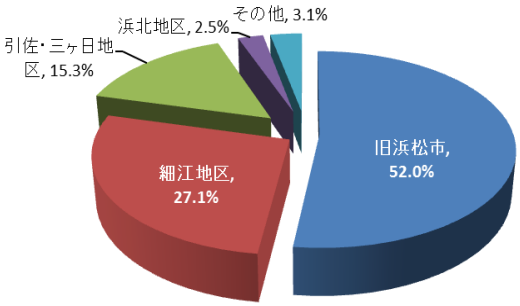
５．地域社会に期待される施設づくり

緊急時や医療依存度の高い方の受け入れを積極的に行った。無料低額利用事業として、生活困難者への経済的支援を行い、生活自立に向けての支援を行った。

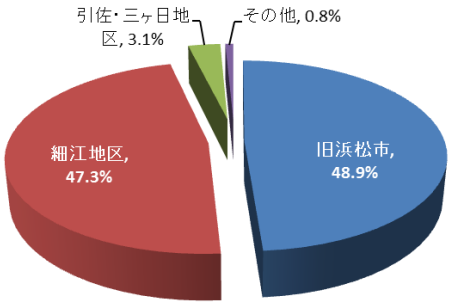
職員勉強会の開催時には、聖隷他施設や近隣他法人の職員も招き入れ、地域に根差した専門職教育の場を提供した。

【数値実績】

入所者　地区別利用状況



通所者　地区別利用状況



入所者　性別年齢別状況(%)

	男 (41.1)	女 (58.9)
65 歳未満	2.5	0.3
65 歳～	3.4	0.9
70 歳～	2.5	2.2
75 歳～	3.7	4.0
80 歳～	8.7	10.6
85 歳～	10.3	18.4
90 歳～	6.2	14.0
95 歳～	2.2	10.0

通所者　性別年齢別状況(%)

	男 (52.3)	女 (47.7)
65 歳未満	1.5	1.5
65 歳～	5.3	2.3
70 歳～	6.1	1.5
75 歳～	6.9	3.8
80 歳～	11.5	9.2
85 歳～	9.2	13.7
90 歳～	9.9	12.2
95 歳～	0	5.3

入所(短期含)利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
1 日平均(人)	123.6	117.5	112.9	122.5	135.1	134.4	129.6	125.2	125.0	120.3	125.5	125.7	124.8
延人数(人)	3,704	3,634	3,381	3,783	4,170	4,020	4,010	3,755	3,874	3,728	3,515	3,899	45,473
稼働率(%)	82.4	78.3	75.3	81.6	90.0	89.6	86.4	83.5	83.3	80.2	83.7	83.8	83.2
平均要介護度	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.2

通所リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
1 日平均(人)	31.6	32.4	31.1	31.5	30.7	29.6	30.7	31.3	30.9	29.3	28.9	29.9	30.7
延人数(人)	790	876	808	820	829	769	797	815	773	702	693	808	9,480
稼働率(%)	63.2	64.8	62.2	63.0	61.4	59.2	61.4	62.6	61.8	58.6	57.8	59.8	61.3
平均要介護度	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3

総合病院　聖隷浜松病院

2017 年度は前方・後方連携をさらに推進し在院日数の適正化を図ることで、断らない医療提供体制を強化した。手術においては、一部の手術を入院から外来へ移行することで、入院での高度な手術の実施体制を整備した。また、外来透析機能を A 棟に移転し、地震などの大規模災害に備え、災害拠点病院の取得に向けた整備を行なった。各職場においては業務の効率化や勤務体制の見直しを行い、職員の業務負荷軽減を図った。事業計画に BSC（Balanced Scorecard）を導入して 12 年になるが、多くの目標を達成することができた。引き続き地域の期待と信頼に応えるべく、職員一丸となって病院経営に取り組んでいく。

【病院使命】
“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”
【病院理念】
“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”
【運営方針 2020】
私達は常に信頼される病院であり続けます
■望まれる良質な医療を提供します　■地域とのつながりを大切にします
■良い医療人を育てます　■働きやすい環境を作ります　■健全な経営を継続します
【事業・運営計画】
「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）
１．患者満足の向上

（ア）患者の QOL 向上	①術後平均離床日数	2.0 日以内(実績:1.5 日)
	②再入院率(予定しない入院による)	4.5%以下(実績:4.3%)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）
２．高度・急性期医療の充実

（ア）断らない医療の提供	①紹介患者断り率	5%以下(実績:3.6%)
	②救急車応需率	95%以上(実績:94.6%)
	③救急車受入れ制限時間	90 時間以下/月(実績:93 時間/月)
（イ）前方・後方連携の強化	①新入院患者数	1,750 人以上/月(実績:1,743 人)
	②紹介加算算定件数	2,100 件以上/月(実績:1,881 件)
	③転院患者 DPCⅡ期件	30 件以上/月(実績:27.8 件)
	④退院支援加算 1 件数	335 件以上/月(実績:452.8 件)
（ウ）がん診療の充実	①新規がん患者数	前年比 3%増加(実績:4.3%増加)
（エ）高度な手術の増加	①手術技術度 D 以上の手術件数	前年比 3%増加(実績:2.7%増)
（オ）手術室の効率利用	①8：30～19：00 の予定手術稼働率	前年比 3%増加(実績:5%増加)
	②外来手術件数	1,750 件以上(実績:1,810 件)

３．DPCⅡ群病院の維持

（ア）DPC 期間の適正化　①DPCⅡ期超退院患者比率　23%以下(実績:23.9%)

（イ）重症度、医療・看護必要度向上　①重症度、医療・看護必要度 29%以上(実績:29.1%)

（ウ）診療密度の向上　①診療密度（2016 基準値 2513）80 ﾎﾟｲﾝﾄ向上(実績:30 ﾎﾟｲﾝﾄ向上)

４．医療の質と安全の保証

（ア）診療の標準化　①クリニカルパス適用率　50%以上(実績:48.4%)

（イ）効果的なコミュニケーションの実践 ①ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｴﾗｰ発生率　0.80‰未満(実績:0.81‰)

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

５．働きやすい職場環境（働き方改革）

（ア）労働環境の改善　①会議所要時間　平均 30 分以内(実績:37.5 分)

②超勤時間合計　対前年同月比 3%削減(実績:8.8%減)

③超勤 45 時間以上の職員数　平均 60 人以下/月(実績:38.7 人/月)

６．明日を担う人材（財）育成

（ア）適正なフィードバック・評価　①目標参画面接実施率　100%(実績:96%)

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

７．目指す医療ができる安定した財務

（ア）年度予算の達成　①サービス活動収益　30,067 百万円以上(実績:29,663 百万円)

②入院単価　80,200 円以上(実績:80,734 円)

③人件費　前年比 103%以内(実績:前年比 100.3%)

【数値指標】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
入 院　患者数	697 名	682 名	97.8%	98.4%
入 院　単　価	80,192 円	80,734 円	100.7%	101.6%
外 来　患者数	1,590 名	1,525 名	96.0%	97.3%
外 来　単　価	17,900 円	18,630 円	104.1%	105.2%
病 床　稼働率	93.0%	90.9%	97.7%	98.0%
サービス活動収益	30,067 百万円	29,663 百万円	98.7%	100.3%
サービス活動費用	29,386 百万円	28,602 百万円	97.3%	100.1%
職　員　数	2,041 名	2,032 名	99.6%	100.8%

（注：入院単価、外来患者数、外来単価は歯科を除く）

【地域における公益的な取組】

がん患者の就労支援活動

2017 年度はがんに関する「市民公開講座」をはじめとする地域啓発活動を継続的に実施した。また行政・民間事業者団体等と共に「就労相談会」、患者と協働で「働く世代、子育て世代向けがん患者サロン」を運営するなどがん患者を支援する活動に取り組んだ。

聖隷淡路病院

2017 年度は“希望の年”を掲げ、2016 年度の経営改善以上の成果を求め、職員一丸となって取り組んだ一年であった。結果として 2016 年度のような大幅な収支改善には届かず、予算を達成することが出来なかった。しかし各機能は着実に向上しており、淡路市唯一の分娩機能を持つ産婦人科は 9 月に累計 300 件に達し、淡路島内で産み育てる使命を果たす役割を担っている。また、一般病床、地域包括ケア病床は 2017 年度後半にほぼ満床状態を維持し、質の高い看護を提供し続けた。病診連携に関しては兵庫県立淡路医療センターからの紹介件数も過去最高を維持し続け、病棟看護師との入退院調整も強化できている。保健事業では協会けんぽ加入事業所からの契約を飛躍的に伸ばすことが出来た。

2018 年度はこの数年の取組みの集大成を図るべく、医局・看護部・診療技術課・事務課の全職員が一丸となってチーム医療を実践し、当院初の黒字予算を達成することで“飛躍”の年にしていく。

１．病院機能の強化

3 階地域包括ケア病床の看護とリハビリの視点からの適正な入院期間設定及び 4 階及び 5 階病棟の入院・転棟運用は地域住民のニーズに則した病院運営に繋がり、特に下半期の安定稼働へと繋がった。

病院としての機能向上を目指し、薬剤師 2 名を採用できたことで病棟常駐を実現させ、病院運営と質の向上に大きく貢献した。2016 年に引き続き法人関連病院の支援も数多く受け、各種専門外来が継続でき、またあらゆる手段を使った医師の採用活動は徐々に実績が出始めている。

保健事業では、協会けんぽ加入企業からの契約を多く獲得し、大きな成果を得ることが出来た。

２．安全な医療サービスの提供と人材育成の推進

医療安全管理、感染予防、褥瘡予防等、各委員会、職場の徹底した推進活動により、大きな事故も無く運営できた。人材育成に於いては、人事制度の変更を見据え、将来の淡路病院を担う地元職員が病院運営に対して積極的に行動した年度であった。2018 年度はこの行動が経営改善につながり、成功体験として今後の力になるよう日々行動をしていく。

３．利用者及び職員の満足度向上

患者満足度調査を継続実施し、当院に対する評価や要望の把握を行った。今回の調査では、特に入院中における接遇面での満足度の向上が見られた。また、外来及び各病棟に設置しているご意見箱に寄せられる貴重な声に対しても迅速な対応を心掛け、患者満足度の向上に努めた。

職員の満足度向上についてはチーム医療の推進、臨床研究への参加、職員向けレクリエーションの企画等を通して、職員のやりがい支援に取り組んだ。

４．コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

どの部署も業務多忙であったが、全ての部署で取り組んでいる“職場別目標進捗管理表”に加

え、2018 年度に向けての“チーム目標進捗管理表”を開始したことは、単独部署では成し遂げられないであろう効率化を進めるきっかけとなっている。当院は人数も限られているが、このチーム活動を通して、職場職種を超えた複数で共有し合う体制構築を目指すことは、質の高いコンプライアンス経営に繋がると考えている。

５．健全な経営基盤の確立

医業収益は 2016 年度比で入院診療収益 103.7%、外来診療収益 101.3%、保健予防活動収益 118.1%であった。入院患者は 1 月、2 月で 140 名を超え、過去最高値を確保したが、夏の減少が影響し予算人数に惜しくも及ばず、単価も手術件数の減少により伸びなかったため、入院診療収益は予算未達成となった。費用削減に於いては物品等の見直しを行い、サービス活動収益が 2016 年度比 105.9%と増加している中、サービス活動費用を 104.9%に抑える事ができた。経常増減差額では－85,967 千円となり予算未達成となったが、前年度を上回り増益となった。

６．地域における公益的な取り組み

2015 年度から開催しているせいれい健康フェスタも 3 年連続で開催でき、更には地域住民が集う“まちの保健室”や“いきいき 100 歳体操”にも参画した。これまで以上に近隣消防署との連携強化も出来、地域の救急患者受け入れを積極的に行うことが出来た。

【無料又は低額診療事業】

淡路島唯一の無料低額診療事業を行う医療機関として、地域課題である高齢低所得層の救済に継続して取り組み、地域の期待に応えている。地域住民への周知方法として、院内掲示・病院広報誌、ホームページ、社会福祉協議会広報誌を活用している。さらに、行政・各医療機関の地域医療連携室など関係機関への周知にも努め、生活困難者が必要な医療を安心して継続できるよう努めている。2017 年度の減免実施率は　15.4%であった。

【数値実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	128 名	127 名	99.2%	104.1%	外来患者数	142 名	126 名	88.7%	100.8%
入院単価	28,000 円	27,918 円	99.7%	99.4%	外来単価	8,650 円	8,769 円	101.4%	100.6%
サービス活動収益	1,821 百万円	1,800 百万円	98.8%	105.9%	サービス活動費用	1,876 百万円	1,883 百万円	100.4%	104.9%
病床利用率	84.2%	83.6%	99.2%	104.1%	職　員　数	180 名	180 名	100.0%	105.9%

聖隷横浜病院

2017 年度は当院の“将来構想 4 本柱”「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」を事業計画の重点項目として掲げ、各々に関連した具体的な目標・課題達成に精力的に取り組んだ年度であった。

１．救急診療体制の再構築と強化

“断らない”診療体制の構築に努めた結果、救急車の受入総件数は目標の年間 4,500 台を超え、5,249 台であった。要請に対する受入率は目標 90％に届かず 85％であったが、地域の救急需要が高まる中で当院への搬送要請件数は 6,190 件となり 2016 年度を 875 件上回った。

重症度の高い患者に対して集中した管理を行うことを目的として 7 月より「ハイケアユニット入院医療管理料」（8 床）の算定を開始した。年度後半は常時 7 床の稼働目標を達成した。

２．高齢者医療（生活支援型医療）の充実

認知症高齢患者ケアの質向上に看護部が中心となって取り組み、入院診療報酬の「認知症ケア加算 2」の算定を開始した。さらに看護部では係長が中心なって“院内デイサービス”を実施した。患者の不穏・せん妄等の予防や ADL の維持・向上を図ることを目的に導入し、看護師の業務の効率化にも繋がった。

３．将来を見据えた診療体制の再編

心臓血管センター内科は新たに不整脈に対するアブレーション治療も開始した。脳血管センターは 24 時間体制での受け入れ体制を整備し、大きく症例数を伸ばした。リウマチ膠原病センターは高い専門性により患者診療圏を広げていくことができた。2018 年 4 月の診療開始を目標に乳腺科及び乳腺センターの開設準備を行った。

４．地域連携部門の強化

地域連携を行う組織を“地域連携・患者支援センター”として改編し、前方・後方連携を多職種で推進する組織に進化した。円滑な連携を目的に ICT（画像診断地域連携システム）を導入し、当院の登録紹介医（サポートドクター）向けにサービス提供を開始した。病院ホームページを全面的に見直し、デザインだけでなく機能性も向上させた。

神奈川県内の聖隷施設に対して医師を含む必要な専門職種の派遣を行うなど有機的な連携を行った。横浜市交通局の地域貢献型バスサービスによる路線バス「聖隷横浜病院循環」は 4 月から増便した新ダイヤで運行し利用者数を伸ばした。さらに同じく交通局との連携事業により無料送迎バスの運行を企画し、2018 年 4 月からの運行開始に向けた準備を行った。

訪問看護ステーションは敷地内の民間企業が開設した居宅介護支援事業所と密接に連携して業務を行ったが、機能強化型の施設認可まで到達できなかった。10 月に所長交代の人事があり新体制での運営となったほか、介護業務支援システムの更新も行った。

＜医療の質向上＞　臨床研究審査も含めた倫理委員会は 2 名の外部委員を招いて定例開催した。年 2 回の防災訓練に加えて 11 月には保土ケ谷区内の警察・消防との合同によるテロ発生を想定した患者搬送・受入訓練を初めて行った。日本医療機能機構による病院機能評価の更新を 2018 年度に迎えるため、更新作業を行う推進組織を発足させた。

＜人材確保・育成＞　2018 年 4 月採用の初期臨床研修医の採用は連続して定員 6 名のフルマッチであった。また看護師募集においても新卒を中心に必要な人員確保ができた。

＜環境整備＞　新外来棟の建築工事は基礎工事において地中障害物が多数発生し処分に想定外の費用・期間を要することになった。処分費は国（国立病院機構）に全額請求することができたが、工期は大幅に遅れ、竣工及び稼働時期を 2019 年度に延長する結果となった。2016 年度中から準備を行った電子カルテを含む各部門システムは予定通り 5 月から稼働を開始した。

＜経営改善＞　病床稼働率は年間平均で 93.4%であった。(2018 年 2 月期は過去最高の 101.2%) 入院診療単価は 2016 年度に比べて 1,598 円増となったが予算単価に到達しなかった。外来は診療単価が予算達成したが、患者数は未達となった。収益に対して人件費を中心とした費用は大きく伸び、法人本部からの支援を受けながら短期的な経営改善に取組んだ。

５．地域における公益的な取組

（ア）健康講座の院内開催（心臓血管センター内科医師と看護師による患者及び地域住民を対象としたミニ講演会「ちょっと良い話」を毎週月・水曜日に院内で開催）

（イ）市民公開講座の外部開催（広く市民を対象として年 1 回開催）

（ウ）認定 NPO 法人 J.POSH 主催「ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨｰｻﾝﾃﾞｰ」に参加（20 名が受診）

（エ）高校生看護体験の実施（10 名の参加）

（オ）中学生職業体験の実施（近隣中学生を対象に看護師等の 1 日体験を実施。4 名の参加）

（カ）救急フォーラムの開催（市内救急隊員を対象とし 5 回開催、延べ 164 名の参加）

（キ）地域住民との交流を目的に講演会・演奏会・健康相談会等を含む半日イベントを開催。

【無料又は低額診療事業】

神奈川県医療福祉施設協同組合の難民支援事業等に参加した。低所得者に広く事業を実施したが、国が定める基準 10%に対して 8.9%の実績であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	285 名	281 名	98.6%	102.6%
入院単価	56,500 円	54,124 円	97.0%	103.0%
外来患者数	600 名	589 名	98.2%	104.2%
外来単価	13,300 円	13,537 円	101.8%	104.8%
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	85.6 億円	81.0 億円	94.6%	106.1%
ｻｰﾋﾞｽ活動費用	85.2 億円	84.5 億円	99.1%	108.2%
職員数	583 名	606 名	103.9%	108.8%

聖隷佐倉市民病院

2017 年度は、脳神経外科・血管外科・泌尿器科・膝関節専門の常勤医が加わり、より充実した診療体制を構築することが出来た。病院情報システムのハードウェア更新により、業務の効率化を図るとともに、電子カルテ導入に向けた運用の検討に入った。病院機能評価では 3 回目の認定更新を受け、受審を契機にマニュアルの再点検や医療の安全・質を見直す良い機会となった。ニーズの高かった在宅での機能訓練に対応するため、訪問看護ステーションに理学療法士を配属して在宅支援に取りかかった。年度末には第 4 期工事の工事請負業者が決定し、本格的な工事の準備に入ることが出来た。

2017 年度の主な活動は以下のとおりである。

2017 年	4 月	脳神経外科・血管外科・泌尿器科・股関節専門の常勤医師の採用
		人間ドック・健診施設機能評価の認定を更新
	5 月	病院情報システムのハードウェア更新
	8 月	病院機能評価の訪問審査
		訪問看護ステーションに理学療法士を配置
	9 月	第 4 期工事に伴う江原台遺跡調査の開始
		関東信越厚生局の適時調査
2018 年	2 月	病院機能評価の認定証交付
		第 4 期工事の工事請負業者の決定

1. 地域№1 を目指した「Sakura ブランド」の構築

当院が特徴としてきた慢性腎不全治療・脊椎変形手術・がんの集学的治療に加え、専門性をもった職員の採用と育成により、手指・肩・膝・股関節に至る全身の関節とスポーツ疾患に対応した関節センター、摂食機能障害の改善と誤嚥性肺炎の予防のための検査から手術・リハビリまでが可能な摂食嚥下センターといった高齢化社会で求められる特色ある医療を地域の中で展開出来るようになった。地域包括ケア病棟では、自宅や介護施設で生活している患者の急性増悪の受け入れを推進し、高齢者が安心して暮らすことができる地域資源のひとつとなれるように取り組んだ。病院機能評価では、医療の安全・質に対する再確認や規定・マニュアルの見直し等を行い、組織全体の運営管理や提供する医療についての評価を受けた結果、3 回目の認定更新を受けることが出来た。また病院機能評価の受審を通して、組織の活性化や職員の意欲向上にもつながった。

2. 将来のニーズに応えた病院機能の変革

増床・手術室増室及び健診センター拡張をメインとした第 4 期工事計画では、医療安全・感染対策・療養環境の快適性・業務効率の向上などを取り入れた設計を完成させた。病院情報システムのハードウェアを更新し、電子カルテの本格導入に向けて、記録の電子化・PDA（携帯情報端末）などの新機能導入に対応出来る運用の再構築に取り組んだ。また、放射線情報システム・生理検査システムを先行導入し、画像参照の迅速化・検査待ち時間の正確な案内、業務の効率化といった質の向上が図られた。夜間休日の救急外来の看護体制を 2 名体制に増員して、救急患者受け入れ強化を図るとともに、職員の業務負荷軽減にも取り組んだ。健診センターでは、内視鏡検査・乳腺エコー・マンモグラフィ検査の予約増加に対応出来る体制を整えた。

3.将来を見据えた多職種協働と専門性の強化

ニーズの高かった在宅での機能訓練に対応するため、訪問看護ステーションに理学療法士を配属して在宅支援に取りかかった。栄養サポートチームでは、栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設としての研修プログラムを作成し、多職種が協力して院外・院内の研修生を受け入れて、専門性を持った人材の育成にあたった。救急看護認定看護師、がん放射線療法認定看護師といった認定看護師が新たに加わり、9領域13名の認定看護師が専門性を持って看護にあたった。

4.医療を志す人が当院で働きたいと思える病院づくり

院内保育園の運営を自前に切り替え、保育士の増員に取り組み、夜間保育・延長保育などのサービスを充実させて、育児中の職員をサポートした。職場単位でノー残業デイを実施した以外にも、毎月1回は18時までには帰宅して豊かなプライベートを過ごしてもらうことを推進した運動（プレミアム☆18）を展開し、早期帰宅がしやすい組織風土の形成に取り組んだ。

5.安定した経営基盤の確保

脳神経外科・血管外科・泌尿器科・膝関節専門の常勤医が加わり、地域連携室をとおした開業医への案内、市民公開講座等での地域住民への広報活動を行うなど患者増加に取り組んだ。

放射線治療部門の医師増員を図り、治療成績の向上と共に、強度変調放射線治療（IMRT）加算の施設基準を取得した。

6. 地域における公益的な取組み

（ア）無料又は低額診療事業（減免実施率21.6%）

（イ）地域の高齢者・住民、介護施設利用者を招いたロビーコンサート（年6回）

【実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	288名	277名	96.2%	100.0%	健診受診数	149名	171名	114.8%	102.6%
入院単価	51,890円	52,678円	101.5%	101.1%	健診単価	18,470円	16,905円	91.5%	106.1%
外来患者数	804名	799名	99.4%	103.0%	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	9,630百万円	9,521百万円	98.9%	103.6%
外来単価	13,400円	13,396円	100.0%	101.4%	ｻｰﾋﾞｽ活動費用	9,483百万円	9,367百万円	98.8%	104.3%
病床利用率	94.7%	91.1%	96.2%	100.0%	職員数	735名	705名	95.9%	104.4%

せいれい訪問看護ステーション佐倉

2017年度の主な動きは以下のとおりである。

介護保険	予　算	実　績	対予算	対前年	医療保険	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	370回	313回	84.6%	107.6%	利用回数	95回	126回	132.6%	210.0%
単　　価	8,500円	8,134円	95.7%	95.9%	単　　価	10,500円	10,577円	100.7%	94.2%

保健事業部

2017 年度、保健事業部は「利用者様が安心して選び続ける保健事業部」「職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部」を経営方針として運営を行ってきた。

「利用者の目線に立った質の高いサービスの提供」としては、新規のオプション検査として、膵がんリスク検診・MCI ミニ検査・睡眠時無呼吸症候群検査・乳房トモシンセシス(3D マンモグラフィ)を開始した。「経営基盤強化のための取り組み」としては、2016 年度より引き続き、業務の効率化を目的に浜松地区へ管理部門の集約化を進めた。また、巡回健診会場におけるオプション検査の推奨や人間ドックの午後実施などを行い増収を図った。「人材の育成と確保」としては、2016 年度から始めた渉外担当者のスキルアップを図る研修を継続実施している。また、保健指導の質の向上を目的に開始した保健指導品質管理内部監査は 10 年の節目を迎え、医療保険者や健診機関等外部から 14 名の見学者があり、高評価を得た。「健康経営の実践と発信」としては、効果が出る保健機関が求められる中、今までのような健康診断の実施とフォローアップに留まらず、企業と連携し、健康経営推進の支援を進めることができた。「データヘルス計画に向けて」としては、統計情報課を中心に健康診断を受診した各企業を総合的に分析し、その分析結果の特徴をわかりやすくまとめたヘルスアセスメントを積極的に作成、約 150 社へ報告した。これにより企業の健康づくりに貢献することができた。「連携の強化」については、全国健康保険協会と連携し、巡回健診会場において健診と同時に特定保健指導を実施することを検証したことは、全国健康保険協会の全国各支部へ静岡支部における聖隷モデルとして紹介された。引き続き、全国健康保険協会と連携し、新たな取組みを継続していく。「地域における公益的な取組」としては、浜松市内の小中高校生の絵画や写真の展示場所として聖隷健康診断センターと聖隷予防検診センターを開放し、地域との関係作りを図った。

保健事業部の経営の課題であった静岡地区については、人間ドックの増加と巡回健診の拡大により、静岡地区全体で 2016 年度比 110.6%の実績となった。また、浜松地区の巡回健診も新規顧客が増加し 2016 年度比 103.4%の実績をあげることができた。聖隷健康診断センター、聖隷予防検診センターの両センターは、2016 年に比べ受診者増となった。保健事業部全体では、受診者数で 2016 年度比 104.4%、予算比 102.0%の実績となった。経常増減差額においては 2016 年度比 133.1%、予算比 174.1%の実績をあげることができた。

各センターの詳細報告は次頁以降となっている。

【数値実績】

	予算	実績	対予算(%)	対 2016 年度(%)
人間ドック	62,498 名	62,525 名	100.0%	101.8%
健康診断	591,764 名	607,398 名	102.6%	105.1%
外来精密	41,462 名	39,735 名	95.8%	98.0%
サービス活動収益	7,862,560 千円	7,920,759 千円	100.7%	103.0%
サービス活動費用	7,584,070 千円	7,464,914 千円	98.4%	101.7%

聖隷健康診断センター

2017 年度は利用者の要望に応えるべく、人間ドックの追加検査(オプション検査)を新規設定し提供した。なかでも、毎年約 22,000 人以上の死亡者(厚生労働省統計)を数える、膵がんのリスク検診を開始したことに大きな反響があった。膵がんは、初期では特徴的な症状が出難く、早期発見が困難であり、検査を提供する医療機関は多くはない。膵がんリスク検診の利用者数は年間 21 人と伸び悩んだが、有所見者は 6 名。今後も利用者の膵がんの危険因子を確認することにより、早期発見に繋げるよう継続的に取り組む。また、胃カメラの需要が高まるなか、午後の時間帯に胃カメラがセットされた人間ドックの提供も開始した。飽和状態である胃カメラ検査枠や、繁忙期の人間ドック受診枠への対応、及び施設の有効活用を目的とした人間ドックを提供し利用者増に繋げた。

人間ドック利用者は 2016 年度対比 100.5%、一般健診利用者は 101.5%と施設改修が無い中でも若干増加し、サービス活動収益は 38,806 千円の増加となった。経常増減差額も 4,914 千円増加した。

一方、早期発見だけではなく、継続的な健康管理として精密検査未受診者への受診勧奨を実施した。特に注力した消化器系の精密検査受診率は、胃：67.4%が 76.2%。大腸：70.2%が 79.6%と 2016 年度に比べ増加した。今後も重症化予防を目指し活動する。

１．質の高いサービスの提供

CS（顧客満足度）調査にて改善が求められていた、受付及び腹部超音波検査の待ち時間の軽減については、受付場所、業務改善や順路の工夫によりそれぞれ軽減が達成できた。
健診コンシェルジュ体制については、2 年目となり利用者からも好評を得ている。運用変更に伴う順路変更等、臨機応変な対応が必要ななか、適切な誘導を行い利用者の不安軽減に繋げている。効果は投書やCS（顧客満足度）調査から窺える。

リスクマネジメントの強化については、インシデント報告は増えたが、アクシデントの軽減に繋がらなかった。医療安全委員会やISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）委員会にて情報が公開され、自職場のみならず他職場での課題や解決策が共有されているが、原因究明等更なる分析を徹底し、リスクマネジメントを強化したい。

２．経営基盤強化のための取り組み

団体及び利用者に対し、継続的な健康管理体制を築くための支援として、専門職の派遣等産業保健活動を積極的に推進した。講演活動については、年間 137 件。対 2016 年度 22 件増加。生活習慣改善及び重症化予防に対するセミナーは、10 件。対 2016 年度 6 件増加した。宿泊型で実施するセミナー等、顧客からの多用な要望に応えている。

午後検査枠の検討、検査機器稼働率の向上等施設の有効活用については、胃カメラ付きの午後ドックを 7 月より開始した。年間 25 件ではあるが、利用者ニーズにも応えることができた。今後も拡大が期待できる。新商品に関しては、膵がんリスク検診を 4 月から、睡眠時無呼吸症候群検査を 5 月から、乳房トモシンセシス(3D マンモグラフィ)を 7 月から提供した。

３．人材の育成

課長会及び係長以上が参加する拡大課長会を定期的に開催した。日常業務の課題解決だけでなく、BSC（バランス・スコアカード）を継続的に活用し、施設目標達成に向けた行動や課題の確認、職場を越えた連携を強化することができた。

また、より専門性を高めるため、資格取得を推進した。第一種衛生管理者 10 名の取得が聖隷労働衛生コンサルタント事務所支援のもと達成できた。ピンクリボンアドバイザー6 名の新規取得もなされた。

４．ICT（情報通信技術）を活用した事業の展開

企業に有用な情報提供として、ヘルスアセスメントによる分析データを 150 社ほど提供した。重症化予防が求められるなか、本活動は一躍を担える。今後も継続的な支援を展開する。

一方、個人に対する Web サービスを利用したポピュレーションアプローチとして、既存のシステムから、より情報提供が可能となる新システム（ウェルスポートナビ）への変更を検討し、2018 年 4 月からの導入に至った。人間ドック利用者だけへの提供ではなく、利用者全体の健康管理の支援ができるよう、団体への導入を促していく。

５．連携強化

精密検査予約及び検査結果の問い合わせを主とした地域連携係を準備し、2018 年 4 月から導入する。今後は、地域住民の健康推進のため、地域の開業医との連携を密にすべく活動を展開する。

聖隷沼津病院とは、画像読影体制の連携を構築している。2018 年度も継続し、相互において利益が出るよう調整を図る。

６．健康経営への取り組み

健康経営委員会、衛生委員会及び課長会が連携し、ストレスチェックによる職場環境改善やメンタルヘルスに関する目標を可視化し共有し評価を行った。GOOD 事例を組織に展開し、「健康診断センタープレミアムフライデー（NO 残業日）」を導入した。

７．地域における公益的な取組

浜松市内の小・中・高等学校から、生徒の作品を借用し展示した。施設内の憩いの場を彩ることにあわせ、施設見学等の交流を通し若年から「医療・保健」への興味を持ってもらう働きかけができた。

【数値指標】

１日ドック他	ＰＥＴ健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,893 名	260 名	49,426 名	3,521 名	23,250 名
特殊健診	外　来	合　計	サービス活動収益	職員数
2,371 名	19,739 名	125,460 名	2,500,250 千円	218 名

聖隷予防検診センター

2017 年度は「一致協力」のスローガンのもと、地域に選ばれ続ける健診機関を目指し、利用される方々からの要望に応えながらも経営基盤の安定を図るため、収益性も勘案しながら事業運営を行った。

利用者の声に真摯に向かい合い、要望の多いスピードドックや上部消化管内視鏡検査を中心に利用枠を拡大、顧客満足度（以下 CS）および収益の向上を図ることが出来た。また女性スタッフが主体となった「女性検診プロジェクト」からの起案により、日頃多忙な女性に向けた「ファースト・ママ検診」をリリースした際には、新聞・テレビ等各メディアにも大きく取り上げられ、収益はもとより当センター事業の周知や、がん検診への理解・受診促進に寄与できたと考える。これらは全て医師を含む職員間での積極的な意見交換から実現したものであり、この姿勢が当センター最大の強みとなっている。

経営数値としては、受診者数 80,513 人（対予算 103.7%、対 2016 年度 103.7%）、医業事業収益 1,451,424 千円（対予算 101.0%、対 2016 年度 103.0%）と好調であった。

このように経営的には順調であったが、職員増による業務・休憩スペースの狭小化、業務効率化を目指し行った職員の配置転換に伴う一時的な負荷増大など、全ての職員に対し適切な業務環境を提供できたとは言い難い状況であった。

2018 年度は「健康経営」の考えの下、事業の「選択と集中」をコンセプトとして無駄を省いたしなやかで筋肉質な事業体を構築、利用者ニーズと収益性の高い事業に集中的に経営資源を投下することで CS とともに職員満足度（以下 ES）の向上を図り、「利用者も職員も『また来たくなる』予防検診センター」を目指す。

１．利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

利用者満足度向上のための取組みとして、職員全員に対する接遇力の向上研修および利用者の方々の施設内滞在時間の削減を目指しスピードドックの増枠を行った。

二次精密検査についても積極的に受け入れ、対 2016 年度比約 200 名弱の増となり、国が進めている重症化予防に対するアプローチについても、地域ニーズに合わせた対応が実施出来たと考える。

また、外部評価を活用した精度管理の向上の視点については、2 月に信頼の出来る健診機関の証である「全国労働衛生団体連合会（全衛連）の労働衛生サービス機能評価に対する監査」および情報資産のセキュリティを管理する仕組みに対する「ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)監査」を受審し、高い評価を得た。

２．経営基盤安定のための取り組み

この地域へ永続的に良質な予防医療を提供し続けることを目的とし、利用者数の確保と拡大を行った。具体的には健康経営の取り組みを行う企業に対し保健師等による特定保健指導や健康相談、講演など企業特性を分析し効果的な健診項目の提供などの各種支援を実施、また新聞

やテレビ、雑誌などメディアを活用した集客手法なども功を奏し、人間ドック・一般健診等 2016 年度と比較し約 3,000 名増となった。

３．人材の育成と確保

女性が中心となった「女性検診推進プロジェクト」メンバーにより、子育て中の女性が利用しやすい新サービス「ファースト・ママ検診」を立案。2018 年 1・2 月にトライアル実施し、多くの反響を得た。

人材確保では、静岡県ナースセンター西部支所とのコラボレーションにより再就職を希望する看護職員とのマッチングの場を設定、繁忙期に必要となる看護師 3 名の採用を行なうことができた。今後は短期アルバイト看護職員の登録制度の確立等、更なる人材確保策を進めて行きたい。

４．働きやすい職場づくりの実践

職員の健康管理・保持増進のため、健康経営上の KPI(重要業績評価指標)として設定されている定期健診の 2 次受診率 100%達成のため、所長、衛生管理者に加え事務長や職場長による受診勧奨を実施した。

また、超過勤務が多い職場に対して労働時間適正化を目指し勤務形態を新設、これにより当該職場において前年対比 10%の超過勤務を削減することが出来た。

ES 向上を目的とし、ストレスチェックサマリレポートに基づいた職場改善アクションプランを作成、2018 年度は定期評価を行なうとともに顕在化した課題に取り組む。

５．連携の強化

外部との連携について、保健事業部が保有するデータを活用したヘルスアセスメントを巡回健診利用の企業も含め 14 社へ提示、これにより 2 次受診勧奨による重症化予防、健診担当者への健診事後措置方法の教育等への貢献に寄与することができた。

また、2016 年度に引き続き日本多施設共同コーホート研究（名古屋大学)、超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験（東北大学）との共同研究へ参加した。

事業部内の連携については、各センターとの業務応援体制を構築(業務応援 延べ 1,181 名／年)することにより、効率的な人員マネジメントができた。

６．地域における公益的な取組

交通手段が限られている方々への取り組みとして無料送迎による施設内健診を実施、 458 名の受け入れを行なうことができた。

【数値実績】

宿泊ドック	一日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
546 名	18,882 名	29,656 名	2,740 名	15,910 名
特殊健診	外　来	合　計	サービス活動収益	職員数
1,918 名	10,861 名	80,513 名	1,456,164 千円	190 名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2017 年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*(以下、サポートセンター) は、「経営基盤の強化」「質の向上」を重点課題として取り組んできた。経営面では営業力強化と施設内業務の効率化により人間ドック利用者を増やし、2016 年度比 104.5%の収益を上げることができた。また巡回健診についても営業力の強化と関係各課の協力もあり 2016 年度比 129.2%の収益を上げた。しかし、聖隷静岡健診クリニックに関しては一般健診利用者数が減少し、2016 年度比 96.5%という結果となり 2018 年度以降に課題を残した。質に関しては要望の多かった上部消化管内視鏡検査を増枠し、人間ドック利用者のニーズに沿ったサービスを提供できる環境を整えた。更に近隣地域に先駆けて保健事業に大腸 CT 検査を導入することで、注目が集まっている大腸がん検査に対する選択肢を広げた。

2018 年度、サポートセンターでは一日人間ドックを高稼働で安定させるため、予約課と連携し無駄の無い予約枠の活用に注力していく。また聖隷静岡健診クリニックにおいては恵まれた立地条件を存分に活かすため、特定保健指導の認定施設となった独自性をアピールしつつ、JR 静岡駅周辺事業所へのアプローチを積極的に行い利用者の増加を目指す。

2018 年度も常に利用者目線に立ち最高の質の医療サービスを提供できるよう職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織構築を目指していきたい。

１.質の向上と情報発信力の強化

（ア）利用者ニーズに合ったサービスの提供

①内視鏡・婦人科などニーズの高い検査における受診者枠の調整

上部消化管内視鏡検査を 8 枠増/週の業務改善を行い受け入れ強化を図った。2016 年度対比 109%増の結果となった。

②大腸 3DCT 導入

サポートセンターとして大腸 3DCT を導入した。併せて聖隷健康診断センター・聖隷予防検診センターのシステムバージョンアップ(CTC 用ワークステーション:ネットワーク型の設置)を行い、保健事業部としての業務拡張に寄与した。

（イ）聖隷静岡健診クリニックにおいて、立地利便性の強みを更に活かす為の設備投資

特定保健指導用のブースを設置した。全国健康保険協会と連携し積極的に行っていく。

（ウ）ストレスチェックの検証・フォローまで含めた包括的なサービスの提案・提供を行う

ストレスチェック実施人数 11,469 人　(2016 年度対比 132.7%)

（エ）地域企業など依頼される講演会・取材への積極的な協力体制の構築

「アスモ社員講座」など 10 講演以上実施。

２．経営基盤強化と新たなサービスの創造

（ア）より多くの利用者を受け入れるためのサービスの検討

①生産性の高い予約環境整備の徹底

予約日から 1 週間以内の人間ドック予約キャンセル実績の調査・分析を行い予約枠数の調整に着手した。

②リアルタイムドックの効率性の追求

各部署との横断的連携を徹底し利用者導線の見直し・実施を行った。

3．人づくり文化の醸成

（ア）職員一人ひとりが成長を実感できる 0JT(On-The-Job Training) 体制を確立した

目標参画システム、ラダー等の活用しサポートセンターの求める人材像『自ら、気付いて、考え、行動できる』を目指し課長会など日々の 0JT(On-The-Job Training)に取り組んだ。

（イ）継続的かつ一歩進んだ接遇勉強会を実施し、『おもてなし』意識を持続した

外部講師による接遇研修会を実施した。

（ウ）専門職としてのスキル向上にむけた学会発表・認定取得への支援を行った

デジタルマンモグラフィ技術講習会・腹部超音波検査研修会・第 58 回日本人間ドック学会学術大会演題発表などを中心に支援を行った。

4．健康経営の実現

（ア）職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを行った

職場別ストレスチェック分析結果を基に職場長と面談を実施し環境改善を実施した。

（イ）衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上させた

①職員ドックにおける結果説明受診率を 100%とした。

5．連携の可視化

（ア）静岡県立大学等との研究協力を継続し、地域公益活動の実績を作った

「山吹撫子（発酵緑茶）の空腹時血糖値改善効果の検討」の研究に協力した。

（イ）静岡市内健診機関と連携し、静岡市における特定健診の受診率向上に向け取り組んだ

健診センターMEDIO・静岡健康増進センターと情報交換を行った(4 回/年)。

（ウ）医師会・浜松医大・地元総合病院との連携強化

静岡赤十字病院　産婦人科との情報交換を実施。また、静岡市内各総合病院実施の地域連携に積極的に参加。

6．地域における公益的な取組

（ア）自治会などの地域イベントに継続参加し地域との繋がりを深めた

日本対がん協会主催リレーフォーライフジャパンに参加。併せて、しずおか協議会主催イベントや静岡商工会議所、静岡県経営者協会の集まりにも積極的に参加した。

【数値指標】　聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
15,944 名	87,678 名	2,023 名	15,526 名	6,221 名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
9,135 名	136,527 名		1,693,120 千円	142 名

サービス活動収益内訳　聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*　1,166,521 千円

巡回健診事業　277,564 千円

聖隷静岡健診クリニック　249,035 千円

地域・企業健診センター

2017 年度、入札制度における健診事業において、いくつか落札できなかった厳しい現実があった。基本的対策として、顧客管理を強化し、サービスの質の向上に取り組んできたことが、職域健診、市町村健診、がん検診等での新規又は追加契約に結びつきこれらマイナス要因を補った。また、各課で効率的な健診事業を推進したことや 2016 年度来からの単価アップの施策等が功を奏して、2017 年度の予算達成に寄与した。

2018 年度は、2017 年度の取り組みを継承し、重点施策として法令順守による健診項目省略への対応、事業所における各種がん検診の推進、当日特定保健指導の推進、島田市住民健診入札への対応などさらなる発展を目指す。そのためには、職員の健康管理や活き活きと働ける環境づくりが重要であり、過重労働対策も踏まえ、適正配置やスタッフの役割分担を明確にして大きな飛躍の年としたい。

経営数値としては、受診者数 367,158 人（対予算 102.0%、対 2016 年度 103.4%)、医業事業収益 2,261,410 千円（対予算 100.8%、対 2016 年度 104.5%）と好調であった。

１． 利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供

（ア）アンケート評価等を活かしたサービスの向上を推進した。

（イ）ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)を継続的に推進し、リスクマネジメントを推進した。

（ウ）ネットワーク健診におけるデータ管理構想を立ち上げた。

（エ）検査精度の見える化と渉外活動の連携強化を推進した。

２． 経営基盤安定のための取り組み

（ア）利用者数の確保と拡大を図った

①被扶養者健診・ファミリー健診の拡大のため各健康保険組合と意見交換会を開催した。

②中小零細規模事業所の健診受診率向上に取り組んだ。

③ストレスチェックの拡大と事後支援に取り組んだ。

④焼津市、愛知県新城市のがん検診を新規で受注した。

⑤インフルエンザ予防接種を既存事業所に積極的に展開した。

（イ）オプション検査を啓発し、単価アップを図った

ピロリ抗体検査、甲状腺検査、PSA 検査等を推進した。

（ウ）統計資料等を活用して産業保健を推進した

①ハイリスク事業所への PDCA を推進した。

②職域健診における検診項目について法令順守の勧奨を積極的に行った。

（エ）検診車の適正配備に取り組んだ

2016 年度実績を活かした検診車の配車を推進した。

（オ）アクシデントの減少に取り組んだ

①ドライブレコーダーを全業務車両に設置した。

②発送業務外注化を評価し改善を推進した。

3． 人材の育成と確保（意識改革）

（ア）衛生管理者の資格取得を推進した。

（イ）医師によるミニ講習会を実施した。

（ウ）施設内研修を開催して産業保健活動の実践報告、渉外能力の向上を図った。

（エ）他健診機関、他団体との情報交流を推進した。

4．健康経営の実践と発信

（ア）衛生委員会を活性化し、健康イベント等を積極的に開催した。

（イ）ES（職員満足度）活動を推進した。

（ウ）健康経営セミナーを開催して事業者に発信した。

5． データヘルス計画に向けて

（ア）県下に点在する事業所について、円滑な健診実施が可能となった。

（イ）健康情報発信 Web サイトを利用し、事業所への健康管理サービスを開始した。

（ウ）健康経営に必要な情報発信力を強化した。

6．連携の強化

（ア）車両、検査機器・機材、人の施設間相互の支援を推進した。

（イ）施設間医師の連携を強化し、巡回健診医師派遣費用を抑制した。

7．地域における公益的な取組

（ア）浜松市、菊川市で健康フェスティバル等に参画した。

（イ）浜松商工会議所主催の健康経営セミナーに参画した。

（ウ）既存の事業所団体等に健康経営セミナーを開催した。

【数値指標】

一般健診	ストレスチェック	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
224,252 名	74,306 名	166 名	31,856 名	36,578 名
合　計	サービス活動収益			職員数
367,158 名	2,271,216 千円			148 名

注）一般健診は予防接種 10,140 名を含む

浜松市リハビリテーション病院

2017 年度、浜松市から指定管理を受託し丸 10 年が経過した。これまで、地域や社会のニーズに対応すべく“連携”をテーマに事業を拡大してきた。地域を含む浜松市民の信頼をえて発展することが出来たが、ここ 1，2 年は当院の役割である“生活を支える医療”について、“質”についても追求し、質をどのように評価したらよいか検討を始めている。その中で自宅退院した一年後も自宅で生活できている割合が 70%超であり、在宅生活継続の鍵は①かかりつけ医がいること、②何らかのリハビリを継続できていることがその要因であることがわかった。まだ不十分ではあるが客観的指標を持つために、診療データベースを作成し始め、今後より充実させていくことが当院にとっても回復期医療にとっても大きな変革であると考える。

在宅生活支援の一環として、10 月から、退院後の生活を支え、その経験を院内に還元できるよう訪問リハビリテーション事業を開始した。また、地域リハビリテーションを充実すべく、これまで通り市民いきいきトレーナー養成事業や医療・介護従事者に対する浜松リハビリテーションセミナーを継続し、公益的活動にもつながる地域住民への家族介護教室を開始した。自治会や小学校、行政を含めた地域防災訓練、感染予防啓発活動も主催し、より地域とともに歩んでいることを実感できている。

職員一人一人が最良のサービスを考え、実践できるようにするため、満足度調査を開始し、その傾向を把握した。2018 年度は医療の質とともに職員満足度を向上していくよう取り組んでいく。

１．安全で質の高い医療の提供

回復期医療の更なる充実を図った。患者一人あたりに提供するリハビリテーションを最大 6.8 単位（年度 6.4 単位）と増加、入院生活全体をリハビリテーションとするべく看護師と療法士、介護福祉士の勤務を時間帯により配置変更した。在宅復帰支援、訪問リハビリテーションの実施により、入院から自宅での生活まで支援を繋げられるようにすることが出来た。

医療安全管理では、転倒転落や患者間違い等防止に取り組み、患者アンケートにおいて「安全に医療サービスが行われた」と 9 割以上が回答した。感染制御活動では、院内を重点的に、かつ、地域での取組みに広げるため、隣接する泉小学校にも手洗いの指導・啓発を行った。

病院機能評価機構による付加機能（リハビリテーション）を 2 月に受審し、中間評価で高評価を得た。

２．地域に求められるサービスの充実

特色ある医療提供体制を充実させるため、“えんげと声”“スポーツ医学”“高次脳機能”3 センターも数値目標を設定し取り組んだ。新たな取組みとして、高次脳機能センターでは、患者家族の集いを 2 回開催し、家族支援を行った。脊髄損傷患者の受入れについては、備品整備や活用により常時 5 名の入院に対応できた。

３．人材の育成と労働環境の整備

採用については、作業療法士 2 名が不足となったが、看護師、補助者とも必要数を満たすことができた。また、新専門医制度による医師採用は、プログラム制の採用はできなかったが、カリキュラム制では 3 名の登録ができ、基幹病院として 2018 年度スタートする。

多様な人材の活躍において、障がい者雇用や患者の就労支援に取り組んだ。在宅福祉サービス事業部との連携会議を持ち、就労支援のための共通評価表作成や勉強会の開催等行った。

職員のキャリア支援は、月 2 回 1 時間で多様なテーマを 30 分ずつ受講ができる浜リハラーニングや e-ラーニングを用いて、家庭とのバランスの中でなかなか外部研修に赴けないスタッフも含め、学べる環境を提供できた。職員満足度調査を実施し、成長できる環境や上司への信頼や人間関係等において高評価を得た。若干評価が低めな項目もあったため、内容をひもときながら改善について検討していく。

産後復帰率 100%。事業所内保育所は丸 3 年が経過し、職種を制限することなく療法士や事務職も利用することができ、最大限活用することができた。

4．安定した経営基盤の確立

病床利用率 94.8%（213.3 人/日）。連休前のベッドコントロールに注力する体制が整ったことにより、安定した稼働が可能となっている。入院判定会議ではタブレットを活用、直後に病棟振り分けを行うなど効率化を図った。

当院の診療内容や取組みを地域の関連施設や医師会に知っていただくため、また日頃の連携に関するご意見をいただくため意見交換会を開催し、今後に繋がる場となった。

5．地域における公益的な取組み

いきいきトレーナー養成事業は、2011 年から開始、463 名のトレーナーを養成してきた。そのトレーナーを指導できるアドバンスコースも開催し、累計 29 名を輩出できている。アドバンストレーナー総会も開催し、トレーナー相談会が企画されるなど自立的活動がみられ、活躍し続けられる仕組みを創出できている。

地域リハビリテーション広域支援センターとして、セミナーを 4 回開催し、のべ参加人数は 411 人であった。

浜松市より受託している市民向け運動器機能向上トレーニング教室事業には、17 名が参加した。

隣接する泉小学校への手洗い指導は 3 年目となり、自治会や小学校、行政も含んだ地域防災訓練も主催した。

【数値指標】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	210 名	213 名	101%	100%	外来患者数	181 名	189 名	104%	103%
入院単価	35,517 円	36,000 円	101%	107%	外来単価	7,118 円	7,034 円	99%	98%
職員数	390 名	383 名	98%	107%	病床利用率	93.3%	94.8%	101%	100%
サービス活動収益	3,173,240 千円	3,274,691 千円	103%	106%	サービス活動費用	3,147,865 千円	3,183,160 千円	101%	106%

＜病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数＞

	単位数
回復期病床	6.4 単位
一般病床	4.1 単位

＜病床別入院単価＞

	単　価
回復期病床	38,851 円
一般病床	34,668 円

聖隷袋井市民病院

袋井市の指定管理者として第一期指定管理受託期間の節目になった2017年度は、安定した運営をすることができた。2016年4月に当院3病棟目の回復期リハビリテーション病棟を開設したが体制未整備により37床運用を続けてきた。しかし、2018年1月内科常勤医師1名の入職や看護職員の体制を整備したことにより、2月より50床フルオープンすることができた。一般、療養、回復期リハビリテーション機能を有した3つの病棟が揃い、中東遠医療圏での地域包括ケアシステムの一員として、地域の急性期病院はもとより、在宅復帰など地域診療所とも連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の整備と後方支援として当院の役割を充分発揮することができた。

診療機能の質向上については、老朽化したMRI（1.5T）を更新し、患者が安心して検査を受けることができる環境を整備した。このことによりMRI・CT等設備のない近隣医療機関に対して、地域の画像診断センター機能として貢献したいと考える。さらなるサービス向上として2018年度にはリハビリテーション外来の開設を検討している。

働きやすい病院作りと患者満足度向上を目的として、利用者満足度向上委員会を発足した。患者、職員それぞれの目線で様々な企画を検討し、風通しの良い組織風土で運用できている。

経営的側面では、外来患者は若干名減少したが入院患者は増加しており、開設後最高の業績を残すことができた。これは、ひとえに職員一人ひとりが患者の受け入れや業務改善を実践した成果だと考える。

2018年度より第二期指定管理受託期間が始まり、引き続き袋井市総合健康センターが取り組む「地域包括ケアシステム」の医療分野の核となっていきたい。そのためにも地域全体として切れ目のない医療の提供を目指し、後方病院として支えながら急性期病院がその機能に特化できるよう運営していく。

１．地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供

2016年4月に開設した回復期リハビリテーション病棟のフルオープンを目指し、当該病棟看護補助者を4名から9名へ増員した。これにより、看護師2名、看護補助者1名の配置が可能な夜間看護体制となり、2018年度から運用の開始を予定している。3つの病棟機能を効果的、効率的に運用すべき医師、看護師、MSW、事務の多職種によるベッドコントロール運用を確立した。また、アメニティに配慮し病棟一部の改修工事を行うことで療養環境の改善を図った。この結果、2016年度より20名/日の病床利用数が増加し、地域ニーズに応えることができた。更にリハビリテーション医療の質向上を目指し、嚥下造影検査および嚥下内視鏡検査を開始した。2018年度は検査件数の増加に向け、院内外で積極的な広報活動を実施する。

リハビリテーションは理学療法士・作業療法士の増員により、9月から休日も含む年間365日リハビリテーションの提供が可能となった。医療安全、院内感染防止に関しては例年と同様に職場及び委員会活動を行い、医療安全シンポジウムを開催するなど積極的に取り組んだ。これら当院の活動については、患者満足度調査結果から分析しても一定の理解を得ており、今後も継続して取り組んでいく。

２．地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

中東遠医療圏を中心とした急性期病院から円滑な患者を受け入れるため、「退院支援室」を設置し、紹介・逆紹介の推進に努めた。入退院支援プロジェクトを毎月開催することで現状の課題や体制について検討でき、また医療圏内の急性期病院と合同連携カンファレンスを企画開催し、紹介・逆紹介件数の増加、連携医療機関の拡大に繋げた。医療機器共同利用率の向上については、前年対比 1.2 倍に増加した。

３．人材の確保と育成

内科常勤医師、看護師、看護補助者、作業療法士等が採用でき、当初の目標職員数を確保できた。また、院内懇親研修会を企画開催し、多職種が交流できる機会を設け、働きやすい職場環境を整備した。

静岡家庭医養成プログラムの連携医療機関の準備が整い、後期研修医の受け入れを開始した。

４．安定した経営基盤の確立

2 月から病床フル稼働体制が整備され、安定した病床稼働が実現できた。体制の充実により上位の回復期リハビリテーション病棟入院料および退院支援加算の施設基準を満たすことができた。また、全国的に食材費が高騰している中で食事メニューの見直しや医療費抑制のための後発医薬品への切り替えを推進するなど、業務改善を図った。

2018 年 4 月の診療報酬・介護報酬の改定については、継続して対応していく。

５．地域における公益的な取組

（ア）袋井市総合健康センターとの共働と発展

お元気教室講師派遣 19 回、認知症初期集中支援チーム参加 12 回

介護予防・日常生活支援推進会議参加 15 回

在宅医療多職種連携推進会議参加 3 回

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	40 名	44 名	110.0%	133.3%
一般病棟入院単価	23,500 円	22,943 円	97.6%	102.0%
療養病棟入院患者数	45 名	44 名	97.8%	118.9%
療養病棟入院単価	20,700 円	21,197 円	102.4%	107.7%
回復期病棟入院患者数	35 名	30 名	85.7%	107.1%
回復期病棟入院単価	32,800 円	31,567 円	96.2%	113.5%
外来患者数	64 名	68 名	106.3%	91.9%
外来単価	6,550 円	6,198 円	94.6%	99.4%
サービス活動収益	1,442 百万円	1,385 百万円	96.0%	117.9%
サービス活動費用	1,336 百万円	1,327 百万円	99.3%	117.6%
職員数	149 名	156 名	104.7%	126.8%

在宅・福祉サービス事業部

在宅・福祉サービス事業部では地域が真に求める福祉ニーズの発見に注力するため、エリア体制による運営を進め、多くの地域拠点が自主的に事業経営を進められる組織づくりを目指した。福祉制度が整えられる中、地域支援ニーズの現状・将来的変動は異なり、それぞれの地域に合った体制を整えることは重要だと考える。高齢者、障害者、児童等の法的な枠組みを超えて包括的総合的に支援する仕組みを構築していくことを目指して地域包括支援システムの上位概念として地域共生社会の実現に向けた議論が進んだことは事業部の方向性を示すものでもあった。事業部の専門性を高める努力と共に高齢者介護、障害者福祉、子育て支援、生活保護・困窮者支援等複数分野の支援を総合的に提供する仕組みを推進していくことを目標とした。また医療分野で加速度的に進められる地域包括ケアシステムと連動していくことは必須であり、これらの包括的な視点に立って利用者支援を行える人材の育成は急務となる。このため、事業部では幾つかの取り組みを行った。国が給与水準の格差解消を目的として作った職員処遇改善加算の活用と連動する形で、人材育成の尺度となる介護職、相談職、保育職等職種別ラダーの実質的な運用が開始された。また、医療分野における利用者情報の連動を視野に入れ、業務の ICT 化にも取り組み、介護保険、障害福祉、児童福祉各システムの次世代ソフトへの一斉更新を行った。職員にとって業務記録の電算化は当然のこと、一般社会でのスマートメディア化進展を鑑みると、業務の ICT 化は更にその先を目指す必要があり、福祉職の意識改革にも繋がると感じている。この福祉情報の ICT 化は年齢や障害の有無を超える可能性を秘めるが、現行の縦割り福祉制度の中では介護、障害、保育の共通言語たるアセスメントは足並みをそろえて行われておらず、地域包括ケアや共生社会を目指す上でまだまだ、遠い道程となっている。2018 年度、介護保険事業計画では第 7 期（2018～2020 年）が策定され、障害福祉計画は第 5 期（2018～2020 年）、同時に第 1 期障害児福祉計画も策定される。第 7 次医療計画（2018～2023 年）では在宅医療に関する医療連携モデルが構築され、福祉制度と連動して中間見直しが行われる予定である。子ども子育て支援計画においては働き方改革と連動して 32 万人分の保育定員増を 2 年前倒しで 2020 年までに行い、待機児童ゼロの施策を掲げた。これらの制度の流れを基に各自治体の計画策定に際し、地域の福祉パートナーとして提案提言をエリア毎に行い、地域福祉計画への参画を目指している。また、時代に先んじた福祉を提言するために、介護施設の概念を超えた「新たな住まい」について議論を重ねた。介護は医療ケアを含む重介護の方向と社会の構成員として何らかの働きに参加していく真逆の方向性を言及し、一応の提言をまとめた。2018 年度以降はこの実施に向けて計画案を創りあげていく。今後、聖隷の将来を担う次々世代の職員は、現在の福祉の価値観では図ることの出来ない社会の中で働くことになる。AI を搭載した介護機器を使い、職員も多国籍化が進み、価値観も更に複雑化多様化していく。これらの福祉ニーズを理解し創造していくために、福祉の成熟期以降を経験する福祉先進国への研修団派遣を行った。福祉制度が異なる国において福祉がどのように働き、展開されていくのか肌で感じていくことによって事業団の福祉の取り組みに新たな視点を取り込んでいきたいと願う。2017 年度は制度改定報酬改定の実施前年ということもあり、種々の取り組みを議論し考えていく機会を持つことが出来た。今後も本部主導ではなく、現場が情報収集し利用者視点に則って考え、試行し実行出来る組織づくりを行っていきたい。

【高齢者福祉・介護保険事業】

（ア）浦安地区施設の経営困難が継続する中、あらゆる経営努力によって大きな経営改善を行うことが出来た。また、同施設の将来展望について協議を進めることが出来た。

（イ）各地で特別養護老人ホーム増設が進み利用者が激減する中で、利用者情報を集約し待機者確保を行った。

（ウ）新総合事業への対応を図り、共生サービスへの準備を進めた。

（エ）介護保険ソフトの変更による対応、介護保険報酬改定への対応を行った。

【障害者福祉】

（ア）障害者就労支援については、雇用契約に位置づけられるA型事業の新規開設を行った。また、新たな取り組みとしてパンの製造販売、カーテンクリーニングを磐田で実施した。

（イ）障害者相談支援事業所の設置を進め、浜松市では複数法人協力による基幹型相談支援事業所開設に向けて準備を進めた。

（ウ）放課後等デイサービスの事業所設置と事業拡大を行った。

（エ）静岡県立浜松学園の指定管理者公募について指名された。

（オ）障害福祉ソフトの変更による対応、障害福祉報酬改定への対応を行った。

【保育事業】

（ア）各自治体の待機児童解消プランに基づき、保育園の増築、定員増を行った。

（イ）岩屋認定こども園の受託運営及び新園舎移転建築に伴う準備を進めた。

（ウ）磐田市子育て支援センターのびのび、児童発達支援センターはあとの受託運営の更新をプレゼンによる選考の結果、再委託された。

（エ）宝塚せいれいの里すみれ保育園において企業推進型保育事業の指定を受け運営が行われた。

（オ）保育士等処遇改善加算のⅠ及びⅡの取得を行い、保育職の待遇改善を行った。

【2017年度の主な取り組み】

○奄美佳南園一部ユニット化改修（30床）

○聖隷デイサービスセンターゆいの開設（ケアセンター沖縄）

○聖隷放課後クラブの開設（はなえみ磐田、はなえみ高丘、はなえみ森町）

○障害者相談支援事業所の開設（磐田みなみ、森町、聖隷はぐくみ花屋敷、聖隷はぐくみ松戸）

○就労支援事業所の開設（チャレンジ工房カナン、チャレンジ工房磐田）

○静岡県立浜松学園の指定管理者指名決定(2019年度～)

○聖隷こども発達支援センターかるみあの開設（聖隷ぴゅあセンター磐田）

○聖隷こども園わかば増築（定員150名→200名）

○聖隷こども園ひかりの子増築（定員150名→230名）

○こうのとり豊田保育園を幼保連携型認定こども園へ移行（定員120名→155名）

○聖隷こども園めぐみ開設（定員160名）

○岩屋認定こども園（淡路市）の受託運営開始（定員120名）及び新園舎建築

和合せいれいの里

2017 年度、和合せいれいの里は本格的に高齢者・障がい者・こどもの共生型サービスの一体的な提供を開始した。新たに 2017 年 4 月開設となった聖隷こども園めぐみはもちろんのこと、2015 年度から進めている事業間の連携による相乗効果については、聖隷厚生園チャレンジ工房におけるベッドメイク業務やリネン管理業務等、新たな支援体制の実績を残せている。

全世代対応型の福祉拠点としての取り組みが、日々の交流の中で行われ、また和合せいれいの里厨房が一体化された事で、食を通しても始めることができた。理念にもある「切れ目なく総合的に支援する体制」としての記念すべき年度となった。

１．高齢者・障がい児（者）に対しワンストップで継ぎ目のないサービスを提供する

（ア）特別養護老人ホームにおいて権利擁護の視点に立ちサービスを提供する

①ケアプラン作成において家族の意向確認が各担当者から実施することができた。

②喀痰吸引等事業者の登録に合わせ、体制の見直しを図ったが、充足には至っていない。

③入所募集として医療機関へ積極的な訪問と、新たに広報媒体として SNS を活用した。

（イ）ショートステイのサービスの質を向上し、一人でも多くの利用者に利用してもらう

①IoT 技術を使用した見守りシステムを導入し、危険予知介護を目指したが、十分に活用することができなかった。

②緊急時のショートステイ受け入れ、障がい者空床ショート受け入れ等積極的に進めた。

（ウ）新たな高齢者デイサービス対象者づくり

①入浴利用者の利用状況を一覧化して管理し、新たな利用者を受け入れやすくした。

②リハビリテーションを基軸とした短時間デイプログラムをアピールが十分でなかった。

③認知症対応介護の運営の独立性を高め、利用者増を図る事ができた。

（エ）障がい福祉サービス対象者拡大と利用者の社会参加、自立支援を促進する

①「みるとす」（生活介護第 2 単位）では、クラブ活動的な新たな活動方法を取り入れ、利用者の参画型活動を開始した。

②「みるとす」（生活介護第 1 単位）では、日中一時支援事業利用者の増加が図れた。

③高齢者と障がい者ショートステイ予約の相談員連携ができ、利用を増やす事ができた。

（オ）就労支援サービスの対象者並びに訓練メニューの増加

①1 号館旧厨房を使った給食提供の就労継続支援 A 型事業の開始は半年延期となった。

②通勤が困難な利用者の為、浜松駅からの早い時間の送迎を行うことができた。

③ベッドメイク業務等施設外就労事業の定着ができた。

(カ)障がい児サービスの利用者拡大を図る

①浜松特別支援学校等送迎を開始し、登録児童 4 月の 11 名から 25 名に増やす事ができた。

②はなえみ利用者と聖隷こども園めぐみの学童利用者との交流活動を実施できた。

③障がい児相談支援の新規契約件数を増やすことができた。

（キ）生活支援ハウス「やまぶき」では、より多様なニーズの利用者を受入可能にする

①より多様なニーズの利用者受け入れができた。外部サービス併用利用を促進できた。

②第 7 期浜松市介護保険計画策定に合わせ運用変更について施設側の提案内容が採択された。

（ク）訪問介護、巡回ヘルパー「ぐるり和合」について適時、適切に対応できる体制を構築する

①日常生活支援総合事業（以下：新総合事業）の緩和した基準の訪問型サービスの職員採用と必要な研修体制を作ることができた。

②ぐるり和合は、地域ニーズの変化から、需要も伸びず 2017 年度末で閉所した。

（ケ）訪問看護は病院、施設と連携し在宅移行を更に促進し、新たな利用者を開拓していく

①精神科訪問看護を開始することができた。困難事例・難病の方の訪問も増えた。

（コ）居宅介護支援事業所においては良質なケアマネジメントの提供の為、新人の育成状況を共有、可視化できるようシステムを構築すると共に、障がい福祉サービスの理解を深め多様なニーズに対応できる職員を増やしていく。

①新人ケアマネジャーも適切にアセスメント・相談機関との連携が取れるよう支援シートの導入ができた。

（サ）地域包括支援センターでは自担当地域の地域包括支援システム構築並びに 2017 年度より始まる新総合事業のスムーズな移行を目指す

①新総合事業開始に向けて、地域と一緒に協力し活動する機会を増やした。

２．生産性向上活動を通じ、業務の効率化を行いサービスの質を高める

（ア）IoT 技術を使用した見守りシステム導入や新たな介護記録システムを導入し、業務の効率化や、精神的負担を軽減する

①介護記録支援システム・障害業務支援システム導入ができ記録の電子化を進めた。

（イ）　特別養護老人ホームの衛生室業務をチャレンジ工房への移管、温冷配膳車を特別養護老人ホームに導入による介護職員の更なる業務負担軽減を推進する

①聖隷厚生園チャレンジ工房施設外就労の衛生業務・ベッドメイク業務の安定運営ができた。

②温冷配膳車の導入で食事時間帯の介護業務負担軽減ができた。

３．共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

（ア）聖隷こども園めぐみの運営の早期安定化の為の協力、特に敷地と設備利用のスムーズな移行を行う

①日常的に敷地・設備利用等で交流が進められ、行事等協力体制のもと合同開催できた。

（イ）聖隷ぴゅあセンター磐田開設に伴い、パンの納入、クリーニングの実施等協力を行う

①聖隷ぴゅあセンター磐田から施設給食のパン購入、居室カーテンクリーニング委託を開始し等、お互いを支える形で実施できた。

４．　新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する

（ア）プリセプター制度、各テクニカルラダーを効果的運用する為、新任係長が目標参画システムを着実に運用できるよう課長が支援を実施する

①介護職テクニカルラダー・相談員ラダーの運用が開始でき評価を行うことができている。

（イ）　新人職員が着実に成長を実感できるよう、夜勤開始を遂行する為の進捗管理を主任会議で検討する。また、各種委員会の責任者に主任を任命し、その運営を通じ役職者・リーダーの育成を実施する

①人材育成員会の中で、プリセプター振り返り用紙を活用し、各フロアの新入職員の夜勤実施状況の確認を定期的に行った。

（ウ）認知症介護実践者（リーダー）研修の受講者とキャリア段位制度のアセッサー取得者の増加を図る

①認知症介護実践者研修への受講はできたが、アセッサー取得者増加は図っていない。

（エ）2017 年度にフィリピン EPA 介護福祉士候補生 2 名、ベトナム候補生 2 名が増加するのに伴い、外国人労働者は 15 名となる予定の為、支援体制の強化を図る

①フイリピン EPA 介護福祉士候補生 2 名受け入れた。定期的に EPA 介護福祉士候補生の勉強会も開催している。ベトナムからの EPA 介護福祉士候補生の採用はできなかった。

５．防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

（ア）補助金を利用した防犯カメラの設置と年 2 回の防犯想定訓練を実施する

①防犯カメラの設置ができた。防犯想定訓練は警察にも協力いただき実施できた。

（イ） サービス向上委員会にて和合せいれいの里のサービスを地域に知って頂く取り組み

①和合せいれいの里祭り、手筒花火大会の地域の方へご案内して参加いただいた。

（ウ）和合サテライトでは地域の祭典や防災訓練に参加し、交流を図る

①寸田ヶ谷祭典への交流参加、和合サテライト花火大会へ地域子供たちに参加してもらった。

（エ）地域における公益的な取組

①中学生・高校生の福祉体験の積極的に受け入れを行った。

②認知症啓発のため小学校への出前講座(寸劇)を行った。

③他法人・他事業所への和合せいれいの里敷地開放(花見・川遊び等)

【数値実績】

高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園デイサービスセンター			やまぶき
	特養入所		短期		通所介護			生活支援ハウス
	従来型(3 号館)	ユニット型	従来型(障害)	ユニット型	一般型	予防介護	認知症対応型	
利用者定員	50 名	40 名	20 名	29 名	50 名		12 名	20 名
利用延数	18,529 名	14,003 名	6,303 名	10,391 名	6,893 名	740 名	2,239 名	5,291 名
一日平均利用者数	50.8 名	38.4 名	17.3 名	28.5 名	22.2 名	2.4 名	7.2 名	14.5 名
稼動率	101.5%	95.9%	86.3%	98.2%	49.3%		60.2%	72.5%
稼動延日数	365 日	365 日	365 日	365 日	310 日		310 日	365 日
平均介護度	3.87	4.20	3.52	3.67	2.06		3.22	－
単価（一人一日）	12,501 円	14,411 円	11,632 円	13,472 円	9,859 円		13,663 円	4,266 円
サービス活動収益	231,627 千円	201,796 千円	73,315 千円	139,988 千円	75,251 千円		30,592 千円	22,570 千円
正職常勤換算数	25.6 名	23.1 名	8.2 名	13.4 名	5.5 名		1.3 名	0.5 名
パート常勤換算数	11.4 名	5.3 名	2.2 名	4.1 名	6.8 名		3.1 名	2.0 名

障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設　みるとす					相談支援 くすのき 浜松市受託 特定・児童	高齢 障害 合計
	施設入所 支援 生活 介護Ⅰ	生活 介護 Ⅱ	短期 入所	入浴 ｻｰﾋﾞｽ	日中 一時 支援		
利用者定員	20名	20名	2名	5名	10名	ｻｰﾋﾞｽ利用	―
利用者延数	7,221名	5,551名	1,075名	―	―	169件/年	―
一日平均利用者数	19.8名	22.3名	3.0名	―	―	継続ｻｰﾋﾞｽ	―
稼動率	98.9%	113.8%	147.3%	―	―	484件/年	―
稼動延日数	365日	244日	365日	365日	365日	障害児	―
平均区分	5.77	4.89	4.39	―	―	ｻｰﾋﾞｽ44件/年	―
単価（一人一日）	17,841円	13,795円	8,680円	―	―	継続101件/年	―
サービス活動収益	128,828 千円	76,576 千円	9,331 千円	544 千円	2,648 千円	20,758 千円	1,013,824 千円
正職常勤換算数	14.0名	5.5名	－	－	－	1.8名	98.9名
パート常勤換算数	3.1名	8.4名	－	－	－	1.3名	47.7名

就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷厚生園チャレンジ工房				聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	合計	学校日	休校日
利用定員	15名	15名	ー名	30名	10名	
利用者述べ人数	2,696名	4,582名	－	7,278名	1,872名	
一日平均利用者数	8.87名	15.1名	－	－	7.5名	
稼働率	59.1%	100.5%	－	－	76.7%	
稼働日数（延べ）	304日	304日	－	－	244日	
単価（一人一日当り）	15,782円	12,205円	－	－	11,388円	
サービス活動収益	42,549 千円	55,922 千円	－	98,471 千円	21,319 千円	
正職常勤換算数				5.2名	2.0名	
パート常勤換算数				6.9名	2.1名	

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

<table>
<tr><td rowspan="2">訪問看護ステーション住吉</td><td>平均利用者数</td><td>月訪問件数</td><td>年訪問件数</td><td colspan="2">単価</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td>174.5名</td><td>906.8件</td><td>10,881件</td><td colspan="2">9,787円</td><td>106,499千円</td><td>15.1名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">聖隷ヘルパーセンター</td><td colspan="2">介護給付</td><td colspan="2">予防給付</td><td colspan="2">単価</td><td rowspan="2">ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td rowspan="2">常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">平均利用者数</td><td>訪問件数</td><td colspan="2">利用者</td><td>介護（回）</td><td>予防（月）</td></tr>
<tr><td>月間</td><td>年間</td><td>月間</td><td>年間</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>76.0名</td><td>745件</td><td>9,163件</td><td>49.0名</td><td>606名</td><td>3,790円</td><td>21,049円</td><td>62,584千円</td><td>8.5名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">聖隷巡回ヘルパーぐるり和合</td><td colspan="3">介護給付</td><td colspan="2">単価</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">月間利用者数</td><td colspan="2">年間利用者数</td><td colspan="2">介護　（月）</td><td rowspan="2">24,335千円</td><td rowspan="2">5.0名</td></tr>
<tr><td colspan="2">12.0名</td><td colspan="2">143名</td><td colspan="2">153,458円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ケアプランセンター</td><td colspan="2">年間請求件数</td><td colspan="2">平均単価</td><td colspan="2">訪問調査</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td>介護</td><td>予防</td><td>介護</td><td>予防</td><td>年間件数</td><td>単価</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>浜松</td><td>2,821件</td><td>443件</td><td>15,419円</td><td>3,951円</td><td>－</td><td>－</td><td>47,527千円</td><td>8.0名</td></tr>
<tr><td>和</td><td>2,295件</td><td>260件</td><td>17,687円</td><td>4,310円</td><td>11件</td><td>4320円</td><td>43,405千円</td><td>7.7名</td></tr>
<tr><td rowspan="6">地域包括支援センター和合</td><td colspan="2">浜松市受託収入</td><td>予防プラン請求件数</td><td>うち再委託件数</td><td colspan="2">予防ﾌﾟﾗﾝ単価</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">28,413千円</td><td>2,542件</td><td>1,670件</td><td colspan="2">4,390円</td><td rowspan="4">47,235千円</td><td rowspan="4">7.2名</td></tr>
<tr><td colspan="6">日常生活支援総合事業の予防プラン</td></tr>
<tr><td colspan="2">種別</td><td>予防ﾌﾟﾗﾝ請求件数</td><td>うち再委託件数</td><td colspan="2">予防ﾌﾟﾗﾝ単価</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA</td><td>1,360件</td><td>895件</td><td colspan="2">4,390円</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB</td><td>332件</td><td>3件</td><td colspan="2">2,195円</td></tr>
</table>

聖隷めぐみ保育園

和合せいれいの里及び浜松市リハビリテーション病院で働く職員の子どもを受け入れる従業員枠 23 名、地域で生活する子どもを受け入れる地域枠 7 名、計 30 名を定員として地域型保育事業所を運営し 3 年が経過した。ニーズに伴い職員がいつでも復帰ができるよう園の職員体制を整え、定員の弾力化運営を行うことで、3 月末までに 32 名が入所となった。また、保育室の整備を実施し、日々の保育はもちろん、長期休みの学童保育の充実も図った。

2017 年度は、聖隷こども園めぐみが和合せいれいの里敷地内に開設したことで保育を共に考え、行事等も合同で実践してきた。土曜日の共同保育においても、連携を強化することで受け入れの体制が整った。今後も、3 歳児以降の受け入れ先として、連携を密に取り保育を行っていくと共に、よりスムーズな転園が可能となるよう、入園時から保護者の意向を聞き対応していく。

和合せいれいの里では、高齢者、障がい児者も共に生活しており、ノーマライゼーション社会を身近に体感できる。施設内に新たに遊具を設置したことで交流の機会も増え、子どもの成長にとってより良い環境となった。

【入所状況】

4 月に 20 名でスタートし、3 月末には 32 名の入所となった。年間入所率は 89.1%である。年度の早い時期に途中入所があり、兄弟関係の育休明け入所（0 歳児）も決まっており、安定した入所であった。地域枠は 7 名と少ないため、募集すればすぐに埋まる状況である。

2 歳児は、3 歳以降は連携園（浜松市の聖隷のこども園）があるが、市へ入園の再申請をする必要がある。2017 年度は兄弟揃って転園を希望する家庭が多かったが、下の子はめぐみ保育園に残ることとなった。兄弟での転園、育児休暇中は申請ができない等、課題も見えてきた。

【事業報告】

1．利用者に質の高い保育・保護者支援を行う

（ア）保育室の拡張整備に伴い、個々の発達に応じた保育の充実を図るため、絵本、玩具等の保育教材の見直し、生活導線の確保、環境の与える効果等、環境についての研究を深めた。また、研究を保育学会につなげると共に、保護者にも行事を通して伝えた。

（イ）敷地内に新たに園庭を整備し、戸外活動の充実、施設間の交流を図った。

2．地域における公益的な取組

（ア）和合せいれいの里内での利用者（ディサービス利用者含む）との交流を行った。

①園行事（花の日・収穫感謝祭等）の際に、持ち寄った花や野菜、果物を贈呈した。

②日々の活動の中で、互いに訪問や見学等を行い交流した。

（ドックセラピー、散歩、バザー等）

③親子の関わりを深めるため、週末に家庭への絵本の貸し出しを開始した。

（１）歳児別入所保育児童数　　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	4	4	4	4	5	6	7	7	9	10	10	72	6
1歳児	11	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	151	12.58
2歳児	7	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	98	8.16
計	20	24	24	24	25	26	27	28	28	31	32	32	321	26.75
												入所率		89.1%

（２）保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	326	365	428	335	401	440	485	457	458	479	486	478	5138	428.1
保育日数(日)	26	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	295	24.5
一日平均(名)	12.5	15.2	16.4	13.4	15.4	18.3	19.4	19.0	19.9	20.8	21.1	18.3	209.7	17.4
延長保育(名)	17	27	28	55	39	26	50	68	64	55	36	37	502	41.8

（３）職員の状況　　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	6	6	6	6	6	6	5	5	5	6	6	6
保育士(パ)	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生
聖隷ヘルパーセンター初生

2017 年度は介護予防・日常生活支援総合事業に合わせた事業展開を重点に計画した。通所介護では短時間単位を始める予定であったが予想外の人手不足が生じ事業の運営を安定させることが優先となってしまったため実行できなかった。しかし現行のサービスを前面にアピールすることで集客できたことは収穫である。訪問介護では基準緩和型のサービス提供への準備を粛々と進めることができ 2018 年度より実稼働が可能となった。特別養護老人ホームにおいては入所の待機者が激減している昨今、退去や長期入院者は少なく、稼働を落とすことなく過ごせた一年であった。また、地域のニーズに応えるサービスとは何か、個々の事業だけでなく「聖隷ケアセンター初生」としての在り方を考えていくという事をあらためて共有することができた。

【事業・運営実績】

１．各事業が地域のニーズに合わせて『求められ続ける』サービスを提供する

（ア） 通所介護はスタートが出遅れたが営業活動により稼働は右肩上がりに伸びてきた。欠員により個別機能訓練が思うように提供できないもどかしさがあったが、趣味活動や入浴を含め、利用希望が絶えなかった。しかし、インフルエンザの流行により稼働が落ちたため、平均稼働率 80%は叶わず、76%となった。

（イ） 特別養護老人ホームは前半、職員の病欠が続いてしまいなかなか補充できなかったため余暇活動など計画はあったがスムーズに実施することが出来なかった。しかし週に一度、移動スーパー「とくし丸」が施設に立ち寄るようになり、施設生活の中にいながら定期的に外とのつながりを実感できる仕組みができた。

（ウ） 訪問介護は計画通り障害者ニーズの増加に誠実に対応し訪問割合を全体の 52%とした。

① 同行援護従事者研修は募集人員が少なく受けることが出来なかった。喀痰吸引研修も定期巡回終了したため今後再検討していく。

② 外部講師を招き訪問看護と合同での精神、知的障害に関する研修を実施できた。

（エ） 各事業所において関係機関からの問い合わせに対し対応していく事ができた。

① 広報誌は年 4 回発行できたが、地域への広報ができなかった。パンフレット等の利用が施設利用につながっていることが実感できなかったため、2018 年度は積極的に広報誌やパンフレットを活用していく。

② 入所施設の空床について通所介護、訪問介護の相談員へ情報を伝えそれぞれの利用者で必要としている方へのアプローチができた。

２．介護予防・日常生活支援総合事業に合わせ、新たなサービスの提供、職員の確保の仕組みを実施する

（ア） 通所介護では職員の欠員が補充できず短時間のデイサービスを新たに提供する事が出来なかった。

（イ） 訪問介護では基準緩和で働ける方を募集するため、新聞広告を利用して数名を雇うことができ、研修を行い実稼働への準備ができた。しかしターゲットである子育て世代、学生からの反応がなかったため、2018 年度も継続したい。

3．職員一人ひとりがやりがいと達成感を感じることができる支援体制を構築する

（ア） 地域とのつながりでは、初生まつりを企画し実行できたが、地域への広報が不十分であったため、地域の方に来ていただくことができず残念であった。また、毎週木曜日に朝の 5 分間、施設周辺の清掃活動をしており、地域の方から声をかけていただくこともあるので、2018 年度も継続していきたい。

（イ） ユニットケアでは新人職員にプリセプターをつけ、ユニット全体で育てていくという取り組みができた。

（ウ） ワイズマンからウインケアへの介護支援システム移行による記録等の業務効率化、並びにカーテンの洗濯をチャレンジ工房に業務委託することにより清掃業務の一部効率化を図ることができた。

4．地域における公益的な取り組み

（ア）聖隷クリストファー大学「老年看護学実習」8 名

（イ）聖隷クリストファー大学「臨床理学療法実習」2 名

（ウ）聖隷クリストファー大学　社会福祉学部「インターシップ入門」2 名

（エ）浜松市ささえあいポイント高齢ボランティア事業　延べ 108 名受け入れ

【数値指標】

	和合愛光園 初生サテライト	聖隷デイサービスセンター 初生		聖隷ヘルパーセンター初生			
		介護給付	総合事業	介護給付	総合事業	総合支援	有償等
利用者定員	29 名	50 名	(50 名)	―	―	―	―
利用延数（時間）	10,371	9,727	1,938	4,551	1,132	6,329	82.5
一日平均利用者数	28.4 名	31.5 名	6.3 名	―	―	―	―
稼動率（％）	97.9	75.6		―		―	―
稼動延日数（日）	365	309		365	365	365	365
平均介護度	4.02	1.82	―	2.17	―	―	―
単価（一人一日）	14,162 円	9,669 円	35,296 円/月	4,126 円/時間	16,383 円/月	4,009 円/時間	2,999 円/時間
サービス活動収益	146,87 千円	105,900 千円		23,270 千円		26,330 千円	
職員数（正・ゾ）	14.4 名	5.3 名		5.0 名			
職員数（パ・ア）	4.0 名	14.0 名		3.2 名			

いなさ愛光園

いなさ愛光園は 1997 年 4 月に開設して、21 年が経過した。各サービスの稼働率が順調であったことで施設運営は全般的に安定して推移することができた。11 月に介護保険記録ソフトが更新されたことで導入前後は混乱したが現在は落ち着いている。

開設以来、高齢者福祉及び介護保険のサービスを実施してきたが、11 月から障害者総合支援法による居宅介護(ホームヘルプ)を開設した。想定した実績には到らなかったが地域に浸透するよう活動を続けていく。特別養護老人ホーム、短期入所は前年度から「働きやすい勤務」をテーマに検討をしてきたが 6 月より新たな勤務体制としてスタートをした。特別養護老人ホームは空床期間の短縮や入院者数が減少したことで安定した稼働で推移した。短期入所においては特例入所を活用したことで稼働率を確保した。通所介護は 4 月にノロウイルスが拡大したことで年間を通じて感染症対策に努めた。認知症対応型通所介護は認知症状や本人の好みなどに応じて対応し、利用者の意欲を効果的に導き出すことができた。グループホームは週 2 日の食事作りが定着化し、柏餅作りやケーキ作りなどのおやつ作りや四季折々での外出活動を実施した。居宅介護支援事業所は北区内の事業所の閉鎖や総合事業が始まるなどの対応に追われた 1 年であった。配食サービスは年間約 1,925 食を提供した。全額自費での利用者は昨年より増加して年間約 400 食となった。在宅介護支援センターは浜松市の受託事業が 2016 年度末で廃止されたが地域の要請に応じて高齢者サロン活動等の支援や中山間地域介護予防支援活動を開催した。

１． 日々の OJT を推進し、多様な人材が働きやすい環境をつくる

(ア)目標参画システムと OJT を効果的に運用しながら、介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、福祉施設看護ラダーと合わせ自己研鑽に努めた。

(イ)ユニットリーダー研修修了者を中心に、24 時間シートの活用が始まった

(ウ)認知症介護実践研修修了者　4 名、認知症介護実践リーダー研修修了者　1 名
ユニットリーダー研修修了者　1 名、介護支援専門員実務研修受講試験合格　2 名

２． 安心、安全、快適な生活を支援する

(ア)病院受診を伴う介護事故は 9 件、そのうち骨折を伴う事故は 7 件あった

(イ)特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所のご家族を対象に満足度調査を実施した

(ウ)特別養護老人ホームの退去者 21 名で、14 名が施設での看取り介護をさせていただいた

(エ)デイサービスの床張替え工事が終了し、既存棟の床張替え工事計画がほぼ終了した

３． 安定した施設運営をする

(ア) 特別養護老人ホームの入所待機者は減少しているが、従来型とユニット型があるメリットを活用した営業をし、短期入所は新城市だけでなく、東栄町・佐久間町まで広がった

(イ)訪問介護・居宅介護(ホームヘルプ)は次年度からサービス提供エリアを神宮寺町・細江町まで広げる準備をした

(ウ)車両更新、建物修繕及び設備更新のための 5 か年計画を作成した

４．　地域における公益的な取組

（ア）中山間地域介護予防支援活動　（延べ回数 10 回、延べ人数　215 人）
（イ）幼稚園児、小学生等の世代間交流　（延べ回数　5 回、延べ人数　65 人）
（ウ）中学校生、高等学校生の福祉介護体験等　（実人数　12 人、延べ人数　12 人）
（エ）高齢者サロン活動（伊平）の支援　（延べ回数　8 回、延べ人数 198 人）
（オ）サロン型ロコモーショントレーニング事業　（延べ回数 12 回、延べ人数　42 名）
（カ）社会福祉法人利用者負担軽減事業　（全事業対象者総数　8 名）
（キ）介護福祉士実習受入れ　（実人員　3 人、延べ日数　69 人）
（ク）社会福祉士実習受入れ　（実人員　1 人、延べ日数　23 人）

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特別養護老人ホームいなさ愛光園			いなさ愛光園デイサービスセンター	
	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症対応型
利用者定員（名）	30 名	40 名	20 名	35 名	10 名
利用者延べ人数(名)	10,731 名	15,121 名	5,775 名	8,553 名	2,529 名
一日平均利用者数（名）	29.4 名	41.4 名	15.8 名	27.6 名	8.2 名
稼　動　率(%)	98.0%	103.6%	79.1%	78.8%	81.6%
稼動日数（延べ日）	365 日	365 日	365 日	310 日	310 日
単価(一人一日当り)	13,136 円	13,973 円	13,316 円	9,141 円	12,307 円
サービス活動収益	141,433 千円	211,714 千円	77,599 千円	78,271 千円	31,214 千円
職員数（常勤換算）		47.8 名	13.9 名	14.1 名	5.7 名
	ほのぼのケアガーデン	いなさ愛光園ヘルパーステーション（訪問介護）	いなさ愛光園ヘルパーステーション（居宅介護）	聖隷ケアプランセンターいなさ	いなさ愛光園在宅介護支援センター
利用者定員	9 名	－	－	－	－
利用者延べ人数	3,276 名	3,668 名	0 名	2,131 名	－
一日平均利用者数	9.0 名	10.2 名	0 名	－	－
稼　動　率	99.7%	－	－	－	－
稼動日数（延べ）	365 日	361 日	147 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	13,662 円	4,681 円	0 円	13,264 円	－
サービス活動収益	45,273 千円	17,379 千円	0 千円	30,535 千円	86 千円
職員数（常勤換算）	9.0 名		4.9 名		4.0 名
	配食サービス				
利用者定員	－				
利用者延べ人数	1,925 名				
一日平均利用者数	6.6 名				
稼　動　率	－				
稼動日数（延べ）	293 日				
単価(一人一日当り)	701 円				
サービス活動収益	千円				
職員数（常勤換算）	－				

聖隷厚生園讃栄

讃栄寮 救護施設（生活保護法）　讃栄寮短期入所　生活訓練事業所ナルド
障害者相談支援事業所ナルド　地域活動支援センターナルド（障害者総合支援法）

2017 年度は聖隷厚生園讃栄の各事業の連携に努めた 1 年となった。また、他の事業所との連携についても職員が定期的に訪問して事業の紹介を行うなどして関係性を深めることができた。

また、生活保護法と障害者総合支援法の改正に対応するため情報を集めたり、新規サービスについて検討を行った。

実績では保護施設通所事業や短期入所、下半期の生活訓練および生活介護の稼働率が向上したが、入居者の入院数については 2016 年とほぼ横ばいの結果となった。

聖隷厚生園讃栄寮では予算と前年比とも 2017 年度実績が上回ることができた。

【事業・運営計画】

１．利用者にとって最適なサービスの提供

（ア）　讃栄寮入居者が地域移行のステップとして、借上げたアパートで試し住まいをする救護施設居宅生活訓練事業の期間を半年に短縮し、訓練開始時から障害者相談支援事業所が地域移行支援として協働で支援を行うための役割分担表を作成した。2017 年度は障害者手帳を所持しない入居者が訓練を開始するケースが多かったため予算未達となったが年度終盤で対象者に協働での支援を行うことができた。（讃栄寮・相談支援ナルド）

（イ）　下半期から生活訓練事業所ナルドのプログラムをグループに分けて実施することによって、より利用者のニーズに添った支援を提供できるようになった。
就労支援事業所との協働については、利用者や行政へ就労支援から生活訓練への移行の必要性を説明し理解を得ることはできたが、実際の利用までには繋がらなかった。（生活訓練ナルド）

（ウ）　3 階フロアで行っている入居者自治会を、2 階フロアでも実施することができ、入居者同士が意見交換を行い、お互いの同意のもとでルールを決めることができた。（讃栄寮）

２．健全かつ安定的な施設運営

（ア）　短期入所や生活訓練の紹介を聖隷以外の相談支援事業所に定期的に行った。また新たに送迎に取り組み、利用しやすくしたことなどで、2017 年度当初に比べて稼働率が向上した。また、生活訓練の定員 4 名を生活介護に移行して利用者ニーズに対応した。（讃栄寮・生活訓練ナルド）

（イ）　迷惑行動を繰り返す利用者に対して指導的支援だけでなく、なぜそのような行動をするのか内面的な原因を推察し、寄り添う支援ができるよう資料を集めたり研修に参加した。

（ウ）　共生型サービス、自立生活援助などの新たなサービスの可能性を見出すことはできたが、ニーズの把握や体制整備までには至らなかった。（生活訓練ナルド）

３．次世代の人材育成と確保、質の向上

（ア） 次世代リーダー候補者育成のための仕組みを作成したが、実施を徹底することはできなかった。（讃栄寮）

（イ） 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の実習受入担当者を複数配置できるよう講習を受講した。実習生は断ることなく受入れることができたが、受入マニュアルの作成はできなかった。（共通）

（ウ） 讃栄寮のカーテンや食器を新調したり、網戸を修理するなどしてアメニティの向上に取り組んだ。また接遇面では職員の相互チェックを実施して意識向上に取り組んだ。（讃栄寮・生活訓練ナルド）

（エ） 不審者侵入時に対応する防犯対策マニュアルの作成および訓練を実施した。（共通）

４．地域における公益的な取組

地域の民生児童委員や保護司の会合に参加して、障害特性の理解向上に努めた。（共通）

【数値指標】

	讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	24,062名	3,497名	907名
一日平均利用者数	65.9名	9.6名	2.5名
稼働率	109.8%	95.8%	62.1%
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日
単価（一人一日当り）	9,407円		5,346円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	259,270千円		4,849千円
職員数（常勤換算）	27.3名		

	生活訓練ナルド		相談支援事業ナルド	
	生活訓練	生活介護	浜松市 相談支援	指定 相談支援
利用者定員	10名	10名	-名	-名
利用者延べ人数	2,048名	1,988名	-名	-名
一日平均利用者数	7.6名	8.2名	-名	-名
稼働率	71.9%	92.4%	-%	-%
稼働日数（延べ）	268日	245日	-日	-日
単価(一人一日当り)	7,559円		-円	-円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	30,511千円		9,069千円	15,933千円
職員数（常勤換算）	4.7名		4.8名	

聖隷厚生園　信生

障害者支援施設　聖隷厚生園信生寮
まじわりの家
障害者相談支援事業所　信生

2017 年聖隷厚生園信生は、施設開設から 40 年が経過し施設入所の長期化・高齢化・障害種別多様化の中、「安心と安全な場」のみを求めるのではなく、「悔いのない人生を歩んでいただくために」を目標に取り組んだ。経営的には安定した運営ができ、各事業においては、施設入所支援、短期入所、まじわりの家生活介護の稼働率についても予算を上回ることができた。しかし、浜松市内で唯一の事業である自立訓練（機能訓練）においては、想定の稼動に届かず、2018 年度は地域ニーズに応えるサービスのあり方を検討する必要がある。また、年度末に障害者自立支援ソフトを新システムに移行したが、概ねスムースな導入ができた。

介護人材確保については、2016 年度に引き続き EPA フィリピン介護福祉士候補生 2 名の受入れを行った。また、地域住民向けの「介護体験講座」を開催し、介護人材の発掘に努めたが雇用につながらなかったため、2018 年度は開催時期や内容に工夫が求められている。

最後に、虐待防止について、虐待防止セルフチェックを年 2 回実施し、利用者の尊厳を守るという職員個々の意識を高めることができた。

１．利用者の尊厳を守り、「できること」に着目した支援の提供

（ア）利用者の主体性を尊重した質の高い個別支援計画の作成を行い、利用者の「できること」に着目した支援を実行した

（イ）行事の計画段階や食事の献立作成等に 6 名の利用者が参画できた

（ウ）排便コントロール、経口移行支援を多職種協働で実施し、目標を達成できた

（エ）看護師による指導体制を継続し、介護職員による喀痰吸引・経管栄養の安全性を高めることができた

（オ）虐待防止セルフチェックを年 2 回実施し、利用者の尊厳を守る言動ができる職場環境作りを行った

２．地域共生社会の実現に向けた連携体制の構築

（ア）行政、障害者相談支援事業所、高齢者相談センター等と連携し、勉強会および勉強会講師・意見交換会・事例検討会等を行い、相談員スキルの向上を図り「制度のすきま」が狭くなることを目指す取り組みを行った

（イ）障害者相談支援連絡会を通じて、浜松市リハビリテーション病院との連携を強化したが、自立訓練（機能訓練）の稼働に大きな影響を及ぼすには至らなかった

（ウ）１F ピロティ部分の活用については、地域ニーズを分析し、2018 年度中に具体的な取り組みを検討することになった

（エ）10 月に聖隷厚生園ナルド工房就労継続支援事業 A 型が開始され、聖隷厚生園信生として協力体制が構築できた

３．人材育成・人材確保の推進

（ア）「教育担当者会議」において、新人職員・プリセプターの教育体制を継続させた

（イ）各専門職ラダーを活用し、目標参画システムと連動させた

（ウ）EPA 介護福祉士候補生を新たに 2 名受け入れた

（エ）介護人材確保はほぼ順調であったが、通所系サービスの運転手採用ができなかった

（オ）特別支援学校との連携を強化し、実習・見学を積極的に受け入れた

４．円滑な施設会計の推進と衛生管理体制の向上

（ア）運営管理部門の業務の安定化を図るとともに、複数の請求担当者の育成を行った

（イ）保守点検及び修繕の計画化・効率化・コスト削減のため在宅・福祉サービス事業部と連携し取り組んだ

（ウ）職員の業務手順、労働環境管理を見直し、超過勤務削減、腰痛予防対策に取り組んだ

（エ）集団感染を発生させることなく 1 年が経過できた

５．環境保護と地域における公益的な取り組み

（ア）水光熱の使用量について、目標値達成に取り組んだが、使用量の視覚化は未実施となった

（イ）特別支援学校および小学校から大学までの実習・福祉体験・見学の受入れを行った

（ウ）地域住民向けの「介護体験講座」の開催ができたが、就職には至らなかった

【数値指標】

	信生寮			まじわりの家		信生	
	入所	短期	日中 一時	生活 介護	機能 訓練	浜松市 相談支援	指定 相談支援
利用者定員	60 名	10 名	－	14 名	6 名	－	－
利用者延べ人数	21,894 名	4,080 名	3,298 時間	4,144 名	1,413 名	－	－
一日平均利用者数	60.0 名	11.2 名	－	16.2 名	5.6 名	－	－
稼働率	100.0%	111.8%	－	115.2%	92.0%	－	－
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	257 日	257 日	－	－
単価(一人一日当り)	16,744 円	9,369 円	－	14,365 円		－	－
ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	366,610 千円	38,225 千円	3,303 千円	79,831 千円		9,069 千円	12,703 千円
職員数（常勤換算）	58.5 名			15.2 名		3.2 名	

聖隷厚生園ナルド工房

2017 年度は、利用者が「長く働き続けること、安定した収入を得られること」いうニーズに対応すべく「支援付き雇用」の形として 9 月に就労継続支援Ａ型事業所の開設をした。障害のある方の安定した雇用と経済的自立の場を作り出していく上で、法人内の事業所と連携を図り、障害者雇用の促進を図ることができた。また就労定着支援として事業所と支援員が顔の見える関係を作り、職場訪問支援を強化し支援体制を構築した。同時に既存施設のさらなる安定的な運営と事業拡大に向けた人材育成、人材確保を同時に取り組み、利用者、関係機関の要請に応えた事業が展開できた。

１．利用者が仕事にやりがいを感じられる新たな就労モデルの創出と実行

（ア） 新規作業の導入、新商品の開発、既存作業の活性化を図ることができた。

（イ） 高水準の就職実績と工賃実績が両立する就労支援施設として機能させた。

（ウ） 就労継続支援Ａ型事業を新たに創設し、法人内施設のリネン、介護補助、厨房系、その他の就職ルートを確立した。

（エ） 工賃額向上に向けて、作業種目ごとに、利用者と一緒に考え、計画や実行を側面から支える支援を実行した。

２．「就職 3 年定着」を意識した就労支援の実践

（ア） 11 名の就職者を輩出することができた。

（イ） 就職 3 年以上のご利用者の動向を確認し、就職期間が長期となった利用者へ支援を強化した。また、ステップアップ就職や再訓練の検討を行った。

３．新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築

（ア） 病院や相談事業所、施設へ事業内容や方針の案内を行い、情報収集と対象者を獲得した。

（イ） 特別支援学校の教員や保護者、相談支援専門員向けの工房作業体験会を実施した。

（ウ） 離職者の再チャレンジの受け入れを積極的に行い新規利用者として獲得できた。

４．利用者理解を深める人材育成と業務改善

（ア） 全職員、年 1 回以上の外部研修に参加できた。

（イ） 効果的、効率的に業務を遂行できるようムリ・ムラ・ムダをチェックする体制整備を実施した。

（ウ） 支援方法の事例検討会と虐待防止のセルフチェックを各施設で年 2 回以上実施した。

（エ） サービス管理責任者、相談支援専門員などの有資格者の確保と育成を実践した。

（オ） ボランティアや学生の体験実習を積極的に受け入れるとともに経験者の雇用を推進した。

５．地域における公益的取組

（ア）喫茶スペースを開放して、地域住民のイベントや講座を開催し、障害者就労事業所への理解を深め、交流を実施することができた。

（イ）地域企業と共同で「直虎クッキー」を菓子商品として地場産業の活動に参加し地域交流を実践した。

【数値実績】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行	就労継続Ｂ型	就労継続Ａ型
利用者定員	20 名⇒15 名 (9/1～定員変更)	15 名	10 名 (9/1 事業開始)
利用者延べ人数	4,755 名	4,976 名	718 名
一日平均利用者数	14.9 名	16.0 名	4.2 名
稼働率	79.8%	106.7%	28.8%
稼働日数（延べ）	318 日	311 日	167 日
単価 （一人一日当り）	12,690 円	8,824 円	14,774 円
サービス活動収益	60,343 千円	43,911 千円	10,608 千円
職員数（常勤換算）	17.3 名		

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業報告】

1．生活圏ネットワークモデルの強化・充実

（ア）相談者の発掘のため、西区圏域会議や地区民協において事例報告を実施し、2016 年度より約 3 倍の紹介を受け、支援開始することができた。

（イ）浜松市内の実践報告会・研修会等で事業実績や生活困窮事例を紹介した。

2．個別支援関係のさらなる重視

（ア）長期間無職者や働いた経験のない方に対し、ステップアップ就労を実施した。

（イ）法人内外の事業所の協力を得て「中間的就労」の場を開拓し、30 社の協力を得た。

（ウ）自立相談支援員のスキルアップのため、生活困窮者自立支援制度人材養成研修や地域包括ケアシステムに関する研修等全国レベルの研修に参加した。

3．負の世代間連鎖の解明と阻止

（ア）子どもの生活技能を高めるため、各教室において挨拶・掃除・片づけする習慣作りをした。

（イ）学習教室に通う子どもを対象に、キャリア教育を行った。商工会議所や企業の協力を得て、延べ 4 回の職業体験を行うことができた。

4．学習サポート事業の拡大

（ア）西区民生委員会長・主任児童委員・行政・地元不動産の協力を得て、西区教室を開設した。

（イ）学習支援卒業生を対象に「つながり同窓会」を企画し、高校定着・退学防止支援を行った。

5．就労支援

（ア）就労支援対象者のうち、100 名を就職につなげ、就職率 78.7％を達成した。

（イ）高年齢の困窮者増と企業側の高年齢の求人ニーズに対し、一般企業・ハローワークと協力して『65 歳からのハローワーク』を開催した。

6．実践の言語化

（ア）国が行う生活困窮者自立支援制度人材養成研修、静岡県が行う伝達研修、県外の自立相談支援機関等が開催する研修における講師、その他民生委員研修等において講師を務めた。

（イ）国が行う生活困窮者自立支援制度人材養成研修、福祉村サミットにおいて、浜松市の生活困窮者支援や学習サポート事業（公益的活動）について報告した。

【数値指標】

	つながり	
	浜松市生活困窮者自立支援事業	学習サポート事業
利用者定員	- 名	- 名
利用者延べ人数	618 世帯	1,361 名
一日平均利用者数	2.5 名	5.6 名
稼働率	- %	- %
稼働日数（延べ）	- 日	- 日
単価(一人一日当り)	- 円	- 円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	49,056 千円	－千円
職員数（常勤換算）	9.9 名	2.3 名

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ
聖隷放課後クラブはなえみ磐田
相談支援事業所磐田みなみ
聖隷チャレンジ工房磐田

2017 年 4 月に「聖隷ぴゅあセンター磐田」を開設して 1 年間、大きな事故なく運営することができ、関係する方々に感謝の気持ちでいっぱいの年であった。地域の方・民生児童委員・家族会・関係機関の方、500 名を超える方が施設を見学され、「乳幼児期から途切れることなく一貫して総合的な支援を提供することで、地域の一員となる力を育てたい」という施設目標への理解と関心をいただいた。また、パン工房 CHOUCHOU には、連日多くの方が買い物に来られ、地域の方にとって親しみやすい空間となる第一歩を踏み出すことが出来た。引き続き、地域とのかかわりを積極的に持ち、地域から愛される施設づくりに取り組んでいきたい。運営面では、施設のハード面を活かした支援を提供することが出来、利用希望者が絶えない一年となった。ハード面の効果的な利用はもちろんのこと、職員が成長を実感できる体制を確立し支援の質を向上していきたいと考える。一方で、就労棟・児童棟ともに意識をして運営する姿勢は整ったものの、支援をつなぐ仕組みの具現化は課題として残った。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します。

【経営方針】

１．子どもの“できた”“やってみたい”の気持ちを育てる支援の実現
２．家族支援の充実
３．地域からの要請に応じたサービス展開
４．利用者が働く喜びとやりがいを体現し、やる気を高める就労モデルの実行
５．利用者が日常活動の中で訓練成果を実感（スモールステップ）できる支援の提供
６．多機能事業所の訓練スキーム確立による新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築
７．職員が成長できる体制の確立と安定した人材確保に取り組む

【事業報告】

≪児童発達支援事業≫≪放課後等デイサービス事業≫

１．子どもの“できた”“やってみたい”の気持ちを育てる支援の実現
（ア）アセスメントシートを改定し、子どもの発達段階を見える化した。
（イ）園庭・ボルタリング・スヌーズレンなどハード面を活かした療育活動を設定できた。
（ウ）支援計画を通して、就園の開始時期頻度を検討することができた保護者が増加した。

２．家族支援の充実

（ア）保護者向けの療育体験会を実施し、子どもの発達について共有し、考える機会を作った。

（イ）アンケートから保護者の想いを汲み取り、年間行事を組み立て、高い評価を得た。

３．地域からの要請に応じたサービスの展開

（ア）待機児童対策として、児童発達支援事業の定員を 20 名から 30 名に増加した。

（イ）日中一時支援事業の時間の延長し、働く家庭への支援を強化した。

≪就労支援・生活訓練事業≫

１．利用者が働く喜びとやりがいを体現し、やる気を高める就労モデルの実行

（ア）初年度から 2 名の就職者を送り出し、月額平均工賃は 30,000 円を超えた。

（イ）グループワークなどで利用者と共に考える時間も持ち、作業スキームを確立した。

２．利用者が日常活動の中で訓練成果を実感（スモールステップ）できる支援の提供

（ア）閉鎖的になり、通うことが難しかった利用者 3 名の利用に繋がった。

（イ）作業訓練のステップ、通うことの入り口としてのメニューを導入し始めた。

３．多機能事業所の訓練スキーム確立による新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築

（ア）特別支援学校の教員や保護者の工房作業体験会を実施した。

（イ）生活訓練⇒就労継続 B⇒就労移行のステップアップスキームの流れを作った。

（ウ）各関係機関から積極的に受入を行い、新規利用者が 25 名であった。

≪共通事項≫

１．職員が成長できる体制の確立と安定した人材確保に取り組む

（ア）オリエンテーション資料の改訂を行い、各事業の流れを整理した。

（イ）リーダー会議にて、ムリ・ムラ・ムダをチェックし、業務改善を行った。

２．地域における公益的な取組

（ア）研修講師 3 件、施設見学やボランティアは 500 名以上の受け入れを行った。

（イ）パン工房のパンつくり体験会・イベント出店を通して、障がいへの理解、啓発を行った。

【数値指標】

	かるみあ		磐田みなみ		はなえみ磐田	チャレンジ工房磐田		
	児童発達支援	保育所等訪問	相談（特定）	相談（児）	放課後等デイ	就労移行	就労継続	生活訓練
利用者定員	30 名	－	－	－	10 名	14 名	10 名	6 名
利用者延べ人数	7,524 名	601 名	－	－	2,704 名	2,262 名	1,213 名	72 名
一日平均利用者数	30.0 名	－	－	－	11.0 名	8.1 名	4.4 名	0.8 名
稼働率	99.9%	－	－	－	110.4%	57.5%	43.9%	12.4%
稼働日数（延べ）	251 日	242 日	－	－	245 日	281 日	276 日	97 日
単価(一人一日当り)	12,915 円	10,451 円	－	－	10,906 円	8,334 円	6,134 円	7,898 円
サービス活動収益	115,794 千円	6,281 千円	1,003 千円	4,564 千円	30,344 千円	34,674 千円	11,019 千円	589 千円
職員数（常勤換算）	18.1 名	1.1 名	1.1 名		6.1 名	4.6 名	2.8 名	1.2 名

磐田市発達支援センターはあと

１．発達支援事業

ペアレントプログラムの要素を取り入れた子育て支援広場の定員増加、グループ療育では「お話会」を開催しピアサポート機能を設けた。多問題家庭が多く家庭機能の強化と安定に努めた。

２．相談事業

（ア）多面的な評価・実行可能な支援方針を検討するためカンファレンスを定期的に実施した

（イ）新規相談枠の調整を行い、相談待機期間は１か月半以内となった

３．連携支援事業

（ア）医療機関からの問い合わせが増加した。磐田市からの要請にて９件緊急対応を行った

【数値指標】

	利用定員	利用者延人数	一日平均利用者数	延稼働日数	サービス活動収益（千円）	常勤換算職員数
はあと	－	－	－	－	28,250 千円	7.8 名

聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田

１．子どもの“できた”“やってみたい”の気持ちを育てる支援の実現

（ア）アセスメントシート、療育プログラム、支援計画の書式を改定した

（イ）支援計画を通して、通園の頻度を検討することができた保護者が半数近くとなった

２．家族支援の充実

（ア）就学に関する一般的な知識の付与とともに、先輩ママさんとの交流の機会を設け、保護者が疑問や不安を分かち合いながら就学先を意思決定できるよう支援した

（イ）全利用児に家庭訪問を実施し、育児方針や家庭環境などを踏まえた関わりの参考とした

３．地域からの要請に応じたサービスの展開

（ア）保育所等訪問支援事業を開設した。子どもと保護者が安心して通園生活を送れるよう、保護者の想いとともに療育的視点を園に伝えた。

４．外部研修に年１回各職員参加、施設内研修にて各職種の視点を共有した

【数値指標】

	利用定員	利用者延人数	一日平均利用者数	稼働率	延稼働日数	一人一日当り単価	サービス活動収益（千円）	常勤換算職員数
児童発達支援	10 名	2,548 名	10.3 名	102.7%	248 日	11,879 円	32,362 千円	6.4 名
保育所等訪問	－	455 名	－	－	245 日	10,373 円	4,720 千円	

浜北愛光園

特別養護老人ホーム　浜北愛光園
高薗デイサービスセンター
障害者相談支援事業所　浜松東
訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北
地域包括支援センター北浜
就労支援事業所　聖隷厚生園きらめき工房

2017 年度、浜北愛光園は地域ニーズに呼応する形で、障害者短期入所生活介護の受け入れの拡大、きらめき工房での生活介護事業の開始等、2016 年度以前から取り組んでいた障害者・児の事業拡大に努めた。併せて、高齢者のみならず地域で困窮する方を漏らさず救うために、地域包括支援センターを中心に各部門が開業医や関連機関との連携を強固にするかかわりを促進し、ワンストップサービスを意識した対応力の強化に努めた。その中で、静岡県若年性認知症居場所づくりモデル事業に取り組み、地域における新たな役割を獲得するに至った。

一方、人材の確保・育成においては、新たな記録システムを導入し、業務の効率化、省力化並びに情報の共有化を図るとともに、職員がやりがいを持って働き続けられるように施設内の支援体制を見直し、キャリアプランの多様化を図ることができるよう専門職ラダーの推進並びに積極的な資格取得を促した。雇用においては、専門職の雇用が困難な地域状況を鑑み、専門職でなくても多様な働き方ができる仕組みを構築するために、短時間求職者や元気な高齢者、障害者等が主体的に福祉・介護事業に参画できるように既存業務の見直しを図った。

2018 年度は、これらの取り組みを継続し、精度の高いものに進化させていくことを第一義と考える。また、在宅・福祉サービス事業部の組織再編の中、浜北愛光園は静岡第 3 エリアの拠点施設となるため、浜北愛光園のみの視野・視点に留まらず、広域的かつ多角的な視野・視点を職員が意識し、より多職種、多事業種が一体となり、地域ニーズを昇華していくための効果的な連携を図っていくことも課題と捉える。

【年度事業目標・年度事業計画】

1．利用者満足の向上

（ア）5 月に浜北区自立支援連絡会に地域包括支援センター北浜が参加を開始した。また、地元開業医の協力を得て、7 月にショートステイでの看取り介護を実施した。今後、ますます関連機関との連携を深め、実践事例を増加させていく必要がある。

（イ）相談員、施設看護師は専門職ラダーを継続運用した。介護職は、2017 年度に本格的な運用に着手し、ケアの質の向上に努めた。成果としての稼働率向上については今後の課題である。

（ウ）7 月にショートステイ利用者満足度調査を実施。結果を踏まえ、9 月にショートステイユニットを 3 号館に再編し、障害者の受け入れを視野に専用スペースを設置した。上半期は苦情 0 件であったが、下半期に接遇に関する苦情が 4 件発生した。随時、職場会議や

苦情解決委員会にて対策検討し、再発防止に努めた。

（エ）障害児の受け入れに向け、見学会、お試し会を計 2 回開催した。あわせて、外部機関向けに見学会やセミナーも計 2 回開催し、地域へのアピールを実施した。また、10 月にきらめき工房にて生活介護事業を開始し、障害者に向けた施設機能を拡大した。

２．職員満足の向上

（ア）研修計画を立案し、職員支援の見える化を図った。また、静岡県若年性認知症居場所づくりモデル事業では、利用者のサポート要員として若手職員を積極的に活用した。

（イ）ストレスチェックの受検率は 92.9%。11 月の事業計画会議にて、各職場の傾向を分析し、対策を協議した。

（ウ）10 月に富士通 WINCARE システムを導入した。業務改善、超過勤務削減等については効果測定を継続実施する。また、施設間の差異を是正するために、情報交換会議を定期開催し、2018 年度のシステム活用増進に向けての準備を図った。

（エ）資格取得支援については、対策講座を開講した結果、3 名合格。介護福祉士は 4 名合格した。

３．健全な経営の継承、向上

（ア）法令・規則に基づく適正経営と問題解決に努め、広報誌やホームページでの広報活動を実施した。また、障害福祉サービス実地指導（短期入所）では指摘事項はなかった。

（イ）地域ニーズに呼応する形で、きらめき工房にて生活介護事業を開始した。また、静岡県若年性認知症居場所づくりモデル事業も受託し、若年性認知症利用者が地域の中で働く機会（パンの販売、地域の「お助け隊」として依頼を受けて草刈りや掃除等を実施）を提供した。地域包括支援センターでは、地域の生活支援体制づくり協議体会議を 2 回開催し、地域ニーズの更なる掘り起こしを図った。

（ウ）4 月にきらめき工房にて園内清掃業務の委託を開始した。その後も、継続して洗車等の就労メニューを開発した。今後は、元気な高齢者等の具体的な雇用に向けた展開が必要である。

（エ）省エネ実績を分析し、課題を共有した。省エネに向けて取り組みを継続した。

４．地域における公益的な取組

（ア）静岡県 DCAT に参加し、移送器具の贈呈を受けた。地域への PR に活用していく。

（イ）高校の福祉科、専門学校等の介護実習、相談援助実習、看護実習、管理栄養士、喀痰吸引の実地研修の実習を受け入れた。また、高校生対象の親子見学会の開催や中学生の職場体験受け入れにより、多くの生徒・学生に福祉・介護・医療分野の魅力を発信した。

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				高薗デイサービス		障害者相談支援浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50	100	20	20	40		
利用延数	18,789	37,304	5,046	4,744	8,469	359	
一日平均利用者数	51.5	102.2	13.8	13.0	27.5	1.2	
稼動率（％）	103.0	102.2	69.1	65.0	71.7		
稼動延日数	365	365	365	365	308		
平均介護度	4.22	3.79	2.96	2.34	2.12		
単価（一人一日）	11,926	13,553	12,553	13,669	10,531		
サービス活動収益（千円）	224,095	505,616	63,343	64,848	92,972		16,082
職員数(常勤換算)	36.5	63.5	11.6	12.4	15.2		2.3

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
137	724	8,687	9,941	84,287	10.2

■居宅介護支援事業（ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
2,416	237	15,705	3,995	48	4,320	41,571	6.0

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
28,978	2,951	787	4,390	41,032	4.5

■きらめき工房

	定員	利用延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
就労移行	15	4,560	99.7	305	13,235	60,355	11.3
就労継続	15	4,506	98.5	305	10,097	45,501	
生活介護	10	384	32.0	120	8,093	3,108	

※2017 年 10 月～生活介護開始

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園在宅介護支援センター
聖隷放課後クラブはなえみ森町
聖隷相談支援事業所森町

2017 年度は、2018 年度の医療と介護のダブル報酬改定に備え、事業運営や経営体制を整える一年とした。介護保険事業では、24 時間の定型業務が効率的かつ確実に提供できる体制を整えることができ、中重度や認知症の要介護者に対して最期まで安心して生活できるサービスを提供した。今後は新しく導入した新記録システムを活用して、サービスの質を維持向上しながら効率的に支援できる体制を整えていきたい。通所介護や訪問介護では、多様なニーズに対応できるように利用者の状況に合わせた支援を提供できる体制を整え、それに応えることをした。

障害福祉事業では放課後等デイサービス、基準該当生活介護、相談支援事業の新規開設を実施した。行政担当者や地域住民等と森町愛光園が三位一体で進めることができ、無事サービスを軌道に乗せることができた。また障害児支援については、発達障害等の疑いがある未就学児の受け皿が少ないことを把握することができ、新たな地域課題の発見にもつながった。

2018 年度はこれらを踏まえて、事業に更なる磨きをかけ、森町に住む方々が生まれてから最期を迎えるその日まで安心して生活できる地域づくりに引き続き貢献したいと考えている。

【事業・運営計画】

１．中重度や認知症の要介護者が最期まで安心して生活できるサービスを提供する

（ア）24 時間の定型業務を入居者毎にチェック表にして、職員同士が連携して確実にサービス提供できる体制を整えることができた。

（イ）利用者情報を職員間で効率的に周知する仕組みとして新介護記録ソフトを導入した。

（ウ）誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアの実施を歯科衛生士と看護･介護職員が共同して徹底することができた。

（エ）認知症の入居者の事例研究を行い、職員全体でケアのあり方を振り返ることができた。

（オ）相談員を中心に新規入居者の募集案内を行いながら、地域ニーズの把握に努めた。

２．地域の関係機関との連携を意識した事業展開を目指す

（ア）通所介護では、自立支援、認知症ケア、中重度ケアのグループに分けて、それぞれの状況にマッチングしたサービスを提供することができた。

（イ）訪問介護では、障害者への訪問回数を 2016 年度比 2.6 倍に増加させることができた。

（ウ）居宅介護支援では、森町病院等と連携し、入院時から訪問してシームレスな利用につなげる取り組みが定着化した。
（エ）単身生活者世帯の生活を支援する横だし・上乗せサービスでは、訪問介護の保険外で行う有償サービスの訪問回数は 2016 年度比 2.7 倍と利用が増加した。

3．潜在的な地域ニーズに応える新規事業の開設をする
（ア） 天宮サテライトの多目的スペースを活用し、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）を新規開設し、年間稼働率 83.9%で多くの利用につながった。
（イ） 一宮の森町デイサービスセンターにて基準該当生活介護サービス（定員 5 名）を新規開設し、肢体不自由の方 3 名の定期利用につなげることができた。
（ウ） 森町初の計画相談支援、障害児相談支援事業所を開設した。40 ケースの利用契約につなげることができた。

4．利用者が安心して過ごせる環境を整える
（ア） 不審者対応の防犯マニュアルを整備した。また袋井警察署と合同で防犯訓練を実施した。
（イ） 地域住民と地元企業（豊田合成）と連携して、総合防災訓練を実施した。
（ウ） 衛生委員会を中心に腰痛予防のための介護リフト、スライディングボードの導入を積極的に推進した。
（エ） 天宮サテライトにて介護ロボット（見守りシステム）を導入し、効果と有用性について論文にまとめ、聖隷福祉学会にて発表した。

5．地域における公益的な取組
（ア） 森町病院、森町地域包括支援センター合同の認知症初期集中支援チームに森町愛光園の職員を派遣して、地域の認知症対策に貢献した。

6.その他
（ア） 各フロアのリーダーが主体的に職場目標を考え、実践、評価する機会を作り、実践の中でリーダーとしてのあり方を教育した。
（イ） 2 名の障害雇用者に対して、障害者就業・生活支援センターや障害者職業センターと連携して、ジョブコーチを導入し、仕事をしやすい環境を整える支援を行った。

【数値実績】

	特養		天宮ｻﾃﾗｲﾄ	短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名	
利用者延べ数	21,773 名	7,118 名	10,455 名	3,500 名	7,694 名	914 名
1 日平均利用者数	59.7 名	19.5 名	28.6 名	9.6 名	25.5 名	3.0 名
稼動率	99.4%	97.5%	98.8%	79.9%	67.9%	
稼動日数（延べ）	365 日		365 日	365 日	302 日	
単価（一人一日当り）	11,816 円	14,463 円	12,848 円	11,198 円	10,786 円	5,959 円
サービス活動収益(千円)	361,523 千円		134,964 千円	39,227 千円	88,433 千円	
職員数（常勤換算）	43.8 名	10.4 名	21.7 名	5.8 名	15.4 名	

	在宅介護支援ｾﾝﾀｰ	居宅介護支援		訪問介護			合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,753 名	388 名	4,741 名	699 名	242 名	
1 日平均利用者数				13.2 名	1.9 名	0.7 名	
稼動指数		29.2 件	6.5 件	65.8 件	9.7 件	3.4 件	
稼動日数（延べ）						359 日	
単価（一人一日当り）		16,343 円	3,931 円	4,116 円	3,427 円	3,378 円	
サービス活動収益(千円)		29,987 千円		21,942 千円		817 千円	676,894 千円
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		6.0 名			108.2 名

	放課後等デイサービス	相談支援事業		合計
		特定相談	障害児	
利用者定員	10 名			
利用者延べ数	2,106 名	25 件	63 件	
1 日平均利用者数	8.4 名			
稼動率	83.9%			
稼動日数（延べ）	251 日			
単価（一人一日当り）	11,142 円			
サービス活動収益(千円)	23,464 千円	1,489 千円		24,953 千円
職員数（常勤換算）	5.2 名	1.0 名		6.2 名

もくせいの里

もくせいの里は 2018 年度に 40 周年を迎える。利用者の高齢化が進み、要支援者が増加する中で、個別支援の充実を 2017 年度の重点目標とし、今後の要支援者に対するサービスの在り方を模索、検討してきた。しかし、自立支援を中心とした軽費老人ホームにおいて、要支援者に対するケアは、ハード・ソフト面において様々な弊害もあり、思うような対応ができないままに、この 1 年を終える事となってしまった。

2018 年度に向けては、自立支援を中心としつつも、中間施設としての施設運営の有り方を、関係各所との連携を行いながら構築していきたいと考える。

【事業・運営計画】

1.安心と安全を重視したサービス

（ア） 利用者の状況に合わせ、より安全に避難できる体制を消防署員と検討を重ね、避難経路を変更し訓練することができた。

（イ） 現在食事サービス利用者個人の情報を書面化し、新規の情報を記入する欄を設け、常に新しい情報を共有できるようなシステムづくりを行い、利用者に異変があった場合、早急に対応できるようにした。

（ウ） 入居者が混雑する食堂内での配茶を職員が行うことにより安全性を確保し実践することができた。

（エ） 任意後見人を利用者に勧め、契約に至ったケースが 1 例、話し合いを実施しているケースが 2 例と後見人制度の活用を行った。
現在、検討しているケースを含め今後も積極的に後見人制度を活用していきたい。

2.利用者に寄り添うサービス

（ア） WINCARE システムの導入を図ったが、個別支援計画の作成等、充分活用ができておらず 2018 年度の課題としたい。

（イ） ロコモ・トレーニングの参加が増えてきており、楽しく実施することができた。
今後は通年の目的や生活の場としての介護予防実践を 2018 年度の課題としたい。

（ウ） 要介護 2 までの入居者の状況に合わせ外部サービスを積極的に利用しながら、住替えに至るまでを数名の方に実践し利用者やご家族から安心して住替えができたとの評価を得られた。

（エ） 入居者交流ホームの内容についての要望や意見を伺う機会を設け、準備・片づけも入居者に参加して頂きながら行事企画をしていく事とした。入居者で運営できているクラブ活動については、入居者独自の活動として継続できた。

3.職員の資質の向上

（ア）施設内研修を計画的に行うことができたが、事業団のキャラリアラダーの実践が出来ておらず 2018 年度の課題としたい。

（イ）施設で実施している利用者座談会に栄養室の職員が参加し、利用者からの意見を聞き取り、希望献立として提供することができた。また、現在は常食を中心とした食事提供になっているが、治療食等の提供も開始することができた。

4.地域における公益的な取組

（ア）地域の食事サービスを継続して実施でき、食数も増加している。配送エリアの拡大等2018年度の課題としたい。

（イ）高台幼稚園と年間を通し定期的なふれあい活動を継続する事が出来た。
近隣の中学校と連携し、福祉体験、サマーボランティアとして10名の受入れを行った。

（ウ）近隣デイサービスへの食事提供は年間8,000食を超え順調に推移した。

（エ）湖東自治会と連携をし、自治会主催のサロンの立ち上げを一緒に行い、月1回開催のサロンへ入居者4～5名が参加することができた。地域住民への施設開放、地域交流については2018年度の課題としたい。

5.設備の更新

（ア）懸案だった厨房配食サービス搬入出口の改修及び厨房職員休憩室改修工事を実施することができた。

（イ）2人床の居室を個室へと変更し、予備室を作ることで、入居予定の利用者に入居後の生活を実体験して頂いた上で入居決定をすることができる仕組みを構築できた。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50名		
利用者数（延べ）	18,077名	11,927名	30,004名
利用者数（日）	50名	38.6名	
稼働率（%）	99.1%		
稼働日数（延べ）	365日	309日	
単価（一人一日当り）	6,172円	679円	
サービス活動収益（千円）	111,580千円	8,095千円	119,675千円
職員数	15.4名	0.5名	15.9名

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ
訪問看護ステーション細江サテライト、サテライト三ヶ日

2017 年度は、地域で様々なニーズが顕在化する中で、多くの課題が明確化する一年となった。対応エリアである北区の細江町、引佐町、三ヶ日町では、広いエリア内で、高齢者人数も多く、認定申請者も増加している一方で、サービス事業者の撤退も多く、特に三ヶ日町においては、軽度認定者に対する生活支援サービスや通所型サービス、ケアマネジメント、訪問介護の担い手不足は顕著となった。

一方で、聖隷ケアセンターいなさ内では、全併設事業所と定期的に事例検討する機会を月一回継続し、地域の問題の共有化や相互が連携して支援を行う体制作りを進めた。

また、聖隷三方原病院の診療圏としての三ケ日町において、その医療ニーズに応えるべく訪問看護ステーション細江サテライト三ケ日の事業所を開設したが、それらを含めた生活支援ニーズには十分に対応できず、ケアセンターいなさ全体として、そのニーズにどう応えていくかという課題が明確化した。

それらの課題を踏まえ、今後も「隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる。」を拠点理念として地域の期待を担える新たな事業展開を積極的にすすめていきたい。

【事業報告】

[地域包括支援センター細江]

1．浜松市全市において「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始に伴い、その対応に追われるスタートとなった。サービス事業所の事業縮小や撤退が相次ぎ、支援困難事例も多い中で、連携できる民間事業所を開拓しながら対応を模索する一年だった。
2．事業者撤退が続く中で、関係者と住民の間に危機感に対する温度差があり、地域における生活支援体制作りもなかなか進まない中で、北区行政との問題共有に積極的に取り組んだ。
3．地域の医療と介護の連携促進を図るために、地域の行政、医師会、社会福祉協議会、その他地域住民、民間介護事業所等との問題の共有の場として、地域ケア会議やケース検討会等を積極的に運営した。

[聖隷ケアプランセンターいなさ南部]

1．特に三ケ日地域における依頼数は、減ることはない一方で、サービス提供やケアマネジメントの担い手となる事業所の撤退が相次ぎ、特に年度後半は、全てに対応し切れなかった。軽度者が多い反面、重度化し医療依存度の高い利用者も多く各ケースの対応に苦慮した。
2．聖隷三方原病院の診療圏であり、入退院時の連携は積極的に行った。日常的には、院内の介護相談窓口でも、介護保険利用相談等対応した。
3．新しい業務対応ソフトの年度途中の導入に対し聖隷内の居宅支援事業所と連解して対応した。
4．介護支援専門員の実務研修(見学研修、ケアプラン作成研修)に積極的に協力した。

５．市町村が行う要介護認定調査の委託を積極的に受け、毎月 4 名の認定調査を実施した。

[聖隷リハビリプラザいなさ]

１．引佐町、三ヶ日町の利用者、家族からの紹介による新規利用依頼に積極的に応えた。反面、送迎エリアの広さが、乗車定員の限界と相まって、十分に受け止め切れなかった。

２．看護師の増員により、利用者の体調管理体制が高まったことで、体調悪化する前の早目の対応が的確に行えるようになり、家族や地域から事業所に対しての信頼度が高まった。

３．スタッフのスキルアップのために毎月テーマを決めて学習会を行い専門的な知識を深めた。

４．ケアセンター学会やリハビリテーション研究会へ演題をエントリーし、実践研究に積極的に取り組んだ。

５．機能訓練特化型の通所介護として、通所リハビリテーションとの親和性は高いが、リハビリテーション実施後の利用場所として十分に連携できず、利用者の獲得につなげられなかった。

[地域における公益的な取組]

１．ロコモーショントレーニングサロンは、利用者の中から運営委員を募り、一部運営を委託することができた。利用者も毎回 35 名を越える利用者で盛況となった。

２．直虎観光の支援のため施設を開放したが、龍譚寺から距離があり、十分に活かされなかった。

３．駐車場として活用できるスペースもあり、センターの 2 階は、認知症カフェとしての会場や地域の専門職の研修会場、会合の場所として積極的に活用された。

【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入 （千円）	予防プラン 請求件数	内 再委託件数	予防プラン 単価（円）	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
32,220 千円	7,179 件	3,427 件	5,504 円	64,255 千円	7.5 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,770 件	219 件	15,189 円	3,893 円	36 件	4,230 円	26,559 千円	5.2 名

通所介護事業(聖隷リハビリプラザいなさ)

	介護	予防
利用者定員	45 名	（45 名）
利用者延べ人数	6,904 名	849 名
1 日平均利用者数	22.3 名	13.3 名
稼働率	71.3%	
稼働日数（延べ）	309 日	
単価（一人一日当り）	6,172 円	26,463 円/月
サービス活動収益	65,496 千円	
職員数	15.7 名	

細江地区在宅複合事業

訪問看護ステーション細江
聖隷ケアプランセンター細江

【事業報告】

1．訪問看護ステーション細江

（ア）聖隷三方原病院との協働

聖隷三方原病院看護師の出向・看護部との協働（モデル事業参加・聖隷福祉学会発表など)、2017 年度も更に連携と相互理解が深められた。

（イ）訪問看護ステーションの大規模化・三ケ日サテライトの開設

他ステーションの閉鎖に伴い 40 名の移行利用者を受け入れながら、新規依頼も断らず対応した。三ケ日地区のニーズに対応するべく、三ケ日サテライトを開設した。

2．聖隷ケアプランセンター細江

（ア）湖北地区聖隷居宅介護支援事業所・高齢者相談センターとの連携

新規利用者を断らずに受け入れられるよう聖隷内ケアプランセンターとの連携を図り対応してきた。

（イ）聖隷三方原病院との連携

聖隷三方原病院の病棟ラウンドに参加することで、介護保険の利用について周知することができた。顔を合わせる機会が増え、より連携しやすくなった。

3．地域における公益的な取組

エコキャップ活動の継続と、高齢者相談センターに協力し地域の家族介護者教室等に講師として参加した。

【数値実績】

訪問看護ステーション細江

年間利用者数	年間訪問件数	サービス活動収益 実績見込み	当期活動収支差額	職員数 （常勤換算）
2,046 人 月平均　170 人	10,768 件 月平均　897 件	99,625 千円	▲419 千円	12 名

ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価（円）		サテライト（三方原）年間担当件数	サテライト（三方原）月額（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,754 件	216 件	17,085 円	4,250 円	120 件	105,000 円	30,885 千円	4.8 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

【事業報告】

１．地域に「必要とされる」ケアセンターになる

（ア）北区にある就労支援施設を訪問し、お互いの業務やケアの情報交換をしたうえで連携の方法について相談することができた。

（イ）3 事業所合同のカンファレンスを定期的に行い、情報交換、ケア内容の統一ができた。

（ウ）ケアセンター学会などで事例報告をすることができた（訪問看護・デイサービス）。

２．介護予防終末期までの支援ができる

（ア）デイサービスでは、事業対象者も受け入れご利用いただくことができた（2 名）。

（イ）ケアプランセンター、訪問看護では、近隣の総合病院からターミナルケアの必要なご利用者を受け入れ、タイムリーに対応できた。

（ウ）ケアセンター内での研修、その他の研修（ラダー研修も含む）に参加し、職員一人ひとりが自己研鑽に努めることができた。

３．地域における公益的な取り組み

（ア）デイサービスでは、ロコモーショントレーニングサロンの継続、自費外出レクリエーションを実施することができた。

（イ）健康秋祭り、家族会など、ご利用者のみならず地域の方々にも参加していただくことができた。

（ウ）ボランティアの受け入れも継続できたが、件数が少なかった。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
143 人	778 件	9,345 件	9,439 円	142,373 千円	11.5 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
15,407 件	4,059 件	15,408 円	4,055 円	34 件	8,640 円	33,798 千円	6.0 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
117 人	1,000 人	12,007 人	56 人	681 人	6,289 円	32,583 円	97,706 千円	16.8 名

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷放課後クラブはなえみ高丘

2017 年度は、4 月に放課後クラブはなえみ高丘が和合より独立し、ケアセンター高丘の事業所となった。規模的には小さいが未来ある子供たちを預かる重要な事業所である。浜松市内で高齢者数 2 番目の圏域を抱える地域包括支援センターを持ち、介護保険事業のリハビリテーションに特化した通所介護事業、介護保険・医療保険にも幅広く対応する訪問看護ステーションが、どのように連携すれば地域に役立つケアセンターになりうるのかを考えながらの 1 年であった。

1．聖隷ケアセンター高丘内の連携強化を図り、センターとして他機関と連携することで質の高いサービスを提供する

（ア） 全体会を開催し、それぞれの事業所がどのような業務をしているのかを発表した。他の事業所の業務内容を知ることで、職員同士が理解し合えることも多くなり、職員の兼務をかけることで、事業所間の交流ができた。
専門職のリハビリテーションができるということで放課後クラブはなえみ高丘を選んでくれた利用者がいた。訪問看護ステーションとも隣接しているため、医療ケア児を受け入れていきたいが、送迎・環境面での課題がのこる。

（イ） 各種ラダーの取り組みが本格化してきているが、次年度は目標参画と連動しそれぞれが課題をクリアできるような自己研鑽に努めたい。

2．それぞれの事業が経営的に自立した上でセンターとしての安定した経営基盤を築く

（ア）訪問看護事業は継続的に新規の依頼があり、訪問件数が 1,000 件を上回っていた。産休の職員の補充ができず、超過勤務が増えた。
通所介護事業は一日平均利用者数 40 人を上回り、継続的に新規依頼があった。
放課後クラブは徐々に人数を増やしてきているが、同時間に複数場所に行かなければならない送迎の課題があった。
地域包括支援センターでは、新総合事業開始年度であったが、大きな混乱なく移行できた。
予防プラン作成数の予算は達成したが、予防プランの再委託を受ける事業所が少なく課題がのこる。

（イ）慢性的な人員不足もあり、効果的に超勤削減が出来なかった。

3．地域における公益的な取組

（ア）ケアセンター高丘事業所とコミュニティケアセンターが協働し、「ロコ友高丘」を開催している。3 年目に入るが、利用者は固定してきている。新たな利用者の獲得が課題である。

（イ）協働センターまつりに参加し、認知症予防、消費者被害防止のための啓もう活動を行った。

（ウ）コミュニティスクールと協働し、小学 4 年生に対して認知症サポーター養成講座を行った。

【数値実績】

訪問看護事業(訪問看護ステーション高丘)

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
193 人	1,028 件	12,328 件	9,263 円	114,200 千円	13.9 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザＩＮ高丘）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護（月）	予防（月）		
26.7 名	687 名	8,251 名	60.8 名	729 名	5,741 円	33,385 円	71,656 千円	15.4 名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入(千円)	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
30,106 千円	2,579 件	1,587 件	4,390 円		

日常生活支援総合事業の予防プラン					
種別	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	50,676 千円	6.6 名
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA	1,686 件	959 件	4,390 円		
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB	327 件	0 件	2,256 円		
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄC	0 件	0 件	2,195 円		

放課後等デイサービス事業（聖隷放課後クラブはなえみ高丘）

平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
			学校日	休校日		
6.2 人	126	1,514	10,979 円	12,588 円	15,847 千円	4.0 名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
聖隷ケアプランセンター浅田

1.訪問看護ステーション浅田

（ア）ケアプランセンター浅田と連携し医療依存度の高い利用者を速やかに受け入られる体制が整っていることを病院や居宅介護支援事業所にアピールした結果、がん末期や難病の新規依頼が増加した。

（イ）精神科訪問看護療養費算定要件研修に2名が参加し、合計5名の看護師が指定精神科訪問看護を実施できるようになった。

（ウ）機能強化型訪問看護ステーションとして医療ケア児への訪問看護に積極的に取り組んだ。

2.聖隷ケアプランセンター浅田

（ア） 居宅介護支援の実際の事例や南区主催研修への参加を通してエリア内の地域包括支援センターとのつながりができ、新規依頼も増えた。

（イ） 包括支援センターから依頼を受けた困難ケースを通じて連携しながら支援を進めることができたことで、地域から信頼を寄せられていることが感じられるようになった。

（ウ）浜松医科大学医学部附属病院、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、また地域包括支援センターなどからターミナルなどの医療依存度の高い利用者について訪問看護をセットでの新規依頼が増えてきており、複合事業であることが周知され、評価を得ていることが感じられる。

3.地域における公益的な取組

（ア）当事業所建物二階の障がい者施設と合同で避難訓練を行った。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

保険区分	平均利用者数	月平均訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
医療	49人	331件	3,940件	11,376円	44,825千円	16人
介護	118人	540件	6,490件	8,211円	53,291千円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
584件	116件	12,219円	4,232円	7,914千円	1.5人

訪問看護ステーション住吉第二

１．機能強化型の訪問看護ステーションの取得

（ア）利用者の個別性に合わせた細やかなサービスを提供し、超・準超重症児の利用者平均5名以上、難病・ターミナル期平均9名を維持する事ができた。
しかし居宅介護支援事業所の開設が困難な為、機能強化型訪問看護ステーションの開設は断念した。

（イ）仕事もプライベートもいきいきできる職場づくりの為、常勤看護師 5 名を確保し維持する事ができた。

２．職種別のラダーを活用し、訪問看護・リハビリテーションの実践能力を１ランク向上させる

（ア）目標管理面接とラダー評価を決められた時期に実施する事ができ、1 ランク向上に挑戦ができた。

（イ）自己課題にあわせた研修参加には、個々にばらつきがみられている。2018 年度は系統立てた研修参加を行っていく。

３．デイサービスセンター住吉・ひばり保育園と共通の目標を持って協働することにより、複合施設として機能し地域に認識される様になる

（ア）デイサービスセンター住吉との運営会を定例化する事で、デイサービスセンター住吉で重度の利用者への対応がし易くなった。

（イ）ケアセンター学会にデイサービスセンター住吉と協働し発表ができた。

４．地域貢献として、認知症利用者・重症児と家族の社会参加やリフレッシュを支援する

（ア）2017 年度後半は、ターミナルの利用者が 2 人から 7 人まで増加をした。利用者・家族のニードを捉え、可能な限り自宅で過ごすことができる様に支援を行った。

（イ）難病患者家族リフレッシュ事業・留守番ケアを引き続き行った。

５．東区を担当する訪問看護ステーションである事を東区の病院にアピールする

（ア）浜松労災病院からの退院前カンファレンスの機会が少なく、アピールまでは至らなかった。2018 年度は、診療報酬改定でも退院支援が充実してくる為、連携を深めていく。

【数値指標】

平均 利用者数	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	平均単価	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
113 名	645 件	7,749 件	9,880 円	76,564 千円	10.0 人

関係医療機関数	関係居宅介護支援事業所数
44	47

聖隷デイサービスセンター住吉

2017 年度は新規利用者の獲得はできたが、利用者の入院、施設への入居が多く、また体調不良による長期の休みが増え、登録者数及び利用件数を伸ばすことはできなかった。

個別機能訓練加算Ⅰ及び個別機能訓練加算Ⅱは年間通して継続して実施することができたが、人員不足により算定できない日があり、算定率が下がってしまった。

１．サービスの質の向上を図る

利用者カンファレンスを毎日継続して実施することができ、利用者の状態を常に把握することができた。

２．拠点としての組織力を高め連携を強化する

（ア）訪問看護ステーション住吉第二を利用されている重度の方の受け入れを実施し、お互いの情報交換、情報共有等、スムーズに行うことができた。

（イ）訪問看護ステーション住吉第二との運営会議を月に 1 回、定期的に実施することができた。

（ウ）3 事業所合同での避難訓練を年 2 回実施することができた。

３．業務改善を実施する

利用者向け記録用紙の内容や記録方法を変更することにより、各職種が統一して情報共有ができるようになった。

４．地域における公益的な取組

（ア）家族会を実施した。

（イ）老人会（住吉交流会）の体操指導へ職員を派遣した。

（ウ）「夏休みチャレンジボランティア」、特別支援学校の学生受け入れを行った。

【数値実績】

介護給付			予防給付		単価（円）	
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （月）	予防 （月）
24.3 人	625 人	7,503 人	14.8 人	178 人	8,709 円	27,708 円
サービス活動収益（千円）			職員数（常勤換算）			
83,127 千円			14.6 人			

聖隷コミュニティケアセンター

2017 年度、聖隷コミュニティケアセンターでは福祉用具貸与及び施設販売が予算通りに推移し経営の安定化を図ることができた。しかし、各店舗における販売は、来客の減少に伴い予算を達成する事ができなかった。課題である新規顧客の獲得という点では、新しい情報発信の仕組みを模索し 2018 年度に繋げる 1 年となった。

【事業目標・重点施策への取り組み】

1．店舗・販売部門の強化

（ア）病院・施設に特化した営業の配置を行い新たな展開を図った。関係の構築も深める事ができ、相談件数が増加した。また、大型の案件にも素早く対応できるよう事業所内の連携を強化し前年比 10%増を達成する事ができた。

（イ）POS レジの入れ替えと、新たに販売管理ソフトを導入した。導入後、操作等の共有に時間を要し業務効率化まで繋げる事は出来なかったが、豊富な分析機能を活用するための準備を進めることができた。

2．貸与業務支援ソフトの導入検討

（ア）下半期より、導入の検討を行ってきたが、2017 年度の導入とは至らなかった。業務効率化の為だけではなく、営業のツールとして必要となる為、2018 年度中に導入が行えるよう準備を進めていく。

3．地域における公益的な取り組み

（ア）聖隷の在宅サービス事業所が行う地域に向けた取組みに協賛し、福祉用具や介護用品の展示案内を行った。

4．職員のモチベーション向上への取組み

（ア）職場での評価基準を明確にし、評価によって士気を高める予定であったが、基準が完成に至らなかった。2018 年度では、目標参画システムの実施や内外部研修への参加を積極的に行い、やりがいのある職場環境を整えたい。

【2017 事業収益：数値指標】

	レンタル件数	介護保険収	住宅改修	販売収益	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
浜松店	13,779 件	159,075 千円	15,603 千円	326,669 千円	501,347 千円	29.2 名

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
聖隷はぐくみ松戸

2017 年度は、大規模な設備・機器の改修・入替を実施した。特に厨房の改修は食事の提供方法変更を伴うもので、安全で安心な食事の提供を効率的に行なうことができるようになった。

また、新規事業としては障がい事業を地域のニーズを確認しながら開始した。今後、国が進める地域共生社会実現に向けて、松戸においても他の地域と同様に対象者の年齢や制度の垣根を越えた支援ができるように事業をすすめていく。

人材確保については、厳しい状況が続いているため各施設、各事業部と連携を図りながら必要な人員の確保を行っていく。

１．地域のニーズを捉えた事業の成長

（ア） 訪問看護開設を目指したが、地域包括公募対応、事業の管理を行う人材確保難しいなどにより事業開始には至らなかった。今後については、近隣病院の方向性などを確認しながら事業開始を検討する。

（イ） 障がい事業として、5 月に障がい者（児）相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸を開設し、千葉県内初となる短期入所生活介護空床利用型の障がい者短期入所事業を 2 月に開始した。

（ウ） 居宅介護支援事業では、4 月より特定事業所加算Ⅲを算定し地域に信頼される質の高いケアマネジメントの提供ができた。

（エ） 各相談員のタイムリーな連携ができ相談受付体制を構築できたことで、介護老人福祉施設の入所待機者確保、短期入所生活介護の稼働率向上を図ることができた。

（オ） 看護師の在園時間を延長し、夕方に必要な看護ケアを行えるようにした。

（カ） 通所介護事業における新たな取組として、地域の軽度認知症患者へ脳活エクササイズとしてサービス提供を 12 月より開始した。

（キ） 4 月に食費の改定を行い、安全で美味しい食事の提供を行った。

２．多様な人材が活躍できる職場づくりと人材の育成

（ア） 介護周辺業務を行う職員を採用し、介護職の業務分担を進めることができた。

（イ） 松戸向陽高校から実習生受け入れを継続することで、2018 年度も卒業生を採用することができた。

（ウ） 喀痰吸引研修やユニットリーダー研修などへ職員を受講させて、施設内での人材教育に繋げることができた。

（エ） 千葉県ユニットリーダー研修への参画、実習生の受け入れを継続できた。

３．生産性・効率性の向上

（ア） ワイズマンからウインケアへの介護支援システム変更を行い、タイムリーな情報共有・記録を行えるようになった。

（イ） 一般浴槽から機械浴槽への転換については、他の優先すべき機器の修理・交換が発生し、2018 年度に実施することとした。

４．省エネルギーを意識した、施設整備の更新

（ア）ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン（GHP）の更新・入替を予定通り実施できた。

（イ）厨房のレイアウト変更を伴う、機器の入替を実施し介護現場での盛付業務などを厨房で一括して行えるようになった。

（ウ）計画的に送迎・訪問車両の更新を実施した。

（エ）施設の照明機器の LED 化、老朽化した外壁・床の補修は実施することができなかった。

５．地域における公益的な取組

（ア） 利用者・家族や地域の方々を招いて 10 月に初めての松戸愛光園祭りを開催し、松戸愛光園の事業を知っていただく機会となった。

（イ） 地域交流ホールにおいて、高塚新田地区の住民活動利用を継続できた。

（ウ） 周辺地域の清掃活動を年２回、松戸ニッセイエデンの園と一緒に実施できた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所	通所介護		ケアプランセンター	障がい者（児）相談支援事業
			介護	総合事業		
利用者定員	100 名	20 名	29 名		—	—
利用延数	35,387 名	6,466 名	4,582 名	420 名	1,476 名	160 名
一日平均利用者数	96.9 名	17.7 名	14.8 名	1.4 名	—	—
稼働率（%）	96.9%	88.6%	55.9%		—	—
稼働延日数	365 日	365 日	309 日		—	—
単価（一人一日）	14,151 円	13,928 円	10,179 円	5,647 円	11,377 円	14,325 円
サービス活動収益（千円）	502,429 千円	90,062 千円	49,625 千円		18,215 千円	2,292 千円
職員数（常勤換算）	74.64 名	13.5 名	10.8 名		3.4 名	1.6 名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
浦安市ケアハウス
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安市高洲地域包括支援センター

2017 年度は、介護職員の確保が厳しい中、介護業務を介護福祉士が専門職として提供すべき業務と無資格でもよい介護周辺業務と整理して非常勤職員の配置の充実を図った。また、介護支援システムを導入して記録の効率化や業務の省力化に取り組み、サービスの質を担保しつつ介護現場での新たな仕組みづくりに取り組んできた。働きやすい職場環境を整備することを意識して様々な取り組みを進めたことで、浦安地区の退職者は年度ごとに減少している。
また、浦安地区の法人内施設との連携を強化したことにより、利用者に切れ目のないサービスを提供できる体制も整ってきた。2018 年度に向けて人材の確保を継続しながら浦安地区での新規事業を計画できるよう、組織力の強化にも取り組んでいきたい。

１．入居者・利用者が安心・安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスの提供

各職場での OJT とサービス担当者会議での検証により、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づいた個別計画書が作成できるようになった。職員能力に個人差はあり、個別計画書が日々のケアにつながっているところまでには至っていないため、今後も勉強会の開催と現場での OJT を継続していく。

その人らしい最期を迎えられるよう取り組んでいるが、明確な評価ツールがなかったため、2018 年度は評価ツールを使った終末期ケアの振り返りを行いケアの質を高めていく。介護支援システム導入により各専門職が速やかに情報共有することはできた。

２．職員が専門職としてのやりがいを持って仕事に取り組む

介護周辺業務の職員の役割が確立してきており、介護職員が介護業務に専念できる環境が整い、業務分担ができてきた。現在の人員の中で業務分担するのではなく、必要な人員を割り出し配置できるよう取り組みをしている。介護周辺業務から介護業務に切り替える職員もおり、不足する介護職員の人員確保にもつながっている。

研修計画に沿って研修は実施できたが、参加する職員に偏りがあり 2018 年度の課題に挙げている。2016 年度に続いて役職者研修を毎月実施した。様々な角度から役職者として判断すべき視点を共有化することができた。ラダーの評価は毎年できており職員育成につなげている。

2017 年度、浦安地区で初めての EPA による外国人職員の受け入れをすることができた。

３．経営の安定化を図る

特養は稼働率向上のために空床期間の短縮に努めるとともに入院にならないためのケアの質の向上に取り組んだ。歯科衛生士の採用で口腔ケアの質の向上に努めたところ、入院者数

の減少を達成することができた。短期入所は、新規契約者数が 2016 年度比 1.32 の増加となったが、利用実績には結びつかず、今後は日曜日の送迎や夕食後の送りも検討している。

ケアハウスは通所サービス事業所と合同の健康体操プログラム検討を通じ、介護予防や他者交流の機会創出に向けた活動を行うことができ、介護予防意識が向上した。これによりケアハウスでの生活が困難になる等を理由にした退去者は年 2 名に留まった。

通所介護については2017年度より定員が20名から25名へと増え、また「介護予防通所介護」が「介護予防・日常生活総合支援事業」へと移行する形となり、大きな変革の年度となった。利用者については、独居や高齢世帯の割合は年々増加傾向にある。2018 年度からは独居や高齢世帯といった特に体調管理が難しい利用者へ向けて、朝食の提供・配薬管理を実施する新サービスを企画し、導入を計画している。浦安市の現状のニーズを掘り下げ、早急な対応をできるようにしていきたい。

4．防災体制の確立

2017 年度は、火災訓練、風水害訓練、夜間想定火災訓練、防犯対策訓練を実施し、浦安せいれいの里との相互応援訓練も取り入れた。マニュアルとしては、福祉避難所、風水害、防犯対策それぞれを完成させることができた。非常時持ち出しの物品の確認など現実に近い形を意識した実践を職員全体で実施できた。

5．地域における公益的な取組・地域への貢献活動に取り組む

各専門職の実習の受入れ、就労準備支援事業での受入れを実施した。市内の中学の職場体験、教員を目指す方の福祉体験実習を受け入れた。

（ア）東京福祉専門　介護福祉士　　（実人数 8 名　延べ日数 88 日）
（イ）順天堂大学　医療看護学部　　（実人数 32 名　延べ日数 480 日）
（ウ）了徳寺大学　看護学科　　（実人数 16 名　延べ日数 64 日）
（エ）淑徳大学　社会福祉士　　（実人数 2 名　延べ日数 30 日）
（オ）その他　　（実人数 7 名　延べ日数 19 日）

【数値実績】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	猫 実 デイ	地域包括	地域包括（予防）	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	－	－	250 名
利用者延数	36,112 名	15.399 名	17,797 名	5,632 名	5,469 名	－	－	
一日平均利用者数	98.9 名	42.6 名	48.8 名	18.7 名	17.8 名	－	－	
稼働率（%）	99%	85%	98%	75%	71%	－	－	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	307 日	307 日	－	－	
単価（一人一日当り）	－	－	－	－	－	－	－	
サービス活動収益（千円）	500,912 千円	215,242 千円	91,405 千円	40,851 千円	53,101 千円	26,903 千円	3,516 千円	931,930 千円
職員数（常勤換算）	62.9 名	21.7 名	5.2 名	8.7 名	10.1 名	3.8 名	0.6 名	113.0 名

浦安愛光園

2017 年度、高洲地区では一体運営を意識し重点的に取り組んだ。相談員の機能・連携強化は利用者の状態が変わっていく中でも安心して最後まで住み慣れた地域で暮らしたいという地域ニーズに対し高洲地区における浦安愛光園入居までのモデルプランを作ることができた。待機者に対しては 1 日も早く入居したいという思いに応えるため連携を密に情報を共有し調整を行った。

ICT の活用として 9 月から導入した介護支援システムは大きな混乱なくスムーズに運用を開始することができ情報の集約化ができた。業務効率化とタイムリーな情報共有は現在も進めているところであるが具体的な方法については継続した課題である。

サービスについては質と個別性を追求する中で園での看取りや摂食・嚥下機能の向上、口腔ケアを重点的に取り組み今まで以上に充実した毎日を過ごしてもらうことができた。

経営面は 2016 年 10 月に 74 床になったのを機に取り組んだ各職種の役割の明確化と機会損失の低減が成果となり開設以来初の予算達成となった。

１．利用者一人ひとりに安心と快適な暮らしを提供する

（ア）介護支援システムを導入し情報を集約することができた。引き続き高洲地区でより有効に運営できるよう課題の整理していく。

（イ）季節の変わり目に増える入院については介護と看護が早期連携をとることで事前に予防することができた。入院しても重症化することが減り、入院期間が短縮された。

（ウ）看取り診断を受けた 6 名の入居者が園でその人らしい最後を迎えることができた。

（エ）認知症ケア実践は職員による対応の差が大きく新人・異動者への教育が課題である。

２．人材の確保と育成の推進

（ア）専門職の採用は比較的順調であったが、介護職の中途採用は厳しい状況であった。研修については必要な研修を受講できるよう役職者研修・パート研修・法定研修のやり方を見直した。

（イ）介護・看護・相談ラダーにおいて目標参画システムと連動させることが出来た。

（ウ）介護周辺の業務内容整理や介護支援システム・介護ロボット等の活用方法については 2018 年度の業務改善で総合的に行っていく。

３．浦安高洲地区における連携強化

（ア）在宅からベテルホーム、愛光園入居という流れを意図的に作ることができた。

（イ）合同会議・委員会は自施設での同様の事故・苦情のリスク低減に活用できた。

（ウ）介護支援システム導入は比較的スムーズに行え、記録業務については勤務時間内に行うという意識がついてきた。運用については 3 施設の進捗に差があり標準化を行う必要がある。

（エ）防災訓練では施設間応援体制について取り組み、具体的かつ現実的な訓練を行った。防犯・風水害はマニュアルの作成と訓練実施ができたので今後はそれをもとに訓練で

マニュアルの検証を行い体制を確立する。

４．経営改善の継続

（ア）機会損失を分析し介護・看護による入居者の体調管理と生活相談員の入退居・空床ショート調整機能を強化することで予算達成できた。

（イ）歯科衛生士による専門的なケアと介護職の意識が向上し誤嚥性肺炎での入院者数が前年比 60%減少した。

５．地域ニーズに応える施設づくりと地域貢献

（ア）地域の美化活動に入居者と参加　利用実績入居者 1 名

（イ）ボランティア、看護・介護実習、教職員職場体験実習の受け入れを継続実施した。

６．地域における公益的な取り組み

（ア） 社会福祉法人による利用者負担軽減制度　利用実績 1 名

【数値実績】

	特養（ユニット型）
利用者定員	74 名
利用者延べ人数	26,384 名
一日平均利用者数	72.3 名
稼働率	97.7%
稼働日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当たり）	14,504 円
サービス活動収益（千円）	382,675 千円
職員数（常勤換算）	46.1 名

浦安ベテルホーム

2017 年度は、積年の課題であった経営面において大幅な収支改善を図ることが出来た。入所においては、冬場の入院者増が響き、稼働率が 87.4%で対予算-2.6%（対前年+1.9%）となったが、単価では、リハビリ職員の充実化等によって適切に加算を取得出来たため、年間平均で 14,468 円と対予算で+567 円であった。通所リハビリテーションでは、登録者が 1 年を通して平均で 125 名以上をキープ出来た等により、1 日平均利用人数が 32.6 名で、対予算で+0.6 名（対前年で+3.0 名）となった。また、採用面においては、不足していた職種において、パート職員で充足しながらサービスの質を担保するのと共に、既存職員の時間外労働の削減が図られ、働きやすい職場環境づくりを推進することが出来た 1 年であった。

1. 利用者を主体においたその人らしい生活の支援
   （ア）利用者、家族のご意向を多職種で共有する機会が増えたが、継続的に出来なかったことによる事故や苦情につながる事例もあった。
   （イ）各種会議等を通して、また介護支援システム導入により、ケアマネと多職種が密に連携出来、利用者の望む生活を支援する体制が構築された。
   （ウ）定期的な行事等の開催においては、参加者からの満足度は高かったが、開催日が土日に偏ったことや新たな取組みがなかった等課題もあった。
   （エ）食事料金を改定したことによる食材の変化に対し、概ね高い評価を得た。介入が必要な利用者には経口維持加算による継続フォローも実施された。
   （オ）退所後も、通所リハビリテーション、ショートステイ等を継続して利用出来る支援体制を確立することが出来た。
2. 専門職としてのスキルと経営的視点を併せ持った人材の育成
   （ア）施設の事業計画を職場に掲示、また経営状況を職場会議で報告する運用が確立したが、各職員による自己評価では、理解度 60%に終わった。
   （イ）ラダー評価者研修にも各職場から積極的に参加し、最終評価まで実施出来た。
   （ウ）自施設のみならず法人内施設との連携会議を通じて、稼働や時間外労働削減への意識は高まったが、役職者以外の職員育成面では引き続きの課題となった。
   （エ）感染症蔓延防止のために、清潔・不潔の区分け徹底、手指消毒環境の整備、マスク徹底は図れたが、冬場における入院を防ぐことが出来なかった。
   （オ）職員の出来ていないことを見付けるのではなく、いいところを見付ける風土になってきた。
3. 多職種協働による在宅復帰支援と在宅療養（生活）への関わり強化
   （ア）地域で最期まで暮らせる支援を多職種協働で実践する機会は増えているが、連携方法や効率化の面で課題があった。
   （イ）介護支援システム導入に伴い ICF（際生活機能分類）に沿って記入出来る計画書となったが、全ての利用者に対して QOL 拡大に向けた支援は未達成となった。
   （ウ）在宅復帰の可能性を拡大するための ADL・IADL 評価を可視化することが出来ていず、書式の修正や運用方法の確立が課題である。

4. 経営の安定化

(ア)新規入所件数は年間平均で 12.8 名/月で、目標の 15 名/月に届かなかったが、今まで紹介いただいていた以外の病院や事業所からの紹介も増えた。1 ヶ月、3 ヶ月リピート利用促進のチラシを作成、営業するも、認知度はまだまだ低く継続しての営業広報活動が必要である。

(イ)従来型居室は、在宅復帰・在宅支援機能加算を取得、維持をしていたが、12 月に復帰率 30%を下回り、以後加算取消となった。(3 月度より加算再取得)ユニット型居室は 5 月度の在宅強化型加算取得した。また、リハビリ職員等の充実化により、各種適正な加算取得されている。

(ウ)9 月より介護支援システムを導入、当初は混乱もみられたが、運用も確定し、少しずつではあるが業務の省力化がつながり効果も出てきた。

(エ)在宅復帰後のショートステイ、ミドルステイ利用者が増え、リピート率が上がった。

5. 防災・防犯対策の強化

(ア)高洲地区一体となった防災訓練は実施出来ている。今後は、相互支援体制含めた各職場における具体的マニュアルを整備していく必要性がある。

(イ)高洲地区統一の不審者対応マニュアルが完成した。

6. 地域における公益的な取組

(ア)順天堂大学医療看護学部看護師の実習受け入れ　(32 名　15 日間)
了徳寺大学看護学科看護師の実習受け入れ　(16 名　15 日間)
介護福祉士の実習受け入れ　(東京福祉専門学校 2 名)
ボランティア受け入れ　(7 グループ　8 イベント)
障害者雇用　(パート職員 2 名継続雇用)
高齢者雇用　(パート職員 4 名継続雇用)
介護フェアの開催　(3 回開催　計 87 名参加)

(イ)生活保護受給者の受入れは月 1～3 名、減免者は 1 名であった。

【数値指標】

	入所		短期入所	通所リハビリ		合計
	従来	ユニット		一般	予防	
利　用　定　員	56 名	44 名	空床利用		40 名	140 名
利用者延べ数	18,262 名	12,522 名	1,129 名	9,010 名	1,017 名	41,940 名
一日平均利用者数	50.0 名	34.3 名	3.1 名	29.3 名	3.3 名	120.0 名
稼　動　率			87.4%		81.5%	—
稼動日数(延べ)	365 日		358 日	308 日		—
単価(1 人 1 日当り)			14,468 円		11,803 円	—
サービス活動収益(千円)			461,733 千円		118,350 千円	580,083 千円
職員数(常勤換算)			58.9 名		17.4 名	76.3 名

聖隷ケアプランセンター浦安

2017 年度、聖隷ケアプランセンター浦安は特定事業所加算Ⅲをとり、浦安ベテルホームの在宅復帰ケースや、高洲地域包括支援センターの相談ケース、病院からの相談などを受け、利用者数を安定して確保することができた。

１．地域包括ケアシステムの遂行と役割の明確化

（ア）2016 年度同様、浦安ベテルホームと連携を図ることができたこと、2017 年度からの取り組みで高洲地域包括支援センターと兼務をすることで要支援から要介護に変わった方も包括的に支援することができた。

（イ） 地域の活動に参加し、顔が見えるようになったことで新規利用者に繋がることができた。2018 年度も継続し参加することでニーズの発掘を行う。

（ウ）地域ケア会議の参加はできなかった。2018 年度は地域包括支援センターに積極的なアプローチを行い、担当ケースからの課題を取り上げ役割が遂行できるようにする。

２．専門性の高い人材の育成

（ア）継続的な研修の参加はできたので、2018 年度は地域の居宅支援事業所と一緒に参加することを課題とする。

（イ）2017 年度相談支援スキルラダーレベルⅡの底上げを行い、2018 年度はレベルⅢを目指す。

３．安定した経営を行い環境改善

（ア） 収益は上がったが、件数増加に伴い業務量も増え、支出が増加した。業務整理が課題となる。

（イ）（ア）の通り課題が明確になったことで、2018 年度課題解決に向けた環境改善を行う。

４．地域における公益的な取組

浦安市高洲地区の地域貢献イベントを通じて、介護の仕事を知ってもらうように働きかけを行った。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（1 人 1 日当り）	サービス活動 収益	職員数 （常勤換算）
－	1,248 名	365 日	16,154 円	20,161 千円	3.3 名

浦安せいれいクリニック

１．2017 年度は、年間外来利用者数は 1,454 名、2016 年度より 47 名減少するも、一人当たりの単価は 3,504 円となり、対予算で比較をすると 304 円増加と、収益としては予算を上回る 1 年であった。保健予防活動としては、ケアハウス入居者や委託先の業者等の健康診断を 2016 年度に引き続き実施し、また、冬場においては、インフルエンザへの対応で感染者を拡大することがないよう予防対応が出来た。

２．利用者、入居者の初期診療、日常的な健康管理を担うことができたが、地域住民の利用拡大までには至らず継続課題となった。

３．高洲地区全体の感染症拡大防止のため、各施設からの要望に応じることができた。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（１人 １日当り）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
6.0 名	1,454 名	242 日	3,504 円	16,876 千円	2.3 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

開設2年目である2017年度は、初めて単月黒字になるなど年間を通し、予算は上回っているが、まだまだ赤字経営となっている。しかし、職員一人ひとりが事業所への広報活動や利用者の情報共有を意識的に行い、認知症ケアなどのケアの質の向上に努め、稼働は上げることができている。

１．聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴の推進とアピール

（ア）認知症について、毎週ユマニチュードの読み合わせや認知症サポート養成講習会に参加する等、認知症の評価方法やケア方法について学んだ。訪問中には個別的な認知症ケアにつながるリハビリテーションを取り入れるようになった。

（イ）㈱東京海上日動ベターライフサービスの居宅介護支援事業所・訪問介護事業所との連携が周知され、必要時にはお互いの事業所でケアマネジャーに推薦し連携を深めている。

２．安定した経営基盤を目指す

（ア） 毎月、訪問看護報告書を各病院・診療所、事業所へ手渡しを行い、利用者の情報共有を行った。ステーション便りを5月より作成、毎月配布、利用者への配布も2月から開始した。

（イ）依頼元となっている診療所（ひまわりクリニック）や居宅介護支援事業所（9か所）からは信頼性が高まっていると思われ、定期的に依頼が来ている。反面、依頼の少ない事業所や東京都内の病院への広報活動を行った。結果、居宅介護支援事業所28社（2016年度20社)、指示医療機関44機関（2016年度23機関）と2016年度に比べ増やすことができた。

（ウ）導入された介護システムを用いて情報共有を行えるように工夫し、継続性があり安心して訪問ができるように進めた。

３．地域における公益的な取組

（ア） 複数の自治会より訪問看護についての利用方法、ケア内容や在宅看取りについての説明依頼があり、講演会を行った。

（イ） 浦安市主催の市民向け在宅看取りについての公開講座で訪問看護の部門の講演を行った。

（ウ）了徳寺大学の看護学生の実習を受け入れ、2018年度からは新たに順天堂大学の学生を受け入れる予定である。

【数値実績】

	訪問看護		合計　平均
	介護	医療	
利　用　者	478名	164名	642名　平均53.5名
訪　問　件　数	2,590件	1,033件	3,623件
単価（1件当り）	9,515円	11,023円	平均9,945円
サービス活動収益	24,644千円	11,387千円	36,031千円
職員数（常勤換算）			5.8名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

【特別養護老人ホーム】

2017 年度は、多床室におけるプライバシー保護のための改修や、エレベーターの全面改修を行い、利用者が快適に過ごせるよう努めた。また、BCP の検証と見直しや防犯対策訓練を行い、職員の意識と対応力の向上につながった。一方、デイサービス等の稼働率の低下や新卒採用が困難な状況に伴う人件費率の増加により経営的に厳しい状況であった。

1　住みやすく・働きやすい施設づくりを行う
（ア）入居者のプライバシー保護のための改修工事を実施した。
（イ）ケア連携会議の計画的開催が実施できた。
（ウ）4S（整理・整頓・清掃・清潔）の意識が向上し、快適な生活環境が提供できた。
（エ）BCP の検証、防災・防犯訓練を実施した。

2　入居者・利用者の自己実現につながるサービスを提供する
（ア）サービス担当者会議を通じて利用者自身の決定の自立に向けた意識付けを実施した。
（イ）行事等の計画的実施により、利用者の行事参画意識が高まった。
（ウ）認知症周辺症状、精神疾患について勉強会の企画実施ができた。
（エ）繰り返し起こる事故についての、分析や改善については課題が残った。

3　安定した経営を行う
（ア）デイサービス、短期入所における稼働率向上に向けて効果的な対策を打つことができなかった。
（イ）入所サービスにおける、待機者減少に対しての対応についても課題が残った。
（ウ）物品管理方法を変更し、可視化することができた。
（エ）エレベーターの改修など、計画に則った設備改修を行うことができた。

4　地域における公益的な取り組みをし、地域ネットワークの一員として活動する
（ア）広報誌の発行頻度を増加し、積極的な情報発信を行った。
（イ）地域福祉講座の開催や地域行事参加のボランティア活動を行った。
（ウ）ボランティア受け入れ年間延べ 732 名や、特別支援学級実習の新規受け入れを継続した。

【数値指標】

	特養入所		短期入所
	従来型	ユニット型	
利用者定員	64名	40名	16 名
利用者延べ数	22,789名	14,089名	4,910 名
一日平均利用者数	62.4名	38.6名	13.5 名
稼働率（%）	97.1%		84.1%
稼動日数（延べ）	365 日		365 日
単価（1人1日当り）	11,746円	14,486 円	11,613 円
サービス活動収益	471,784（千円）		57,019（千円）
職員数（常勤換算）	64.9名		10.9 名

	通所介護	地域包括 支援センター	配食サービス	合計
利用者定員	30名	—	—	—
利用者延べ数	5,190名	2,445 名	1,654名	—
一日平均利用者数	16.9名	—	8.4名	—
稼働率（%）	56.2%	—	—	—
稼動日数（延べ）	308日	—	198日	—
単価（1人1日当り）	8,915円	—	550円	—
サービス活動収益	46,269（千円）	33,574（千円）	（910千円）	608,646（千円）
職員数（常勤換算）	8.7名	4.3名	—	88.7 名

【在宅事業】

2017 年度は、訪問看護事業を中心に事業範囲拡大を目指し、逸見地区へサテライトを開設したが、職員の採用が困難であったこともあり事業の進捗が芳しくない状況であった。また、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業においては、利用ニーズが高まらず、7 月を以て事業を閉鎖することとなり、在宅事業全体としても苦戦した 1 年であった。

今後は既存事業の整理と質的充実や働きやすい職場環境つくりに努めていくこととともに、障がい事業などの新たな展開を開始し、横須賀愛光園との連携を図りながら事業運営を継続していく。

【事業・運営計画】

1．訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション横須賀）

（ア）人材を確保し、健全経営を維持する

①採用、確保が困難な状況は継続しているが、職員紹介など人脈の活用ができた。

②逸見地区へのサテライトを開設したが、前半に積極的な案内ができず、利用者確保に課題が残る。

③業務整理に取り組み、課題を明確にしていく活動を実施した。タブレット端末を導入し、業務内で活用できた。

（イ）人材を育成し、ケアの質を向上させる

①カンファレンスの予定を計画し、可視化することで意識が高まった。

②看護ラダーの導入と勉強会について、計画通り実施できた。

（ウ）防災対策を継続する

①定期的に防災訓練の実施ができた。

２．訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション横須賀）

（ア）人材を育成し、介護保険等の変化に対応する

①研修や会議の時間を確保し、質の向上と情報の共有に取り組むことができた。

②介護ラダーの運用と、研修参加を実施したが、実践力の向上に向けて課題が残った。

③喀痰吸引研修参加を計画的に実施し、対応可能職員の増員ができた。

（イ）業務効率の向上により、就業環境を改善する

①柔軟なスケジュール調整ができず、効果的な業務改善について課題が残った。

②登録ヘルパーのスキル向上については、積極的な活動が実施できなかった。

（ウ）安定経営に向けた取組の強化

①在宅見取り介護、医療行為対応者について積極的に受け入れを行うことができた。

３．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業（聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀）

（ア）利用者・人材の確保と安定した事業運営を行う

①サービス利用についての理解が深まらず、利用者確保や職員の確保が困難な状況が継続し、7月を以て事業閉鎖となった。

４．居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター横須賀）

（ア）安定した経営を継続する

①特定事業所加算Ⅱの継続はできたが、認定調査件数について計画を下回る結果となった。

②人員減に伴い、積極的な新規受け入れを実施することができなかった。

（イ）業務やサービスの質の向上を図る

①研修参加しやすい環境を整えることができた。

②備品の整備と職員の意識付けに取り組み、業務効率が向上した。

５．地域における公益的な取組

（ア）各事業において、実習生の受け入れと地域行事への参加などの取り組みができた。

【数値指標】

１．訪問看護事業（訪問看護ステーション）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
136 人	776 件	9,254 件	11,045 円	102,815 千円

２．訪問介護事業（ヘルパーステーション）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益
平　均 利用者数	月　間 訪問件数	年　間 訪問件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	予防(月)	
84 人	1,085 件	13,066 件	8 人	94 人	3,861 円	12,963 円	71,513 千円

３．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業

介護給付		単価(円)	サービス活動収益
月間利用者数	年間利用者数	介護　(月)	
4 人	16 人	123,774 円	1,980 千円

４．居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益
介護	予防	介護	予防			
2,118 件	27 件	16,613 円	5,349 円	107 件	4,517 円	35,168 千円

聖隷訪問看護ステーション油壺

2017 年度は、利用者の健康維持や機能回復だけでなく、終末期に穏やかな生活を送ることができるための対応力を強化し、より充実した訪問看護サービスの提供に注力した。一方、医療保険対応利用者、訪問件数ともに伸び悩みと人材確保の困難さがあり経営課題が見えた年でもあった。

１．人材の確保とともに、重度医療・障害・認知症に対応できる職員を育成する
（ア）採用案内を行うも、リハビリテーション専門職も含み困難な状況であった。一方で看護実習の受け入れはできた。
（イ）緩和ケア学習会の継続と呼吸器系の学習会の開催ができた。
（ウ）他法人事業所との連携による研修会の開催ができた。

２．適正な加算の取得や他事業所との連携強化により、サービスの質の向上を図る
（ア）医療機関との連携強化の取り組みを行い、サービス提供の迅速化につながった。
（イ）情報共有や発信の為の書式改訂については今後の課題となった。
（ウ）適切な加算対応は実施できたが、新たな加算取得には至らなかった。

３．運営状況を分析し共有する
（ア）事業成績の集約、可視化を行い、全職員の事業活動への参画意識が高まった。
（イ）医療保険対応利用者が伸び悩み、経営状況の改善につながらなかった。

４．地域における公益的な取組
（ア）油壺エデンの園のエコキャップ活動への参画ができた。
（イ）エコドライブについての働きかけができた。

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)
8 人	375 件	4,499 件	10,208 円	45,879 千円

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

宝塚すみれ栄光園は開設より「我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごしていただき、健やかな生活を楽しんでいただく」に取り組んできた。2017 年度は、職員に入居者の居住空間・生活環境向上への意識を高めるために、宝塚せいれいの里全体で「設えコンテスト」を行った。フロア毎で検討し、それぞれ趣向を凝らしたものとなり、継続した取り組みとなっている。開設後 4 年を経過し、開設時 84 歳であった平均年齢も 87 歳となり、退所者も 30 名とこれまでで最も多い人数となった。この内 11 名の方を施設で看取ることができ、終の住まいの役割を担える施設となっている。平均要介護度も 4.3 を維持しており、入所時より体調に不安があり入院される方も多く、介護・医療・食事の連携が重要である事をより意識した 1 年であった。稼働率においては、短期入所の空床利用・緊急受入を進めたが、全体で 96.1%と予算 97%を下回る結果となった。

デイサービスでは、通常型は年間平均 80%と高い稼働率となったが、土曜日に行ってきた若年性認知症対象デイサービスは、関係機関からの注目はあったものの、新規利用に結びつかず、平均利用者は 4.2 名に止まった。利用者が 60 歳を超えた事もあり、花屋敷デイサービスセンターの地域密着認知症型デイサービスへ利用者移管を行い、3 月 31 日を以てサービスを終了した。短期入所・デイサービス通常型の高稼働は、施設内のケアプランセンターと連携ができている事が一因と考える。

2016 年 8 月より導入した「やわらか食」も安定して提供できるようになっており、きざみ食から変更し、誤嚥リスク・摂食機能低下の減少と共に、食材の形ある料理を提供する事で、食事の楽しみ向上に繋がっており、食事摂取量 6%増加と数字に表れる実績となっている。

企業主導型事業所内保育所である園内保育所は、延べ利用者 20 名（児童数は 22 名）のうち、7 名が 2017 年度の新規採用者であり、宝塚地区の聖隷施設での職員採用・就労支援に貢献している。

宝塚安倉あんしんケアセンターを始めとした地域貢献は、サロンへの講師派遣、安倉まちづくり協議会運営委員会への出席と、継続した活動を行っている。

１．入居者・利用者お一人おひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する。

「設えコンテスト」を行い、フロア毎での入居者の状態に応じた環境整備、生活空間の向上に取り組んだ。平均年齢が上がり、要介護度も高い事から、入院者は増加したが、インフルエンザ等の感染症は流行期においても蔓延する事なく、予防・発生時の対応をしっかりと行うことができた。

秋祭り、クリスマス会、コンサート等の催しには多くのご家族にご参加いただけている。家族懇談会では 2018 年度報酬改定説明を行い、ケアへの理解、信頼に繋げる努力を行った。

２．職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

次世代を担うリーダー育成を中心に考え、多くの職員にユニットのリーダーを担当する機会

を持たせた。また、資格取得支援も行い、4名が介護福祉士を取得する事ができ、介護福祉士率も70%を超えている。

2016年度に設置した介護ロボット（見守りセンサー・入浴リフト）は、充分に活用することができており、職員の業務負担軽減となっている。2017 年度後半に新たに導入された介護記録システムは、充分に使いこなすには至らなかったが、活用する事を職員同士が意識し、情報共有・連携に用いている。

3．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

宝塚エリアの多様な聖隷入所施設の特徴を活かすために、入所フローチャートの作成、入所申込書の書式統一を行い、併用申込を進めた。その情報を活用するための待機者情報管理ソフトにより、入居案内センター、相談員に集まる情報を共有し、入居希望者へタイムリーな情報提供を行う事が、入所施設の高い稼働率へ繋がっている。

4．地域に信頼される施設運営と公益的取組

地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへの参加や、安倉あんしんステーションの運営、訪問看護へ管理栄養士の派遣など、地域とも積極的に関わりを持ち、施設の専門職が地域に出向く事で得られた情報を、関連機関と連携し解決を図った。地域の避難所開設訓練に参加し、福祉避難所を含めた地域の安心拠点の役割を担っている。

障害者雇用の促進に加えて、施設園庭・緑地の整備を市内の障害者福祉施設へ委託し、地域福祉事業者との連携を継続して行っている。

5．環境活動への取り組み

新しい施設として設備機器の省エネ化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の設定温度・時間設定など、利用者へ影響を及ぼさない範囲内で実施した。

6．地域における公益的な取組

（ア）市内各地区の民生委員や、関係諸機関の研修の場として、施設を解放した。

（イ）近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

【数値実績】

	特養入所（ユニット）	短期入所	通所介護（一般）	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	34,882名	7,230名	6,335名	2,017件	481件	
一日平均利用者数	95.6名	19.8名	20.6名			
稼働率	95.6%	99.0%	68.7%			
稼働日数（延べ）	365日	365日	307日			
単価（一人一日・件当り）	14,970円	14,818円	11,150円	15,958円	3,578円	
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	597,028千円	107,203千円	70,223千円	36,918千円		811,372千円
職員数（常勤換算）	82.7名	13.5名	18.7名	6.8名		121.7名

ケアハウス宝塚

ケアハウス宝塚では、入居者個々のニーズを受け止め、その人らしい生活が営むことができる施設づくりに取り組んできた。2017 年度は、職員に入居者の居住空間・生活環境向上への意識を高めるために、宝塚せいれいの里全体で「設えコンテスト」を行った。フロア毎で検討し、ケアハウスでは入居者・家族が共にくつろげる空間を作り、継続した取り組みとなっている。

入居者数は 70 名の維持が達成できた。入居者の心身の状態や希望に応じての、結いホーム宝塚からケアハウス宝塚への住替え 2 名、ケアハウス宝塚から宝塚すみれ栄光園への住替え 6 名が行われたのは、里内の連携がスムーズに行われているからこそである。また退去者 14 名のうち、3 名は施設にて看取っており、職員には幅広いスキルが求められる施設となっている。職員採用が厳しい中、宝塚せいれいの里全体で離職防止に取り組み、ケアハウスにおいても 2016 年度に導入した入浴介護設備（入浴リフト）を活用した業務改善に取り組んだが、介護職員の退職が続き、体制維持に苦慮する 1 年であった。

行事・イベントについては、アフタヌーンコンサート、お茶会、聖書を読む会、傾聴ボランティアなど、ボランティアにも協力いただき定例化できている。また、入居者の希望を取り入れた外出企画や、複数の選択肢を用意した余暇活動など、参加意欲を持っていただけるように趣味活動の充実にも努めた。

地域活動においては、地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへの参加、地域の避難所開設訓練への参加など、地域とも積極的に関わりを持ち、施設の専門職が地域に出向く事で得られた情報を、関連機関と連携し解決を図った。

１．入居者の希望をかなえ、その人らしい生活を実現する

（ア）夜間入浴・洗濯・食材取り寄せ等、自宅での生活スタイルが継続できるよう自由な環境を用意できた。

（イ）お花見、紅葉狩り、喫茶店、レストラン等入居者の希望を確認しながら外出企画を計画し、実施した。

（ウ）多くのボランティアの方々に協力いただき、アフタヌーンコンサート、お茶会、聖書を読む会、傾聴ボランティアなどを定例化することができた。

２．他職種と協働し、個別支援が出来る人材の育成

（ア）常勤介護職 7 名の退職があり、異動・採用による補充が続き、伝達講習を含めケアハウス全体での共有が出来なかった。

（イ）2016 年度より実施した相談員の 2 名体制は、介護職員のアセスメント能力向上のために 0JT を通じて助言、介入を継続し、全体の底上げが図れた。

（ウ）事故発生後のカンファレンスにより、同様な事故発生の予防に繋げることができた。

３．宝塚せいれいの里内施設並びに宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

（ア）入居待機者情報管理システムを活用し、里内入所 3 施設の待機者情報を集約、共有すること

で､各施設担当相談員間の連携が向上した｡また､入居申込書式を宝塚エリア入所施設で統一し、入居フローチャートを作成することで、併用申込者が増え、3 施設の高い稼働率に繋げることができた。

（イ）施設設備管理担当者を、設備管理者不在の在宅施設、保育園への派遣を通じ、宝塚エリア施設全体の運営に協力した。

4．地域住民との協働と地域社会への貢献

（ア）地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへ参加するなど、地域とも積極的に関わりを持った。

（イ）地域防災会議への出席や、一次避難所開設訓練へ参加するなど、地域の安心拠点の役割を担っている。

5．環境活動への取り組み（省エネルギー化推進）

(ア)夜間における共用部（各階ホール・廊下）の照明範囲を限定した。

(イ)利用者への影響がでない範囲内での空調コントロールを実施した。

6．地域における公益的な取組

(ア)市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を開放した。

(イ)近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

【数値実績】

利用者定員	70 名
利用者延べ数	24,678 名
一日平均利用者数	67.6 名
稼動率	96.6%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当り）	14,075 円
総収入（千円）	352,116 千円
職員数（常勤換算）	38.8 名

結いホーム宝塚

結いホーム宝塚は開設から 4 年が経過したが、これまで同様、入居者 100 名の維持を達成することができた。これは宝塚地区内の施設入居申込書の書式を共通にしたことで、入居申込者数を安定して確保できたこと、聖隷の宝塚地区内における活動が浸透、評価されていることが要因であると考えている。また、結いホーム宝塚の主要な入居ルートとして口コミがあり、入居者や家族から当施設を知人に紹介していただけることは、良好な関係作りと介護サービスが評価されたものと受け止めている。一方、2017 年度の退居者数は 21 名となり、5 分の 1 近くの入居者が入れ替わったことになるが、入居待機者増（2018 年 4 月末：40 名）により、短期間の空床期間での対応ができた。また、21 名の内、7 名の方が施設内で看取ることができた。これは開設後最も多い人数であり、終の棲家としての役割を担える態勢が整ってきている証と考える。

入居者の平均介護度は 2016 年度の 2.1 から 2.2 へと 0.1 上昇した。開設当初からの入居者が経年と共に徐々に介護度が上がってきており、重症化への対応が求められてきている。

また、介護記録システムが 12 月に更新され、準備段階から多くの職員が関わり、運用を開始することができた。

入居者一人ひとりの生活の質の向上につなげるために、イベントやアクティビティーには、給食業者やボランティアの協力を得ながら、積極的な取り組みを継続している。新たに運動会を開催したほか、個別外出や行事企画では、これまでにない外出先や新たな行事企画を行い、更なる充実を図ることができた。

１．入居者のその人らしさを支えるためのケアの提供

（ア）認知症の入居者に対して、本人・家族と相談の上で居室内のレイアウトを変更し、生活しやすい環境の整備を行った。

（イ）やわらか食の質の向上を図り、安定的な提供を実現した。選択食については実施に至らなかった。

（ウ）入居者の意向を確認しながら企画を実施し、2016 年度を上回る回数の行事を実施した。初めて運動会を開催し、成功裏に終了することができた。外出企画ではホタル観賞等これまで出かけたことのない場所へも足を伸ばすことができ、好評を得た。

（エ）ターミナル期に、介護、看護、相談員、栄養士、訪問看護師の職種間で連携したケアを提供し、看取りにつなげることができた。

（オ）宝塚せいれいの里全体で「設えコンテスト」を行い、フロアごとに特徴を活かした入居者の生活の場にふさわしい設えを作ることができた。

（カ）何かあった際は、都度、家族への報告相談を細かく行うことで家族との円滑な協働関係の維持ができた。

２．職員が生き生きと働ける職場環境、職員教育の推進

（ア）パート職員へプリセプターを配置し、介護技術や業務の動きの教育、相談の窓口等を行った。また、研修参加者による伝達講習も行い、全体の介護技術の底上げを図った。

（イ）一人ひとりの意識、意欲にバラつきは見られたものの、個々が役割を担い責任を遂行した。
（ウ）2016 年度に引き続き、アクションラーニングを用いてチーム内の問題解決に向けての話し合いを実施した。活動の中で参加職員の成長を図るとともに、自施設職員でセッションが実施できるよう、コーチ養成講座を外部講師の協力のもと実施した。
（エ）研修計画に基づき、法人内、施設内研修へ参加するとともに、外部研修も自ら希望して参加することができた。
（オ）介護補助業務を行うケアサポーターの業務範囲を見直し、ケアサポーターの採用を拡大することで、正職員の採用難に対応した。

3．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供
（ア）地区内の施設入居申込書の統一、入居待機者管理システムを活用し、待機者情報を各施設の相談員が共有することで、稼働率を維持することができた。
（イ）企業主導型事業所内保育所の認可を得、近隣の事業所と共同利用契約を締結した。

4．地域に信頼される施設運営と公益的な取組
（ア）宝塚安倉あんしんステーションを拠点として、老人会やサロンへアプローチを行い、活動内容を増やすことができた。
（イ）市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を開放した。
（ウ）地域防災訓練に参加し、地域からの参加者に対して簡易ベッド・簡易トイレの組み立てを経験する場を提供した。
（エ）教員免許取得希望者の介護体験実習、インターンシップの受入れ、小林聖心女子高校のボランティア受け入れを行った。

5．環境活動への取り組み
（ア）入居者への影響が出ない範囲での空調コントロールを実施した。
（イ）近隣自治会の地域清掃活動に参加した。

【数値実績】

利用者定員	100 名
利用者延べ数	34,879 名
一日平均利用者数	95.6 名
稼動率	95.6%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当り）	14,176 円
サービス活動収益（千円）	554,636 円
職員数（常勤換算）	60.9 名

宝塚栄光園

2017 年度、利用される方にとって最期まで安心して過ごすことができる施設づくりの実践を行った。その一つとして、記録の電子化に取り組み、業務効率化を推し進めた。宝塚地区において相談事業所の立ち上げに合わせ、障害短期入所事業の立ち上げを行い、地域ニーズへの対応を行った。サービス活動収益では介護老人福祉施設、短期入所の合計で予算を上回ったものの、退所者は 29 件とこれまでより増加しており、施設での在籍日数が短くなっている。内、看取りで亡くなられた方の割合は 37%であり昨年度から大幅に増加した。医療的ケアを実施している方の割合は約 20%であり、介護職員の約 80%以上が特定行為従事者の登録を行い、安心できる施設づくりの一端を担っている。今後も医療と介護の連携を重視しつつ地域に貢献できる施設づくりを行っていきたい。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1.「ここにきてよかった」といっていただけるために

(ア)施設サービス計画書を基礎としたエビデエンス（根拠）に基づいたケアの実施

① ICF（国際機能分類）に基づく視点を養う勉強会の実施ができた。

② 介護プロフェッショナルキャリア段位制度については今年度の認定はできなかった。

(イ)「ていねいな言葉遣い」から生まれる、より良いケアと新たな利用者との関係の構築

① 職員ひとり一人が、自分自身の振り返りができるよう「言葉遣いアンケート」を実施して、それぞれが振り返りを行った。

(ウ)一人ひとりの尊厳を守り、「ひとりの人間として」接することが出来る認知症ケアの実施

① 認知症リーダーを中心とした認知症研修を実施した。

② 認知症実践者研修に 4 名の参加を行なった。

(エ)「最期のとき」を安心して迎えられる環境づくりの実施

① 「看取りケア」について、職員の体験談などを講義の内容とした、地域住民や家族向けの勉強会の実施を行った。

(オ)共生社会に向けた新たなサービスの創造

① 7 月 1 日より 障害福祉サービス短期入所の開設を行った。

２.サービスの永続性を図るために

（カ）管理機能の強化

① 職員の欠員があり、管理機能の強化は図れなかった。

（キ）「コア」業務と周辺業務の整理と省力化

① 電子記録システムの導入と端末を全職員が使うことができる。

② 介護ロボット（見守りセンサ）の導入を行い、業務の効率省力化を行った。

３.地域へ貢献するために

（ク）兵庫県地域サポート型特養事業（地域見守り事業）を定着させる。

① 宝塚市における地域サポート型特養事業の充実が図れなかった。

（ケ）ゆずり葉自治会との連携を強化する。

① ゆずり葉自治会とともに、防災訓練を実施した。

② 地域自治会とともに認知症勉強会の開催実施ができた。

４.その他公益事業

（ア）LSA（地域サポート型特養）事業の実施。

（イ）宝塚市福井町自治会への給食材料の提供事業、またお花見の送迎実施。

（ウ）地元大学から２名の管理栄養士の現場実習受け入れを実施。

（エ）地元大学生の教員過程における介護等体験に５名を受け入れ実施。

地域住民対象で、参加費無料の「介護技術講習会」を３回／年開催し、64名が参加。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。（個室19室、２人室　３室、４人室　15室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70人	15人	85人
利用者延べ人数	24,371人	5,031人	29,402人
一日平均利用者数	66.8人	13.8人	80.6人
稼動率	95.3%	91.9%	94.8%
稼動日数（延べ）	365日	365日	―
単価（一人一日当り）	12,278円	12,307円	12,283円
サービス活動収益(千円)	300,662千円	61,981千円	362,643千円
職員数（常勤換算）	35.2人	5.4人	40.6人

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園、短期入所生活介護
花屋敷デイサービスセンター、花屋敷地域包括支援センター
聖隷はぐくみ花屋敷

2017 年度、多様なニーズへの機能と対応力の向上を目指し、園内各事業の体制を見直し、新たな人材確保と育成に取り組んだ。短期入所においては、医療的対応が必要な利用者や緊急の受け入れなどを柔軟かつ積極的に行った。通所介護では、活動の見直しや個別支援が行える環境に改修を行い、認知症などにより支援困難な利用者の対応を行うことにより、職員個々としてだけでなくチームとしても対応力の向上に繋がっている。また、地域包括ケアシステムの推進に向けた総合的なサービス提供を意識した取組みとして、障がい福祉サービスである特定相談支援事業所、短期入所・生活介護を開設。既存のサービスを活かした支援の展開とともに地域包括支援センターと協働することにより、障害者(児)から高齢者までをシームレスな対応が行える体制の構築となり、相談支援機能の向上を図ることができた。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい
利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

１．いのちと尊厳を守ります
２．よりよいサービスを提供します
３．地域社会と共に歩みます

【事業・運営計画】

１．個々の入居者・利用者に日常的な居心地の良さを提供する。

（ア） 全部署に利用者情報システムが導入されたことにより、情報共有や心身状態に応じたプラン作成が行えており、統一した支援に繋げることができている。

（イ） 入居者・利用者の細かな状態変化に注意を払いつつも急速な病状悪化などから入院となることがあった。更なるリスクマネジメントの向上に努めたい。

（ウ） 資格取得職員が中心となり認知症ケアや医療的ケアを行っている。今後も充足した体制構築を図りたい。

（エ） 各部署が定例行事を含む年間を通してレクリエーションを提供することができた。

（オ） サービス評価としては自己評価のみとなっているが、家族懇談会などを通じて利用者、家族の意見をサービスに反映させることができた。

２．地域包括ケアシステムの推進に積極的に取組む

（ア） 特定相談支援事業所の開設により、地域包括支援センターと新たなネットワークを構築することができ、障がい者（児）から高齢者までを一体的に相談支援できる体制に繋げることができた。

（イ） 短期入所において障がい利用者を受け入れることにより、分野を問わない利用者への対応力が向上している。

（ウ） 認知症型通所介護の一部を個別対応が可能となる環境に改修し、利用者個々の心身状態に応じた支援に努めた。

（エ） 宝塚東地区として、具体的な連携強化策を作成するまでには至らず検討を継続する。

（オ） 特定相談支援事業所を開設。また、短期入所での受け入れを行うことができた。

３．専門職の人材育成と人員の確保と効果的な配置、定着化の推進

（ア） 委員会の体制や役割等を見直したことにより、各責任者が取組みなどを明確にすることができた。

（イ） ラダーを活用した自己評価は行えているが目標参画との連動には至っていない。連動と定着化に向けて改善を図りたい。

（ウ） 人材育成委員会にて各階層に応じたスキル・キャリアアップの仕組みを検討することができた。

（エ） 計画的に職員個々の役割などに応じた研修参加が行えた。

（オ） 一部の部署において、介護周辺業務を確立し職員を配置することができた。今後も拡充を図りたい。

（カ） 有償インターンシップやボランティアの受入れを行い、雇用へと繋げることができた。

４．運営安定化の推進

（ア） 空調設備及び施設内電灯の LED 化工事を行い、省エネルギー化を図ることができた。

（イ） 適宜、外部委託業者と業務調整を行い実情に応じた内容に見直した。

（ウ） 着実な加算算定が行えるよう体制や業務手順などを見直し改善を図った。

５．地域における公益的な取組

（ア） 地域サロンでの相談支援や介護技術講習会、認知症介護教室などの継続的に開催することができた。

（イ） 宝塚市住宅供給公社が所有する団地での福祉相談会や団地周辺における清掃活動に参加。

（ウ） 近隣地区の防災対策検討会に参加し情報共有を図るとともに防災備品の見直しを行った。

【数値指標】

高齢者入居・短期入居・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護 通常規模型	通所介護 予防型	通所介護 認知症対応
利用者定員	108名	12名	47名		12名
利用延数	38,425名	4,254名	7,741名	1,241名	1,547名
一日平均利用者数	105.3名	12名	25.1名	4名	5名
稼動率（％）	97.5%	97.1%	61.9%		41.7%
稼動延日数	365日	365日	309日		309日
平均介護度	4.1	2.8	2	0.4	3.5
単価（一人一日）	14,552円	12,766円	10,229円		14,973円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	561,154千円	59,887千円	91,878千円		23,163千円
職員数（常勤換算）	74.8名	11.9名	20.6名		5.2名

	地域包括支援事業 （花屋敷地域包括支援センター）		障害者相談支援事業 （聖隷はぐくみ花屋敷）	
宝塚市受託収入（千円）	30,880千円			
年間請求件数	予防ﾌﾟﾗﾝ 請求件数	3,328件	170件	
	予防ﾌﾟﾗﾝ 委託件数	958件		
平均単価	予防ﾌﾟﾗﾝ 単価（円）	4,780円	17,567円	
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	47,871千円		2,986千円	
職員数（常勤換算）	9.6名		0.2名	

ケアハウス花屋敷

2017 年度は、ケアハウスにとって経営的に苦しい年であった。二人部屋の入居希望者が少ない中、二人部屋が 2 部屋空き、結果、入居率は平均 97.8%となり、予算を下回る収入となった。元々二人部屋は待機者が少ないため、地域周辺の入居施設の状況等から判断しても、個室を増やし、待機者に速やかに入居案内できる事が最上案と判断し、二人部屋 3 室を個室に変更することを決定した。

また、施設を広く知ってもらいたいと考え、園ブログを作り、ホームページに掲載したところ、園の行事の様子や食事の内容、入居者の様子を垣間見ることができると好評を得、入居に繋がっていると感じている。また、入居者からの口コミ紹介による申し込みも増えており、日常の食事の質へのこだわりや職員の心ある対応の成果だと評価している。とはいえ、アセスメント力強化については、まだ取り組み半ばであり、今後も計画的にすすめていく。

1.楽しみながら健康維持・増進を図る（認知症予防を意識した仕組みづくり）

（ア）毎朝のラジオ体操は継続し、新規入居者をはじめ参加者が増えた。毎週水曜日には、健康体操に組み合わせて認知症予防レクリエーション、歌声サロン等を実施。せいれいの里の取り組みである認知症予防ゲームにも定期的に入居者が参加し、楽しみながら心身の健康維持増進が図れた。

（イ）中庭の畑を拡張し、入居者と共に野菜を栽培、収穫したものを食事として提供し喜こんでいただけた。秋には、入居者と一緒に準備をし、焼き芋を焼いて、日頃お世話になっているボランティアの方にふるまうことができた。

2.必要な情報を的確に収集する力、アセスメント力の向上を図る

毎日午後のショートミーティングで、入居者の変化や対応について話し合い、原因の追求、課題を明確にし、具体的な支援に結びつけるよう意識して実施した。自立した生活を継続するために必要な支援の提供と終了を行うことができた。生き方や死生観等を含めた情報収集するための書式作成については、年度内に行うことができなかった。

3.職員の育成、対応力強化

認知症実践者研修には参加できなかった。

4．美味しい食事を提供するための、今後の食事運営についての検討

せいれいの里として全体の食事運営について協力できる体制を構築した結果、改善点を捉えることができ食事サービスの基本ルールの再設定等に取り組んだ。次年度も引き続き実施予定。私たちが生きるうえで最も大切な「食事」について考える機会を持ち、利用者にとって必要な栄養と食事の楽しみを皆で考えていく。「食」が与える影響は身体だけではないと考える。

５．運営の安定化の推進

（ア）2017 度は二人部屋が全室埋まらず、入居率は平均 98%を割り、収入は予算を下回る結果となった。二人部屋入居希望の減少は今後も同様に続くと判断し、3 室を個室に変更することを決定。2018 年度早々に改修工事を行うこととなった。

（ウ）ホームページにケアハウス花屋敷ブログを作り、園の行事などを中心に発信。入居者の様子やどんな食事が出ているのかなどが分かると好評を得ている。

（エ）花屋敷栄光園や地域包括支援センターと連携し、地域のサロンに赴いて説明会を実施し、待機者は 60 名程度を維持している。

（オ）1 月に照明の LED 化工事を実施したが、まだ結果を評価するまでには至っていない。

６．地域における公益的な取組

（ア）地域サロンでの相談支援や介護技術講習、認知症予防レクリエーションなどを行った。

（イ）「宝塚安倉あんしんステーション」の継続。地域の小学生と親御さんに来てもらい、高齢者とふれ合う機会を設け、子どもたちとの触れ合いの場を提供できた。

（ウ）施設内の防災・防犯対策を整備するとともに、福祉避難所として地域と合同防災訓練を実施した。

【数値実績】

入居者状況（2018 年 3 月 31 日現在）

（ア）年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	17	97	68	82.5
女性	79	99	68	86.7
合計	96	99	68	平均　(85.9)

（イ）介護度内訳（名）

要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
18	18	8	0	1	1	0	46

（ウ）入居前居住地（名）

宝塚市	49	市外（他府県込）	50

定員（名）	100
稼働率（%）	98
単価（一人一日：円）	4,260
サービス活動収益計（千円）	152,118
職員数（名）	13.8

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

訪問看護ステーション宝塚
聖隷ケアプランセンター宝塚
逆瀬川地域包括支援センター

2017 年度の宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）の運営は、3 事業所とも予算に通りに推移し経営が安定していた。

経営面だけでなく地域や利用者一人ひとりのニーズに答えるために、事業所間の連携強化に向けて力を入れた。また職員の知識・技術の向上を目的に研修会を継続して実施している。

１．認知症ケア、ターミナルケアの分野におけるサービスの質を向上させる

（ア）認知症に関するケアマニュアルを作成する。事例検討会や研修会を企画開催する

①認知症ケアのマニュアルの完成には至っていないが、認知症を含む非がんのターミナルケアのマニュアルは完成した。また法人内の居宅を対象にエンドオブライフケアを 2 回実施した。

②居宅では認知症と薬をテーマとした勉強会を開催した。

（イ）看取りに関する事例検討、研修を企画開催する。外部研修に職員を積極的に派遣する

①自宅での看取りのケースではなく、施設での看取りを実践したケースでカンファレンスを企画、開催した。今後も他職種で支えるターミナルケアの質を確保するために、訪問看護ステーションが核となっていく必要がある。

２．地域包括ケアを推進する。逆瀬川地域包括支援センターの活動へ積極的に協力参加する

（ア）地域ケア会議の開催を通じ、認知症や地域に関する課題、ニーズを分析、明確化する

①地域ケア会議については、地域に関する課題･ニーズの分析に活用できる積み上げができず、ケアマネジャー・サービス事業所に対しての啓発から行う必要がある。

（イ）地域包括ケアの勉強会を開催し、訪問看護やケアプランは積極的に協力、参加する

①多職種連携の勉強会が市主導の 1 回に留まり、協力・参加には至らなかった。

３．地域における公益的な取組

（ア）地域から期待される活動、役割の分析、実行を目的とした定例の会議を持つ

①2017 年度も社協地区センターと小学校区ごとの地域課題と課題解決に向けた目標を共有し、コミュニティや地域活動者の会議・学習会に参加した。準備の段階や終了後も、核となる住民と準備会議・評価会議を持ち、課題解決に向けて話し合いを積み上げていくことができた。

（イ）聖隷デイサービスセンター結いを中心とした地域活動等に積極的に参画し実行する

①地域住民・社会福祉協議会・民間企業・聖隷デイサービスセンター結い・逆瀬川包括支援センター共催で、食事と昔遊びを通じた多世代交流イベントを開催した。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
医療	53 人	418 件	5,013 件	10,213 円	136,439 千円	17.6 名
介護	131 人	767 件	9,206 件	8,330 円		
予防	25 人	74 件	886 件	8,524 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,307 件	463 件	17,435 円	4,008 円	2,617 件	4590 円	70,577 千円	14.2 名

【数値実績】

地域包括支援センター事業〈逆瀬川地域包括支援センター〉

年間請求件数		平均単価(円)		ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
4,506 件	3,128 件	5,100 円	610 円	69,965 千円	12.6 名

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター
聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

2017 年度、宝塚第二地区在宅複合事業の運営は不安定であった。人員の確保や、利用者増に結び付くアピールの不足が要因として挙げられる。しかし聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹に関しては、利用者や家族、支援事業所との関係構築が評価され、安定した運営ができている。

１．人材の確保・育成の推進
（ア）正職員の異動、休職、退職による職員の入れ替わりで、育成が追い付かず、職員対象の指導に重点を置いた為、他機関への介護教室の開催が未実施となった
（イ）中堅研修や、リーダーシップ研修へ参加することができた。
（ウ）サービス提供責任者研修や、認知症実践者研修へ参加することができた。また喀痰研修にて資格を 4 名取得、同行援護従事者研修にて資格を 3 名取得し、医療依存の利用者への柔軟な対応が可能となり、制度改定後の同行援護にも支障なく対応ができている。
（エ）全職員を対象とした研修会の開催や、スキルアップの研修も開催することができた。
２．利用者の幅広いニーズに対応する
（ア）認知症の軽度者から重度者まで利用者を断る事なく、受け入れを実施できた。
（イ）日常生活総合事業への柔軟な対応を行うことができている。
３．地域における公益的な取組
（ア）自治会等の地域の開催する会議への出席することはできなかったが、聖隷ケアセンター宝塚の会議室を開放して、地域主催の会議を実施することができた。
（イ）宝塚市が推奨している、いきいき百歳体操の開催場所として、聖隷ケアセンター宝塚の会議室を開放できている。
（ウ）地域の意見を取り入れる場として、運営推進会議を継続的に実施できている。

【数値実績】

	聖隷ヘルパーステーション宝塚		聖隷逆瀬川デイサービスセンター		聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	
	介護	予防・総合	介護	予防・総合	介護	予防・総合
利用者定員			40 名		12 名	
利用者延べ数	13,771 名	1,012 名	5,091 名	1.790 名	2,589 名	0 名
稼動延日数	365 日		309 日		309 日	
一日平均利用者数	37.7 名	2.8 名	16.5 名	5.8 名	8.4 名	0 名
稼働率			56%		70%	
単価（1 人 1 日当り）	11,188 円		10,694 円		14,577 円	
サービス活動収益	102,152 千円		76,793 千円		37,697 千円	
職員数（常勤換算）	19.3 名		11.4 名		7.2 名	

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸

24 時間 365 日地域の利用者の生活を支える安心・安全なサービスを目指し、訪問看護事業の拡大や複合事業化を目指している。地域の特色として精神科の利用者の増加、従来の難病利用者の多さにより、障がい領域の複合型の準備として相談支援専門員の資格を 1 名取得した。また地域への発信力を強めるために、地域包括ケア推進協議会実行委員やネットワーク会議の代表を通し、北区 24 か所の訪問看護ステーションの中で聖隷の存在感をアピールできた。
いままで苦労していた訪問看護師の確保が、2017 年度は採用が進み、人員体制が充実していった。この機会に新たな事業を開設、共生型サービスに繋げていきたい。

１．2017 年度 事業計画・予算の達成度

当ステーションが特色として重視している精神疾患の利用者に対しては、近隣の病院・クリニック・支援センターとの連携も取れ、利用者数は増加している。神戸看護大学の精神事例検討会に定期的に参加し、困難事例のスーパーバイズも受けることができた。しかし癌や高齢者の看取りに対して 2017 年度の在宅看取りは 6 例で 10 件達成できず、機能強化算定には及ばなかった。

ケアプランセンターが 3 月より特定事業所加算Ⅲを取得でき、収支安定の方向である。訪問看護と居宅介護支援と共に人員が増え、人件費は増えている。

２．地域における公益的な取組

（ア）神戸市看護大学生実習の受け入れを行った。
（イ）神戸市看護大学より臨床教授と臨床講師の任命を受け、大学の教授会に参加した。
（ウ）介護保険認定審査会に審査員として 2 名参加した。
（エ）地域の活動として北区包括ケア推進協議会に実行委員として参加した。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
118 人	770 件	9,240 件	9,461 円	86,792 千円	12.4 名

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
790 件	593 件	13,127 円	3,659 円	－	－	12,499 千円	3.4 名

宝塚第５地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション山本
聖隷ケアプランセンター花屋敷

【事業・運営計画】

１．職員全員が自身を成長するための個人目標を１つ以上達成できる

訪問看護ステーションでは、職員体制が不安定な一年となったため、目標参画面談や・ラダーの評価などに十分な時間を割くことができなかったが、職員個々が設定した目標に対し、１つ以上の達成はできた。

ケアプランセンターでは、目標参画や面談の場において支援の客観的評価を行うことができたが、日々の業務の中での自己評価を行うまでには至らなかった。ラダーを浸透させるための方策として、業務内の事例検討の場でもラダーを活用するなどの取り組みが必要である。

多問題事例に対する対応力の向上については、個別ケース会議・事例検討会・外部研修などの取り組みを計画的に実施することができた。

２．収支のバランスを整え、事業を安定する

訪問看護ステーションでは、急な退職や傷病による休職など職員体制が安定せず、訪問件数を伸ばすことができず、結果、予算達成はできなかった。

ケアプランセンターでは、利用者件数の増加により予算達成はできたが、安定経営までには至らなかった。

時間管理については、職員個々への意識づけは進んでいるが、成果として業務の効率化や残業時間の減少までには至らなかった。

３．宝塚東地区における聖隷事業所の連携を強化する

宝塚東地区運営会議を通じて、新規事業や事業の集約などについて検討を続けたが、構想を具現化するまでには至らなかった。2018 年度も引き続き、看護小規模多機能型居宅介護事業所・訪問介護事業所の開設や事業拠点の集約に向けての検討を続けていく。

障害事業との連携に関しては、さざんか福祉会との会議体の立ち上げや宝塚育成事業所のケース検討会への参加など、他機関との連携を深めることができた。

【数値指標】

聖隷訪問看護ステーション山本

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
医療	28 人	207 件	2,487 件	10,179 円	81,217 千円	9.8 名
介護	81 人	500 件	6,008 件	8,799 円		
予防	9 人	25 件	300 件	8,799 円		

聖隷ケアプランセンター花屋敷

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査年間件数	年間調査単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	－	－	58,495 千円	9.25 名
3,311 件	399 件	17,195 円	4,000 円				

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

中重度、認知症状の高い利用者が住み慣れた地域で最期まで生活が送れる事ができるように、利用者個々の多様なニーズに柔軟に対応する事で、安心して通えるデイサービスセンターとしての期待に応える事ができた。地域への介護技術勉強会や施設の一部開放など地域との交流の場としての役割も充分に発揮できた。

1．「最高のサービス」の提供

（ア）施設老朽化に伴う設備改修。

① 設備不良による直接的なサービスの質低下を防ぐ為に、特浴槽の買い換え・静養室の整備、軽微な補修も適宜実施した。

（イ）利用者の状態や変化に素早く対応し、連携事業所と情報共有する。

① 電子記録の活用で各連携事業所と連携し情報共有ができた。

（ウ）職員教育

① 各職員が目指すキャリアアップの為に、聖隷の内部研修や外部研修への参加を行いキャリア支援ができた。

2．運営の安定化の推進

（ア）中重度・認知症利用者を柔軟に受け入れできる体制を構築する。

① 働き手のニーズに合わせた短時間パート職員の採用で人員体制の維持ができた。

② 柔軟な受け入れ体制で稼働率 80%は維持できたが、12 月～2 月にインフルエンザ感染の利用者が例年になく多数おられ利用実績の減少に繋がった為、2018 年度は早い段階で感染症予防の啓発に取り組む。

（イ）チームケアを推進し、ケアの質を向上する。

① 月に 1 回の介護技術向上の勉強会の実施と新入職員用の教育マニュアルの見直しを行い、職場にて OJT を充実させる事で新入職員の育成とチームケアの向上が図れた。

② 職種毎に小分けした、リーダーが中心となり「利用者ニーズ、職員がやりたい事」をチームで共有しボトムアップによる提案・実践・実現ができる職場体制を整えた。

3．地域における公益的な取組

（ア）認知症利用者を支える家族の不安や悩み解消の為、家族介護者交流会の開催、地域の要望に応え、介護技術講習会・地域住民との交流会を実施する事ができた。

（イ）宝塚市自立支援配食は、市の事業縮小方針により委託契約終了する事となった。

【数値実績】大規模通所介護Ⅰ　利用定員 40 人（介護・予防を一体的に運営）

介護給付			予防給付		単価(円)		ｻｰﾋﾞｽ	職員数
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）	活動収益 （千円）	（常勤 換算）
30 人	753 人	9,030 人	6,3 人	75 人	12,500 円	6,600 円	125,478 千円	21,0 名

聖隷デイサービスセンター結い

2017 年度は 2018 年度介護報酬改定に向け、サービスをどのように展開していくかを検討し、サービス提供時間の見直しや入浴サービスの終了など運営の変更を行った。介護予防、認知症予防の視点をプログラム強化することで、要支援の利用者が増加した。要支援利用者については 2018 年度以降、総合事業となるが継続して利用できるよう今後も受け入れていく。地域に向けた取り組みについては、他福祉機関や地域住民と協力し具体的な取り組みを実施することもできた。

【事業・運営計画】

１．介護予防給付の見直しに合わせ、制度の将来像を見据えたサービス内容へ運営変更していく。

（ア）要支援利用者の受け入れを継続できるように、サービス提供時間を変更した。

（イ）介護予防・認知症予防を主軸とした機能訓練内容を、セラピストと協同し見直しを図った。

①2017 年 4 月よりサービス提供時間を変更し短時間プログラムに再編した。
その結果、新規利用件数が 2016 年度比 200%と実績があがった。

②介護予防・認知症予防プログラムを新たに開始、要支援利用者の年間推移 30%増と好評を得た。

（ウ）要介護認定を受けていない高齢者への保険外サービスを検討した。

①デイサービス無料開放を実施したが利用実績が伸びず、継続性なく単発で終わった。
これは、地域高齢者のニーズ掘り下げができていなかったことが原因と考えられる。

２．今後も事業を継続するために、経営の黒字化を図る。

（ア）利用比率は要介護 4 割：要支援 6 割、稼働率 75%以上を損益分岐点とし利用者獲得を図った。

（イ）人員配置・勤務時間等を見直し、人件費率を 60%～65%までに抑えた。

（ウ）書類の改訂、PC 関連業務の変更で業務の効率化を図った。

①稼働率は上半期 56%、下半期 72%の実績で予算未達に終わる。
しかし、下半期については上半期に比べ実績があがり、予算に近い実績となった。

②コスト管理、業務効率化は計画通り実施できた。

３．地域住民との交流を深め、デイサービスとして地域に向けて発信できるサービスを開拓する。

（ア）認知症予防・介護予防(運動)を通じ、地域における役割・活動を自治会と協議を行った。

①地域包括支援センター･社会福祉協議会･自治会と協同し、地域活性化イベントを開催した。
次年度以降も発展させるべく、協議を続けている。

４．地域における公益的な取組

（ア）独立行政法人都市再生機構と共同し、介護予防教室・認知症予防教室を開催した。

①地域コミュニティ会議に参加し、機能訓練内容の紹介と介護予防体操を実施した。

【数値実績】

介護	平均利用者数	月件数	年件数	単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
	9.0 人	232 件	2,782 件	6,235 円	44,468 千円	8.6 名
予防	平均利用者数	月件数	年件数	単価(円)		
	13.5 人	79 件	932 件	29,000 円		

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2017 年度は 10 月に所長の交代があり、業務の見直しを行い、職員協力体制のもと予算を達成する事ができた。住宅改修工事は安定して依頼を頂き、かつ兵庫県助成工事も増えた事が大きな要因である。しかし福祉用具貸与は件数こそ目標達成できたが価格競争も更に厳しくなり、単価が下がり売上も下がっている。

2018 年度は介護保険制度改正により福祉用具貸与の書類が増える事や、貸与価格の更なる競争を促す様なネガティブな施策が実施される。業界の動向を見極めながら、介護保険に依存しない新しいサービスを模索し実践していく必要がある。

【事業・運営計画の振返り】

１．聖隷各事業所との連携強化と、他法人居宅介護支援事業所への営業活動の強化

（ア） 営業ツールの作成は実施できなかったが、「販売の強化」を掲げ職員向けの商品提案や個人向けの電動ベッド販売など「足掛かり」となる取組が行えた。

（イ） 営業のエリア担当制を行いケアマネージャーとの関係を強化できた職員と、反対にうまく構築できず件数が減ってしまう状況も発生した。スキルの底上げが必要である。

（ウ） 障害者給付での日常生活用具、補装具の販売強化への取り組みは未実施であった。2018 年度は障害者相談支援事業所の開設を売り上げにつなげられる様取り組む。

２．有償サービス（施設レンタルサービス）の拡大

（ア）宝塚栄光園への車椅子セットレンタルを行ってきたが、施設側が予測していた効果が得られなかったため終了となった。

（イ）上記を踏まえ他法人施設への営業の見直しを行った。

３．職場全体のフォロー体制の確立と商品知識のスキルアップ

（ア）内勤職員のローテーションは職員の異動もあり実施できなかった。

（イ）外部研修は各職員で必要な研修に参加し報告書の作成及び営業会議にて共有を行った。

４．地域における公益的な取組

宝塚安倉あんしんステーションにおける地域住民を対象とした福祉用具、住宅改修の相談を聖隷の他事業所と共に実施した。

【数値実績】

レンタル件数（件）	介護保険収益（千円）	販売収益（千円）	住宅改修（千円）	サービス活動収益（千円）
9,411	105,457	54,718	34,158	194,333

聖隷カーネーションホーム

2017 年度は、地域ニーズに応じて開設した認知症対応型デイサービス「デイサービスセンターうっとこ」や障害者相談支援事業所「聖隷はぐくみ」、障害者ショートステイの定着を図り、施設の機能や役割を更に拡大することを目指した一年間であった。特に「デイサービスセンターうっとこ」では「認知症 Café うっとこ」を定期開催し、地域における認知度の向上に取り組んだ結果、2016 年度以上の高稼働を維持できた。一方、特別養護老人ホームでは異常の早期発見、対応を意識し日々のケアをメンテナンスし続けることで、重篤事故の発生防止や看取り介護の促進ができ、利用者・家族等の満足度の向上に繋がった。

また、地域の介護力向上を目指す活動として「体験型介護講座」、「認知症サポーター養成講座」、「介護職員初任者研修」等を 2016 年度に引き続き開講するとともに、介護のプロフェッショナルでなくとも働ける「ケアサポーター」として、主婦・高齢者層の雇用を積極的に実施し、介護・福祉の働き手の創出に努めた。併せて、記録システムを導入し、業務の省力化を図った。

2018 年度は、在宅サービス事業所等外部機関との意図的・効果的な連携を行い、施設機能のさらなる拡大を図ることで、より多様なニーズに対応し得る施設となれるように努めていく。

1.「選択され続ける」サービスの提供

（ア）家族会やアンケート、運営推進会議等にて現行サービスを適時評価し、改善を実施。

（イ）軽微な事故を意識することで、介護者が原因となる事故発生を軽減。
入院等に伴う空床を抑制できた。

（ウ）福祉体験他、地域住民向け講座開催は他法人とも連携し、計画的に実施。

2.「安心して地域で暮らし続けられる」取り組みの継続、新たな福祉サービスの創造と定着

（ア）障害者ショートステイにて新たな関連機関と連携を図り、利用者の受け入れを実施。

（イ）新たに取り組みたい事業（高齢者・障害者）について、都度、淡路市担当部署へ提案。

（ウ）ヘルパー事業所、他法人施設等と連携を図り、対応力の強化、利用者確保を実施。

3.法人の垣根を越えたヘルスケアネットワークの構築、地域総合力の強化

（ア）聖隷淡路病院等との連携を図り、ワンストップサービスを意識した相談を実施。

（イ）地域ケア会議等への参加を通し、他機関と情報共有し、情報停滞に伴うロスを改善。

（ウ）高齢者のみならず障害者も利用可能な展開を検討し、ネットワークの構築を図った。

4.省力化による生産性、効率化の向上、並びに人材開拓・確保・育成の徹底

（ア）「体験型介護講座」を他法人と共同開催。「介護職員初任者研修」の開講（2 年目）。

（イ）記録システムの導入を開始し、記録業務の省力化を図る。
また、業務の切り分けを行い、デイサービスを中心にケアサポーターの雇用を促進。

（ウ）喀痰吸引等研修 2 名修了、介護職員実務者研修 1 名及び初任者研修 5 人受講。

５.地域における公益的な取組

（ア）関西看護医療大学「領域別看護実習」受け入れ（7名・計8日間）

（イ）兵庫県社会福祉協議会「介護等体験事業」受け入れ（5名・計25日間）

（ウ）「体験型介護講座」開催（延23名・計6日間）、「認知症サポーター養成講座」開催（延１１８名・計３日間）、「認知症Cafe」開催（約75名・計4回）

（エ）淡路市立東浦中学校「福祉活動」受け入れ（11団体・計18日間）

６.運営安定化の促進

（ア）関連加算は適切に算定。利用者状況に応じ、適時、業務改善を実施。

（イ）適時、価格等を評価し、購入ルートや委託契約等の見直しを実施。

（ウ）利用者ニーズと収益状況に合わせ、計画的に備品購入、設備改修を実施。

【数値実績】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	聖隷カーネーションホーム		デイサービスセンター		
	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	介護予防	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	30名	（30名）	12名
利用者延数	19,305名	5,384名	6,000名	435名	3,020名
一日平均利用者数	52.9名	14.7名	19.3名	1.4名	8.2名
稼働率（%）	97.9%	92.2%	69.2%		68.9%
稼働延日数	365日	365日	310日		365日
単価（一人一日）	11,387円	11,103円	8,947円		11,930円
サービス活動収益	219,828千円	59,780千円	57,574千円		36,029千円
職員数（常勤換算）	28.9名	7.4名	9.4名		6.1名

在宅介護支援事業（聖隷在宅介護支援センター淡路）

サービス活動収益	職員数（常勤換算）
7,254千円	1.2名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

介護給付 年間請求件数	予防給付 年間請求件数	訪問調査 年間件数	サービス活動 収益	職員数 （常勤換算）
1,836件	285件	51件	30,215千円	4.8名

障害者相談支援事業（聖隷はぐくみ）

障害者 年間請求件数	障害児 年間請求件数	サービス活動 収益	職員数 （常勤換算）
13件	8件	326千円	1.0名

淡路栄光園

2017 年度は、看取りや医療ケア、リスクの軽減に努めることできた。淡路栄光園の利用者に安全と安心だけでなく、利用してよかったという満足感を得てもらう取り組みにも成功したが、一方で課題も多く残る。例えば看取りや医療ケアで数字的な成果はあったものの、質の面で本当に本人や家族に満足を得てもらえるものになっているかなど、分析や改善という意味で更なる向上を目指してきたい。安定して利用者にサービス提供ができるよう経営面の強化を重視し、入所サービスに関しては、事故や入院者の減少、新たな地域や分野でのニーズの発掘などにより実績に結びつくことができた。一方で通所介護の利用者の減少が下半期に進行し、期待された結果に至らなかった点に課題が残る。開設 18 年を迎えた淡路栄光園では、設備面の改善も多く生じており、2017 年度はオゾン発生装置や冷暖房などの空調の整備に努めることができたが、電気、水道など基本的な設備に関しても、計画性をもって修繕を進めていく必要がある。今後も利用者や地域から選ばれ、満足を提供できるサービスになるべく、地域ニーズに応え、それに合わせて、自分たちのサービスも変化させていかなければいけない。

１.「人財育成」を軸とした質の高いサービスを提供する

（ア）事故防止、医療ケア強化など淡路栄光園の目標に沿い、個人目標を設定することができた。

（イ）「園内全体での感染予防活動」や「実践的な職員研修」を実施し、園内において感染症を抑えることできた。「各フロアでの業務分析と改善」、「危険予知研修」などに取り組み、転倒骨折による行政報告案件の減少につながった。

（ウ）看取りや医療ケアへの取り組みを通じ、家族への配慮や説明力の向上にもつながった。

（エ）利用者の食の安全と質に直結する「酵素を使った刻み食」について、2016 年度は行事食のみの提供であったが、2017 年度より毎日の食事に導入することができた。

（オ）「介護職員等による痰の吸引等の実施のための研修」「医療ケアに関する園内研修」等を通じ職員の育成に努め、結果として園内での看取り割合の増加、体調不良による入院者の減少につながった。

（カ）介護福祉士試験合格者１名あり。

（キ）通所介護では、利用者の個々の特性を生かしたレクリエーション、作品作りに取り組み、地域の行事にて発表するなど利用者の生きがいや楽しみ、地域での場づくりに貢献できた。また、通所介護が窓口となり、新たに 5 団体のボランティアの受け入れができた。

２．施設経営の安定化

（ア）入院者へのアプローチを、他職種で実施し、医療機関との密な連携により「安全安心かつ早期の退院」を図ることで、一人あたりの平均入院日数の減少につながった。

（イ）「広域的な利用希望者の受け入れ」に努め、市外からの利用者の増加の実績につながった。

（ウ）精神科病院との連携強化を図り、退院困難者を受け入れることができた。

（エ）聖隷カーネーションホームと共同開催する「介護初任者研修」に受講者を出し、資格の取得ができた。

（オ）2018 年度の介護保険法改正に向けた加算情報の共有、体制づくりに取り組むことができた。
（カ）オゾン発生装置の冷暖房機器の修繕による園内の空気環境の清浄化を図ることできた。

３．淡路地区における事業連携強化
（ア）淡路地区の連携を目的とした会議にて、地域に求められるサービスの検討と実践に努めた。
（イ）淡路地区聖隷福祉学会の事務局を担当し、人事交流や各施設の取り組みの周知を図った。
（ウ）地域においては民生委員協議会、地域ケア会議などに毎月参加し、地域における課題の検討、解決の協力に努めることができた。

４．将来計画への取組
（ア）2018 年度の介護保険法改正に伴う家族説明会の実施、新たなサービス向上に向けた加算の取得への体制づくりを行うことができた。
（イ）通所介護は移転予定地等候補の絞り込みに至ったが、具体的な移転計画に到達していない。

５．地域における公益的な取組
（ア）「体験型介護講座」及び「認知症予防講座」を他法人と共同開催した。
（イ）地域サポート型特別養護老人ホームとして、地域の高齢者の 24 時間見守り、定期の安否確認は訪問事業を実施できた。生きがい対応型サービスを継続実施し、介護保険外で通所介護を必要とする利用者の場づくりができた。

【数値実績】
特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	淡路栄光園		デイサービスセンター	
	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	介護予防
利用者定員	60 名	17 名	35 名	
利用者延数	21,615 人	5,857 人	5,813 人	946 人
一日平均利用者数	59.2 人	16 人	18.8 人	3.1 人
稼働率（%）	98.7%	94.1%	―	
稼働延日数	365 日	365 日	336 日	
単価（一人一日）	11,355 円	11,446 円	8,515 円	
サービス活動収益	245,604 千円	67,182 千円	57,926 千円	
職員数（常勤換算）	35.8 名	7.9 名	12.5 名	

淡路地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二

2017 年度、人材を確保し利用者に応じた柔軟な訪問看護を実施した結果、医療保険介護保険共に大幅な収益増が図れた。又、ニーズの高いターミナルケアに積極的な取り組みを行ったことで、機能強化型訪問看護療養費を算定することができた。

1.訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

（ア）丁寧で質の高い効果的なケア実践

訪問看護の質向上を図る為、研修計画に基づいた専門研修を受講し、伝達講習を実施した。
又、カンファレンスで定期的な検証を行いケアの統一化を図った。

（イ）24 時間 365 日体制・土日祝日体制の強化

パート職員を含めた祝日訪問体制とし、24 時間 365 日対応を充実させた。

（ウ）訪問リハビリテーションの充実

訪問リハビリテーション技術の検証と向上を図る為、教育マニュアルを作成し使用した。

（エ）医療保険対象者の確保（退院時・末期・難病・精神等）

医療機関や健康福祉事務所等との連携が図れ、難病や精神の利用者も増加した。

（オ）地域貢献活動の推進

多職種学習会・講演会・看取りのカンファレンスを実施。教育機関への医療的ケア児訪問の実施。看護大学、専門学校実習生等の受け入れ。グループホームへの医療連携訪問実施。

2.居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

（ア）エリア拡大

洲本市の利用者対応や、居宅介護支援事業所会議・研修会に参加し関係機関が拡大した。

（イ）他事業所との連携、迅速なサービス調整と適切なプラン提供

早期介入が必要なケースは、暫定プランで関わり訪問看護と積極的に協働した。
介護予防支援にも積極的に取り組むことができた。

【数値実績】

聖隷訪問看護ステーション淡路

訪問件数	予算	実績	前年比	サービス活動収益	職員数
医療事業	4,030 件	3,702 件	108.9%	38,610 千円	20.8 名
介護事業	10,540 件	12,330 件	120.0%	92,582 千円	（常勤換算）

聖隷ケアプランセンター淡路第二

請求件数	予算	実績	調査件数	サービス活動収益	職員数
介護給付	347 件	328 件	20 件	4,489 千円	1.2 名
予防給付	42 件	76 件			（常勤換算）

聖隷ヘルパーステーション淡路

2017 年度、当事業所は淡路市「介護予防・日常生活支援事業」の開始に伴い、予防の新規利用者が激減した。又、入院継続や施設入所者が多い地域である為、中重度者の在宅生活が減少している等の理由で、介護給付が増加せず経営は厳しい状況となった。しかし、モニタリングの徹底やカンファレンスの実施、統一したケアの充実を図り利用者満足度は向上させることができた。ウインケアの導入に関しては、当初戸惑いのあった職員もスタッフ間の協力体制で使用可能となり活用できている。今後も、早朝・夕方訪問に対応できる職員の確保や医療的ケアができる職員の育成を行い、地域ニーズに対応していきたい。

１．職員の計画的な育成、活気ある職場づくりの推進

（ア）係活動ではリスク委員がリスクマネジメント研修に主体的に参加し、2017 年度のリスク発生統計を作成、インシデント・アクシデントの傾向を把握することができた。

（イ）介護テクニカルラダーをフルパート職員 5 名にも実施できた。

（ウ）資格取得を推奨し、同行援護研修に 5 名参加できた。

２．運営の安定化の推進

（ア）職員全員で訪問調整を実施し、効率的で効果的は稼働を積極的に行った。

（イ）利用者満足度の向上を目指す取り組みを行った結果、利用者アンケートで 83%の利用者から満足しているとの回答が得られた。

（ウ）「介護予防・日常生活支援総合事業」開始後、有償サービスの依頼が増加した。対応困難な内容や人材不足時は、エリア内事業所からの応援をいただくことができた。今後は、資格を持たないサポーター等の人材を確保し、保険外サービスの充実を図る必要がある。

3. 地域貢献活動の継続、推進

（ア）地域行事のボランティア参加等

【数値実績】

訪問件数	予算	実績	予算比	前年比	サービス活動収益
介護給付	14,720 件	13,740 件	93.3%	100.8%	47,195 千円
予防給付	3,380 件	3,356 件	99.3%	84.8%	8,629 千円
自立支援	5,115 件	5,201 件	102.3%	103.3%	21,740 千円
移動支援	1,122 件	1,178 件	105.0%	131.3%	2,494 千円

岩屋認定こども園

2017 年度は公私連携型幼保連携型認定こども園として、4 月から聖隷福祉事業団による運営がスタートし、職員は新職場の人がほとんどで、子ども・保護者・地域・職員同士を知ることから始まった。保育においては、保育観の違いから生じた問題や課題解決のために、園目標や組織体制を整え、今後のこども園の安定した運営に向け、また、2018 年度以降の夢舞台でのスムーズな移転に繋がるよう職員が一丸となる 1 年を目指した。

また、岩屋認定こども園が地域の中で求められている期待は大きく、それに応えるべく、公立時代より継承すべき他機関･団体との繋がりや事業を同じように継続することに努めた。

１．入所状況

4 月に新入園児 28 名を迎え、0 歳児 1 名、1 歳児 8 名、2 歳児 15 名、3 歳児 24 名、4 歳児 29 名、5 歳児 29 名、合計 106 名でのスタートであった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

(ア)保育内容

① 統合保育の実践

障がい児 3 名（障害者手帳 2 名・療育手帳 1 名)、発達が気になる児：5 歳児 7 名、4 歳児 6 名、3 歳児 6 名、2 歳児 1 名、1 歳児 2 名（市の巡回相談にかかっている児）が在籍となった。淡路市の巡回指導、発達心理相談、保健師により発達が気になる子どもの対応について助言・指導を受け、他機関と連携をしながら進めていった。

② 交流

小中学校の運動会に参加、独居老人、看護学校実習生、老人会、婦人会、社会福祉協議会、消費者団体、漁協など、地域との関わりを深める。

(イ)地域ニーズに対応

① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00 の延長保育を利用する児童の数は少ないものの、少人数で家庭的な保育を展開していくことが出来た。

② 一時預かり

年間延べ利用者数 230 名。一時預かり事業への問い合わせが多く、年間を通じて定期的に預かる子と、緊急の受入にも可能な範囲での受入を行う。

(ウ)職員研修

聖隷が主催する「あゆみ合同研修会」「宝塚保育学会」「淡路地区聖隷学会」「聖隷保育学会」に参加。職員の大半が宝塚の保育園に訪問し「聖隷の保育」を見て学ぶ機会を設けていく。自己評価の分析・評価についても行い、今後の課題にも繋がった。

３．地域における公益的な取組

(ア)トライやるウイークでは、地元中学生の職場体験実習の受け入れ、希望する高校生・大学生のボランティアの受け入れを積極的に行った。

(イ)わいわいクラブ(淡路市主催の未就園児を対象とした子育て支援事業)との連携として、こども園の行事に参加を促していくことと、園庭開放日を設け就園の準備を行った。

(ウ)近隣の方々に対して、園の行事への招待や訪問を行った。

(エ)淡路地区の高齢者施設（聖隷カーネーションホーム・淡路栄光園）との交流や訪問を通し、世代間交流の機会を持った。

【数値実績】

①　歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	5	35	2.9
1歳児	8	9	9	11	11	11	11	11	11	11	11	11	125	10.4
2歳児	15	15	15	15	15	16	16	15	16	16	16	16	186	15.5
3歳児	24	25	25	25	25	26	26	26	25	25	25	25	302	25.1
4歳児	29	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	355	29.5
5歳児	29	29	29	29	29	30	30	30	30	30	28	28	351	29.2
合計	106	109	109	112	112	116	116	115	115	115	114	115	1354	112.6

②　保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	1859	2024	2258	2019	1775	2174	2283	2214	2167	1839	1905	2118	24635
保育日	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
日平均	77	84	86	80	68	90	91	92	94	79	82	81	84
一時預り	3	4	38	28	22	33	13	22	15	12	24	16	230
延長保育	36	38	55	34	37	48	38	41	77	50	39	50	543

③　職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/ゾ)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
保育教諭(パ)	2	2	2	3	3	3	5	6	6	6	6	5
保育補助	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	19	19	19	20	20	20	23	24	24	24	24	23

奄美佳南園

特別養護老人ホーム（短期入所）
デイサービス
訪問入浴事業所
就労支援事業所
ホームヘルプ事業所
在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）
春日デイサービス

2017 年度は、就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房カナン」の開設、奄美市生活困窮者事業（一時生活支援）を受託、鹿児島県地域介護基盤整備事業に基づく特養 30 床ユニット化事業の開始に取り組むことができた。また、職員確保及び人材育成への取り組みとして奄美看護福祉専門学校への単独説明会開催による介護職員の採用、また、新卒者及び中途採用者向けの奄美エリア階層別研修（1 年目～2 年目）の実施と定着化に努めた。

特養入所者が医療機関への入院が長期間とならないよう定期的な巡回訪問の実施、衛生管理の徹底や感染症等の蔓延防止に努めた。

一方、自立（自律）した福祉人材の育成や介護・福祉サービスの質の向上及び、業務の見直しによる効率化・機会損失の低減対策は不十分であり、今後も引き続き内部強化に努めていく。

事業面において、高齢者・障害者・障害児の相談支援機能や受付機能の再編並びに「聖隷かがやき」の児童発達支援センター化については、今後も実現に向けた取り組みを継続する。

2018 年度以降も奄美地域における聖隷福祉事業団の事業価値を一層高めることができるよう、年齢や障害の有無にかかわらず途切れることのないサービス提供の実践により、安心して暮らせる地域づくりに貢献する。

【事業実績】

１．利用者満足向上のための取り組みとして

（ア）施設サービスの利用者満足向上において、医療的ケアが必要な利用者の増加やターミナル状態の介護が求められることから、喀痰吸引研修資格取得者を 3 名増員配置した

（イ）介護事故の分析へとつながるヒヤリハットや、接遇・ホスピタリティ向上を目的とした研修等により利用の入院者の減少並びに入院期間の短縮に努めた

２．職員満足向上のための取り組みとして

（ア）相談支援スキルラダーの運用・活用の浸透により専門職の質の向上と安定化に努めた

（イ）自立（自律）した福祉人材育成の為、奄美エリア階層別研修（1 年目～2 年目）の実施と定着化に努めた

３．事業の成長と安定した運営基盤の構築として

（ア）事業の拡大・展開において、就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房カナン」の開設、生活困窮者への一時生活支援事業を受託開始、特養 30 床ユニット化改修により、50 床の従来型と 30 床のユニット型特別養護老人ホームに指定を変更した

（イ）各サービスの稼働率・再利用率の向上のために、営業活動の実施と定期的な評価に努めた。また、長期入院者のフォロー、衛生管理の徹底による感染症蔓延の防止、入所待機上位者の現況把握の取り組みを行った

４．地域における公益的な取り組みとして

（ア）高齢者等の居場所づくり・生き甲斐づくりとして、春日デイサービスセンターを活用した「ゆてぃもれ会」によるに高齢者の孤立予防に努めた

（イ）子どもからお年寄りが共に活動できるよう、週末に地域の自治会と聖隷ケアセンター奄美が、小学校において「四半的弓」の実施継続に取り組むことができた

【数値指標】

	従来型特養	ユニット特養	短期入所	訪問給食	奄美佳南園デイサービス		春日デイサービス	
					一般型	予防	地域	予防
利用者定員（名）	80/50	30	10		20		15	
利用者延べ数（名）	21,556	6,586	3,551	26,187	3,718	199	1,546	1,468
一日平均利用者数（名）	59.02	27.14	9.72	72	10.19	0.55	4.89	4.65
稼働率（%）	96.09	97.31	97.21		50.95	2.75	32.60	31.00
稼動日数（延べ）	365	226	365	364	365		316	
単価（1 人 1 日当り）	11,638	14,536	10,920	670	9,480	5,090	10,501	5,159
サービス活動収益(千円)	250,871	95,731	38,779	16,405	35,245	1,013	16,235	7,573
職員数（常勤換算）	38.88 名	18.35 名	6.60 名	2.50 名	11.33 名		5.60 名	

居宅介護支援事業・在宅介護支援センター

年間請求件数		平均単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）	訪問調査年間件数	職員数（常勤換算）	サービス活動収益（千円）
介護	予防	介護	予防					
748	195	16,595	4,277	13,248	3.00	1,146	1.00	5,953

訪問介護事業

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
19.81	602.67	7,232	3,650	26,395	7.10

訪問入浴事業

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
2.02	53.17	638	14,466	9,229	2.50

就労支援事業（聖隷チャレンジ工房カナン）

	利用者定員	利用者延べ人数	一日平均利用者数	稼動日数（延べ）	単価（円）	サービス活動収益（千円）	請負委託（千円）	職員数（常勤換算）
就労移行	6 名	551	2.05	269	14,711	8,106	6,239	8.00
就労継続	14 名	978	3.64	269	11,395	11,144		

のぞみ園

児童発達支援センター、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、相談支援

2017 年度は、児童発達支援センターとして更なる機能の充実を図るべく、①子どもの発達支援、②保護者の子育て支援、③地域支援の 3 点を柱に「子どもの育ちと保護者の願いに寄り添う施設づくり」「地域と共にある施設づくり」を目指して取り組んだ１年であった。その結果として、相談・見学希望者・通園児は増加し、安定した稼働の維持と経営を行うことができた。また、奄美市の子育て支援・就学支援への参画、奄美市障害福祉計画の策定参画、園独自の親子教室の開催などを通して子育て支援、地域支援にも力を入れ、事業活動以外でも地域との連携強化をはかることができた。一方、人材の雇用や育成、サービスの質の向上、業務負担解消のための効率化と連携強化、長期休暇中の各事業別の受け入れの問題、学童期・思春期の子どもたちの支援体制の構築などの課題は継続してあり、今後も引き続き課題解決に向けた取り組みを行っていく。

そして、奄美エリア各施設と連携し「聖隷かがやき」の児童発達支援センター化への実現に向けた取り組みへの協力と「聖隷チャレンジ工房カナン」へのつながりのある支援を通じて、子どもから高齢者まで各ライフステージに応じた切れ目のない継続性のある支援体制作りを更に進めていきたい。

１．児童発達支援センターとしての機能の充実と経営の安定化を図る

ア）子どもへの発達支援

日々の振り返りから個別の課題を明確にし、支援内容について共通理解を行いながら支援をすることができた。また、学童期においては自立して生活できる力をつけることを目標にした活動を新たに取り入れそれぞれの成長・発達段階に応じた支援を行った。

イ）保護者への支援

保護者懇談会の定期開催、保護者会合同の勉強会の実施、相談支援を中心にしたことにより丁寧なモニタリング・担当者会の実施等により保護者支援に取り組むことができたが、保護者を対象にしたペアレントプログラムの開催ができなかった。

ウ）地域支援

奄美市障害福祉計画・障害児福祉計画の策定参画、奄美市親子教室への保育士派遣、奄美市就学指導委員会への参加などにより、子育て支援や潜在的ニーズ発見につながった。また、自立支援協議会にも積極的に参加し、地域の支援機関との連携強化に取り組むことができた。更に、のぞみ園親子教室の開催などを通じて、地域支援に取り組むことができた。

エ）経営の安定化

療育につながる入口の奄美市親子教室への参加とのぞみ園独自の親子教室開催等により、地域ニーズに応じて通園児の受け入れを行うことができ、安定した経営状態を

維持することができた。更に 2018 年度は、報酬改定に対応した加算取得に取り組む。

２．人材育成と安定した人材確保

児童発達支援管理責任者研修等への職員派遣、春日保育園と合同で職員を対象にしたペアレントプログラムの実施、外部講師研修・奄美エリア階層別研修開催などを行い計画的に職員育成への取り組みを行うことができた。人材確保については、思うような成果が得られなかったが、今後も奄美エリア全体で戦略的かつ継続的に人材確保に向けた取り組みを行っていく。

３．地域交流と地域貢献

のぞみ園独自の親子教室の開催を通して、地域の子育て支援・相談できる場づくりを行うことができた。また、職場体験・研修希望者の受け入れ・夏祭りや成人式の開催などを通じて地域交流・地域貢献に取り組むことができた。災害対策への取り組みとして、備品の整備や避難訓練の開催を行うことができた。

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25 名		20 名		
利用者延べ人数	6,340 名	42 名	4,035 名	31 名	460 名
一日平均利用者	26.31 名	0.17 名	16.67 名	0.13 名	1.90 名
稼働率	105.24%		83.35%		
稼働日数（延べ）	241 日	242 日	242 日	242 日	242 日
単価（一人１日当り）	11,873 円	12,071 円	6,075 円	16,968 円	19,541 円
サービス活動収益	75,277 円	507 円	24,514 円	526 円	8,989 円
職員数	11.8 名	1.0 名	6.5 名		2.7 名

春日保育園

2017年度は、業務の効率化や生産性向上への取組として、記録の電子化や保護者への連絡におけるICT機器を導入し、保護者とのスムーズな情報交換への取り組みを実施した。

また、子育て支援として「親子教室」や「育児講座」を定期的に開催し、保育園内集団での子どもの様子や発達年齢に応じた状況を保護者へ丁寧に伝えることで、保護者との信頼関係を築くことができた。そして、専門機関との連携、療育施設とのつながりにより、個別の発達に合わせた支援を行うこともできた。さらに、家庭内での子育て用ツールがスマートフォン等に偏らないように、図書コーナーの設置と絵本の貸し出しを行い、自宅で親子の読み聞かせを勧めることで、目に見えない心を育むことができるような取り組みができた。

今後も保育士の専門性を高め、質の向上を図り、理念を職員一人ひとりに浸透させ、業務に取り組むこととする。

1．入園状況

2017年度は4月より115名（うち新入児32名受け入れ）でスタートし、年度途中入所は24名、退所が9名となった。0歳児の入所希望が多く3月には0歳児が20名となり全体では129名となった。年間入園率は定員120名に対し107%の入所率であった。

2．保育の質の専門性の向上

（ア）島内にて開催する保育に関する学習会への参加、また定期的に保育・キリスト教保育指針の読み合わせをすることで、保育理念に立ち返り、保育の内容を振り返り深めることができた。

（イ）目標参画の実施や保育ラダーの実践により、職員が自己の課題を明確にし業務に取り組むことができた。

3．統合保育の実施と専門機関との連携

（ア）児童発達支援センターのぞみ園との併行通園児（10名）を積極的な受け入れ、連携を図ることができた。

（イ）のぞみ園の保育所等訪問事業の活用により、個別対応することができた。

（ウ）親子教室の自主開催に保健師との協力連携ができた。

4．地域との連携を根ざした取り組み

地域の保育所やのぞみ園、中学校や高校の職場体験及び看護福祉専門学校、養成校などの実習を積極的に受け入れることができた。

5．食育と環境教育

（ア）野菜や花作りを通して、植物を育てながら実りの収穫体験を実践した。また収穫した野菜を給食室で調理し、普段口にする食物との違いを感じ、食に対する関心の取り組みができた。

（イ）クッキング活動を通して、作業手順、衛生管理などを学び、料理への興味を持つことができる取り組みができた。

6．身体発達の向上

発達状況に合わせたリズム遊びや体操の実践で、身体能力を高め、達成感の増進から意欲の向上へとつながる取り組みができた。

7．地域における公益的な取組

（ア）園庭の開放（随時）、あそびのひろば（月2回）により、地域に在住する親子が利用した。

（イ）実習生やボランティアを積極的に受け入れた。

（ウ）地域の保育所の子どもたちや高校生との交流会により、子どもたちの社会性にも繋げられた。

（エ）広報誌配布（月1回）による活動の報告や行事への参加の呼びかけにより、地域の住民や子ども達への案内ができた。

（オ）春日デイサービスセンターとの交流により、世代を超えた関わりができた。

【経営実積】

①　歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	8	8	11	12	12	13	14	16	18	18	19	20	169
1歳	13	13	13	14	14	14	15	14	13	13	13	13	162
2歳	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	22	22	271
3歳	21	21	21	23	23	23	23	23	23	23	23	23	270
4歳	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	323
5歳	24	24	24	24	24	24	24	24	23	24	24	24	287
計	115	115	118	123	123	124	126	127	127	128	128	128	1482

②　保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	2,272	2,280	2,656	2,472	2,244	2,216	2,417	2,511	2,315	2,234	2,380	2,571
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26
一日平均	91	99	102	99	86	92	97	105	101	97	104	99

③　職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
保育士(パ)	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10
栄養士(正)	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士(パ)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
保育補助(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	27	28	27	26	27	27	27	28	28	28	28	28

聖隷かがやき

2017 年度は、早期療育開始への実施に向けた取り組みを強化し、地域の親子教室や巡回相談に参加することにより、療育開始へとつながる子どもが増え、龍郷町・笠利町における療育施設として定着した。

また、法人内既存施設との連携を強化し、北大島地区に療育が必要な未就学児支援事業所としての存在が位置づけられてきたことにより、龍郷町からの就学支援委員会及び第 6 期障害福祉計画への依頼を受け参加した。

小規模（定員 10 名）であることを活かした親子通園や個別面談等による、保護者の参加機会を定期的に多く持つことにより、子育ての悩みを話せる場の機会づくり・環境づくりを行い、家族にも子どもの成長を感じていただくことができ、定員も満たす程となった。

一方、今後の課題として、龍郷町久場集会場での事業実施における設備面・環境面の解消を目的とした児童発達支援センター化への施設整備を進めること、また、就学児童への途切れのない継続的な支援体制の構築、職員の質の向上に努めていくこととする。

【事業実績】

１．児童発達支援事業の療育の質の向上のために、個別の支援や家族等との連携に取り組む

（ア）保護者と良好な関係性を保ち、保護者の困りごとに対しての目標を掲げ、個別の支援計画の作成に活かせた

（イ）家庭との連絡帳やお便りを作成して様子を伝え、個別の面談等を通して子どもの成長を感じるとの声を聞くことができた

（ウ）親子通園での支援において、偏食や食べ方に対する具体的な支援方法を伝えて子育ての見通しに活かされている

２．地域との連携を強化する

（ア）保育所等訪問支援において、地域との連携強化に努め、保育所での支援後に他の児童の相談につながった

（イ）地域の親子教室への参加により、早期療育へとつながり、今後も継続支援していくこととする

（ウ）龍郷町の就学支援委員会や第 6 期障害福祉計画に参画した

３．就学児童への療育支援が途絶えることがないように放課後等デイサービスを開設する

（ア）人員体制の構築や児童発達支援センターの整備に継続的に取り組むこととする

４．職員が成長できる体制の確立に取り組む

（ア）夏祭りや運動会をのぞみ園と合同開催することにより、職員育成や連携強化へ繋がった

（イ）のぞみ園と療育に関する合同研修を開催した。今後は開催を増やし、内容を充実させていくこととする

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援
利用者定員	10名	
利用者延べ人数	1,860名	23名
一日平均利用者数	7.67名	0.11名
稼働率	76.7%	
稼働日数（延べ）	243日	243日
単価（一人一日当り）	10,059円	12,086円
サービス活動収益（千円）	18,710千円	278千円
職員数（常勤換算）	4.1名	

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい
聖隷居宅介護支援センターゆい
聖隷デイサービスセンターゆい

2017 年度は施設全体としての運営はやや安定の傾向に向かっていると思われる。要因として、新設の「聖隷デイサービスセンターゆい」が 1 年目としては順調な滑り出しで他法人の居宅介護支援事業所からの紹介率が高く、それに伴い訪問看護への新規紹介も増加した事と考えられる。

また職員の退職などもある中、職員確保は職員からの紹介で 2018 年度の体制準備を整えることができた。2018 年度は、職員の質向上や経営の安定、公益的な活動での地域貢献に力を注ぎたい。

１．訪問看護事業（訪問看護ステーション）

（ア）年度後半から病院・居宅介護支援事業所への営業活動を積極的に行った。後半 7 名の終了者に対し、6 名の新規利用者の確保ができ、件数的にも大きな落ち込みはない。2018 年度は聖隷居宅介護支援センターゆいの新規利用者増加に伴い、訪問看護への紹介も増えると考えられる。

（イ）2017 年度末には、土・日活動日拡大の PR で 2018 年度に繋ぐ。

（ウ）ミニデイサービス・他法人デイサービス事業所との委託契約で地域との関係性が継続し、共通利用者の医療面の相談があり、時に新規で紹介もある。

２．居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

（ア） 2017 年 12 月の職員の急な退職もあったが、他法人からの介護支援専門員の紹介があり、職員確保ができ、実績件数を増やすことができた。

（イ） 聖隷内事業所への紹介率も高く、連携の強みを感じている。

３．通所介護（デイサービス）

（ア） 開設１年目にして、利用者確保はでき、軌道に乗り安定運営ができている。要因として職員の協力性が強く、困難ケース対応の成功例も多く、それが地域包括支援センターや他法人の居宅介護支援事業所から評価され紹介率に繋がった。

（イ） 地域住民のボランティア受け入れで、地域の方との関係性が構築できた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）嘉手納地区の高齢者遠足への付添（訪問看護）

（イ）認知症支援活動（RUN 伴）への参加（デイサービス）

（ウ）地域自治会への勉強会講師（居宅介護支援）

【数字実績】

１．訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数		年間訪問件数		平均単価（円）		総収入（千円）	職員数（常勤換算）
医療	介護	医療	介護	医療	介護		
65.3 人	60.7 人	784 人	728 人	10,567 円	8,767 円	16,027 千円	4.0 名

２．居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		総収入（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
423 件	301 件	11,143 円	4,300 円	11,143 千円	1.6 名

３．通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数(件)		年間件数（件）		平均単価(円)		総収入（千円）	職員数 3 月末（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
136.6 件	46.6 件	1,639 件	559 件	8,056 円	5,642 円	19,079 千円	8.3 名

聖隷こども園わかば

2017年4月より聖隷こども園わかばは200人定員となり、ニーズの高い乳児を中心に多くの新入園児の受け入れを行うことができた。定員増1年目として幼児はまだ定員には達していないが、浜松市の待機児童問題に少なからず応えることができ、園としても安定した運営につながった。保育士不足が叫ばれる中、年度当初より保育士の確保が十分にできていたことで、職員にとっても働きやすい職場環境であった。

一方、新制度においては保育の質の向上が求められており、より質の高い教育・保育を行っていくために具体的な取り組みを進めていった。職員一人ひとりが保育の質の向上を意識し、職場内研修及び外部研修への参加、保育環境の見直しを行うことで学びを活かした実践に取り組めたことは有意義であった。また、保育士ラダーと自己評価によって、保育者自身の課題が明確化され、具体的な目標をもって保育実践をしていく事ができ、保育士の資質向上においても有効であった。国が進める保育士の処遇改善の取り組みを活かし、職員の経験をもとに副主任・専門リーダー・サブリーダー・職務分野別リーダーといった新しい役割を担うことで、職員のキャリアアップにつなげられるようになった。今後は役割をより明確にし、研修への参加も含め職員の仕事に対するモチベーション向上に繋げていきたい。

今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していきたい。

【入所状況】

年間平均入所率は86.6%

途中入所は0歳児13名、1歳児3名、3歳児1名、4歳児1名、転居により3名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1．より質の高い教育・保育を実践する

（ア）幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していくことを目標として取り組みを進めた。乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたってはICT導入による保育システムを利用することで、保育者の経験値に頼ることなく一定の視点が与えられ、PDCAサイクルを用いて保育の質の向上を目指す指針となった。

（イ）乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り広げることのできる環境づくりを目指し、子どもの姿をより丁寧に見ていきながら職員が一丸となり園内研修を進めることができた。なお、継続した取り組みについては、保育学会の場で発表し、講師からの助言や他園での実践を自園の取り組みに生かしていった。さらなる工夫を続けたい。

2．保育職としての専門性を高める

（ア）保育士ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

また、職員の自己評価を集計し、自園の強み・弱みを明確にし、課題に対して改善に向けた話し合いと公表を行った。

（イ）懇談会・面談・書面等を通して園の教育・保育理念、発達に応じた子どもの育ち、必要な大人の関わり等を分かりやすく保護者に発信し育ちを共有するように努めた。

3．独自の取り組み

（ア）食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。聖隷保育園こども園厨房職員による合同研修を開催し職員のモチベーション向上につながった。

（イ）子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援、週1日は地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。2018年度以降の業務委託に対するプロポーザルにおいても、これらの取り組みが評価され引き続き地域の子育て家庭を支援する拠点としての役割を任された。

4．地域における公益的な取組

（ア）地域性を活かし、近隣施設との交流や、学生の受け入れ等を通して、世代間が交流できる機会を積極的に作った。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

【数値実績】

①　歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	12	14	13	14	15	17	18	18	19	23	24	24	211	17.6
1歳児	28	28	28	30	30	30	29	30	30	30	30	30	353	29.4
2歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372	31.0
3歳児	33	33	33	33	33	32	32	32	33	33	33	33	393	33.0
4歳児	34	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	414	34.5
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
合計	166	168	167	170	171	172	173	174	176	180	181	181	2,079	173.5

②　保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3083	2953	3439	3209	2834	3187	3520	3379	3199	2958	3122	3214	37,691	3,141
保育日数	24	23	26	24	26	24	23	24	24	23	23	26	290	24.2
1日平均	128	128	132	134	109	133	153	141	133	129	135	124	1392	116
一時預かり	1	5	10	0	4	9	7	3	2	1	0	1	43	3.6
病後児保育	23	24	25	23	29	30	23	23	24	13	28	13	278	23.2

※一時保育利用者は延べ43名、延長保育利用者延べ838名、病後児保育室利用者は延べ278名

③　職員の状況（名）新卒採用職員2名（4月）　調理師1名2月退職　調理師1名3月採用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
保育教諭(パ)	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
看護師（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師（正・パ）	0･4	0･4	0･4	0･4	0･5	0･4	0･4	0･4	0･4	0･4	0･3	0･4
事務員・用務員	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計（換算数）	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	37.7	38.6

聖隷こども園桜ヶ丘

2017 年度は 0 歳児クラスで定員の 21 名を受け入れることができ、全体でも 185 名の入所を受け入れた。近隣に新設の保育園が増えたにも関わらず、1・2 歳児クラスへの入所希望は後を絶たないが、定員により現状の受け入れが精一杯である。

近年、親子ひろばで来園した方が入園を希望されるケースがよく見られる。来園した親子への丁寧な関わりがニーズを叶える第一歩となるため、改めて自分たちの役割の重要性を実感した。

2017 年度は、保育士処遇改善加算Ⅱの実施に伴い、職員一人ひとりが自分の役割を明確にし、キャリアアップのための研修計画を立てる重要性が見えてきた。従来通り、保育士ラダーや様々な勉強会を通して、質の高い保育をめざし実践を行ってきたが、その中で保護者より意見をいただくことが増え、課題が多く見えた年でもあった。保護者の要望も多様化する中で、保護者支援はもちろんのこと、子どもの最善の利益につながることは何かを職員が理解し、信頼される園になるよう検討を重ねた。

業務効率化に向けた取り組みとしては、保育システムを導入し業務の ICT 化を図った。業務の中で更なる活用が可能となるよう見直しを行い、資質向上を図ると共に職員一人ひとりが働きやすい環境を整えていきたい。

【入所状況】

4 月は 170 名でスタートした。0 歳児入所はほとんどが兄弟枠で、最終的には 21 名となった。職員の欠員、退職等があり十分な一時預かりはできなかったが、3 月末には 185 名の入所児童の受け入れがあった。障害児は一般 4 名、食物アレルギー児は 2 名の認定があった。

【事業目標・重点施策への取り組み】

１．質の高いサービスを提供する。

（ア）外部研修で学んだことを共有し、個々の学びを園全体の保育に生かすように心がけた

（イ）園内研修では、幼児・乳児のグループに分かれて「環境」についての見直や研究を行うことで保育実践に生かした。

２．安定した運営の意識を持つ。

（ア）一時預かり事業への問い合わせが多く、可能な範囲で受け入れを行った。年間を通じて定期的に預かる子もいたが、突然の受け入れは難しかった。

（イ）親子ひろばへ継続的に来園する家庭が増え、入園につながった家庭もみられた。

（ウ）職員一人ひとりが省エネルギーやエコロジーに意識を持つことは課題であると感じた。

３．保育資源の活用および育児支援を行う。

（ア）地域の自治会やシニアクラブの方と年間を通した関わりが持てた。年々、保護者の理解も得られるようになり、行事への参加が増えた。子どもたちも名前や顔を覚えて共に過ごすことを喜び、世代間交流の良い機会となった。

（イ）小・中・高校生の就業体験受け入れ、看護及び保育科学生の実習受け入れを積極的に行った。また、年長児の小学校体験等の受け入れをしてもらうことができたが、職員の就

学への理解や教育についての学びという視点では課題が残った。

4．食育への取り組み

（ア）隣家で借りている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話を行った。また収穫やクッキングを通して食への興味を深めることができた。

5．保育環境および施設整備

（ア）保育室内の仕切りを新たに設置することで、危険や導線の悪さが解消された。また、環境の見直しを図る中で、子どものロッカー等の配置換えを行い、子どもが落ち着いて過ごせる環境設定を行った。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳	5	5	6	8	11	13	16	20	20	20	20	21	165	13.7
1歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
2歳	30	30	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	380	31.6
3歳	35	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	399	33.2
4歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
5歳	35	35	35	34	34	34	34	34	34	34	34	34	411	34.2
合計	170	169	171	172	175	177	180	184	184	184	184	185	2135	177.9

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	3178	3153	3584	3245	2931	3310	3722	3618	3345	3136	3280	3595	40097
保育日	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295
日平均	132	131	137	129	112	137	148	150	133	136	142	138	135
一時預かり	6	25	18	17	23	10	18	9	7	10	11	6	160
延長保育	59	49	42	67	51	81	73	46	79	51	55	63	716

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正/ゾ)	4/14	4/14	4/14	4/14	4/14	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13
保育士(パ)	8.6	10.3	10.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3
看護師(パ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
調理員(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
派遣保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	36	38	39	40	40	39	39	39	39	39	40	40

聖隷こども園ひかりの子

2017 年度は、定員を 150 名から 230 名へと増員した。また、増築した新園舎での保育が始まり、部屋の使い方等を試行錯誤した一年間であった。目指すべき方向や保育教育の目標理念を常に立ち返りながら、子どもの最善の利益を考える良い機会となった。

地域支援として学童保育や親子ひろば、発達に偏りのある子どもを対象としたエンジェルリトミック、子育て相談会は、いずれも安定した利用数があり地域の子育て家庭に向けて広く園をアピールする良い機会となった。しかし、職員の長期にわたる欠勤や年度途中の退職が重なり保育教諭の確保が難しく、一時預かりの受け入れが充分にできなかった。質の高い保育や地域からの子育てニーズに応えるためにも人材確保は急務であると感じた。

また、保育のＩＣＴ化の試行期間として、システムを導入し具体的な取り組みが始まった。運用方法には改善の余地があり、業務の効率化につなげるため一層の検討が必要である。

【入所状況】

4 月新入園児 32 名、年度途中入所は 0 歳児の兄弟枠を含めて 12 名であった。1～4 歳児においては、途中入園と転居等により退園があった。2017 年度は、定員数の変更により年間平均入所率は 75.2%であった。

１．教育・保育の質の向上

（ア）統合保育の実践

障がい児 6 名及び発達の気になる児童 6 名が各々の保育室で集団生活を行えるよう、必要に応じて職員が関連機関に出向くなど積極的に他機関との連携を図った。個別のケースについて職員間で情報を共有し、より適切な援助が出来るよう、また担任が一人で抱え込むことがないように徹底した。

（イ）保育及び教育の工夫と改善

園舎の増築に伴い保育室が増え、１～５歳児は各年齢複数クラスとなり、１クラス当たりの園児数はこれまでよりも少ない人数で保育することが出来た。同年齢クラスが複数あることで、物的な環境をはじめとして、保育教育の内容や生活、遊び（行事）等の細かな部分に至るまで、職員間での綿密な話し合いや共通理解、連携が不可欠となった。

２．地域における公益的な取組

（ア）地域の子育て家庭の交流と集いの場所を提供し地域の親子が安心できる場となるよう、温かな雰囲気と対応を心がけた。職員や親同士が顔見知りとなり子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

（イ）地域の子育て家庭への相談機会の提供

地域の図書館において隔月行われるブックスタート事業に合わせて育児相談会をおこなった。１～２件の相談があり、気になるケースについては園内で行う親子ひろばに繋げることが出来きた。

（ウ）ボランティア、実習生、インターンシップの受け入れを行った。

４．保育環境の改善、施設整備

（ア）ホールテラス老朽化に伴う撤去、乳児用砂場の設置、園庭築山の整備をした。

（イ）定員増に伴い乳児用の机及び椅子・幼児クラスの配膳用テーブルを購入した。

５．職員研修

（ア）園内研修を実施した。（キリスト教保育、まごころの保育を基に学び合い）
保育学会を実施した。（園庭保育環境の研究）

（イ）聖隷保育園こども園合同研修を実施した。

（ウ）外部研修に参加した。（障がい児研修、給食研修、保育専門研修）

【数値指標】

①　歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	9	11	12	12	12	14	16	16	18	20	20	168	14
1歳児	31	32	32	32	32	31	31	31	30	30	30	30	372	31
2歳児	35	34	35	34	35	35	36	36	36	36	36	36	424	35.3
3歳児	38	37	36	36	36	35	35	35	35	35	35	35	428	35.7
4歳児	30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	353	29.4
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
合計	170	170	172	172	173	170	173	175	174	176	178	178	2081	173.4

②　保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3323	3245	3570	3078	2707	3129	3455	3320	3290	2853	3129	3157	38256	3188
保育日数(日)	24	24	26	25	25	24	25	24	23	23	23	25	291	24.2
1日平均(名)	138	135	137	123	108	130	138	138	143	124	136	126	1578	131.5
一時預かり(名)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.1
延長保育（名）	24	101	93	70	64	69	92	94	79	60	84	102	932	77.7
学童保育(名)	242	134	144	212	292	130	123	132	166	112	113	41	1841	153.4
親子ひろば（名）	89	91	68	77	67	113	93	127	81	120	145	38	1109	92.4

③　職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	17・21	17・22	17・21	17・20	17・19	16・18	16・18	16・19	16・20	16・20	16・20	16・20
調理師(正・パ)	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・2	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1
計	48	49	48	47	46	46	45	46	47	47	47	47

聖隷こども園めぐみ

2017年度は、聖隷こども園めぐみが定員160名で和合せいれいの里内に開設した年であった。聖隷浜松病院ひばり保育園と聖隷めぐみ保育園の連携園になっていることもあり、3歳児以上の幼児の定員設定が全体の約70%、乳児は30%の割合であった。乳児の待機児童が多いこともあり、2017年度は全体の入園に対して乳児が約55%と半数以上であった。

新設園であることから、新規或いは中途採用の職員が半数を占める中で、こども園として子どもの保育や教育、保護者対応や地域との連携等では、職員間での業務の共有化などに時間を費やし戸惑いを感じながらも、それぞれの役割の中で働く喜びや責任を実感することができた。

待機児童数解消のため、小規模保育事業所や企業型保育所などが近隣でも多く開園されたこともあり、保育士は恒常的な不足状態にあった。

また、保育士の処遇に関しても新たに保育士等処遇改善加算Ⅱが新設され、処遇の改善が図られた。保育士の専門性をより深く求められるものであり、専門職としての誇りをもって業務に携わることができ、質の高い保育、教育等ができるようになると感じた。

１．入園状況

年間入園率は57.6%であった。4月は83名の入所であったが3月は100名までになり、年度途中の入園は、予想した以上に幼児の入園が多かった。

乳児は定員以上の入園があり、途中入園は、0歳児は4名、1歳児は0名、2歳児は連携園として翌年の3歳児の入園を考慮して1名の入園があった。

２．事業報告

（ア）保育の質の向上

①日々の保育の問題点を互いに考え、会議及び個々で確認を行うことで保育の質の向上を図った。保育環境を共有化するために、社会福祉法人瑞穂会高丘保育園に多くの職員が見学に行った。また、可能な限り研修会に参加できるよう配慮した。

②研修委員会終了後に行ったキリスト教保育･モンテッソリー勉強会では、時間的や地理的な理由で参加者が少なく課題が残った。

（イ）和合せいれいの里の施設利用者との交流

高齢者や障碍者の方々との交流は、行事を通して行った。利用者の生活が十分把握されていないこともあり、そこから職員が理解していく必要があった。

（ウ）地域における公益的な取組

親子ひろばを通して子育て支援を行ったが、新設園ということもあり地域への広報不足や内容に課題を残った。

（エ）保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

保育システムを導入しICT化を図った。使用方法の周知などに時間を要することとなり、業務省力化までは至らなかった。

（１）歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	8	9	8	11	11	11	11	11	11	12	13	125	10.4
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2歳児	17	15	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	210	17.5
3歳児	20	20	20	23	24	24	25	25	25	25	25	25	281	23.4
4歳児	9	9	8	9	10	11	11	11	12	12	13	13	128	10.7
5歳児	4	4	5	5	7	7	7	7	7	7	7	7	74	6.2
計	83	80	83	86	94	95	96	96	97	97	99	100	1106	92.2
												入所率		57.6%

（２）保育日数及び延べ出席・利用状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	1510	1372	1644	1521	1582	1830	1963	2046	1834	1745	1808	1981	20837	1736
保育日数	24	24	26	20	26	24	25	24	23	23	23	26	288	24
一日平均	62.9	57.2	63.2	76.1	60.8	76.3	78.5	85.3	79.7	75.9	78.6	76.2	870.7	72.6
一時預かり	0	4	13	13	13	12	31	38	28	36	35	30	253	21.1
病後児保育	1	4	0	3	2	4	0	10	3	3	2	0	32	2.7
親子ひろば	0	9	10	22	2	11	15	11	14	13	6	5	118	9.8
延長保育	23	51	64	40	29	95	165	163	155	97	107	93	1082	90.2

（３）職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
保育士(パ)	2	2	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3
保育補助				1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	21	21	22	24	24	24	23	23	23	23	23	23

聖隷浜松病院ひばり保育園

2017年度は主に幼児クラスの環境改善に取り組み、あそびの中の学びに着目し、保育内容の充実を図ってきた。集中力や持続力、表現力を養う玩具や教材を多く揃えたことで子どもたちが自ら選択し、創意工夫して遊ぶ姿や友達と協同してじっくりと取り組む姿がみられた。また玩具についての講座を開き、あそびの中の学びについて保育者・保護者共に理解を深めることができた。加えて子どもたち同士の育ち合いをねらいのひとつとした縦割り保育の形態をスタートさせたことにより、年齢の枠を超えた関わりがみられ、少子化がすすむ中、兄弟姉妹のように過ごすことで、「人」に対する興味が湧き、相手を思いやる気持ちが育まれ、コミュニケーション力が育ってきたことを感じた。これらは保護者からも高評価を得て、例年に比べ幼児クラスに上がる際の転園の減少につながったように感じる。

【入所状況】

定員145名に対し、年間平均入所率は76.6%、途中入園は20名、途中退園は6名、最終的に116名となる。

【事業・運営計画】

1．自らあそびを見つけ出し、主体性・創造性が育つ環境づくりを追求する

（ア）乳幼児共に玩具や教材を揃えたことで、子ども自身が選択でき、あそび込める環境が整えられ、集中力や創造性を育むことができた。

（イ）保育システムを活用し、保育計画立案の際の経験による差を軽減できた。また職場会の中で他クラスのカリキュラムを共有することで発達の連続性を意識することができ、各年齢の保育活動に反映することができた。

2．少人数グループによる保育・異年齢交流の実践

（ア）乳児クラスは少人数や時間差で保育するなど、落ち着いた環境を確保することで一人ひとりと丁寧に関わることができた。

（イ）幼児クラスは縦割り保育を実践した。その中で年齢の枠を超え園児が他者を思いやる姿が多く見られ、優しさや協力する気持ち、人への興味や関心、コミュニケーション力が育まれた。

3．質の高い保育の提供

（ア）自己評価を分析し見えてきた強み弱みを職員間で共有した。自身の課題や園全体での課題が明確になり、普段の保育や次年度の保育の見通しがついた。

（イ）外部研修には限られた職員ではあるが参加することができ、個々のスキルアップは図られた。しかし、全体へのフィードバックの機会が効果的に持てなかった。

4．地域における公益的取組

（ア）人形劇を計画し地域の回覧でPRを行った結果、一般の方の参加があった。
今後も継続してイベントや講座等を行い、乳幼児保育専門施設として地域の子育て家庭に貢献していきたい。

【数値実績】

① 歳児別入園児童数（名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	6	8	8	11	11	15	15	17	17	17	19	149	12.4
1歳児	30	30	29	29	29	30	31	31	31	31	30	29	360	30.0
2歳児	30	30	30	31	28	29	27	28	29	29	29	29	349	29.0
3歳児	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	158	13.1
4歳児	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	125	10.4
5歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192	16
計	106	107	107	108	108	109	112	113	116	116	115	116	1333	76.6%

②保育日数および述べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延人数（名）	1920	1925	2179	1970	1787	1895	2121	2162	2166	1877	2023	2129	24154	2096.1
保育日数（日）	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	25	292	24.3
1日平均（名）	80	80	83	79	68	79	84	90	94	81	88	85	82.7	85.7%

② 職員の状況（名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15
保育士(パ)	7	7	7	7	8	9	9	9	9	9	10	10
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	30	30	30	30	32	33	33	33	32	32	33	33

こうのとり保育園

少子化に歯止めはかからず、近年は加速化し、出生児数は毎年 2～3 万人以上も減り続けている。一方で、2017 年度も待機児童の解消と保育等の質の改善が求められてきた。保育人材確保のための処遇改善の実施、キャリアアップの仕組みが創られ、保育の仕事にやりがいを持ち、続けられるような仕組みが提案された。

聖隷の保育園・こども園は、毎年、30 名から 40 名程の新規採用職員を迎え入れている。保育の質を高めていくためには、後輩指導も重要課題の一つである。数年で離職するケースもあり、中堅層の確保も課題であり、中途採用も積極的に行った。磐田市は、再編計画に基づき、新たなステージを迎える。聖隷にできることは何かを考え、見通しを持って進みたいと考える。

１．入所状況と保護者支援

4 月新入園児 17 名、年度途中新入園児 16 名のうち、育休明け 0 歳児が 11 名で、年間入園率は 124.2％であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育の質の向上

①統合保育の実践

2017 年度は、新たに 1 名の障がいのある児童の受け入れを行い、合わせて 9 名の障がいのある児童の在籍となった。うち 1 名は要支援児童である。市の関係機関（子育て支援課・幼稚園保育園課・発達支援センター「はあと」「かるみあ」）と密に連携をとりながら、慎重に受け入れを行った。そして、浜松市発達医療総合福祉センター・聖隷おおぞら療育センターに出向き、具体的にどのような療育が行われているかを見学し、保育園での実践に生かすことができた。それにより、子どものよりよい成長発達を促進することができた。また、障がい一時保育においては、必要に応じて、同年齢の集団と関わる機会をつくり、在園児と相互に関係し合うことで、それぞれの子どもの育ちに大きな変化があった。これは障がいのある子どもたちだけでなく、健常児の育ちに与える影響も大きい。

一時預かりの利用延べ人数は、障がいの一時保育利用者数と合わせて 1,308 名で 2016 年度と比較すると 1.5 割増であった。これは、幼稚園保育園課の課長を通して、保健師の理解を得たことや、体験会などを通して、保護者へのアピールが効果をあげたと考えられる。必要としている人は多く、2017 年度も日数の調整を行った。

②歳児別・異年齢クラスの中でも、小人数に分けて保育する

新規採用職員の育成のためにも、少人数に分けて保育を行うことを中心においた。その意義や目的を伝え、指導保育士がそれぞれにつき、園長主任も関わるようにした。

③質の高い保育（者）＜保育園の職員として、誇りを持って働ける職場づくり＞

保育の質の向上をめざし職員一人ひとりが専門的視点を持ちレベルアップのために、写真やビデオを使って、カンファレンスを継続的に行った。共に語り合う時間は、互いの保育観を知るという点でも効果的に働いた。静岡理工科大学とのコラボで、アクティブチャイルドプログラムに挑戦し、子どもたちの成長の変化を追う中で、その効果を数値的に検証することもできた。そして、保育の専門性を高めることにもつながった。

３．公益事業…ボランティア、実習生の受け入れ・お年寄りとの交流

(ア) サマーショートボランティアの受け入れ(市内中高生)、学校探検(市内小学・高等学校)、泉町老人会の寿会との交流等を通して、多世代の方たちが子育てに関わり、子育てに興味や関心を持てるように継続して取り組んできた。又、学生から新鮮な感動の声が聞かれた。

(イ) 保育環境の改善、施設整備

① 修繕…総合遊具、トイレの排水溝、壁紙、床の張替え等

② 購入…防災用避難車、椅子と机、給食用ワゴンと食器等

(ウ) 職員研修

(エ) 園内研修(学習会・園内学会)、保育学会、福祉学会、聖隷合同研修(キリスト教保育研修)

① 聖隷保育園浜松磐田地区初任者研修、保育士キャリアラダーの活用(自己評価と上司面接)

② 外部研修…保育の質向上の専門研修、障がい児保育専門研修、給食研修、その他(視察)

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	11	15	17	18	18	18	18	19	21	21	21	207	17.2
1歳児	26	26	26	27	27	26	26	26	26	26	26	26	314	26.1
2歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
3歳児	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	310	25.8
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	327	27.2
5歳児	26	26	25	25	25	25	24	24	24	24	24	24	296	24.6
計	142	143	147	150	151	150	149	149	150	153	153	153	1790	149.1

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2762	2513	3066	2729	2445	2765	2960	2969	2888	2422	2744	2819	33082	2756
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24
一日平均(名)	115	104	117	109	94	115	118	123	125	105	119	108	1352	112
一時預り(名)	59	80	97	94	81	145	137	136	136	90	128	125	1308	109
延長保育(名)	197	194	221	177	157	181	194	205	187	139	166	179	2197	183
学童保育(名)	100	41	29	75	222	25	24	1	22	5	2	24	570	47.5
休日保育(名)	13	20	16	26	17	19	20	37	15	23	22	24	252	21
病後児(名)	1	3	5	6	10	6	3	0	2	9	3	0	48	4
支援ｾﾝﾀｰ(名)	560	373	529	623	519	483	571	467	500	380	354	394	5753	479.4

③ 職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	16・22	16・23	16・22	16・22	16・22	16・22	16・22	16・22	16・23	16・23	17・22	17・22
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1
事務員(正・パ)	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	51	52	51	51	51	51	51	51	52	52	52	52

＊育児休暇中職員2名

磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

1．　子育て支援

2017 年度の利用者は、毎日、例年通り平均的な利用件数で、事故や怪我、苦情等もなく運営することができた。行政の子育てサイトが充実した事で、広報等を確認しながら母親達が上手に市内の支援センターを利用していると考えられる。2018 年度は、地域の交流センターを拠点に「多世代交流コミュニテイひろば」を年 4 回企画し、地域の人達と連携をもちながら進めて行くイベントを新たに計画しているので、今まで以上に子育て支援の輪が地域の中で広がるよう努力したいと考えている。

【利用人数】

大人	子ども	合計	月平均
12,462 名	11,378 名	23,840 名	1,987 名

（ア） 育児相談

支援センターの利用中、自然な雰囲気の中で育児の悩みを発してくるケースがほとんどであったが、その中で、子どもの発達の遅れについての悩みは深刻であると同時に、継続的な支援が必要になる。細やかな配慮をしながら寄り添っていき、継続的に見守るようにした。その他、ファミリーサポートや一時預かり保育に関する相談内容も多く、人間関係の希薄さが要因だと感じられた。

【相談数】

電話	面接	メール	出前	合計
827 件	5,606 件	177 件	393 件	7,003 件

（イ） 一時預かり保育

利用件数が 2016 年度は 557 件、キャンセル 75 件、2017 年度は 872 件、キャンセル 103 件で、ここ数年間で利用数が年々増えている傾向にある。登録すればいつでも利用できる気軽さがメリットだと思われる。また、2 歳以上児が複数で利用を希望した場合、保育者が 2 対 1 で保育して 1 時間当たりの料金を下げる等新たなシステムを作り利用の枠を広げた。

保育はファミリーサポートの有資格者に依頼している為、利用者が育児相談をしていることもあり、地域のコミュニテイの場になりとても良い効果をあげていた。

（ウ） 集団療育「ピポパ」

2017 年度は、延べ 114 名が参加し、登録者数は最終的に 13 名だった。1 歳半健診で発達が気になると診断され、不安を抱え「ピポパ」に参加したいと発信してくるケースが多かった。

その為月齢が低くなり集団療育に苦慮した。反面、子育てが孤立しがちな母親が「ピポパ」に参加する事で悩みを共有しあいながら心を開き、悩みを打ち明ける事ができる。そこから専門療育に繋がったケースが大半だった。グレーゾーンの子どもが多い時代だからこそ、意義ある活動だと強く感じた。

（エ） 季節の行事・イベント・子育て講座等

2017 年度は、県外出身者が多い街という特性を生かして、県外出身者の交流会を年 4 回実施。又毎月実施している 1 歳未満児の親子対象の育児講座は、好評で参加希望がとても多かった。看護師、助産師、心理士等いろんな専門講師を招いて実施しているが、母親達の子育てへの意識の高さが伺えた。季節にちなんだ行事や数々のイベントは、子育て親子のニーズに応えながら実施してきた。どの企画にも親子で楽しみながら参加し、子育て親子の交流の機会になった。2018 年度は、地域の人達を巻き込みながら、交流センターで“多世代交流ひろば”を実施する計画だが、いろいろな世代の繋がりの輪が広がるように工夫し発信していきたいと思っている。

２．ファミリー・サポート・センター

（ア） 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

	年間会員数	新会員数
依頼会員	773 名	75 名
援助会員	214 名	6 名
両方会員	97 名	7 名
合　　計	1,084 名	88 名
年間援助回数	3,804 回	

（イ） 援助活動内容＆会員への活動

援助内容は、幼稚園・保育園の迎えが 972 回、子どもの習い事等の援助 625 回、放課後児童クラブ迎え 445 回、その他 435 回の順に援助が多かった。

なお、その他の理由として、母親の精神疾患や療育機関への迎え等も含まれていたので、専門機関と連携を持ち細かな配慮をしながらコーディネートを進めてきた。援助が継続する中で、援助者・依頼者双方の想いにずれが生じると歯車が狂い、不満が増幅して問題が浮上した事があり再度面談によりコーディネートをやり直すケースも複数あった。ファミリーサポート事業については、心を砕いて取り組む事の大切さを痛感している。

会員への活動としては年 2 回の養成講座の他、2017 年度は例年実施していた交流会をファミサポ祭りに拡大し、一般の利用者も参加することで広報活動になった。また 2 月には援助者対象の交流会を実施。その際、社会福祉協議会の協力で 100 歳体操を行った後、日頃の活動について協議し合うなど実りのある機会が与えられた。

３．出前子育て支援センター（であいのひろば）

地域に 45 回出向き、子育てサークル、高齢者サロン、主任児童委員、民生委員等と連携を深め繋がりが広がってきている。その他 2017 年度は、市の保健師が多世代を対象に実施している「まちの保健室」とも共催で実施して欲しいとの依頼も多かった。その中で、遊びの提供に加え子育て相談も多く、支援センターに出向く事ができない親子にとっては、大切な役割を果たしていると考えられる。

こうのとり東保育園

こども園に移行するにあたり、制度についての学びの他に、改めて自園の保育・教育について理論的に検証し学ぶ１年だった。地域の方に講師になってもらいながらの米作りの実践から、自然に触れること、食に感謝すること、子どもたちの想像力を引き出すこと、子どもが自ら考える力・生きる力をつけることに繋げる事ができた。言葉のやり取りや環境設定が如何に大切か、夢中になってあそぶことで体得することの大きさを職員が掴み、保育の醍醐味を感じることができた。また、保育に携わる職員の処遇改善により仕事への意欲に繋がっている。対象者ではない職員も未来に期待が持てている。今後は更にリーダーの役割を明確にし、園全体の保育力向上に努めていきたい。

１．入所状況

200 名定員になり 3 年目でほぼ定員に達した。外国人の人数はクラスに 4～5 人とバランスが取れている。

２．年度事業目標・年度重点施策

（ア）2017 年度事業の振り返り

①保育力の向上：新人教育は主に 3 年目から 5 年目の職員が日々の保育・教育を通して行った。中堅保育士は保育の醍醐味を伝えるべく、保育学会や園内研修をリードし、充実させていった。そのことで教育をする側の力もついてきている。アクティブチャイルドプログラム（理工科大学監修）での“夢中になってあそびながら運動能力を身につける”での取り組みも良い学びに結びついた。

②保護者支援の実践：保護者会総会にて前年の保育・教育の実践パワーポイント（保育学会）を使い、報告をした。保育園と家庭とで“子どもたちの今”を大切にしたいという想いが伝わり、行事のアンケートやお便り等で、子どもを真ん中にした理念とのぶれがない意見が多くなってきた。

③統合保育・他機関との連携：集団での生活に課題を感じる子や、言葉の問題か障碍かを判断しかねる外国人のケース等、多くの困り感を持った子への理解について磐田市発達支援センター“はあと”や“磐田市立総合病院”等と繋がりをもった。保護者と面談を重ね、専門機関との並行通園に導いたり、関わり方の模索をしているところである。

虐待の疑い等は磐田市幼稚園保育園課、福祉課、保健師との連携の下、見守りをしている。

④多文化共生推進：グローバル子育て教室（国際交流教会主催）の共催として 6 回実施。国際交流教会主催ではあるが職員が講師になり育児講座、聖隷クリストファー大学教授“鈴木光男氏”の講演会、クッキングをしながらの食育講座等を実施。日本、ブラジル、フィリピン、ベトナム等の方が集まり、異文化交流を行った。

⑤食育の推進と環境：保護者による田んぼ作りから始まり、田んぼ、畑活動を充実させた。地域の方が主体的に関わってくださり、交流と共に、食べ物の始まりから頂くまでを体験しながら安心・安全な食材を子どもたちや保護者に伝えることができた。何よりおいしく頂くことが食育の原点であることを体験した。年長児童を対象とした栄養士による食育は、食と健康は繋がっているという事が理解できるものだった。

⑥放課後児童クラブ“オリーブ”

人数の増加と共に、学習面・生活面の困り感に加え、集団での気持ちのコントロールが苦手等、かかわりが難しいケースが増えてきた。担当者と共にオリーブの役割を今一度確認しながら、抱える課題を克服できるよう丁寧に関わっていきたい。

（イ）地域における公益的な取組

園内での保育園職員による育児相談を行ってきた。家庭保育の保護者は相談ができる人がいないことが多く、看護師や栄養士等の専門性を生かしアドバイスをしてきた。

グローバル子育ての育児講座や交流センター祭りに協力、東新横丁（バザー）に園児が出席し体操や踊り等で地域住民との交流を図った。

【数値実績】

①　歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	10	12	13	15	18	20	22	23	24	26	27	220	18.3
1歳児	33	33	34	34	34	34	33	33	34	34	34	33	403	33.6
2歳児	39	39	38	39	39	38	38	38	38	38	38	38	460	38.3
3歳児	34	34	34	34	33	33	33	33	33	32	32	32	397	33.1
4歳児	37	37	37	37	37	36	34	35	35	35	35	34	429	35.8
5歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
計	183	183	185	187	188	189	188	191	193	193	195	194	2269	189.1

②　保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3354	3201	3853	3540	2900	3454	3832	3813	3683	3099	3450	3625	41804	3483.7
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
一日平均	140.0	133.4	148.2	141.6	111.5	143.9	153.3	158.9	160.1	134.7	150.0	139.4	1715	142.9
一時保育	16	13	22	20	20	46	50	40	3	0	2	10	242	20.2
延長保育	71	67	90	59	57	78	67	110	55	81	80	78	893	74.4
学童保育	374	337	372	458	650	322	318	318	313	365	349	286	4462	371.9
病後児	13	3	2	9	10	8	6	8	3	2	9	5	78	6.5
外国人保育	26	26	26	26	25	25	22	23	23	23	23	23	291	24.3

③　職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正･ﾊﾟ)	24・17	23・17	23・17	24・17	24・17	24・17	23・17	23・17	23・17	23・17	23･17	23・17
看護師(ﾊﾟ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(ﾊﾟ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員（ﾊﾟ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	55	54	54	55	55	55	54	54	54	54	54	54

聖隷こども園こうのとり豊田

2017 年度より、幼保連携型認定こども園へ移行し、聖隷こども園こうのとり豊田としてスタートした。それに伴い定員を 120 名から 155 名に変更した。内訳として 1 号認定（教育時間）の定員を 15 名としたが、2017 年度の 1 号認定利用人数は、3 歳児 1 名・4 歳児 1 名の 2 名であった。2 号・3 号認定（保育及び教育）の園児の定員も増やしたことで、待機児童の受け入れを積極的に行うことができた。こども園への移行により、指針・書類等の変更や 1 号認定の園児に関わる環境や配慮等を整えた。又、地域の子育て家庭の支援として、2017 年度も『こひつじ保育』（発達がゆるやかな乳幼児の一時保育事業）の受け入れを行った。利用者の中で、2018 年度より当園の 1 号認定の枠として入園に繋がった園児が 1 名あった。

１．入所状況

4 月新入園児 29 名を迎えて 158 名でスタートした。年度途中入所は 0～2 歳児クラスへの入所 12 名であった。2 名が退園した。定員 155 名に対して 108％の入所率であった。

２．年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア)保育の質の向上

①統合保育・専門機関との連携

発達の気になる子や「こひつじ保育」（発達がゆるやかな乳幼児の一時保育）の子どもの個別指導計画を作成し、定期的にケース会議を行いながら、担当の保育教諭だけではなく、職員全体で共有し、保育・教育を行った。又、「磐田市発達支援センターはあと」や「児童発達支援事業所かるみあ」と連携をとり、アドバイスを伺った上で、こども園での関わり方や保護者へのアプローチの仕方を学び、保育に活かしていった。

②家庭と連携して子育てを共有する

保護者会懇談会や保育参加、園行事への参加を積極的に促して、こどもの成長の喜びを職員と保護者が共有したり、園の保育・教育理念をご理解頂く機会とした。幼児は園内の行事等を、乳児は日常の保育の様子等をビデオで撮影し、送迎時に観覧する場を設け、保育の可視化を行った。

③小学校との接続

青城小学校の 2・4 年生が小学校で園児と交流を図った。また、小学校との連絡会に職員が参加し、互いの情報を共有し、円滑な就学へと繋がるようにした。

(イ)職員のスキルアップの為の取り組み

聖隷保育園こども園の磐田地区 3 園合同で、外部専門講師(静岡理工科大学の富田寿人教授)を招き、運動遊びの研修会を実施した。

職員同士が特技やタレントを活かし、会議や日常の業務の中で、知識や技術を教え合うことを意識して取り組むことが出来た。学ぶ職員も得た知識を受け、自身でもさらに調べたりする等の自己研鑽に繋がった。

(ウ)地域における公益的な取り組み

地域の子育て家庭に園庭を開放したり、育児講座（離乳食講座・幼児食相談・ベビープログラム）の場を設定したり、子育て相談を実施した。

(エ)環境整備・修繕

・園庭の築山の補修工事

・乳児保育室の環境整備（衝立他）

・乳児用避難車購入

・学童保育の机と椅子（学童の人数が増えたことによる対応）

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	11	11	12	14	16	18	19	19	19	20	20	20	199	16.5
1歳児	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27	135	11.2
2歳児	29	29	29	29	29	30	29	30	30	30	30	30	354	29.5
3歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372	31
4歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372	31
5歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348	29
計	158	158	159	161	163	165	165	167	167	168	168	168	1780	148

②保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2934	2851	3231	2963	2717	2987	2589	3224	3315	2650	3019	2958	35438	2953
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	24	24	25	23	23	26	294	24.5
一日平均(名)	122	118	124	118	104	124	107	134	132	115	131	113	1442	120
一時預り(名) (内こひつじ)	20 (19)	35 (20)	58 (33)	53 (29)	37 (25)	14 (13)	32 (7)	29 (13)	32 (18)	37 (13)	35 (18)	30 (17)	421 (225)	34 (18)
延長保育(名)	185	172	185	170	144	151	203	169	173	176	197	202	2127	177
学童保育(名)	222	173	186	214	257	210	204	204	229	164	147	178	2388	199

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育教諭(パ)	19	19	20	20	20	21	21	21	21	21	21	21
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
調理師(正・パ)	1・4	1・4	1・3	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・保育補助(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	49	49	49	49	49	50	50	50	50	49	49	49

＊保育教諭(正)のうち育児休暇中職員を2名含む

野上あゆみ保育園

2017 年度は、保育所保育指針の改定に向けて意識をしつつ、「養護」の意味をあらためて考えたり室内環境を整えたりと、職員が保育の質について今まで以上に考えていけるような投げかけを試みた。

また、新たな学童保育（にじっこくらぶ）の開設に向け準備も進めた。

１．入所状況

4 月に 0 歳児 6 名、1 歳児 6 名、4 歳児 1 名、逆瀬川あゆみ保育園より 4 歳児 13 名で合計 26 名の新入園を迎え、104 名でスタートした。定員 90 名に対して 115.3%の入所率であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育・・・障がい児 4 歳児 1 名、5 歳児 1 名が加配対象。発達の心配な子どもについては、市の臨床心理士による巡回指導や研修を受けた。年間 4 名の子どもの指導を受けた。クラスの一員としての視点を持ち、かかわるように心がけた。

②交流・・・・隣接する有料老人ホーム(グランダ逆瀬川)や聖隷逆瀬川デイサービスセンターにてクリスマスページェントを行った。異年齢交流により、子どもの人間関係が広がるよう、のがみっこくらぶの小学生とクッキー作りや劇遊びなど年間 8 回の交流を持った。4 歳児クラスで一緒になる逆瀬川あゆみ保育園の 3 歳クラスとの交流も月に一度は持つようにした。

③保護者に向けて・・園だより、クラスだよりなどで園の理念や子どもの発達についての発信をした。また、懇談会も保護者同士が交流をもてるように工夫をした。

④食育・・・作業は幼児クラスが中心となったが、土作りから始め苗の生長を楽しんだり野菜の食べ比べをしたりと積極的に取り組んだ。また、食育ボードを活用し継続して給食の食材にも自然に意識がいくよう試みた。

（イ）地域のニーズへの対応

①一時保育・・年間を通してニーズは常にあった。また、問い合わせの電話も多く登録面接も常時行い、月平均 175 名一日平均 7 名の利用実績であった。

②延長保育・・18:15～20:00(約 14 名)の延長保育を行った。19:00 以降は約 4 名。残業などで延長申請以上の時間まで残る子どもも多かった。

（ウ） 職員研修

① 年 1 回(9 月)あゆみ合同研修（保育と絵本）

② 第三回宝塚保育学会は参加人数が 70 名程のため、ディスカッションも入れた形での宝塚らしい学会を目指した。

③ 保育の質を高めるため外部研修に積極的に参加をする職員が多かった。

④ 園内研修・・のがみっこくらぶとの交流・逆瀬川あゆみ保育園との交流・育児担当・環境・クラス交流と 5 つのグループで取り組む。宝塚保育学会、聖隷保育学会に参加をした。

３．地域における公益的な取組

（ア）『トライやる』（中学生体験活動）２校より 計 16 名の受け入れを行った。

（イ）園庭開放、離乳食体験、季節の製作、コンサートやおもちゃライブラリー、影絵など児童館と協力して行った。保育士が企画担当をする中で、在宅子育て親子の現状を知る機会を設ける。また、母親向けの子育て講座の中でも、相談がしやすい雰囲気作りを心がけ幅広い支援を目指した。

４．のがみっこくらぶ（学童保育）では、４月より定員 19 名の利用があった。クッキングや異年齢交流も積極的に行った。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	105	8.75
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
3歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
4歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
合計	104	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	1281	106.75

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1973	1967	2164	2045	1873	1945	2238	1997	2010	1820	1896	2143
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26
一日平均	82.2	81.9	83.2	81.8	72.0	81.0	89.5	83.2	87.3	79.1	82.4	82.4
一時保育	145	174	197	181	162	192	207	196	162	154	182	179

③ 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	14	15	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13
計	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31
調理(外注)	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5

野上児童館

2017 年度は、発達が気になるケースや、養育に問題があるケースなどについて、緊急性はなくても意識をもってつないでいくことの大切さを考えた年だった。ひとりの子どもの育ちを学校とは違う目線を持ち、児童館としてできる支援を職員間で具体的に考えていくように心がけた。

また、宝塚市の児童館運営指針の見直しを全館で行いながら、子育てプログラムのねらいも再度周知し、2018 年度につながるようにした。

１．利用状況

乳幼児、小学生の利用は、定着し安定した来館者数であるが、中高生は、利用につながる方法を考えていくという課題がある。

２．活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と 3 つのグループでそれぞれのねらいをもち、未就園児の親子を対象にプログラムを行った。

子どもの育ちを意識した内容を取り入れながら、保護者が子どもの姿を話やすい雰囲気作りも心がけた。ミニ運動会は好評で、多くの参加者があった。

（イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」では子どもボランティアが 12 名集まり準備から参加をした。夏休みには、テラスのお掃除隊と称し、目的を持って活動を行う経験も取り入れた。クッキングやランチタイムを導入し、長期休暇の時期は、昼食持参で長時間過ごせるようにした。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

学校と連携をし、「赤ちゃん学校へ行こう」へ参加をした。中高生部屋を整え、過ごしやすいようにする。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動の受け入れ(3 名)や実習生(1 名)の受け入れをした。

（オ）年間 3 回行っている運営委員会に意見交換を取り入れ、率直な意見を聴くようにした。

３．職員の資質向上

外部研修に参加し、個々のスキルを高めようという意識を持っている。個々が研修で学んだことを、職員会議の中で共有する。課題やケースについて各職員の考えを伝え合いながら方向を決めていけるようにした。

また、宝塚市内の各児童館が連携して行う事業（ミニたからづか）に参加することにより他児童館との交流を持ち、職員のスキルアップにもつながっている。

【数値実績】

① 利用状況　本館

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
4 月	393 名	778 名	102 名	11 名	1,284 名	427 名	1,711 名	24 日	71.29 名
5 月	370 名	409 名	3 名	6 名	788 名	371 名	1,159 名	24 日	48.29 名
6 月	502 名	580 名	7 名	4 名	1,093 名	459 名	1,552 名	26 日	59.69 名
7 月	498 名	1218 名	46 名	9 名	1,771 名	452 名	2,223 名	25 日	88.92 名
8 月	494 名	1227 名	23 名	5 名	1,749 名	526 名	2,275 名	25 日	91.00 名
9 月	499 名	524 名	5 名	6 名	1,034 名	418 名	1,452 名	24 日	60.50 名
10 月	440 名	387 名	3 名	0 名	830 名	396 名	1,228 名	25 日	49.12 名
11 月	396 名	388 名	18 名	0 名	802 名	336 名	1,138 名	24 日	47.42 名
12 月	361 名	540 名	23 名	6 名	930 名	338 名	1,268 名	23 日	55.13 名
1 月	387 名	361 名	3 名	4 名	755 名	340 名	1,095 名	23 日	47.61 名
2 月	461 名	300 名	1 名	3 名	765 名	325 名	1,090 名	23 日	47.39 名
3 月	500 名	772 名	64 名	6 名	1,342 名	475 名	1,817 名	26 日	69.88 名
計	5,301 名	7,484 名	298 名	60 名	13,143 名	4,855 名	18,008 名	292 日	61.67 名

② 利用状況　出前児童館

	常設　型				派遣　型				イベント型
	回数	就学前	小学生以上	大人	回数	就学前	小学生以上	大人	回数
4 月	14 回	159 名	3 名	138 名	0 回	0 名	0 名	0 名	0 回
5 月	26 回	148 名	0 名	143 名	1 回	4 名	68 名	13 名	0 回
6 月	15 回	202 名	0 名	191 名	2 回	5 名	177 名	4 名	0 回
7 月	15 回	171 名	8 名	149 名	0 回	0 名	0 名	0 名	1 回
8 月	13 回	182 名	4 名	167 名	0 回	0 名	0 名	0 名	0 回
9 月	14 回	197 名	1 名	184 名	1 回	4 名	227 名	20 名	0 回
10 月	14 回	154 名	0 名	140 名	2 回	5 名	159 名	2 名	0 回
11 月	12 回	145 名	0 名	121 名	2 回	5 名	148 名	3 名	0 回
12 月	12 回	109 名	2 名	102 名	1 回	3 名	125 名	0 名	0 回
1 月	10 回	101 名	0 名	90 名	2 回	2 名	100 名	0 名	0 回
2 月	13 回	109 名	0 名	97 名	2 回	1 名	138 名	0 名	0 回
3 月	16 回	147 名	0 名	132 名	1 回	1 名	122 名	0 名	0 回
計	174 回	1,824 名	21 名	1,654 名	14 回	30 名	1,264 名	42 名	1 回

逆瀬川あゆみ保育園

2017年度は、これまでの良い所は引き続き継続していきながらも園内の様々な事に対して立ち止まり、再検討する一年であった。その一つとして、例年2月に開催している「たのしいつどい」はインフルエンザが流行し中止になった事を受け、2018年度から秋の開催に変更した。常に子どもにとって最善の方法は何かということを考えた1年であった。どの事柄も職員間で意見を出し合い、時間をかけて丁寧に検討した。自己評価では、園内の環境整備と他クラスの保育を知る機会が少ない事を課題にあげる職員が多かったため、2018年度の目標に掲げ、更なる保育の質の向上へとつなげていく。

1.入所状況

4月に新入園児（0歳児11名、1歳児2名、2歳児1名、3歳児1名）15名を迎え、計52名でスタートした。定員45名に対して117.7%の入所率であった。

2.重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

3歳児クラスで支援が必要な子どもに対応するため、プラス1名担当が付く。また、臨床心理士による巡回指導を受け、集団で過ごす中で配慮が特に必要と感じる子どもの相談をし、より個々に対して寄り添った保育が出来るよう、指導を受けた。

②世代間交流

園の行事である花の日や感謝祭だけでなく、3歳児を中心にデイサービスの方々を定期的に訪問する機会を増やし、共に楽しむ時間を持った。野上あゆみ保育園との交流も3歳児を中心に定期的に行った。年度末は、野上あゆみ保育園への進級を見越して、意識的に訪問し2018年度に向けて子どもの安心感へつなげた。

③食育

3歳児を対象に、年間計画を作成し季節の野菜や果物などの、形や色、香り、感触などの体験活動（ききイチゴ等）を行った。毎月の旬の野菜や果物、それを使った給食や郷土料理を取り入れたご当地メニューなどを各年齢に応じた食育に繋げた。園庭に植えた野菜を収穫しクッキングをして楽しんだ。給食だよりを1か月毎に保護者向けに発行し情報の発信を行った。

（イ）保育ニーズに対応

①延長保育

18時15分～19時の延長保育を行い、一日平均約6名の利用があった。育休取得等により保育時間の短い家庭が2016年度より増加したため、延長保育の利用はやや減少した。

②一時保育

妊娠・出産のための利用、就労、リフレッシュ利用など、様々な利用状況があった。しかし、低月齢児のニーズが増えているが、充分には受け入れられていない現状がある。

（ウ）地域における公益的な取組

①中学生体験活動「トライやる」で市内の中学2年生13名、職業体験ボランティアで市内の高校生2名、保育実習生4名の受け入れをした。

②週1回園庭開放、月1回室内開放を行い、保護者同士がつながることを意識した。その中で子育てに悩む保護者の増加を実感し、次年度は、室内開放を月約6回に増やしていく。保育士がプログラムを担当し、地域の保護者との交流の中で情報の発信や収集をした。

（エ）保育室環境の改善、施設整備

子どもたちが落ちついて遊び込める環境をめざし、発達に合った玩具や遊びを考えて随時購入した。一時保育利用の子ども用トイレや0歳児排泄コーナーに汚物流しを新設した。

（オ）職員研修

年1回（9月）、あゆみ合同研修を行った。また、第4回宝塚保育学会を開催し、日頃の気づきを研究して発表し、わかちあった。職員会議中に時間を設け、園内研修を行い共に学び合うことを大切にした。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142	11.8
1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	167	13.9
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	52	52	53	53	53	53	53	53	53	53	53	52	633	52.7

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	996	910	1047	1016	933	937	993	943	972	845	931	1021
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26
1日平均	41.5	37.9	40.2	40.6	35.9	39.0	39.7	39.3	42.2	36.7	40.5	39.3
一時保育	79	107	113	101	103	134	143	143	122	116	147	171

③ 職員の状況　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師(正、10月～ﾊﾟ)	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	9	11	11	11	12	15	14	14	14	14	14	14
計	25	27	27	27	27	30	30	30	30	30	30	30

給食業務は、㈱LEOCに委託（管理栄養士1名、パート内【調理師3名】）

御殿山あゆみ保育園

2017 年度、「子どもたち、保護者、保育士もお互いに一人ひとりを大切に」の思いを職員全員が持ち、共に生活してきた。特に保育内容については学会での発表を機会に、取り入れている担当保育を改めて振り返り共有した。また、新人保育士が複数入ったことにより、中堅保育士を筆頭に後輩育ての意識が高まった。自主的な研修の企画や新人保育士の思いを聴く機会を通して、新人保育士を含む職員間のコミュニケーションが豊かになった。2018 年度、改定された保育指針を活かしながら、共に学び、さらなる保育の質の向上に努めていきたい。

１．入所状況

4 月に 20 名の新入園児を迎え、計 132 名（緊急枠含む)でスタート。0 歳児クラスは順調に延び、9 月で定員の 15 名となった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

障がい児は、5 歳児クラスに 1 名、4 歳児クラスに 3 名 3 歳児クラスに 1 名が在籍。年 2 回専門医による巡回指導を受け、専門機関との連携も取っていった。また保護者との面談も定期的に行いコミュニケーションをとるようにした。発達心理相談員による年 3 回の巡回指導によりグレーゾーンの子どもの対応について助言を受け、講義にも参加し全職員で周知した。月に 1 度ケース会議をもち状況の共有を行った。

②危機管理・防災

危機管理委員会・防災委員会を立ち上げた。ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、防災用品の検討、購入など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

管理栄養士による次月メニューの食材の説明（旬の物など）等の食育活動や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。

（イ）地域のニーズに対応

①延長保育

朝 7:00～7:30、夕方 18：15～19:00 までの延長保育を行っている。登録者は 8 名と少なめだが 18:15 分までは子どもが減らないのが特徴的で部分的に遅番保育士が慢性的に不足している。

②一時保育

60 件の面接のうち利用につながったのは 2/3 程度であった。1 年を通し非定型・私的利用共に人見知りのある 0,1 歳児が多く、慣らし保育が長引くなど短時間利用も増えた。一方、それにより信頼関係が深まり、長期利用に繋がることもあった。

③子育て支援

室内解放、給食体験などを行った。児童館と連携し、「園庭開放」、「離乳食試食会」年 6 回「看護師によるミニミニ講座」13 回や子育て相談を児童館プログラムに付設させ、行った。職員が交代で出前児童館に出向き在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を作った。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

園庭遊具の新設。ガスヒーポン（エアコン）修理。保育環境は定期的に見直した。

（エ）職員研修

園内研修は危機管理、わらべうたなど行った。資料の配布をし自主学習を促した。「あゆみ合同研修会」や「第 3 回宝塚保育学会」は開催。グループに分かれて自主研究を行い各学会や園内で発表した。

３．地域における公益的な取組

「中学生仕事体験活動」では御殿山中学校の生徒 6 名を受け入れ、短大保育科の保育実習では 2 名を受け入れた。インターンシップで大学生 1 名の受け入れも行った。行事で近隣高齢者デイサービスの訪問も行った。駐車場を開放し、高齢者にお花見に来て頂いた。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	10	12	12	14	15	15	15	15	15	15	15	163	13.5
1 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2 歳児	24	24	24	24	24	24	23	24	24	24	24	23	286	23.8
3 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
5 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	297	24.7
合計	132	132	134	134	136	137	136	137	137	136	136	135	1622	135.0

保育日数及び出席状況（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数	2383	2349	2674	2561	2229	2505	2705	2478	2531	2266	2397	2548	29626	2468.8
保育日数	25	24	25	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
一日平均	99.3	97.9	102.8	102.4	85.7	104.4	108.2	103.3	110.0	98.5	104.2	98.0	1214.7	101.1
一時保育（延べ人数）	41	51	56	60	82	105	110	105	101	92	102	114	1019	84.9

職員の状況（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
パート・派遣	16	16	17	16	17	16	16	17	17	18	19	19
計	37	37	38	37	38	37	37	38	38	39	40	41

御殿山児童館

2017 年度は、乳幼児親子から中高生までの利用者のニーズを理解し、適切な支援を行うことができた一年であった。乳幼児親子プログラムでは、子育てをしている保護者が“ほっ”とできる機会を作り、プログラムの中で保護者が互いの子どもを見守りながら、心休まる時間を保護者同士のエンパワメントで得ることができた。小学生においては自主的にプログラムを企画するなど社会へ参画する姿も見られ、ボランティアとして誰かの役に立つ活動が多く見られた。

中高生は継続して来館があり、中高生の居場所づくりや関わりを充実させ、出前児童館事業については、必要とされる場所で必要な支援をすることにより乳幼児小学生の居場所づくりに貢献することができた。今後も引き続き、利用者のニーズを把握し応えていけるよう努めていきたい。

【事業・運営状況】

１．地域との連帯の強化

（ア） 地域との関わりを深め協力体制をとれるよう地域の会議に出席し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。また、地域の方々にボランティアとして関わっていただき花壇の整備等の活動を充実させることができた。

２．サービスの質の向上

（ア）来館者が安心して遊ぶことのできるよう、環境作りを考えた。また安全管理と事故等や有事の際に備え、新規利用者は緊急連絡先等を登録し管理を行った。

（イ）乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、参加したい親子すべてが参加できるよう内容や時間帯などを工夫するとともに、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援した。

（ウ）小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動等、みんなで楽しく遊べる内容の充実を図り、様々な体験を通じての仲間作りを行った。また、事業への参画活動も行った。

（エ）中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週 1 回開館時間を延長して行った。月に 1 回のクッキングでは、「生きる力」を養うことを目的に、自分ひとりの力で作ることができるメニューを提案している。毎回たくさんの中高生が参加し、「家に帰って家族にふるまった」など嬉しい声を聞くことができた。

（オ）出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる遊びのノウハウの提供や、安全管理の指導を行った。

（カ）図書推進活動では図書委員を設置。月替わりで担当者が推薦する本を職員が検討し、承認が得られれば図書に追加した。また、利用者へ本の紹介をするとともに貸出を行い、2016 年度よりも貸出数が増加した。

（キ）利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。保護者、小学生からの意見が多く、毎月 10 件以上の投書がある。ひとつひとつ職員で検討し、対応可能な案件から順次対応を行った。

３．職員の資質向上

（ア）宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

（イ）児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月１回の職員会や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

４．公益的事業

（ア）館内プログラムより生まれた自主サークル主体のプログラムを行った。来館者自身の自己実現など成果があった。

（イ）「トライやるウィーク」（中学生仕事体験活動）では中学校の生徒４名、佛教大保育科の保育実習では１名を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
４月	969 名	825 名	282 名	47 名	2,123 名	613 名	2,736 名	24 日	114.00 名
５月	1,010 名	563 名	255 名	41 名	1,869 名	579 名	2,448 名	24 日	102.00 名
６月	826 名	677 名	244 名	36 名	1,783 名	626 名	2,409 名	26 日	92.65 名
７月	669 名	1,282 名	349 名	36 名	2,336 名	625 名	2,961 名	25 日	118.44 名
８月	735 名	1,370 名	221 名	48 名	2,374 名	653 名	3,027 名	25 日	121.08 名
９月	823 名	668 名	159 名	27 名	1,677 名	570 名	2,247 名	24 日	93.63 名
10 月	894 名	522 名	177 名	43 名	1,636 名	639 名	2,275 名	25 日	91.00 名
11 月	844 名	500 名	184 名	37 名	1,565 名	576 名	2,141 名	24 日	89.21 名
12 月	906 名	640 名	178 名	32 名	1,756 名	604 名	2,360 名	23 日	102.61 名
１月	685 名	392 名	86 名	28 名	1,191 名	451 名	1,642 名	23 日	71.39 名
２月	780 名	386 名	134 名	42 名	1,342 名	526 名	1,868 名	23 日	81.22 名
３月	871 名	1,035 名	230 名	41 名	2,177 名	644 名	2,821 名	26 日	108.50 名
計	10,012	8,860 名	2,499 名	458 名	21,829	7,106 名	28,935	292 日	99.09 名

【出前児童館回数・利用者数】

	常　設　型				派　遣　型				ｲﾍﾞﾝﾄ型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
４月	４回	68 名	０名	56 名	６回	22 名	31 名	18 名	０回
５月	３回	51 名	０名	42 名	６回	41 名	77 名	31 名	０回
６月	４回	93 名	０名	79 名	７回	38 名	144 名	30 名	０回
７月	４回	57 名	０名	50 名	６回	25 名	140 名	21 名	０回
８月	４回	67 名	０名	65 名	４回	14 名	115 名	10 名	０回
９月	４回	86 名	０名	76 名	７回	43 名	238 名	33 名	０回
10 月	４回	70 名	０名	61 名	７回	27 名	222 名	23 名	０回
11 月	３回	37 名	０名	32 名	７回	44 名	141 名	44 名	０回
12 月	４回	75 名	０名	72 名	６回	37 名	102 名	33 名	０回
１月	２回	40 名	０名	34 名	５回	20 名	120 名	17 名	０回
２月	４回	85 名	０名	74 名	８回	34 名	209 名	29 名	０回
３月	４回	75 名	０名	63 名	５回	31 名	20 名	27 名	０回
計	44 回	804 名	０名	704 名	74 回	376 名	1,559 名	316 名	０回

高齢者公益事業部

2007 年 7 月に日本郵政公社から移譲された浦安エデンの園が 2017 年 7 月に開園 10 周年を迎えた。2011 年の東日本大震災の際は増築棟の建設中で、打ち終えたばかりの杭は新しく打ち直し、1 年半遅れの 2013 年 6 月、一般居室 195 戸、介護居室 29 戸、一時介護室 5 室を備えることとなり、名実ともに「エデンの園」として再スタートした。また、3 年半を工期とする浜名湖エデンの園 1・2 号館耐震対策建替工事は 2017 年 9 月に起工式が執り行われた。2019 年度には宝塚エデンの園、2020 年度には松山エデンの園、2026 年度には油壺エデンの園がそれぞれ開園 40 周年を迎える。これらの施設では次の 40 年間を運営していくための建物整備が必要な時期となっている。

2017 年 7 月、NHK のドキュメント 72 時間「海が見える老人ホーム」で油壺エデンの園が取り上げられた。「海が見える老人ホーム」は 2017 年に放映された同番組 39 本の中から「視聴者が選ぶ今年のベスト 10」で 3 位となった。私たちの事業が社会的に大きな関心をお持ちいただいていることの確かな手ごたえを感じるとともに、現在の入居者、未来の入居者の期待に応え続けることができるサービスについて、質量ともに見直す必要性を感じた 1 年でもあった。

１．聖隷理念の継承とエデン価値の進化

当事業部が目指す各施設の将来像を明らかにするため、2020 年度からの 10 年間を計画期間とする総合計画基本構想骨子を 2017 年 12 月に各施設で作成した。その骨子を基に、2018 年度内に各施設の総合計画基本構想案を完成させる予定である。

2017 年 4 月からサービス支援担当の専従職員を配置し、エデンの園の標準サービスの可視化に着手した。また、健康寿命の延伸を目的として自立者を対象とする健康維持・増進の運動プログラム（スクエアステップエクササイズ）を介護予防活動の一環として 3 施設で展開したほか、認知症の早期発見・診断の仕組みを導入し、各地域の専門医療機関との連携を模索した。

２．経営の安定と永続性の確保

NHK のドキュメント 72 時間の追い風もあり、好調な募集活動を展開し、新規入居者数は 111 件で予算の 96 件を上回る結果となったが、一年契約利用者が想定以上であったため、金額では予算の 82%の達成率にとどまった。また、入居者の高齢化によって逝去による退去者数が予測以上に増え、期首より空室増となった施設があった。2018 年度以降は入居検討者の確保とともに各施設の入居状況を踏まえ、住替え等の運営状況を共有し機動力に富む募集活動に注力する必要がある。

浜名湖エデンの園の建替工事では、園と事業部との連携した対応により、入居者・地域住民・職員の負担軽減に努めた。

３．人材の採用・育成・定着の強化

各施設の介護支援専門員で構成する計画作成担当者会議を新設し、ケアプランの質を高める取り組みを開始した。

日本老人福祉財団との交流研修は開始から 3 年で 60 人を超える中堅職員が研修を修了した。より発展的な研修となるよう 2018 年度からの交流研修体系について検討を重ねている。

障害者雇用を推進するため、法人本部人事企画部の支援を得て各施設でアクションプランを立案して採用活動に努め、2018 年度は法定雇用率を超える雇用を見込んでいる。

４．サービスの質・安全・効率の向上

事業部リスク管理委員会で書式や報告体制等を見直し、各施設と事業部との連携強化を図った。また 12 月にリスクマネジャー研修を実施し、各施設のリスク管理体制の向上に努めた。これらにより、安心安全に対する職員の意識が向上し、事故の再発防止に対する具体的対応が迅速化できたと考えている。

2017 年度はインフルエンザが全国的に大流行し、入居者をはじめ職員も罹患率を高める結果となった。日常的な感染症対策、標準的な感染予防策について再検証し、改めて見直しを図る機会となった。

EQC（EDEN QUALITY CONTROL。事業部内の品質管理システム）については、事業部と施設の間で使用する書式・マニュアルの整備が完了した。2018 年度以降は、各施設の取り組みに対する支援を継続する。

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

地域包括ケアシステムの一翼を担うべく、医療との連携で強みを発揮できる大阪、横浜、佐倉で新規施設の開設に向けた検討・折衝を重ねたが、具現化には至らなかった。この取り組みは 2018 年度以降も当事業部の最重要課題として継続しなければならない。

2017 年度は 2 施設でインカム（無線機）を導入した。ETS（EDEN TOTAL SYSTEM。業務運営ソフト）の更新検討とともに、それぞれの IT 技術をどのように融合させるか、全体最適を意識した取り組みを継続する。

６．地域における公益的な取り組み

自治体や地域自治会等との災害時の協定を 7 施設で締結し、地域との防災訓練に 2 施設が参加している。各施設では、介護フェスタ、専門職による介護講座、認知症講演会、認知症サポーター養成講座を 2017 年度も行った。各施設がそれぞれの強みを活かし、地域において頼りにされる良き隣人であり続けたい。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		0 件	18 件	13 件	25 件	20 件	9 件	8 件	3 件	96 件
募集実績		5 件 6 名	16 件 21 名	12 件 13 名	35 件 41 名	23 件 30 名	7 件 7 名	8 件 12 名	1 件 1 名	107 件 131 名
入居率	期首	78.5%	95.1%	83.6%	87.7%	87.1%	96.0%	98.1%	80.0%	89.7%
	期末	74.1%	91.9%	86.3%	89.2%	91.5%	92.0%	97.6%	74.0%	88.8%

介護付有料老人ホーム　浜名湖エデンの園

2017 年度は、1,2 号館耐震対策建替工事が本格化した年であった。5 月のゴールデンウィーク明けから 4 号館共用部の解体が始まり、騒音やほこりなどの対応に追われた。その後、工事はほぼ予定通り進み、9 月には来賓や事業団役員に参列していただき、今後の工事の無事を祈り起工式が執り行われた。解体の後、更に地盤を掘り下げ基礎を固め、4 号館増築工事へと工程は進んだ。2018 年 9 月には 1,2 号館の入居者の引っ越しや事務所機能移転、食堂や厨房の移転などが一斉に行われる。2016 年度から工事が本格化しても生活の質を落とすことのないような取組を継続してきたが、共用部分が縮小していく中で様々な障害が出てきており、更なる創意工夫により従来の快適な生活を継続することができるよう本部事業部と協力して安全に工事を進めていきたい。

その他の設備整備面では、6 号館ナースコールシステム更新工事、同 1,2 階のエアコン取り換え工事の他、防犯対策として 4,5 号館ベランダ東側隔て板取り換え工事を行った。また、2016 年度の介護居室への導入に続き、一般居室へも温冷配膳車 2 台を導入することができた。

経営面では、2016 年度に続き工事の影響から収入増加が難しく、暫くは厳しい状況が続くことになる見込みの中、2017 年 10 月には 1,2 号館の入居者の方々の住み替え先が決まり、ようやく新規入居の募集を再開した。その結果、2018 年 1 月には 1 年 10 か月ぶりに新たな入居者を迎えることができた。以前にも増して広報活動を活発に行い新入居者を増やしていきたい。職員体制も充実し、建て替え工事の大きな山場を迎える体制を整えることができた。

１．個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

（ア）入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）の考え方に基づくサービスの実践を目指し取り組んだ。2018 年度も継続する。

（イ）職員全員が一歩進んだサービスの提供を意識し配慮する気持ちを大切にした。

（ウ）入居者が落ち着いてくつろげる環境を確保できるよう工事中の騒音などの対策をした。

（エ）ISO（標準化）とパーソン・センタード・ケア（個別化）の両立を意識しより質の高いサービスを目指した。

２．次世代を担う人材確保と育成

（ア）「聖隷の理念」「施設理念」の掲示の他、基礎研修や見学会などで啓蒙を行った。

（イ） 2016 年度同様、施設の「事業・運営計画」「予算」浸透のため園内勉強会を開催した。また目標参画システムを用いて事業計画・運営方針の浸透と職員への意識づけを行った。

（ウ） 予期せぬ退職をなくし、定期採用により職員定数を確保した。

（エ）内外の研修への積極的な参加を促し、園内では年間を通した研修プログラムを実施した。

３．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

（ア） 全職員が入居率を意識することができた。募集再開後、新入居の獲得につながった。

（イ） 介護保険報酬改定に向け、最適な介護保険の適応について検討した。

（ウ） 2016 年度に続き増収が難しい状況の中、職員一人ひとりがコスト意識を持ち経費の削減に努めた。

（エ）診療所の体制を見直し、受診しやすい環境を整備した。

（オ）地域における公益的な取組として自治会や近隣施設、教育機関や地元企業と連携をした。

４．安全管理の徹底を図ったサービスの提供

（ア）新たなリスク管理体制をスタートさせ、情報の迅速な共有やフィードバックが促進された。また、感染については、2016 年度に続き大きな感染の拡大はなかった。

（イ）リスク発生時における役職者を中心とした迅速な対応と再発防止に取り組んだ。

（ウ）月に 1 度コンプライアンス委員会を開催するとともに職員の法令順守意識向上に努めた。

（エ）事業継続計画（BCP）構築するも詳細が完成しておらず、今後の課題となった。

（オ）防犯意識向上のため園内研修で専門家による講演を実施した。

（カ）2016 年度に続き職場巡視を実施し休憩室の備品整備など適切な労働環境の整備に努めた。

５．未来へ繋がる建て替え計画の実践

（ア）増築 4 号館への引っ越し移転に向けて問題点を洗い出した。

（イ）ビオトープや正面玄関の整備などの準備を行った。

（ウ）看護師による相談や休憩室、読書室の整備、外出企画や園内巡視等の取り組みを行った。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位：名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	303 戸（51）戸	101	253	354

表２：地域別契約状況　（単位：名・%）

	関東	近畿	東海	九州	甲信越	四国	北海道	中国	東北	計
人数	80	14	245	3	7	0	1	3	1	354
構成比	22.6	4.0	69.2	0.8	2.0	0.0	0.3	0.8	0.3	100.0

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	26	66	93	84	53	21	9	2	0	354
構成比	7.3	18.6	26.3	23.7	15.0	5.9	2.5	0.6	0.0	100.0

表４：平均年齢　（単位：歳）

平均	男性	女性
84.4	83.3	84.8

表５：入・退去状況　（単位：名）

	入居	退去	（死亡退去）
男	2	4	(4)
女	4	22	(21)
計	6	26	(25)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位：名）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	114	14	15	35	17	5	21	7
期末人数	106	8	10	40	14	9	21	4
月平均人数	109.6	12.7	10.5	38.8	17.2	6.7	19.9	3.8

ウェル・エイジング・コミュニティ　宝塚エデンの園

2017 年度は、一年を通して人員が予算に達しない中、職員一人ひとりの努力で各種サービスの質を低下させることなく園の運営ができた。入居者満足度調査の総合評価が 2016 年度より向上し、2017 年度会計実績もプラスで終えたことから、当園の事業運営の 3 つの柱である「入居者満足・職員満足・経営安定」も達成できたと考える。

2017 年度の募集活動は新入居 16 件 21 名と人数での目標は達成したが、件数での目標は 2 件未達であった。それに対し、逝去による退園者数は 35 名と予測の 1.7 倍に達したため、入居率は 2016 年度に比べ 3.2%減少した。

入居者の平均年齢の上昇とともに介護保険認定者数も増加しており、介護予防の取り組み強化や認知症ケアの充実、介護と医療の有機的連携強化の必要性を再度確認した。将来の介護に係る人員的不安の軽減につなげるサービスの在り方や人員配置に関し、介護ロボットの導入や職場改善に加え、人材育成についても今まで以上に強化を図った。

以下、2017 年度の取り組みを詳述する。

１．入居者満足の向上への取り組み

（ア）入居者満足度調査は、総合評価（5 段階）で 4.3（前回、4.0）であった。2016 年度と比較し、0.3 ポイント向上し、4.2 の目標を達成した。

（イ）食材の内、魚類の一部を松山の漁港直送にし、より新鮮なものに、また米についても兵庫県産のコシヒカリに変更し、より良い食事を提供するために仕入れ先を変更した。

（ウ）パーソン・センタード・ケア（PCC）の研修内容を 1 ランク上げ全職員対象に実施した。これにより PCC と聖隷の理念「隣人愛」を結びつけて考えることができるようになった。

（エ）園内学会でグリーフケアを取り上げ改善案が提案された。今後この案に対して導入を検討していく。

（オ）入居者への園運営の「見える化」は園単独では難しく、入居者運営懇談会で入居者と共に検討していくこととした。

２．　職員満足の向上への取り組み

（ア）インカムの導入により職場内及び職場間の情報伝達や連携が強化され業務効率に繋がった。

（イ）園内研修の目的に「職員一人ひとりの役割を発揮するため」と明文化し、目的に沿った内容に修正を加えた。

（ウ）各課単位で業務の効率化を検討すると共に、委員会等を整理し会議の見直しを行った。

３．健全経営体制の維持

（ア）新規入居契約は、年間 16 件 21 名と件数では目標の 88.9%の達成度であった。また逝去による退園者が 35 名と多く、期末の入居率は 92.8%であった。

（イ）附属診療所は、1 日平均入院患者数が 13.1 名と 2016 年度の 10.0 名を大きく上回った。1 日平均一般外来患者数は 2016 年度より 1.8 人増加した。これにより附属診療所の経営状態も 2016 年度に比べ 540 万円の経営改善ができた。

（ウ）介護ロボットや業務の自動化に向けて多くの職員が積極的に研修会や展示会に参加し、情

報収取や導入分析等を実施した。

4．安全・安心な暮らしの提供

（ア）介護居室の外部来園者からの感染により、インフルエンザの集団感染が発生したが、これを機に感染拡大を防ぐ対策を立て、感染マニュアルの改訂を行った。

（イ）園全体の防災避難訓練を年 3 回実施するとともに、診療所や介護居室単独での防災訓練も実施した。その他、食堂での窒息事故の緊急対応訓練や、不審者の園内侵入対応の訓練も実施した。

（ウ）リスク、苦情発生時には対応部署を明確にして即時対応の強化を行い、入居者より対応が早くなったと好評を得た。

5．地域における公益的な取組

（ア）ゆずり葉自治会と新たに災害時や火災時の相互協力協定を締結し、初めて自治会と共同の総合防災訓練を実施した。

（イ）障害者雇用を積極的に進め、1 名のゾーン正職員と 1 名のパート職員を雇用した。雇用後も職場に慣れ、安定的な働きを続けている。

表１：契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	375（60）	109	326	435

表２：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	389	20	15	1	5	1	1	1	2	435
構成比%	89.4	4.6	3.5	0.2	1.2	0.2	0.2	0.2	0.5	100

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	31	54	126	97	71	35	18	3	0	435
構成比%	7.1	12.4	29.0	22.3	16.4	8.0	4.1	0.7	0	100

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.4 歳	83.7 歳	83.4 歳

表５：入・退去状況

人数	入居	退去	(死亡退去)
男	8	8	8
女	13	28	27
計	21	36	35

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	112.8	19.0	16.9	25.5	24.4	12.9	10.1	4.0
期末人数	101.0	12.8	13.0	25.3	22.1	14.9	5.9	7.0
月平均人数	112.4	18.2	16.1	28.8	23.1	14.9	5.9	5.4

介護付有料老人ホーム　松山エデンの園

2017 年度は、高齢者の住まいが多様化する中で、事業部理念でもある高齢者一人ひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援できる施設であることを PR する活動をさらに強化し、入居ニーズに幅広く応え新規入居契約の獲得による入居率 90%達成を目指した。新規入居が 13 名となり、入居率の予算達成は実現できなかったが、2018 年度達成に向けた大きな成果を得ることができた。環境整備においては、1・2 号館は竣工から 36 年経過、3 号館（介護棟）については 10 年を経過し、設備更新や改修工事等を行った。地域住民の方々には、引き続き地域行事や地域防災活動を行い、当園の存在価値を高めていくとともに、松山ベテル病院との連携をさらに深めてより一層入居者の要望に応えていきたい。

１．質の高いケアの提供

（ア）毎日が楽しく、安全に継続できる支援を目標に、入居者が望む支援を見出して支援するよう取り組んだ。介護保険利用者会や家族会等を開催し、松山エデンの園の取り組みを入居者や家族へ理解して頂けるよう努めた。

（イ）感染予防等の積極的な取り組みから、日々の健康管理の重要性を入居者に理解して頂き、感染発症者は出たものの早期対応により拡大には至らなかった。

（ウ）12 年間続けてきた体力測定の実績を振り返りながら継続した予防活動の成果と今後の課題を確認する事ができた。2018 年度から取り組む活動に活かしていきたい。

（エ）入居者が望む事を、ケアだけではなく、生活、食事等トータルサービスが実践できるターミナルケアを目指し、取り組むことができた。

２．安全で美味しい食事の提供

（ア）食事メニューに応じて出来立て、揚げたてを食べて頂く食事提供を行い、季節感やテーマを持った献立を取り入れ満足度向上に努めた。

（イ）食材費が高騰した時期があったが、業者選定や調理法等を見直しコスト削減を行った。

（ウ）介護食については、ソフト食の提供改善に力を入れた。また、介護居室の方を対象とした行事食の提供を計画的に行い、食のたのしみを感じて頂く対応ができた。

３．人材の育成

（ア）基礎研修や全体研修等を通じて聖隷理念に基づく職員倫理・接遇の向上に取組んだ。

（イ）各職員で個人の能力向上を目指し、各種研修に参加し職場内での共有から専門性を高めあう育成を行った。

（ウ）コミュニケーション能力向上を目指し、全体研修や各課の職員と入居者が交流できる園内行事を開催した。

４．安定した園運営を永続するための入居率の向上

（ア）新規契約戸数　13 戸 15 名を目標としたが、12 戸 13 名であった。

（イ）介護居室直接入居の体験入居の実施を行った。

（ウ）入居検討者へ各課で行われる園内行事に参加して頂けるよう積極的な取り組みができた。園での生活を体験できる募集活動を引き続き取り組んでいきたい。

（エ）水道料金は、契約の見直しを行い 2016 年度より費用減となっている。
（オ）省エネルギーに関する資料や職員への啓蒙活動を行い、電力管理については適正なデマンド管理を継続できた。

５．地域貢献・交流の推進
（ア）地域の方と医療法人聖愛会で防災活動を行っており、2018 年度は地域合同防災訓練を行う予定である。
（イ）隣接する松山ベテル病院と合同研修や学会発表を行い、専門性を高めあう交流連携を深めている。

６．地域における公益的な取組
（ア）市民清掃、地方祭等、地域との交流活動を積極的に行った。
（イ）地域の方に介護予防講座を行い、2018 年度も引き続き開催する。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位：名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	126 戸（19 戸）	43	102	145

表２：地域別契約状況　（単位：名・%）

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	111	13	8	7	2	4	145
構成比	76.6	8.9	5.5	4.8	1.4	2.8	100.0

表３：年齢構成　（単位：名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	9	23	47	29	23	5	5	3	1	142
構成比	6.2	15.9	32.4	20.0	15.9	3.4	3.4	2.1	0.7	100.0

表４：平均年齢　（単位：歳）

平均	男性	女性
83.61	82.78	83.94

表５：入・退去状況　（単位：名）

	入居	退去	(死亡退去)
男	5	3	(2)
女	8	7	(4)
計	13	10	(6)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位：名）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	56	19	4	8	4	9	4	8
期末人数	56	17	5	8	3	11	6	6
月平均人数	58.1	17.9	4.7	7.9	2.6	11.8	5.3	7.9

介護付有料老人ホーム　油壺エデンの園

2017 年度は、開園 30 周年を締めくくるイベントが滞りなく開催できた。また、2017 年度最大の出来事は、NHK ドキュメント 72 時間で「海が見える老人ホーム」、TBS「爆報！THE フライデー」とメディアに大いに取り上げられたことであり、入居募集活動の大きな成果に繋がった。これらの取材に対する入居者皆様の理解と協力の賜物であり、感謝を申し上げたい。

さて、運営面では 2016 年度から課題となっていた園内セキュリティ対策および職員教育の一環として、三浦警察協力のもと防犯訓練、また、入居者の安全対策としての行方不明者捜索訓練などが実施できた。設備整備については、緊急通報システム更新や 6,7 号館エレベータの更新等、計画整備が実施できた。また、経営面では、新入居者募集数は予算をはるかに上回ったが、退去数の増加による入居率の伸び悩み、診療所の大幅な収益減により、施設会計が厳しい結果となった。経営安定のためには、さらなる入居率の向上や診療所の患者数増が必須であり、入居募集活動や診療所体制の立て直しに努力したい。

１．安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上

（ア） 人権擁護についてのアンケートを全職員に対して実施し、勉強会で結果報告した。

（イ） 昼食時に「管理栄養士によるチョットためになる食事の話」を 10 回実施し、入居者の栄養意識を高める取り組みを行った。（月 1 回 10 分ミニ講座）

（ウ） 開園 30 周年記念事業は、計画した事業実施ができた。

（エ） 事業部のリスク管理体制に基づき、事例報告、振り返り等の強化を図った。

（オ） 要望を組み入れた行事実施はできたが、新たな行事計画は実施できなかった。

（カ） 切れ目ない十分な連携には至っていないが、各部署が協力体制でサービス実践できた。

２．自ら考え行動できる職員の育成

（ア） 超過勤務削減、ノー残業デイの実践等により職場環境の改善を図ったが、職員欠員などにより、十分な成果が得られなかった。

（イ） インカム（無線）の各部署導入により部署間の情報連携を強化した。

（ウ） 人材確保と育成は、看護・介護人員の確保は困難を極め、苦慮している。

（エ） 階層別研修、ゆうゆうの里との交流研修、勉強会を通じてレベルアップを図ったが、外部研修等への積極的な参加が望まれる。

３．安定した施設運営・経営

（ア）エレベータ更新など予定の設備改修は計画的に実施された。また、共用部改修についての検討を行った。

（イ）新入居者件数は実績 34 件 41 名(予算 25 件 32 名)と予算を上回る結果となったが、入居率 90%以上は未達となった。

（ウ）全職員が募集スタッフとしての意識は確立したが、成果に結びつかなかった。

（エ）皮膚科開設などサービス向上を図ったが、外来・入院とも患者数は伸び悩んだ。

（オ） EQC(EDEN QUALITY CONTROL)により、基本的な書式については統一が図られた。

４．環境・省エネへの取組みと地域との関わり

（ア）継続的に電気デマンド管理(最大需要電力管理)及び各所の効率的なエネルギー使用コ

ントロールにより電力使用量の削減ができた。

（イ）隣接する公園の美化作業など行い、入居者・地域住民参加の納涼行事を実施した。

（ウ）職場環境整備 5S 活動については、職場意識の向上と委員会による職場巡視実施により活動継続が図れた。

５．災害時の対策、防災教育の徹底

（ア）導入したインカム（無線）を活用して、地震・火災総合訓練と職員による夜間想定訓練を実施した。不慣れな職員や人員が手薄時の対応に課題が残った。

（イ） 職員安否情報システム(ANPIC)を導入し、安否応答訓練、緊急連絡網訓練を実施した。

（ウ） 地域防災協定案を地域自治体に提案した。

６．地域における公益的な取組

(ア)地域への開放も含めた介護フェスタを開催した。(介護予防活動紹介)

(イ)社会福祉協議会と共催で認知症（脳トレ）カフェを実施した。両者協力による地域住民へのセミナー等の開催のための検討を開始した。

（ウ）看護実習の受け入れ（神奈川歯科大学短期大学部）10 名、延べ 4 日間行った。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位:名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	378（94）	148	324	472

表２：地域別契約状況　（単位:名・%）

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	440	10	11	1	3	1	1	0	3	2	472
構成比	93.3	2.1	2.4	0.2	0.6	0.2	0.2	0.0	0.6	0.4	100.0

表３：年齢構成　（単位:名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	33	77	113	106	83	37	19	4	0	472
構成比	7.0	16.3	23.9	22.5	17.6	7.9	4.0	0.8	0.0	100.0

表４：平均年齢　（単位:歳）

平均	男性	女性
83.5	82.5	84.0

表５：入・退去状況　（単位:名）

	入居	退去	(死亡退去)
男	19	9	(8)
女	22	24	(19)
計	41	33	(27)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位:名）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	111	9	16	23	21	12	19	11
期末人数	111	12	16	21	17	13	18	14
月平均人数	117.8	10.8	18.1	26.1	17.3	14.3	18.4	12.8

介護付有料老人ホーム　浦安エデンの園

2017 年度は、エデンの園として開設 10 周年を迎え、記念の式典やイベントを地域と共に開催することができた。中でも入居者の声によってスタートした茶話会は職員と身近に話し合える場として 1 年継続でき好評であった。ハード面ではニーズに合わせた駐輪場の増設とごみ集積場の修繕など震災の傷跡をようやく修復することができた。平均年齢が 83 歳を超えている中、年々要支援・要介護認定者が増えている状況であり、2018 年度は居場所づくりに着手し、より安心した園生活を提供できるよう整備していく。募集活動においては、近年浦安地区周辺に特化した PR 活動を推進したことにより、待機者が増加し、地域での認知度向上を実感している。これにより、新規入居者数は予算を上回り、年度末には入居率が 92%に達した。2018 年度はさらに募集活動に注力、入居率の目標 95%以上を確保し、安定した経営を推進していく。

１．良質なサービスの追及

理念である「ご入居者を真ん中においた生活の創造」を実現するために、入居者に寄り添ったケアや見守りが各部門の隔てなく取り組むことができている。イベントの企画や運営にも入居者参画型を推進することができた。食事についてはリクエストメニューを取り入れ「手作り」「出来立て」にもこだわった。より満足度の向上を目指し、そして最後まで意思を反映したサービスを追求していく。そのためにもエデン・クオリティ・コントロール（EQC）を推進し提供するサービスの標準化もさらに推進していく。

２．働きがいのある職場風土の醸成

理念の継承と目的の共有を図り、個々のモチベーションアップとレベルアップを目指し、各職種ラダーに取り組んでいるが意識向上が課題である。内外研修への参加を進めているが、より参加しやすい環境づくりが課題である。メンタルヘルス向上のために職場長による面談やワークショップを取り入れ離職防止に繋げている。

３．安心・安全な施設づくり

感染症に罹患する入居者及び職員はいたものの、拡大防止に努め、感染拡大ゼロを実践することができた。施設関連では老朽化に伴う設備更新により、火災報知器の誤作動が激減し安心した生活環境を提供できた。また、アクシデントやインシデントの分析と共有に努めている。発生件数の減少が今後の課題である。離園者を出さないために設備機器を活用しているが、園全体、全職員での見守りを継続していく。

４．安定した施設経営の実現

地域交流を中心にイベントを企画することにより、募集活動にも繋がっている。これにはすべての部門が関わっており、全職員が募集担当も兼ねていると認識できている。介護保

険請求に関しては適切な見直しと加算を算定できており、引き続き漏れなく請求するよう注力する。レストラン利用については、喫食率のアップは厳しいものの、おせち料理の価格見直しを実施。今後も適正価格での提供を推進していく。このような経営状況や入居状況を毎月定期ニュースレターにて配信し、周知を図っている。

５．環境・省エネルギーと地域における公益的な取組

年 2 回の市内美化運動に入居者と職員が共に参加することがようやく定着化してきており、地域での役割のひとつとなっている。イベントの開催においても開放型を意識し地域に根差した施設を目指している。近隣保育園の避難訓練に協力しているものの共催ができておらず、2018 年度以降実現したいと考える。省エネについては職員の意識は向上しており、今後も無理・無駄のない運営を目指していく。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	205 戸（30 戸）	72 名	163 名	235 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	217 名	7 名	3 名	3 名	0 名	5 名	235 名
構成比	92.3%	3.0%	1.3%	1.3%	0.0%	2.1%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	12 名	41 名	51 名	62 名	42 名	18 名	9 名	0 名	0 名	235 名
構成比	5.1%	17.4%	21.7%	26.4%	17.9%	7.7%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.3 歳	81.0 歳	84.3 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	14 名	7 名	(5 名)
女	17 名	8 名	(6 名)
計	31 名	15 名	(11 名)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	59 名	14 名	5 名	11 名	7 名	9 名	10 名	3 名
期末人数	71 名	15 名	8 名	19 名	10 名	3 名	11 名	5 名
月平均人数	63.0 名	15.5 名	5.8 名	10.4 名	9.7 名	6.3 名	10.3 名	5.0 名

介護付有料老人ホーム　横浜エデンの園

2017 年度は、「エンド・オブ・ライフ・ケア」の更なる充実を目指し「聖隷横浜病院との連携」継続は勿論のこと、「認知症ケア」の DCM に加え、「認知症介護実践リーダー研修」修了者を中心に認知症ケアの基盤を再構築した。又、入居当初やターミナル期等、適宜サービス担当者会議を開催することにより、入居者・ご家族に寄り添えるケア提供に繋がった。

一方、経営面については、前年度同様に退去者が多かったこと（2016 年度：12 名、2017 年度：11 名）に加え、入居希望時期と空室状況が合わなかった事例もあり苦戦を強いられ、平均入居率 95.2％と伸び悩んだ。介護保険収益については、施設での「看取り」の実践や「認知症専門ケア加算」の開始により、数値目標を達成する見込みである。

１．安全・安心・良質なサービスの提供

（ア）入居当初やターミナル期の他、体調変化の著しい時等、入居者・ご家族参加型のサービス担当者会議を複数回開催し、情報交換・共有を行いチームケアの充実を図った。

（イ）今年度は多発事故に重点を置き、SHELL 分析を元に、PDCA サイクルを実践することにより発生件数は激減した。特に「誤薬・落薬」が減少した。

（ウ）「情報共有シート」を使用しての終末期ケアの継続。「認知症ケア」の DCM に加え「認知症介護実践リーダー研修」修了者を中心に認知症ケアの基盤を再構築した。

（エ）緩和ケアチームと連携し、自宅への退院が困難な方の入居に繋げた。デスカンファレンスの開催により、チームケアの振り返り「想い」を共有している。

（オ）満足度調査の結果について評価・分析の上、家族との懇談会において報告して、具体的な改善に取り組んでいる。

２．人財の育成

（ア）日常的に職員同士で感謝や想いを言語化し相手に伝える活動として「エーデンなーカード」の活用継続により、職員のモチベーションアップとコミュニケーションの場となり、定着傾向であり今後も継続していきたい。

（イ）介護ラダーは浸透・定着傾向である。「認知症実践者研修・認知症実践リーダー研修」の修了者による施設内研修体制も構築中。今後の課題としては介護ラダーと目標参画の連動と、看護ラダーの浸透・定着には至っていない。

（ウ）ストレスチェックの結果は 2016 年度同様。メンタル不全者での休職者もなかった。

３．経営基盤の安定と永続性の確保

（ア）2017 年度の居室の平均入居率は 95.2%と、目標の 98％を下回った。要因として空室改修のシステム化を図り空室期間の短縮に繋がったが、ご逝去後の明け渡し迄に数週間から１ヶ月程度を要する現状があり、小規模な施設としては大きな課題である。

（イ）環境委員会を中心に、エコ活動・環境デイを開始。職員間に定着傾向である。

（ウ）介護保険収入については、加算要件等の施設内システムを整備し開始することができた。しかし収支構造の改革については、要因・課題は明確化されたが改善には至っていない。

４．地域社会との連携と協働

（ア）近隣消防署の立ち合いによる防災訓練を実施。又、保土ヶ谷警察生活安全課の講師による防犯講演会を開催した。

（イ）町内会活動への参加、公園清掃や地元祭事への参加交流を図った。今後は講演会や前記「防犯活動」を含め、シリーズ化を目指す。

５．環境・省エネ活動への取り組みの強化

（ア）グリーンカーテンの栽培、テラスの植物栽培等を入居者の協力のもと実施した。

（イ）施設内の環境測定を定期的に実施する等、省エネ活動は実施した。LED 導入については引き続き検討課題とする。

【地域における公益的な取り組み】

１．園主催の「ミニセミナー」を地域住民に対して参加を呼びかけて交流を図った。

２．近隣の保育園へ夕食を提供している（有料）。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	48 戸（0 戸）	9 名	39 名	48 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	ハワイ	計
人数	44 名	1 名	2 名	0 名	0 名	0 名	1 名	48 名
構成比	91.6%	2.1%	4.2%	0%	0%	0%	2.1%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	6 名	18 名	15 名	6 名	2 名	1 名	0 名	0 名	0 名	48 名
構成比	12.5%	37.5%	31.2%	12.5%	4.2%	2.1%	0%	0%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
88.8 歳	87.2 歳	89.2 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	4 名	4 名	(3 名)
女	7 名	7 名	(7 名)
計	11 名	11 名	(10 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	52 名	1 名	3 名	10 名	4 名	16 名	5 名	13 名
期末人数	50 名	3 名	5 名	9 名	4 名	9 名	9 名	11 名
月平均人数	49.3 名	1.4 名	3.8 名	8.9 名	4.1 名	10.3 名	8.0 名	12.8 名

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2017 度､聖隷藤沢ウェルフェアタウンは開設 7 年目を迎えた｡2016 年度から取り組んできた様々なサービスの検証と、将来にむけた基盤づくりは、全てとはいかないまでも成果を上げることができた。運営面では「安心・安全」を最優先に、質の高いサービスの提供を継続してきた。その中でも、開設以来の重点課題であった併設テナント診療所（医療法人社団南星会：湘南ライフタウン診療所）の体制充実は、聖隷横浜病院の協力もあり大幅に改善することができたことは大きな成果である。以下に、各事業が取り組んできた 2017 年度の聖隷藤沢ウェルフェアタウンの事業目標・重点施策と各事業の成果について報告する。

【藤沢エデンの園一番館】

入居状況は、通年で 100%に近い入居率を維持することができた。この状況は、当面継続すると予測される一方、二番館への住み替えの対象となる入居者が増加している傾向もあり、円滑な住み替えへの対応の他、入居待機者へのフォローを丁寧に行うことに注力した一年であった。運営面においては、生活支援サービスの明確化、認知症サポーター講習、大学教授を招聘した認知症セミナーの開催等により、入居者と職員が高齢者の特性を共通理解した上で、よりよい環境を構築するための活動をおこなってきた。その他、各種研修会・勉強会を通じて、エデンの園において職員ひとり一人が重要な役割を担っていることを再認識し、全員で運営していく風土の醸成を推進してきた。

【藤沢エデンの園二番館】

2017 年度も入居率では苦戦を強いられたが、一番館入居者の体調不良等による一時静養利用の増加や、一番館入居者の住み替えの増加から、一番館と二番館および在宅部門との連携が益々重要となっていることを再認識する一年であった。エンドオブライフケアを入居者一人ひとりへ実践するため、質の高いケアを提供するための教育、円滑な情報交換の仕組みの検討、そのための情報収集と現状把握に注力してきた。

その他、居室のエアコンやカーテン等のクリーニングの時期やサイクルの見直し、共用部の環境整備等にも積極的に取り組んできた。

【藤沢愛光園・在宅サービス部門】

2017 年度は、これまでの人材採用難に加え、市内に特別養護老人ホームが新規開設されたこと等により、運営への逆風が強まる環境であったが、入院しないケアの実践、ホームの特徴・特性を積極的に PR したことにより、一定の利用率・入所率を維持することができた。入所者・家族の声を大切にしたケアを更に可視化し、より地域に根差したホームを目指す。EPA による介護福祉士候補生は、残念ながら不合格となったが、2018 年度も候補生の受け入れを継続し、資格取得に向け支援していく。

訪問事業・通所事業・居宅支援事業も、人員確保に苦戦した一年であった。そのため、各事業収入の伸びは期待通りとはいかなかったが、運営面の安定性は高まっている。これまでの積み重ねが、住民、行政、医療機関から高い評価をいただいていることからも、今後も質の高いサービスを提供し、事業拡大を目指したい。

１．一人ひとりを大切にしたケア・サービスの実践

ウェルフェアタウン全体でパーソン・センタード・ケア、認知症ケアマッピングについて、職場や職種を超えて学び、利用者中心のケアを推進してきた。タウン内の各事業を理解し連携を深めることも、一人ひとりを大切にしたサービスの実践に役立つという理解に基づき、勉強会・事例検討会等の開催も事業所の枠を超えて積極的に行うことができた。

２．健康長寿を目指したサービスの展開

高齢者の転倒予防・認知機能向上・体力づくりを目的に、新たな運動プログラム（スクエアステップ）を導入した。運動系プログラム以外では、インターネットを利用して入居者がタイの大学生へ日本語を教える「タイ学生への日本語先生事業」を試行することとなった。2018 年度には本格稼働を目指し、高齢者の新たな生きがいづくりの取り組みとして定着と発展を図る。

３．「提案・改善・改革」の実践

EQC※の推進により、各部門・職場において職員一人ひとりから提案がなされ、利用者サービスの向上や、労働環境の改善につなげることに期待したが、十分な成果を上げることができなかった。2018 年度は、介護報酬の改定もおこなわれることから、その変化にも対応しつつ、利用者サービスの向上、労働環境の一層の改善のために、継続して「提案・改善・改革」に取り組んでいく。

４．その時その場が育成の機会（OJT の強化）

タウン役職者研修等により、OJT の強化に取り組んできたが、現場でじっくりと丁寧に OJT が実践されているというレベルには到達していない。役職者や OJT リーダーは、限られた時間の中で OJT を効果的におこなうことを 2018 年度も重点課題として取り組んでいく。

５．地域における施設の価値創造（地域包括ケアシステム・地域連携の推進）

地域における公益的な取り組みとして、2012 年度より「藤沢市家族介護者教室事業」に継続して関わってきた。また 2017 年度は、地域との情報共有と連携の足掛かりとして、大規模災害をテーマに「家族で災害への備え」と題し、藤沢市と協力し市民セミナーを開催した。今後も公益的活動や地域包括ケアシステムにおいてウェルフェアタウンの役割を認識し、様々な取り組みを行っていく。

※EQC：Eden Quality Control　＝　エデンの園の、業務の質を管理・向上する取り組み

【藤沢エデンの園一番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	205（57 戸）	85 名	179 名	264 名
サービス活動収益	400,809 千円			
職員数(常勤換算)	52.86 名			

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	235 名	6 名	16 名	1 名	3 名	2 名	1 名	264 名
構成比	89.0%	2.3%	6.0%	0.4%	1.1%	0.8%	0.4%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	2 名	9 名	55 名	76 名	65 名	34 名	22 名	1 名	0	264 名
構成比	0.8%	3.4%	20.8%	28.8%	24.6%	12.9%	8.3%	0.4%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
79.7 歳	80.1 歳	79.4 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	4 名	(2) 名
女	7 名	6 名	(1) 名
計	12 名	10 名	(3) 名

【藤沢エデンの園二番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	40 戸（1 戸）	15 名	24 名	39 名
サービス活動収益	165,487 千円			
職員数(常勤換算)	34.51 名			

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	33 名	2 名	0 名	1 名	3 名	0 名	39 名
構成比	84.6%	5.1%	0.0%	2.6%	7.7%	0.0%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	3 名	12 名	9 名	10 名	3 名	2 名	0 名	0 名	0 名	39 名
構成比	7.7%	30.8%	23.1%	25.6%	7.7%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
86.7 歳	86.8 歳	86.7 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	2 名	1 名	(1) 名
女	5 名	8 名	(8) 名
計	7 名	9 名	(9) 名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	42 名	0 名	4 名	14 名	7 名	7 名	5 名	5 名
期末人数	39 名	0 名	3 名	8 名	11 名	9 名	4 名	4 名
月平均人数	40.2 名	0 名	3.0 名	9.9 名	9 名	8.8 名	5.0 名	4.5 名

【藤沢愛光園－数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利用者定員	名	100名	名	20名	－
利用者延べ数	名	35,018名	名	6,425名	－
稼動延日数		365日		365日	－
一日平均利用者数	名	95.9名	名	17.6名	－
稼働率	%	95.9%	%	88.0%	－
単価（1人1日当り）		14,407円		13,849円	－
サービス活動収益		504,490千円		88,981千円	593,471千円
職員数(常勤換算)		64.5名		13.0名	77.5名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
実績	86.8名	601.4件	7,217件	9,218円	66,676千円	9.7名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単価			サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	介護給付(回)	予防総合事業(回)	自立支援(回)		
実績	28.7名	413.3件	4,960件	101.5件	1,218件	265件	3,178件	3,791円	17,915円	4,256円	40,547千円	5.6名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	介護	予防	介護	予防	件数	単価		
実績	1,159件	506件	15,569円	4,205円	63件	5,000円	20,463千円	3.1名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	一日利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	予防総合事業(回)		
一日	24.1件	620.7件	7,448件	13.0件	156件	10,408円	38,956円	88,038千円	11.7名
半日	2.6件	66.3件	795件			6,069円			

*サービス活動収益は内部取引前の数値

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2017 年度は開園 25 周年を迎え、聖隷理念である「隣人愛」、施設理念である「健康・生きがい・安心」を入居者、利用者に提供できるよう園全体で取り組んだ。「高齢者と認知症にやさしいエデンの園作り」を目標に、認知症講座 2017 を開講、入居者と職員が共に学び考える場として 1 年間実施した。また、全職員がオレンジリボンにやさしいエデンをつくるための行動指針を記し、身に付ける事で決意表明をした。有料老人ホームにおいては新規契約戸数の予算を上回る契約戸数を達成することができた。一般居室は高い入居率を継続し、介護居室への住替えも必要とされる方へ円滑に行うことができた。設備については男女大浴場の大規模リニューアル工事及びボイラー関係全般の更新を行った。クリニックにおいては、緩和ケアの充実や入院料を上げるための取り組み等を積極的に行ってきたが、改善傾向は見られるものの厳しい経営状況が続いている。奈良ベテルホームにおいては在宅復帰に注力する施設方針が明確化され在宅支援・在宅復帰施設として稼動を開始し、利用者確保のための渉外活動も積極的に行った。在宅事業においては、地域で行われる会議等へ積極的に参加した。連携や繋がりを持つことで、安定した利用者の確保を目指し取り組んだが、利益計上が厳しい事業所があった。

なお、各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

１．聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

入居者の皆様には施設理念である健康で安心した生活を送っていただけるよう「健幸（造語）生活」作りを継続してきた。健幸チェックにおいては 2 年前より従来の体力測定に頭の健康チェックを取り入れ MCI（軽度認知障害）の発見と介護予防に力を入れてきた。また、入居者の生きがいづくりや、役割を発揮していただく取り組みとしてボランティアグループ「虹のわ」が発足し、助け合い支え合いの活動の輪が広がりつつある。介護居室では個別ケアに力を入れ、本人の思いを取り入れた外出企画や買い物等実施した。しかしながら、エンド・オブ・ライフケアの考え方の浸透度が職員によってばらつきがあり、今後に課題を残した。生活サービス課では誕生者会の企画として、25 周年記念 DVD 上映、「祝」焼印入りの手作りパンケーキの提供、入居者の思い出の曲を参加者で合唱する等、感動を与える取り組みができた。

２．安定した経営基盤の確立

2016 年度に引き続き他課との連携を強化し、介護居室への住替えも必要とされる方へ円滑に行うことができた。新入居も 20 件 29 名の入居契約につなげ、入居率 97.8％の高い入居率を維持したことで安定した収益確保に繋げられた。また、介護保険契約者についてもより適正な介護保険の区分変更も随時進めることができた。給食料収益は大食堂の喫食数が伸び悩んでいることもあり、業者変更によるプレゼンテーションを実施し、2018 年度に向けて課題の継続が求められる。省エネ活動については、計画的に LED 化の更新や電気使用量、燃料費の低価格効果により、費用削減に成果が得られた。

３．人材の育成・活用・定着の強化

個人レベルのスキル向上や成長については、目標参画・各種ラダー表・キャリアファイルの 3 つを活用していくことで、定着してきている。その他、人財育成委員会を中心に、職員研修、園内外交換研修、プリセプター教育などを行うことで、職員間での切磋琢磨が見られ、徐々にではあるがリーダーシップを発揮できる職員が育ってきている。

４．サービスの質・安全・効率の向上

感染対策については、感染予防委員会を中心に入居者や職員教育に力を入れた。入居者には感染時の隔離対応の必要性を説明し、理解と協力を得る事が出来た。結果、この数年の感染拡大防止に繋がっていると考えられる。リスク対策については、年 2 回の転倒予防講座で転倒骨折数や危険箇所報告、体操等の紹介を行っているが、クラブ活動中や居室内・外出先での自立者の転倒骨折事例が目立ち、今後の課題を残した。また、引き続き地震と火災を想定した防災訓練と不審者対応防犯訓練を実施した。

５．地域における公益的な取組及び他施設との連携

5 回目となる地域の総合防災訓練や大和川一斉清掃に参加し、園と近隣自治会、河合町と連携が一層深められた。地域住民や家族、入居者向けに、認知症・排泄・栄養等のテーマでエデン家族介護教室を年 4 回実施した。河合町フリーマーケット、日本生命主催夏休みフェスへの参加、介護の日イベントなど、ベテル・在宅とも連携、協力し、地域に根ざした活動を継続して行った。また、エデンの園学会を地域の福祉事業所や教育機関を招待して開催し好評を得た。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は 20 戸で、(対前年+2 戸) その内、6 戸が 2 人入居であった。また、退去が 18 戸(一般 11 戸、介護居室 7 戸)、介護居室への住替えが 10 戸(対前年比 0 戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室 355 戸 (対前年比-1 戸)、介護居室 44 戸 (対前年比+4 戸) となり、入居率は一般居室 98.0%、介護居室 95.7%、全体で 97.8%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は 2018 年 3 月 31 日現在で要支援 1：35 名 (含介護居室 1 名)、要支援 2：20 名 (同 0 名)、要介護 1：25 名 (同 10 名)、要介護 2：15 名 (同 6 名)、要介護 3：14 名 (同 10 名)、要介護 4：15 名 (同 12 名)、要介護 5：8 名 (同 6 名)、合計：132 名 (同 45 名) となった。
介護保険認定者数は、2017 年度当初の 130 名から 2 名増加した。

【数値実績】

■表 1:契約状況 (3 月末現在)

	居室数	契約数 (内複数入居)	入居率
一般居室	362 室	355 名 (107 名)	98.1%
介護居室	46 室	44 名 (1 名)	95.7%
合　　計	408 室	399 名 (108 名)	97.8%

(3 月末現在)

男　性	女　性	全　体
150 名	357 名	507 名
29.6%	70.4%	100.0%

■表２:地域別契約状況　(3月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件　数	354件	19件	1件	17件	2件	5件	1件	0件	399件
構成比	88.6%	4.9%	0.2%	4.3%	0.5%	1.3%	0.2%	0.0%	100.0%

■表３:年齢構成　(3月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人　数	2名	3名	37名	43名	103名	103名	133名	63名	20名	507名
構成比	0.4%	0.6%	7.3%	8.5%	20.3%	20.3%	26.2%	12.4%	3.9%	100.0%

■表４:平均年齢　(3月末現在)

男　性	女　性	全　体
80.9歳	82.4歳	82.0歳

■表５:入・退居状況

	入居	退去(内死亡退去)
男性	11名	10名（10名）
女性	18名	14名（14名）
合計	29名	24名（24名）

■表６:介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合　計	内訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	119名	25名	22名	24名	18名	15名	11名	4名
期末人数	118名	32名	18名	23名	12名	12名	14名	7名
月平均人数	117.2名	27.6名	18.6名	22.5名	17.0名	13.6名	11.9名	6.0名

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

基幹事業である文化教養講座の開講数が、新規講座の開講ができなかった事及び講師都合による休講が重なり、6講座減(2016年度比)となった。今後も、質を保ちながら安定的開催を目指す。ホールイベントにおいては、まほろばホールで開催した演奏会が悪天候により約80人(2016年度比)減が影響し、年間参加数は微減となったが、概ね好評であった。園内大ホール開催分では1回あたりの参加者数の平均は、148名(2016年度133名)を上回る結果となった。また、参加者数における入居者の割合が長年半数以下(2016年度46%)であったものが、入居者の割合が約54%へと変化がみられた。

◆ニッセイ聖隷クリニック

がん疼痛緩和や緩和ケア診療等緩和ケアチームによる緩和ケアを充実させ、利用者のニーズに対応した看取り実践等トータルケアサービスを推進した。個室備品使用料や後発医薬品比率の見直し等入院料を上げるための取組みや経費削減での業務改善や職員教育等も積極的に行った。
入院・健診収益は改善したが、外来収益は地域患者の高齢化や人口減少も影響して厳しい状況が続いている。また、老朽化が進む装置のメンテナンスや建物の環境整備も継続的に実施した。

◆奈良ベテルホーム

安定した経営基盤を確立する為、引き続き渉外・広報活動の強化を図ってきた。また在宅復帰の為に利用者の入退所管理も強化した結果、7 月より在宅復帰・在宅療養支援機能加算を取得することができ、渉外活動にも好材料となった。しかし、夏場にインフルエンザの流行など、予期せぬ利用者減の要因が重なり、入所、通所リハビリともに予算未達となった。ハード面の整備ではベッドの入れ替えを行うなど、利用者・家族等にとってより良い療養環境を提供できた。

◆ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター・ベル　西大和店

訪問介護収益はケアパートナー不足により渉外を若干控えたため、利用者数の増加には至らず予算未達となった。福祉用具収益については、2016 年度からの職員体制を継続し、きめ細やかな対応と連携で利益計上が出来た。

◆訪問看護ステーション西大和

医療保険利用者訪問件数は増加したが、介護保険利用者のご逝去や施設入所による利用終了により月平均利用者数・訪問件数共に予算未達となった。居宅支援事業所への渉外活動と連携に努め、新規依頼は断らない体制を継続し、退院前訪問等の加算算定も積極的に行った。

◆ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

特定事業所加算Ⅱ取得継続に向けて可視化を継続し、地域ケア会議など関係機関との会議や研修等に積極的に参加する中で、医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数の増加につながり、予算を達成し利益計上できた。

◆その他公益的事業

（ア）実習生受入(実人数 15 名　延べ日数 115 日)
（イ）職場体験学習受入(河合第二中学校　3 名　実日数 3 日間)
（ウ）ボランティア受入(実人数 28 名　延べ日数 279 日)・行事ボランティア(実人数 278 名)
（エ）介護の日ふれあいフェスタ開催（入居者 100 名、外部 20 名）
（オ）文化教養講座(開催数 38 回　参加者 925 名)
（カ）地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会(開催数 12 回　参加者 2,247 名)
（キ）河合町総合防災訓練への参加（7 名、内入居者 2 名）
（ク）河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈（来場者約 700 名、売上 32,030 円）
（ケ）大和川清掃活動への参加（職員 10 名）
（コ）RUN 伴 2017 への参加（入居者 5 名、外部 6 名、職員 19 名）
（サ）エデン介護なんでも教室（年 4 回開催：参加者 78 名）

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2017 年度は引き続き高い入居率に支えられ、経営面では安定した結果を残すことができたと言える。一方、開園 20 周年を超え、入居者の平均年齢や介護度は上昇しており、提供するサービス量は年々増加している。そのため、介護や医療が必要な方に適切に対応できるよう、全職場・全職種・全職員が横断的に協働することを目標として掲げた一年であった。中でも、食事の提供については開園から 20 年間、外部の給食業者へ委託していたが、昨今の人材不足や食材の高騰により、当方の条件に見合う業者がなく、直営化を決断し移行した。当初は不慣れな業務に混乱があったものの、各課の支援体制及び事業部内外の他施設からの人的、物的な応援により、入居者に迷惑をかけることなく提供できたことは、職員の中で「協働」の重要性を改めて感じることができる結果となった。

1.2017 年度事業の振り返り

（ア）有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

①各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

申し送りの方法、参加者の見直しにより、新入居者から介護居室の入居者まですべての方の情報を各課で共有できるシステムを強化した。入居者の状態を早期に知ることにより、各課が行うべく必要なサービス提供につなげるに至った。

②人材育成

認知症看護認定看護師スキルアップセミナー、喀痰吸引研修、介護記録研修セミナー、高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修、認知症事例検討会、リハビリ合同研修会等に積極的に参加し、職員の質の向上を図った。

③経営基盤の安定

退去された居室については、空室になる期間が短くなるよう各課で調整を行い、新入居者の早期契約へつなげた。また、外部病院に入院されている方に対し、受け入れ可能な状態であるかを見極め、クリニック病床への転院につなげた。

④リスク管理体制の強化

高齢者公益事業部のリスク事例報告のシステム変更に則り、迅速な報告に努めた。

園内の感染予防については、インフルエンザ・ノロウイルスの予防活動、訓練に努め、散発的な発生はあったものの園内での拡大を防ぐことができた。

⑤社会・地域への貢献と連携

地域清掃活動を年 2 回企画した。また、東松戸病院および近隣の高塚団地との合同で地震体験訓練を実施した。

（イ）松戸ニッセイ聖隷クリニック

皮膚科外来の新規開設、CT 装置の稼働件数増加、高単価使用薬品使用患者の受入れなど経営基盤の安定を図るとともに、患者サービス向上にもつながる取組みを行い、結果 3 年続けての黒字決算を達成した。また、3 月には患者情報の一元管理と記録保存の確実性を図るため、電子カルテシステムを導入した。

（ウ）高齢者総合福祉センター

入居者の高齢化にともなう新たなニーズを意識し、バランスコンディショニング、フラワーアレンジメント、エンジョイアートの 3 つの教室を立ち上げ、多くの方に参加いただいた。また、コンサートについても過去に行っていない新たな企画を実施し、大変好評であった。

（エ）ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

7 月から障害総合支援法による居宅介護事業へ参入し、少数ではあるが実績をあげ、経験を積むことができた。「選ばれる事業所」をスローガンに掲げ、支援内容・利用者宅までの距離・支援時間などを問わず、利用者のニーズに応える支援ができている。また、隣市である市川市からの依頼も増えている。ご逝去や入所などによる減少と新規契約、退院からの再開などによる増加で利用者数に大きな変化はなく、黒字基調での事業運営が継続できた。

２．公益的事業について

・東松戸病院主催市民公開講座の会場の提供
・教職員免許特例法に基づく介護等体験受入（実人数 3 名、延べ日数 15 日間）
・「ニッセイ夏祭りフェス」への参加。「ニッセイみどりの財団」主催の森のめぐみに触れる活動の場として、熊本のヒノキを使ったクリスマスリース作りを近隣児童対象に開催
・ペットボトルキャップ回収により、88 kg分を NPO 法人エコキャップ推進協会へ寄付

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	343 名（76 名）	106 名	313 名	419 名

表２：地域別契約状況（単位：名・%）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	北陸	中国	計
人数	396 名	3 名	10 名	0 名	0 名	3 名	3 名	2 名	2 名	419 名
構成比	94.5%	0.7%	2.4%	0%	0%	0.7%	0.7%	0.5%	0.5%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	26 名	75 名	136 名	92 名	47 名	23 名	20 名	0 名	0 名	419 名
構成比	6.2%	17.9%	32.5%	21.9%	11.2%	5.5%	4.8%	0%	0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
84.6 歳	83.7 歳	84.9 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	7 名	9 名	（8 名）
女	15 名	17 名	（17 名）
計	22 名	26 名	（25 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	122 名	27 名	15 名	27 名	22 名	9 名	8 名	14 名
期末人数	118 名	29 名	13 名	27 名	18 名	11 名	11 名	9 名
月平均人数	120.5 名	25.8 名	17.3 名	27.9 名	18.2 名	11.2 名	9.9 名	10.3 名

ケア付き高齢者住宅　明日見らいふ南大沢

2017 年度、開設 22 年目を迎えた明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社からの運営受託事業）は、副支配人交代による新たな管理体制でスタート、ケアセンター（一時介護室）の増床、夜勤者を 1 名増員する等、入居者の体調不良時や高齢化に伴う支援体制の再整備を行った 1 年であった。また、この 1 年間でご入居者の平均年齢はで 0.7 歳上昇して 85.5 歳となり、一般棟で生活をしながらも何らかの支援を必要とする入居者が更に増加した 1 年でもあった。

他方、自立したご入居者向けプログラムである“スクエア・ステップ・エクササイズ”の導入や“フィットネス明日見”を開催した。“楽しみながら”の健康増進を目指したこの取り組みは、継続することで結果的に介護予防にも繋がる有効な活動であると感じた。2017 年度を振り返り、これからも入居者がどのような心身状況であっても安心して暮らせる環境づくりに努める。

以下、2017 年度事業の結果・成果について報告する。

【事業・運営計画】

1．『いきいき』『あんしん』の提供

（ア）「健康長寿」に繋がるプログラムの継続と開発

①高齢者公益事業部の協力を得ながら SSE(スクエア・ステップ・エクササイズ)を導入し、継続して実施することができた。

（イ）安全で心地よいケアの提供

①サービス担当者会開催方法の変更、ケアマネジメントや記録の勉強会を実施した。

（ウ）入居者、家族と共に実践する「看取り介護」

①入居者向けに看取り介護の講演会を開催することができた。

（エ）認知症ケアの啓蒙

①職員向けに認知症サポーター養成講座を開催した。

（オ）ご入居者の立場に立った行事・催しの企画

①遠足の実施時期変更や講演会(詐欺防止・交通安全)を企画・開催した。

②既存の行事・催し等については今後も引き続き見直しを行っていく。

2．人材の育成

（ア）管理職のマネージメント能力の向上

①明日見らいふで求めるマネージメント能力の定義付けを行ったが、具体的な取組を今後の課題とする。

（イ）自立した職員の育成

（ウ）専門職としての技術向上

①キャリア段位制度をベースに新人教育を行った。

（エ）働きがい、生きがいを感じる職場環境づくり

3．新しい明日見らいふ南大沢の方向性づくり

（ア）各サービス・業務が現状に合っているかの再点検と見直し

①社会環境の変化に対応するため、開設以来維持してきた食事料金の改定に取組んだ。

（イ）東京都住宅供給公社への提案・協議を通しての連携強化

①定例会の他、新たにスタッフ同士での連絡会を開催し、現場レベルでの情報共有がスムーズに行えるようになった。

４．地域における公益的な取組

（ア）納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり

①空き区画となった菜園を近隣幼稚園に提供し、活用してもらえることになった。

（イ）防災活動における近隣自治会・事業所等との協力関係づくり

（ウ）地域活動への積極参加

５．環境・エコ活動への取り組み

（ア）ご入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）

（イ）環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

６．入居者募集

（ア）セミナー他、公社募集業務への協力と連携

（イ）募集事務所との連携強化による新規ご入居者のスムーズな受入れ

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男　性	女　性	計
人　数	339 戸（46 戸）	108 名	273 名	381 名

表２：地域別契約状況　（単位：名･%）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	計
人　数	361 名	7 名	6 名	1 名	2 名	3 名	1 名	381 名
構成比	94.8%	1.8%	1.6%	0.3%	0.5%	0.8%	0.3%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人　数	19 名	76 名	139 名	87 名	44 名	13 名	3 名	0 名	0 名	381 名
構成比	5.0%	19.9%	36.5%	22.8%	11.5%	3.4%	0.8%	0%	0%	100.0%

表４：平均年齢

全　体	男　性	女　性
85.5 歳	84.9 歳	85.8 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男　性	9 名	5 名	（4 名）
女　性	9 名	17 名	（15 名）
計	18 名	22 名	（19 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	108 名	18 名	13 名	26 名	18 名	11 名	15 名	7 名
期末人数	115 名	16 名	17 名	26 名	21 名	10 名	15 名	10 名
月平均人数	110.4 名	16.0 名	14.7 名	27.3 名	19.3 名	9.3 名	15.8 名	8.0 名

法人本部

2017 年度は改正社会福祉法が施行され、社会福祉法人に「経営組織のガバナンス強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取組を実施する責務」「行政の関与の在り方」が求められることとなった。聖隷福祉事業団では早期より準備を進め改正社会福祉法に沿った対応を完了することができた。

「ビジョン 2020」達成に向けた中期事業計画の推進を柱として事業を推進してきた。将来の医療福祉従事者の確保のため、聖隷としての準備を進めることができた。各事業部からの協力により、あらたな人事制度の設計を取りまとめることができ、説明会など 2018 年度スタートに向けた準備を行った。また、健康経営優良法人認定（ホワイト 500）を社会福祉法人として初めて取得した。労働環境改善への努力を引き続き行い、職員採用と雇用継続に資する仕組みをつくっていく。

事業を継続できる安定的な経営体制の構築に向けてキャッシュフロー経営を推進するとともに、新たに医療法人聖愛会への経営支援を開始した。情報システム関連の事業が集中する時期であったが、電子カルテの導入、更新や在宅連携システムの構築など、情報システムの一括的な調達、整備を行うことができた。企業のコンプライアンスに関わる事項は年々、注目度を増しているが、リスクベースによる内部監査に取り組むなど法人全体のコンプライアンスの強化を図ってきた。社会福祉法人の課題として、経営マネジメントの強化が謳われる中、聖隷福祉事業団では法人本部機能を活用した中長期的な視点で事業を推進することができた。

【各部の報告】

《総務部》

2017 年度は、社会福祉法改正に伴い適時適切な法改正の対応と、それに伴う規則整備を随時行い、法人として新たなガバナンス体制で大きな混乱なくスタートすることができた。

多様な人材が働き易い環境をつくるために、ワークシェアの対象職種を拡大（看護助手）し運用をスタートさせるとともに、ワークシェアを正式に規則化することができた。新人事制度については、人事企画部を中心に連携を図り、職員説明会を開催し周知を行うことができた。また制度変更に伴う規則の整備を行った。

健康管理業務の推進は、健康経営推進委員会を設置し、健保組合とともに健康経営に向けた全事業団的な取組推進を図る体制を構築した。またホワイト 500（健康経営優良法人）を始めとした認定を取得することによって、その取組の評価を得ることができた。

労働契約法の改正に伴う有期雇用職員の無期転換への対応は、規則改訂を含めた制度構築を行うことができた。

生産性向上にむけての取組として、事業団全体における給与明細の電子交付を 9 月より開始した。総務課長会において、総務業務の明確化と業務プロセスを含めた効率化への取組

を推進した。さらには、表彰規程を改訂し、業務の効率化を含めた取組の見える化と、その取組が横展開に繋がるような運用変更をすることができた。防災対策については、広域防災マニュアルをより実効性のあるものに改訂した。

《人事企画部》

職員の多様な働き方、求職者のニーズに対応した新人事制度を検討し、2018 年 4 月より運用開始する準備ができた。そのために、法人本部総務部・総合企画室と連携強化して新たな規則（人事制度規則等）の作成や既存規則（人事考課規程等）を整備した。新人事制度の運用に伴い、職員が自らのキャリアを描き、研修等を活用できるように「事業団キャリアパス」の作成や研修体系の再構築も同時に行った。また、女性活躍やワークライフバランス支援の取り組みとして「女性活躍推進セミナー」を開催した。さらに、2018 年 4 月の障害者法定雇用率の引き上げを見据え、各事業部と協同し各地域・各施設の障害者の雇用者数の増加を図ることができた。

一方で採用強化の取り組みとして、事業団の重点課題である介護職員の確保において奨学金制度の見直し・採用面接のブラッシュアップ・EPA 介護福祉士候補者受け入れの拡大など様々な角度からのアプローチの検討をした。介護福祉士奨学金制度は全国の養成校の学生の活用の促進に加えて留学生も対象とし拡大した。採用面接は事業団の人事戦略と位置づけ、求職者の就職意欲を高め、事業団の魅力を発信できる場となるよう「採用面接官トレーニング」を実施し、採用面接をブラッシュアップした。2009 年度から受け入れしている EPA 介護福祉士候補者も 2017 年までの受け入れ実績は 54 名となった。さらに、2018 年受け入れ予定 10 期生は 1 期でフィリピン 22 名のマッチングができ、受け入れの拡大ができた。また、ベトナム・ズイタン大学と協定を結び EPA 介護福祉士候補者や留学生としての受け入れ体制を構築した。

事業団が地域貢献として提供する外部事業に関しては介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修・喀痰吸引等研修を運営し、介護職人材の確保や資格取得支援を推進している。各種研修は受講者のニーズに応えるよう研修体系を整え、各施設が制度の変更に対応できるよう情報発信した。また静岡県主催「外国人介護人材受け入れセミナー」「外国人介護職員日本語研修」の委託を継続 3 年目として企画運営した。

《財務部》

2017 年度は、「各施設経理職員の働き方改革」という観点から、伝票入力支援ツールの開発、帳票出力の廃止、財務システムマニュアル更新等、業務の省力化に資する取り組みを積極的に行い、超過勤務の削減に寄与した。

また、会計監査人設置による法定監査化に伴い、従来の施設往査、決算監査に加え、「IT 全社統制に関する監査」、「診療報酬請求データ作成過程の検証」等、新たな監査手法への対応を行った。

さらに、経理職員教育については、「経営視点を持った経理職員の育成」に主眼を置き、経営者の補佐役として必要な分析力や提言力の強化を目的とした研修を実施した。

なお、資金管理については、本部に資金を集中させ、設備投資の際に自己資金を活用す

ることで、有利子負債の低減を図った。
2018 年度に向けては、引き続き、働き方改革に合わせた、経理業務の時間短縮の方策を検討し、会計業務、資金業務を適正に遂行していきたいと考えている。

《総合企画室》
中期事業計画 2016-2020 において 2016 年度の振り返りを取りまとめた。毎年振り返りを行い、中期計画を着実に遂行する運用の第一歩をつくることができた。社会保障分野における生産性が政策の方向性となることを先取りして、生産性の可視化の取り組みを行った。人時生産性（一人当たり時間当たりの生産性）は事業部単位での算出となり改善につなげにくいため見送ることになったが、働き方改革に的を絞り、病院事務長会における超過勤務データの比較や超勤削減の取り組みの報告会を実施し、業務改善の横展開ができた。聖隷淡路病院、聖隷横浜病院、健康サポートセンター*Shizuoka*、聖隷沼津病院、聖隷富士病院、医療法人聖愛会、社会福祉法人さくま等の経営支援を引き続き行い、業績向上や将来構想作成に協力することができた。社会福祉法改正の情報公開の意義に対応するように法人ホームページのマイナーチェンジを行った。経営情報等や地域公益的活動など公開すべき内容を充実させるとともに、防犯対策の取り組みや職員専用ページの設定などを実施した。ブランドマーク規定の設定とあわせて、情報発信力強化、ブランド力強化の仕組み作りができた。

《総合情報システム部》
2017 年度は、将来の情報部門のあるべき姿を検討する中で、情報システムグランドデザインに基づいた事業ごとに統一性のあるシステム導入の支援を行った。具体的には、横浜・佐倉の両病院における電子カルテシステムの構築支援や、浜松・三方原における電子カルテ更新及び保健事業部の次期健診システムについて情報連携や検討支援を実施。また、浜リハ・袋井・淡路の各病院においても、新病院システム導入に向けた各種検討を行った。在宅・福祉サービス事業部では、介護記録・保育園・障害施設の各システム導入において、事業ごとに同じシステムを採用することで、事業団統一した運用による効率化を実現することができた。先進技術活用の観点からも、タブレットなどのモバイル端末約 600 台の導入や無線 LAN を積極的に活用することで、更なる現場業務の効率化を実現した。
情報システムの災害対策の観点では、新規導入システムのクラウド化や病院事業のシステム更新時に、遠隔地のデータセンターにバックアップすることが可能となる環境を構築。大規模災害時におけるデータ保存性の確保と遠隔によるデータ閲覧機能の導入を行った。これにより、バックアップ作業の効率化と更なる BCP 実効性の向上を実現できた。
経営資源の有効活用については、人事課及び労務課への支援を継続して実施し、人事・給与システムの WEB サービス機能（CWS）を全社的に展開。年末調整などの電子申請に加えて、給与・賞与明細の電子化により、紙や印刷コストの削減を実現した。
2018 年度以降も、病院システムの更新や法人本部におけるバックオフィス機能のシステム更新が控えており、各プロジェクトの運営支援を積極的に取り組み、事業団全体において価値の高いシステムの構築を目指す。

《監査室》

2017 年度は、①リスクベースによる内部監査実現に向けた取り組みの開始、②内部監査の効率的・効果的実施、③コンプライアンス経営への側面支援を目標に掲げ業務を推進した。

CAATs(コンピュータ支援監査技法)活用による効率的なリスクアセスメント実施につき、研修等を通じて調査・研究を行った。引き続き導入に向けた検討を重ねていく。

内部監査は、74 施設に対して往査を実施した。業務の多様化・複雑化に反比例して監査結果は良好であり、施設の内部統制が適正に保たれていることを確認した。しかし、本質的に監査の質を高め、効率的・効果的な監査を実施するには、リスクベースの監査が必須である。継続的な課題として取り組んでいく。また、内部監査人が長期にわたり固定することはメリットだけでなくデメリットも伴う。今後の課題として対策を検討したい。

コンプライアンス経営の推進には職員への教育・啓発活動が不可欠であり、監査室では研修資料の提供や、小規模施設への講師派遣、コンプライアンスに関する情報発信等を継続して行った。特に、リハ部門に続き、放射線部門がコンプライアンスに関する研修を採用してくれたことは大きな前進であり、施設ごとの教育だけでなく、事業団内の横断的な教育への足掛かりとなる可能性を示唆する。一方、コンプライアンス・ホットライン(内部通報窓口)への相談件数は前年度に比較して半減した。これは施設往査を充実させるために、監査室が不在になる期間が大幅に増えた事実と関係すると思われる。窓口の不在は内部通報制度の存在自体を脅かしかねないため、体制の再構築を図り、職員の信頼回復に努めたい。

2017年度施設整備事業報告

施設種別	病院	
施設名	聖隷三方原病院	
所在地	静岡県浜松市北区三方原町3453	
工事名	手術室拡張およびハイブリッド手術室導入に伴う手術室改修工事	
事業完了年月日	2017年12月25日	
施設の構造	SRC造、一部RC造	
延床面積	300.5㎡（工事範囲のみ）	
総事業費	建築工事費	383,400,000円 （税込）
	ハイブリッド装置一式	214,920,000円 （税込）
	設計監理費	14,256,000円 （税込）
	備品費	68,672,680円 （税込）
	事業費　計	681,248,680円 （税込）
財源	市中銀行より借入	500,000,000円
	自己資金	181,248,680円
	財源　計	681,248,680円
備考		

2017年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷浜松病院
所在地	静岡県浜松市住吉2-12-12
工事名	透析機能移転及び厨房改修工事（1期）
事業完了年月日	1期工事全体は2018年3月31日、透析機能移転のみでは2018年1月31日
施設の構造	鉄筋コンクリート造、他
延床面積	A8病棟を透析センターへ改修分：1051.22㎡、その他は部分改修のため算出不可能
総事業費	¥327,240,000.－　（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	

2017年度施設整備事業報告

施設種別	児童発達支援センター（放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業含む）、 就労移行支援、就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練）、日中一時支援、 相談支援事業所	
施設名	聖隷ぴゅあセンター磐田	
所在地	静岡県磐田市上岡田1079-1	
工事名	（仮称）磐田市障害児者総合支援施設新築工事	
事業完了年月日	2017年4月7日	
施設の構造	鉄骨造・平屋建て	
延床面積	1,320.64㎡	
総事業費	建築工事費	562,752,459円　（税込）
	外構工事費	60,796,341円　（税込）
	設計監理費	23,436,000円　（税込）
	その他	11,104,560円　（税込）
	備品費	83,803,337円　（税込）
	事業費　計	741,892,697円　（税込）
財源	国県補助金	222,515,000円
	磐田市単独補助金	74,172,000円
	福祉医療機構借入金	205,000,000円
	市中銀行借入金	175,000,000円
	聖隷福祉公益事業推進基金	15,000,000円
	寄付金	50,000,000円
	当初自己資金	205,697円
	財源　計	741,892,697円
備考		

法人の概要

- 法人名　　**社会福祉法人 聖隷福祉事業団**（せいれいふくしじぎょうだん）
- 創立　　**1930 年（昭和 5 年）5 月**
- 基本理念　　**キリスト教精神に基づく「隣人愛」**
- 代表者　　**理事長　山本（やまもと）　敏博（としひろ）**
- 所在地　　**静岡県浜松市中区住吉 2 丁目 12 番 12 号**（法人登記）
- 事業内容　　**１．医療事業**（病院・診療所・ホスピスなど）
  ２．保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
  ３．福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
  ４．介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）
- 事業規模　　**施設・事業数　：　153 施設　325 事業**　（2018 年 3 月時点）
  職　　員　　数　：　14,784 名（非常勤含む）　（2018 年 3 月時点）
  サービス活動収益：　1,136 億円　（2017 年度）

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2018年3月31日現在

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	90	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	100	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	200	1966年11月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	230	1976年4月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり東保育園	200	1978年4月1日	静岡県磐田市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	160	2017年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	145	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	30	2015年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり東保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	こうのとり東保育園	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	高薗デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター住吉	35	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	29	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	30	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	42	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	45	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターゆい	20	2017年4月1日	沖縄県中頭郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	17	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム (受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	20	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり和合	—	2013年8月1日	静岡県浜松市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	せいれいヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	10	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園きらめき工房	10	2017年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園	—	2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房磐田	14	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	ナルド工房	10	2017年9月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房カナン	14	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	20	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	—	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	—	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷かがやき	10	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷かがやき	—	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	10	2016年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ和合	10	2016年10月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ高丘	10	2017年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ森町	10	2017年4月1日	静岡県周智郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	信生	—	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
一般相談支援事業	信生	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
特定相談支援事業	浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	信生	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市

【公　益　事　業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 （受託経営）	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 （受託経営）	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	—	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	520	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市
ケア付高齢者住宅	明日見らいふ南大沢 (受託経営)	536	1996年6月1日	東京都八王子市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	1997年12月1日	神奈川県横浜市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション油壺	—	1998年10月1日	神奈川県三浦市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	奄美佳南園　在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	—	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 くすのき(受託経営)	—	1999年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 信生(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 浜松東(受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者 自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市

【収益事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　役員名簿

	氏　　名	役 職 名
理事	青木　善治	常務執行役員 （財）芙蓉協会理事
理事	荻野　和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 （学）聖隷学園理事
理事	日下部　行宏	常務執行役員 （財）恵愛会常務理事
理事	鈴木　睦明	常務執行役員・高齢者公益事業部長 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
理事	津幡　佳伸	常務執行役員・在宅･福祉サービス事業部長 （福）十字の園理事・（福）神戸聖隷福祉事業団理事
理事	鳥居　裕一	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 （学）聖隷学園理事
理事	平川　健二	常務執行役員・法人本部総務部長 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
理事	福田　崇典	専務執行役員・保健事業部長 （財）芙蓉協会評議員
理事長	山本　敏博	代表執行役員 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団会長

理事会開催日

4月14日	（金）
4月28日	（金）
5月12日	（金）
5月26日	（金）
6月8日	（木）
6月9日	（金）
6月23日	（金）
7月14日	（金）
7月28日	（金）
8月4日	（金）
8月10日	（木）
8月25日	（金）
9月8日	（金）
9月22日	（金）
10月13日	（金）
10月27日	（金）
11月10日	（金）
11月24日	（金）
12月1日	（金）
12月22日	（金）
1月12日	（金）
1月26日	（金）
2月9日	（金）
2月23日	（金）
3月9日	（金）
3月16日	（金）
3月23日	（金）

	氏　　名	役 職 名
監事	石打　剛義	
監事	上野　桂子	（社）全国訪問看護事業協会理事
監事	佐野　國治	
監事	白木　政幸	

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　評議員名簿

	氏　　名	役 職 名
評議員	青木　雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	伊藤　孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長
評議員	大石　一雄	社会福祉法人さくま理事長
評議員	小野田　全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長
評議員	小里　俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長
評議員	小栁　守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長
評議員	背戸　好廣	一般財団法人恵愛会顧問・一般財団法人芙蓉協会顧問
評議員	遠松　健史	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	中村　勇	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	湯口　哲世	浜松商工会議所理事

評議員会開催日

6月23日	（金）
10月27日	（金）
3月23日	（金）

（2018年3月31日時点・五十音順）

附属明細書

該当ありません。